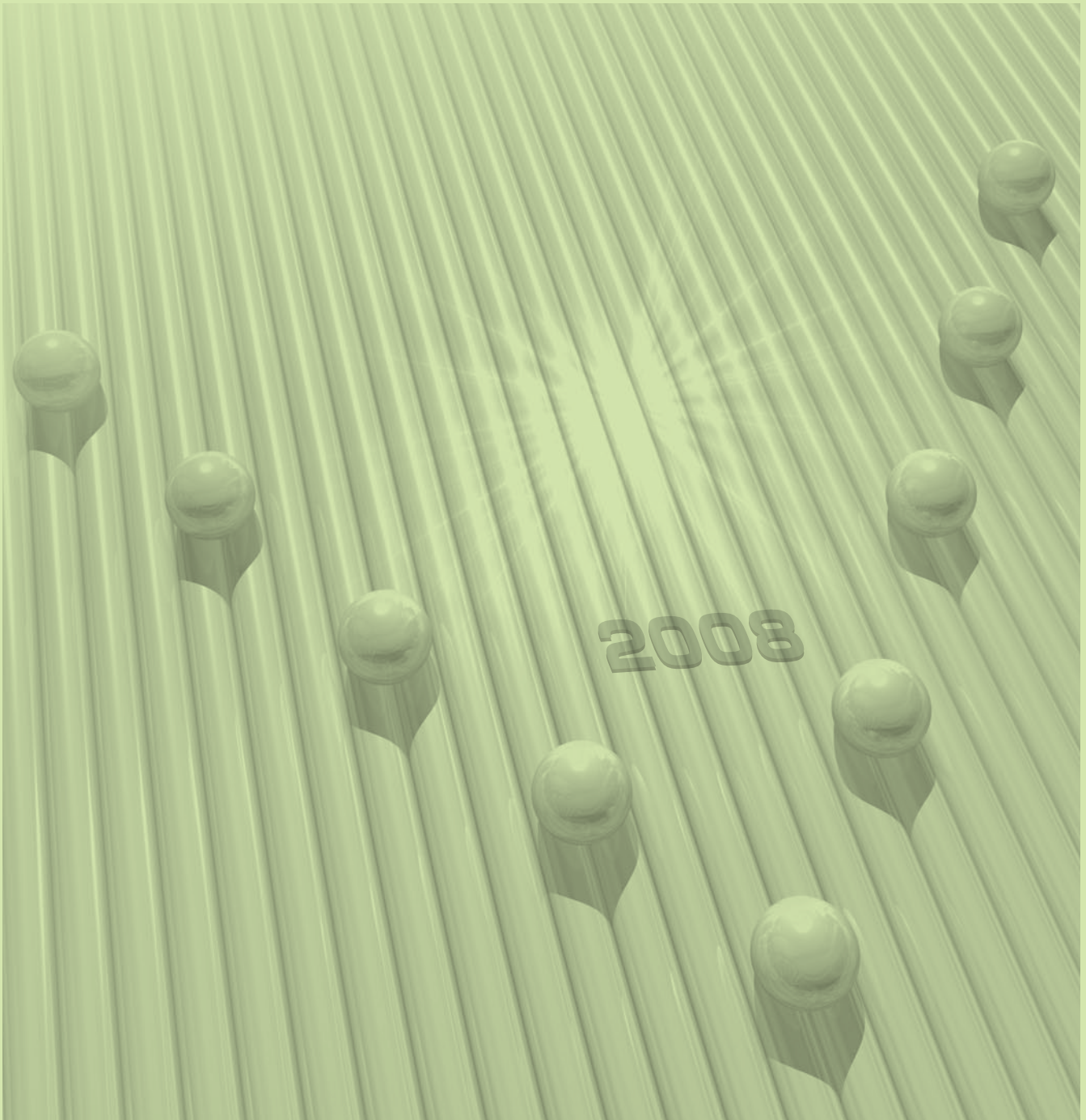


2008年度

シラバス

経済学部



獨協大学

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。
シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

I 目次について

【シラバスページの検索方法】

- ① 冊子右上にあるインデックスで自分の入学年度の目次ページを確認してください。
- ② 目次の科目は学則別表と同じ順序で記載されています。
注: 入学年度によっては学則別表とシラバスの順序が一致していない場合があります。
科目名とページ番号をよく確認してください。

【履修不可について】

- ① 目次には「履修不可」学科が記載されています。
「履修不可」欄に自分の所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。
- ② 表記方法
外: 外国語学部 養: 国際教養学部 経: 経済学部 法: 法学部
独: ドイツ語学科 済: 経済学科 律: 法律学科
英: 英語学科 営: 経営学科 国: 国際関係法学科
仏: フランス語学科 総: 総合政策学科
言: 言語文化学科

II シラバス本文の見方（右図参照のこと）

- ①、② 入学年度により科目名が異なる場合があります。
08年度 ……2008年度入学者
01年度以降…2001年度～2008年度入学者
03年度以降…2003年度～2008年度入学者
01～02年度…2001年度～2002年度入学者
01～04年度…2001年度～2004年度入学者
01～07年度…2001年度～2007年度入学者
* 科目名は2003年度以降の学則別表にある名称を基本に表記してあります。
* 2002年度以前入学生は、一部の「学科基礎科目」(外国語科目含む)が「全学共通授業科目」との合併授業になります。教務課経済学部係で一覧表を配布しますので、履修を希望する場合は、一覧表で確認してください。
- ③ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載されています。
- ④ 学期の授業計画についての欄です。
各回ごとに講義するテーマが記載されています。
- ⑤ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載されています。
- ⑥ 評価方法について記載されています。

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④ 第1週 春学期	
	第13週	
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④ 第1週 秋学期	
	第13週	
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

【注意事項】

1.履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ずシラバス本文(③の部分)および「授業時間割表」で確認し、履修登録してください。

2.定員

経済学部の科目は、学習環境および防災上などの観点から、「全学共通授業科目」と同様に定員を設けています。詳細は「授業時間割表」を参照してください。

2003～2008年度入学生用

経済学科

<<学科基礎科目>>

◇ 外国語 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
インターナショナルコミュニケーションⅠa	春	各担当教員		外 養 法	29
インターナショナルコミュニケーションⅠb	秋	各担当教員		外 養 法	29
インターナショナルコミュニケーションⅡa	春	各担当教員		外 養 法	30
インターナショナルコミュニケーションⅡb	秋	各担当教員		外 養 法	30

◇ 経済・経営入門 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
大学入門講座<2008年度入学生のみ>	春	経済学部	水2	外 養 法	31
クラスセミナー<2008年度入学生のみ>	秋	各担当教員	水2	外 養 法	31
経済学a	春	倉橋 透	火4	営 外 養 法	32
経済学b	秋	倉橋 透	火4	営 外 養 法	32
経済学b	春	小林 進	火1	営 外 養 法	33
経済学a	秋	小林 進	火1	営 外 養 法	33
経済学a	春	野村 容康	火1	営 外 養 法	34
経済学b	秋	野村 容康	火1	営 外 養 法	34
経済学a	春	浜本 光紹	火3	営 外 養 法	35
経済学b	秋	浜本 光紹	火3	営 外 養 法	35
経済学a	春	益山 光央	火4	営 外 養 法	36
経済学b	秋	益山 光央	火4	営 外 養 法	36
経済学a	春	山本 美樹子	月2	営 外 養 法	37
経済学b	秋	山本 美樹子	月2	営 外 養 法	37
統計学a	春	富田 誠	月2		法 38
統計学b	秋	富田 誠	月2		法 38
統計学a	春	富田 誠	月3		法 38
統計学b	秋	富田 誠	月3		法 38
統計学a	春	富田 幸弘	月2		法 39
統計学b	秋	富田 幸弘	月2		法 39
統計学a	春	富田 幸弘	月3		法 39
統計学b	秋	富田 幸弘	月3		法 39
統計学b(再履修者用)	春	富田 幸弘	月5		法 40
統計学a	春	本田 勝	火3		法 41
統計学b	秋	本田 勝	火3		法 41
統計学a	春	本田 勝	火4		法 41
統計学b	秋	本田 勝	火4		法 41
コンピュータ入門a	春	各担当教員		外 養 法	42
コンピュータ入門b	秋	各担当教員		外 養 法	42
プレゼンテーション技法	秋	富澤 儀一	水3		43
経営学a(経済学科生用)	春	上坂 卓郎	金2	営	44
経営学b(経済学科生用)	秋	上坂 卓郎	金2	営	44
簿記原理b	春	井出 健二郎	火2		45
簿記原理a	秋	井出 健二郎	火2		45
簿記原理a	春	内倉 滋	月2		46
簿記原理b	秋	内倉 滋	月2		46
簿記原理a	春	香取 徹	月2		47
簿記原理b	秋	香取 徹	月2		47
簿記原理a	春	金井 繁雅	月4		48

簿記原理b	秋	金井 繁雅	月4	48
簿記原理a	春	中村 泰將	火3	49
簿記原理b	秋	中村 泰將	火3	49
簿記原理a	春	細田 哲	火1	50
簿記原理b	秋	細田 哲	火1	50
簿記原理a	春	百瀬 房徳	木1	51
簿記原理b	秋	百瀬 房徳	木1	51
簿記原理a	春	山内 暁	火4	52
簿記原理b	秋	山内 暁	火4	52
簿記原理a	春	湯田 雅夫	火1	53
簿記原理b	秋	湯田 雅夫	火1	53

◇ 関連科目 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
数学a	春	高木 悟	土1	外 養 法	54
数学b	秋	高木 悟	土1	外 養 法	54
数学a	春	高木 悟	土2	外 養 法	54
数学b	秋	高木 悟	土2	外 養 法	54
高齢化社会論a	春	奥山 正司	月1		55
高齢化社会論b	秋	奥山 正司	月1		55
精神衛生論a	春	中野 隆史	火4	法	56
精神衛生論b	秋	中野 隆史	火4	法	56
医療・福祉概論a		本年度休講			-
医療・福祉概論b		本年度休講			-
現代文化論a	春	柴崎 信三	金2	外 養 法	57
現代文化論b	秋	柴崎 信三	金2	外 養 法	57

<<学科専門科目>>

◇ 経済外国語 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済外国語 I a	春	青木 雅明	月2	営 外 養 法	58
経済外国語 I b	秋	青木 雅明	月2	営 外 養 法	58
経済外国語 I a	春	有吉 秀樹	木2	営 外 養 法	59
経済外国語 I b	秋	有吉 秀樹	木2	営 外 養 法	59
経済外国語 I a	春	井出 健二郎	火1	営 外 養 法	60
経済外国語 I b	秋	井出 健二郎	火1	営 外 養 法	60
経済外国語 I a	春	伊藤 為一郎	木5	営 外 養 法	61
経済外国語 I b	秋	伊藤 為一郎	木5	営 外 養 法	61
経済外国語 I a	春	奥山 正司	月2	営 外 養 法	62
経済外国語 I b	秋	奥山 正司	月2	営 外 養 法	62
経済外国語 I a	春	香取 徹	水1	営 外 養 法	63
経済外国語 I b	秋	香取 徹	水1	営 外 養 法	63
経済外国語 I a	春	金井 繁雅	月5	営 外 養 法	64
経済外国語 I b	秋	金井 繁雅	月5	営 外 養 法	64
経済外国語 I a	春	上坂 卓郎	水1	営 外 養 法	65
経済外国語 I b	秋	上坂 卓郎	水1	営 外 養 法	65
経済外国語 I a	春	倉橋 透	金2	営 外 養 法	66
経済外国語 I b	秋	倉橋 透	金2	営 外 養 法	66
経済外国語 I a	春	黒川 文子	木4	営 外 養 法	67
経済外国語 I b	秋	黒川 文子	木4	営 外 養 法	67
経済外国語 I a	春	黒木 亮	木2	営 外 養 法	68
経済外国語 I b	秋	黒木 亮	木2	営 外 養 法	68
経済外国語 I a	春	小林 進	金2	営 外 養 法	69
経済外国語 I b	秋	小林 進	金2	営 外 養 法	69
経済外国語 I a	春	小林 哲也	金3	営 外 養 法	70
経済外国語 I b	秋	小林 哲也	金3	営 外 養 法	70

経済外国語Ⅰa	春	齋藤 正章	月5	営	外	養	法	71
経済外国語Ⅰb	秋	齋藤 正章	月5	営	外	養	法	71
経済外国語Ⅰa	春	中村 泰將	火1	営	外	養	法	72
経済外国語Ⅰb	秋	中村 泰將	火1	営	外	養	法	72
経済外国語Ⅰa	春	中村 泰將	金4	営	外	養	法	73
経済外国語Ⅰb	秋	中村 泰將	金4	営	外	養	法	73
経済外国語Ⅰa	春	波形 昭一	火1	営	外	養	法	74
経済外国語Ⅰb	秋	波形 昭一	火1	営	外	養	法	74
経済外国語Ⅰa	春	浜本 光紹	火2	営	外	養	法	75
経済外国語Ⅰb	秋	浜本 光紹	火2	営	外	養	法	75
経済外国語Ⅰa	春	藤山 英樹	木5	営	外	養	法	76
経済外国語Ⅰb	秋	藤山 英樹	木5	営	外	養	法	76
経済外国語Ⅰa	春	堀江 郁美	水1	営	外	養	法	77
経済外国語Ⅰb	秋	堀江 郁美	水1	営	外	養	法	77
経済外国語Ⅰa	春	本田 浩邦	火1	営	外	養	法	78
経済外国語Ⅰb	秋	本田 浩邦	火1	営	外	養	法	78
経済外国語Ⅰa	春	益山 光央	木1	営	外	養	法	79
経済外国語Ⅰb	秋	益山 光央	木1	営	外	養	法	79
経済外国語Ⅰa	春	松本 栄次	火2	営	外	養	法	80
経済外国語Ⅰb	秋	松本 栄次	火2	営	外	養	法	80
経済外国語Ⅰa	春	御園生 眞	水1	営	外	養	法	81
経済外国語Ⅰb	秋	御園生 眞	水1	営	外	養	法	81
経済外国語Ⅰa	春	百瀬 房徳	火1	営	外	養	法	82
経済外国語Ⅰb	秋	百瀬 房徳	火1	営	外	養	法	82
経済外国語Ⅰa	春	森 健	水1	営	外	養	法	83
経済外国語Ⅰb	秋	森 健	水1	営	外	養	法	83
経済外国語Ⅰa	春	森永 卓郎	木4	営	外	養	法	84
経済外国語Ⅰb	秋	森永 卓郎	木4	営	外	養	法	84
経済外国語Ⅰa	春	山内 暁	火5	営	外	養	法	85
経済外国語Ⅰb	秋	山内 暁	火5	営	外	養	法	85
経済外国語Ⅰa	春	山越 徳	水1	営	外	養	法	86
経済外国語Ⅰb	秋	山越 徳	水1	営	外	養	法	86
経済外国語Ⅰa	春	山下 裕歩	火3	営	外	養	法	87
経済外国語Ⅰb	秋	山下 裕歩	火3	営	外	養	法	87
経済外国語Ⅰa	春	山本 美樹子	水2	営	外	養	法	88
経済外国語Ⅰb	秋	山本 美樹子	水2	営	外	養	法	88
経済外国語Ⅰa	春	米山 昌幸	水2	営	外	養	法	89
経済外国語Ⅰb	秋	米山 昌幸	水2	営	外	養	法	89
経済外国語Ⅰa(中国語)	春	全 載旭	金1	営	外	養	法	90
経済外国語Ⅰb(中国語)	秋	全 載旭	金1	営	外	養	法	90
経済外国語Ⅰa(留学生用)	春	J. ブローガン	月4	営	外	養	法	91
経済外国語Ⅰb(留学生用)	秋	J. ブローガン	月4	営	外	養	法	91
経済外国語Ⅰa(留学生用)	春	J. ブローガン	月5	営	外	養	法	91
経済外国語Ⅰb(留学生用)	秋	J. ブローガン	月5	営	外	養	法	91
経済外国語Ⅱa	春	岡村 国和	木3	営	外	養	法	92
経済外国語Ⅱb	秋	岡村 国和	木3	営	外	養	法	92
経済外国語Ⅱa	春	野村 容康	火2	営	外	養	法	93
経済外国語Ⅱb	秋	野村 容康	火2	営	外	養	法	93
経済外国語Ⅱa(中国語)	春	全 載旭	水2	営	外	養	法	94
経済外国語Ⅱb(中国語)	秋	全 載旭	水2	営	外	養	法	94

◇ 経済理論・経済学史 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
マクロ経済学a	春	黒木 亮	月1	営	95
マクロ経済学b	秋	黒木 亮	月1	営	95
マクロ経済学a	春	山下 裕歩	水1	営	96
マクロ経済学b	秋	山下 裕歩	水1	営	96

ミクロ経済学a	春	小林 進	金3	営	97
ミクロ経済学b	秋	小林 進	金3	営	97
ミクロ経済学a	春	藤山 英樹	水1	営	98
ミクロ経済学b	秋	藤山 英樹	水1	営	98
経済学史a	春	黒木 亮	木3		99
経済学史b	秋	黒木 亮	木3		99
経済変動論a	春	山下 裕歩	月1		100
経済変動論b	秋	山下 裕歩	月1		100
経済社会学a	春	森永 卓郎	火3		101
経済社会学b	秋	森永 卓郎	火3		101
経済哲学a<03～07年度>		本年度休講			-
経済哲学b<03～07年度>		本年度休講			-

◇ 経済統計・計量経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済統計論a		本年度休講			-
経済統計論b		本年度休講			-
計量経済学a	春	藤山 英樹	木4		102
計量経済学b	秋	藤山 英樹	木4		102

◇ 経済政策 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済政策論a	春	阿部 正浩	木2	営	103
経済政策論b	秋	阿部 正浩	木2	営	103
経済開発論a	春	千代浦 昌道	金2	言	104
経済開発論b	秋	千代浦 昌道	金2	言	104
環境政策論a	秋	塩田 尚樹	火1		105
環境政策論b	秋	塩田 尚樹	水1		105

◇ 経済史 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本経済史a	春	奈倉 文二	水1	営	106
日本経済史b	秋	奈倉 文二	水1	営	106
日本社会史a	春	新井 孝重	火1		107
日本社会史b	秋	新井 孝重	火1		107
東洋経済史a		本年度休講			-
東洋経済史b		本年度休講			-
西洋経済史a	春	御園生 眞	火4		108
西洋経済史b	秋	御園生 眞	火4		108

◇ 国際経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
国際経済論a	春	益山 光央	火3	営 外 養 法	109
国際経済論b	秋	益山 光央	火3	営 外 養 法	109
国際金融論a	春	山本 美樹子	月3		法 110
国際金融論b	秋	山本 美樹子	月3		法 110

◇ 地域経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本経済論a	春	波形 昭一	火5	営 言 養 法	111
日本経済論b	秋	波形 昭一	火5	営 言 養 法	111
アメリカ経済論a	春	本田 浩邦	月3		112
アメリカ経済論b	秋	本田 浩邦	月3		112
ラテンアメリカ経済論a	春	松本 栄次	月2		113
ラテンアメリカ経済論b	秋	松本 栄次	月2		113
西ヨーロッパ経済論a	春	大西 健夫	火1		114
西ヨーロッパ経済論b	秋	大西 健夫	火1		114

東ヨーロッパ経済論a		本年度休講			-
東ヨーロッパ経済論b		本年度休講			-
東アジア・中国経済論a	春	全 載旭	木2	言 養	115
東アジア・中国経済論b	秋	全 載旭	木2	言 養	115
オセアニア経済論a	春	森 健	金3	言 養	116
オセアニア経済論b	秋	森 健	金3	言 養	116
アフリカ経済論a	春	千代浦 昌道	月2		117
アフリカ経済論b	秋	千代浦 昌道	月2		117
東南アジア経済論a		本年度休講			-
東南アジア経済論b		本年度休講			-
中東経済論a	春	平井 文子	金2		118
中東経済論b	秋	平井 文子	金2		118

◇ 金融経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
金融経済論a	春	齊藤 美彦	水2	営	119
金融経済論b	秋	齊藤 美彦	水2	営	119
金融システム論a	春	齊藤 美彦	水1		120
金融システム論b	秋	齊藤 美彦	水1		120

◇ 財政 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
財政学a	春	野村 容康	木3	営	121
財政学b	秋	野村 容康	木3	営	121
公共経済学a	春	伊藤 為一郎	月2		122
公共経済学b	秋	伊藤 為一郎	月2		122
日本財政論a<03～07年度>		本年度休講			-
日本財政論b<03～07年度>		本年度休講			-
地方財政論a	春	伊藤 為一郎	木4		123
地方財政論b	秋	伊藤 為一郎	木4		123

◇ 環境・都市・経済地理 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
環境経済学a	春	浜本 光紹	水2		124
環境経済学b	秋	浜本 光紹	水2		124
都市経済学a	春	倉橋 透	金1		125
都市経済学b	秋	倉橋 透	金1		125
経済地理学a	春	犬井 正	火2		126
経済地理学b	秋	犬井 正	火2		126
交通経済論a		本年度休講			-
交通経済論b		本年度休講			-

◇ 産業経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
産業政策論a		本年度休講			-
産業政策論b		本年度休講			-
産業組織論a	春	青木 雅明	月1		127
産業組織論b	秋	青木 雅明	月1		127
産業構造論a	春	山越 徳	木2		128
産業構造論b	秋	山越 徳	木2		128

◇ 労働・社会保障 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
社会保障論a<05年度～>	春	酒井 正	木5		129
社会保障論b<05年度～>	秋	酒井 正	木5		129
社会政策a<01～04年度>	春	酒井 正	木5		129
社会政策b<01～04年度>	秋	酒井 正	木5		129

労働経済学a	春	森永 卓郎	木2	130
労働経済学b	秋	森永 卓郎	木2	130

<<関連専門科目>>

◇ 経営・会計 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営学原理a	春	岡部 康弘	木3	営	139
経営学原理b	秋	岡部 康弘	木3	営	139
経営学原理a	春	黒川 文子	火4	営	140
経営学原理b	秋	黒川 文子	火4	営	140
企業論a	春	平井 岳哉	木4	営	153
企業論b	秋	平井 岳哉	木4	営	153
会計学a	春	内倉 滋	火2	法	131
会計学b	秋	内倉 滋	火2	法	131

◇ 統計・情報科学 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
応用統計学a	春	本田 勝	水2	営	170
応用統計学b	秋	本田 勝	水2	営	170
標本調査論a		本年度休講			-
標本調査論b		本年度休講			-
データベース論a	春	堀江 郁美	月2	営	171
データベース論b	秋	堀江 郁美	月2	営	171
データベース論a	春	堀江 郁美	金4	営	171
データベース論b	秋	堀江 郁美	金4	営	171
コンピュータシミュレーション論a	春	富田 幸弘	水2	営	172
コンピュータシミュレーション論b	秋	富田 幸弘	水2	営	172
マルチメディア論a	春	立田 ルミ	水2	営	173
マルチメディア論b	秋	立田 ルミ	水2	営	173
マルチメディア論a	春	森 園子	水4	営	174
マルチメディア論b	秋	森 園子	水4	営	174
プログラミング論a	春	加藤 尚吾	月3	営 言 養	177
プログラミング論b	秋	加藤 尚吾	月3	営 言 養	177
プログラミング論a	春	立田 ルミ	火2	営 言 養	178
プログラミング論b	秋	立田 ルミ	火2	営 言 養	178
プログラミング論a	春	堀江 郁美	金2	営 言 養	179
プログラミング論b	秋	堀江 郁美	金2	営 言 養	179
プログラミング論a	春	森 園子	水3	営 言 養	180
プログラミング論b	秋	森 園子	水3	営 言 養	180

◇ 政治・法律 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
法学a	春	内山 良雄	木5	外 養 法	190
法学b	秋	内山 良雄	木5	外 養 法	190
政治学総論a	春	山口 晃	木4	外 養 法	191
政治学総論b	秋	山口 晃	木4	外 養 法	191
民法a(春学期週2回授業)	春	遠藤 研一郎	火1	法	192
民法b(春学期週2回授業)	春	遠藤 研一郎	火3	法	192
民法a(春学期週2回授業)	春	藤田 貴宏	水1	法	193
民法b(春学期週2回授業)	春	藤田 貴宏	木4	法	193
商法a	春	潘 阿憲	水3	法	194
商法b	秋	潘 阿憲	水3	法	194

◇ 総合講座・特殊講義 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
総合講座a	春	経済学部	水3		196

総合講座b	秋	経済学部	水3		196
特殊講義a(経済学入門)	春	阿部 正浩	火1	法	197
特殊講義b(経済学入門)	秋	阿部 正浩	火1	法	197
特殊講義a(経営学科で何が学べるか?)	春	経営学科	水3		198
特殊講義a(心理学史から考えるキャリアマネジメント)	春	松下 信武	土2		199
特殊講義a(心理学史から考えるキャリアマネジメント)	秋	松下 信武	土2		199
特殊講義a(幸福に生きるための対話)	春	松下 信武	土3		200
特殊講義a(幸福に生きるための対話)	秋	松下 信武	土3		200
特殊講義b(資本市場の役割と証券投資)	秋	経済学部	水4		201

◇ 留学生 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本事情a<07年度入学以前>	春	守田 逸人	金4		202
日本事情b<07年度入学以前>	秋	守田 逸人	金4		202
日本語Ⅰa	春	各担当教員	月・水・金3		203
日本語Ⅰb	秋	各担当教員	月・水・金3		203
日本語Ⅱa	春	岩沢 正子/野村 美知子	金2		204
日本語Ⅱb	秋	岩沢 正子/野村 美知子	金2		204
日本語Ⅱa	春	井上 知子	月2		205
日本語Ⅱb	秋	井上 知子	月2		205
日本語Ⅱa	春	斉藤 明	月3		206
日本語Ⅱb	秋	斉藤 明	月3		206
日本語Ⅱa	春	武田 明子	水2		207
日本語Ⅱb	秋	武田 明子	水2		207

2003～2008年度入学生用

経営学科

<<学科基礎科目>>

◇ 外国語 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
インターナショナルコミュニケーションⅠa	春	各担当教員		外 養 法	29
インターナショナルコミュニケーションⅠb	秋	各担当教員		外 養 法	29
インターナショナルコミュニケーションⅡa	春	各担当教員		外 養 法	30
インターナショナルコミュニケーションⅡb	秋	各担当教員		外 養 法	30

◇ 経営・経済入門 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
大学入門講座<2008年度入学生のみ>	春	経済学部	水2	外 養 法	31
クラスセミナー<2008年度入学生のみ>	秋	各担当教員	水2	外 養 法	31
経営学a	春	有吉 秀樹	水1	済 外 養 法	132
経営学b	秋	有吉 秀樹	水1	済 外 養 法	132
経営学a	春	岡部 康弘	水1	済 外 養 法	133
経営学b	秋	岡部 康弘	水1	済 外 養 法	133
経営学a	春	日下 泰夫	水1	済 外 養 法	134
経営学b	秋	日下 泰夫	水1	済 外 養 法	134
経営学a	春	黒川 文子	水1	済 外 養 法	135
経営学b	秋	黒川 文子	水1	済 外 養 法	135
経営学a	春	小林 哲也	水1	済 外 養 法	136
経営学b	秋	小林 哲也	水1	済 外 養 法	136
経営学a	春	平井 岳哉	水1	済 外 養 法	137
経営学b	秋	平井 岳哉	水1	済 外 養 法	137
簿記原理b	春	井出 健二郎	火2		45
簿記原理a	秋	井出 健二郎	火2		45
簿記原理a	春	内倉 滋	月2		46
簿記原理b	秋	内倉 滋	月2		46
簿記原理a	春	香取 徹	月2		47
簿記原理b	秋	香取 徹	月2		47
簿記原理a	春	金井 繁雅	月4		48
簿記原理b	秋	金井 繁雅	月4		48
簿記原理a	春	中村 泰將	火3		49
簿記原理b	秋	中村 泰將	火3		49
簿記原理a	春	細田 哲	火1		50
簿記原理b	秋	細田 哲	火1		50
簿記原理a	春	百瀬 房徳	木1		51
簿記原理b	秋	百瀬 房徳	木1		51
簿記原理a	春	山内 暁	火4		52
簿記原理b	秋	山内 暁	火4		52
簿記原理a	春	湯田 雅夫	火1		53
簿記原理b	秋	湯田 雅夫	火1		53
コンピュータ入門a	春	各担当教員		外 養 法	42
コンピュータ入門b	秋	各担当教員		外 養 法	42
プレゼンテーション技法	秋	富澤 儀一	水3		43
経済学a(経営学科生用)	春	米山 昌幸	木1	済 外 養 法	138

経済学b(経営学科生用)	秋	米山 昌幸	木1	済 外 養 法	138
統計学a	春	富田 誠	月2		38
統計学b	秋	富田 誠	月2		38
統計学a	春	富田 誠	月3		38
統計学b	秋	富田 誠	月3		38
統計学a	春	富田 幸弘	月2		39
統計学b	秋	富田 幸弘	月2		39
統計学a	春	富田 幸弘	月3		39
統計学b	秋	富田 幸弘	月3		39
統計学b(再履修者用)	春	富田 幸弘	月5	法	40
統計学a	春	本田 勝	火3		41
統計学b	秋	本田 勝	火3		41
統計学a	春	本田 勝	火4		41
統計学b	秋	本田 勝	火4		41

◇ 関連科目 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
数学a	春	高木 悟	土1	外 養 法	54
数学b	秋	高木 悟	土1	外 養 法	54
数学a	春	高木 悟	土2	外 養 法	54
数学b	秋	高木 悟	土2	外 養 法	54
高齢化社会論a	春	奥山 正司	月1		55
高齢化社会論b	秋	奥山 正司	月1		55
精神衛生論a	春	中野 隆史	火4	法	56
精神衛生論b	秋	中野 隆史	火4	法	56
医療・福祉概論a		本年度休講			-
医療・福祉概論b		本年度休講			-
現代文化論a	春	柴崎 信三	金2	外 養 法	57
現代文化論b	秋	柴崎 信三	金2	外 養 法	57

<<学科専門科目>>

◇ 経営外国語 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営外国語Ⅰa	春	青木 雅明	月2	済 外 養 法	58
経営外国語Ⅰb	秋	青木 雅明	月2	済 外 養 法	58
経営外国語Ⅰa	春	有吉 秀樹	木2	済 外 養 法	59
経営外国語Ⅰb	秋	有吉 秀樹	木2	済 外 養 法	59
経営外国語Ⅰa	春	井出 健二郎	火1	済 外 養 法	60
経営外国語Ⅰb	秋	井出 健二郎	火1	済 外 養 法	60
経営外国語Ⅰa	春	伊藤 為一郎	木5	済 外 養 法	61
経営外国語Ⅰb	秋	伊藤 為一郎	木5	済 外 養 法	61
経営外国語Ⅰa	春	奥山 正司	月2	済 外 養 法	62
経営外国語Ⅰb	秋	奥山 正司	月2	済 外 養 法	62
経営外国語Ⅰa	春	香取 徹	水1	済 外 養 法	63
経営外国語Ⅰb	秋	香取 徹	水1	済 外 養 法	63
経営外国語Ⅰa	春	金井 繁雅	月5	済 外 養 法	64
経営外国語Ⅰb	秋	金井 繁雅	月5	済 外 養 法	64
経営外国語Ⅰa	春	上坂 卓郎	水1	済 外 養 法	65
経営外国語Ⅰb	秋	上坂 卓郎	水1	済 外 養 法	65
経営外国語Ⅰa	春	倉橋 透	金2	済 外 養 法	66
経営外国語Ⅰb	秋	倉橋 透	金2	済 外 養 法	66
経営外国語Ⅰa	春	黒川 文子	木4	済 外 養 法	67
経営外国語Ⅰb	秋	黒川 文子	木4	済 外 養 法	67
経営外国語Ⅰa	春	黒木 亮	木2	済 外 養 法	68
経営外国語Ⅰb	秋	黒木 亮	木2	済 外 養 法	68
経営外国語Ⅰa	春	小林 進	金2	済 外 養 法	69

経営外国語Ⅰb	秋	小林 進	金2	済	外	養	法	69
経営外国語Ⅰa	春	小林 哲也	金3	済	外	養	法	70
経営外国語Ⅰb	秋	小林 哲也	金3	済	外	養	法	70
経営外国語Ⅰa	春	齋藤 正章	月5	済	外	養	法	71
経営外国語Ⅰb	秋	齋藤 正章	月5	済	外	養	法	71
経営外国語Ⅰa	春	中村 泰將	火1	済	外	養	法	72
経営外国語Ⅰb	秋	中村 泰將	火1	済	外	養	法	72
経営外国語Ⅰa	春	中村 泰將	金4	済	外	養	法	73
経営外国語Ⅰb	秋	中村 泰將	金4	済	外	養	法	73
経営外国語Ⅰa	春	波形 昭一	火1	済	外	養	法	74
経営外国語Ⅰb	秋	波形 昭一	火1	済	外	養	法	74
経営外国語Ⅰa	春	浜本 光紹	火2	済	外	養	法	75
経営外国語Ⅰb	秋	浜本 光紹	火2	済	外	養	法	75
経営外国語Ⅰa	春	藤山 英樹	木5	済	外	養	法	76
経営外国語Ⅰb	秋	藤山 英樹	木5	済	外	養	法	76
経営外国語Ⅰa	春	堀江 郁美	水1	済	外	養	法	77
経営外国語Ⅰb	秋	堀江 郁美	水1	済	外	養	法	77
経営外国語Ⅰa	春	本田 浩邦	火1	済	外	養	法	78
経営外国語Ⅰb	秋	本田 浩邦	火1	済	外	養	法	78
経営外国語Ⅰa	春	益山 光央	木1	済	外	養	法	79
経営外国語Ⅰb	秋	益山 光央	木1	済	外	養	法	79
経営外国語Ⅰa	春	松本 栄次	火2	済	外	養	法	80
経営外国語Ⅰb	秋	松本 栄次	火2	済	外	養	法	80
経営外国語Ⅰa	春	御園生 眞	水1	済	外	養	法	81
経営外国語Ⅰb	秋	御園生 眞	水1	済	外	養	法	81
経営外国語Ⅰa	春	百瀬 房徳	火1	済	外	養	法	82
経営外国語Ⅰb	秋	百瀬 房徳	火1	済	外	養	法	82
経営外国語Ⅰa	春	森 健	水1	済	外	養	法	83
経営外国語Ⅰb	秋	森 健	水1	済	外	養	法	83
経営外国語Ⅰa	春	森永 卓郎	木4	済	外	養	法	84
経営外国語Ⅰb	秋	森永 卓郎	木4	済	外	養	法	84
経営外国語Ⅰa	春	山内 暁	火5	済	外	養	法	85
経営外国語Ⅰb	秋	山内 暁	火5	済	外	養	法	85
経営外国語Ⅰa	春	山越 徳	水1	済	外	養	法	86
経営外国語Ⅰb	秋	山越 徳	水1	済	外	養	法	86
経営外国語Ⅰa	春	山下 裕歩	火3	済	外	養	法	87
経営外国語Ⅰb	秋	山下 裕歩	火3	済	外	養	法	87
経営外国語Ⅰa	春	山本 美樹子	水2	済	外	養	法	88
経営外国語Ⅰb	秋	山本 美樹子	水2	済	外	養	法	88
経営外国語Ⅰa	春	米山 昌幸	水2	済	外	養	法	89
経営外国語Ⅰb	秋	米山 昌幸	水2	済	外	養	法	89
経営外国語Ⅰa(中国語)	春	全 載旭	金1	済	外	養	法	90
経営外国語Ⅰb(中国語)	秋	全 載旭	金1	済	外	養	法	90
経営外国語Ⅰa(留学生用)	春	J. ブローガン	月4	済	外	養	法	91
経営外国語Ⅰb(留学生用)	秋	J. ブローガン	月4	済	外	養	法	91
経営外国語Ⅰa(留学生用)	春	J. ブローガン	月5	済	外	養	法	91
経営外国語Ⅰb(留学生用)	秋	J. ブローガン	月5	済	外	養	法	91
経営外国語Ⅱa	春	岡村 国和	木3	済	外	養	法	92
経営外国語Ⅱb	秋	岡村 国和	木3	済	外	養	法	92
経営外国語Ⅱa	春	野村 容康	火2	済	外	養	法	93
経営外国語Ⅱb	秋	野村 容康	火2	済	外	養	法	93
経営外国語Ⅱa(中国語)	春	全 載旭	水2	済	外	養	法	94
経営外国語Ⅱb(中国語)	秋	全 載旭	水2	済	外	養	法	94

◇ 経営 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営学原理a	春	岡部 康弘	木3	済	139

経営学原理b	秋	岡部 康弘	木3	済	139
経営学原理a	春	黒川 文子	火4	済	140
経営学原理b	秋	黒川 文子	火4	済	140
経営戦略論a		本年度休講			-
経営戦略論b		本年度休講			-
経営管理論a	春	黒川 文子	木3		141
経営管理論b	秋	黒川 文子	木3		141
経営組織論a	春	高松 和幸	水2		142
経営組織論b	秋	高松 和幸	水2		142
経営財務論a	春	細田 哲	金4		143
経営財務論b	秋	細田 哲	金4		143
人的資源管理論a	春	岡部 康弘	金2		144
人的資源管理論b	秋	岡部 康弘	金2		144
国際経営論a	春	小林 哲也	木3	法	145
国際経営論b	秋	小林 哲也	木3	法	145

◇ 経営史 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営史a	春	柳 敦	火4		146
経営史b	秋	柳 敦	火4		146
日本経営史a	春	奈倉 文二	水2		147
日本経営史b	秋	奈倉 文二	水2		147

◇ 商業 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
マーケティング論a	春	有吉 秀樹	金3		148
マーケティング論b	秋	有吉 秀樹	金3		148
広告論a		本年度休講			-
広告論b		本年度休講			-
行動科学論a	春	有吉 秀樹	木1		149
行動科学論b		本年度休講			-
保険論a	春	岡村 国和	月3		150
保険論b	秋	岡村 国和	月3		150
貿易論a	春	米山 昌幸	火1		151
貿易論b	秋	米山 昌幸	火1		151
証券市場論a	春	高橋 元	木2		152
証券市場論b	秋	高橋 元	木2		152

◇ 企業 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
企業論a	春	平井 岳哉	木4	済	153
企業論b	秋	平井 岳哉	木4	済	153
企業経済論a		本年度休講			-
企業経済論b		本年度休講			-
ベンチャービジネス論a	春	上坂 卓郎	火1		154
ベンチャービジネス論b	秋	上坂 卓郎	火1		154
非営利組織マネジメント論a	春	高松 和幸	火2		155
非営利組織マネジメント論b	秋	高松 和幸	火2		155
企業文化論a	春	齊藤 善久	水4		156
企業文化論b	秋	齊藤 善久	水4		156
研究・開発マネジメントa	春	日下 泰夫	金2		157
研究・開発マネジメントb	秋	日下 泰夫	金2		157

◇ 会計 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
会計学原理a	春	内倉 滋	水1		158
会計学原理b	秋	内倉 滋	水1		158

財務会計論a	春	中村 泰將	金2	159
財務会計論b	秋	中村 泰將	金2	159
管理会計論a	春	香取 徹	月3	160
管理会計論b	秋	香取 徹	月3	160
社会会計論a	春	湯田 雅夫	月4	161
社会会計論b	秋	湯田 雅夫	月4	161
原価計算論a	春	齋藤 正章	月4	162
原価計算論b	秋	齋藤 正章	月4	162
会計監査論a	春	赤岩 茂	土1	163
会計監査論b	秋	赤岩 茂	土1	163
税務会計論a	春	山田 浩一	土2	164
税務会計論b	秋	山田 浩一	土2	164
経営分析論a	春	百瀬 房徳	火2	165
経営分析論b	秋	百瀬 房徳	火2	165
上級簿記(商業)a	春	細田 哲	金3	166
上級簿記(商業)b	秋	細田 哲	金3	166
上級簿記(工業)a	春	香取 徹	月4	167
上級簿記(工業)b	秋	香取 徹	月4	167
国際会計論a	春	小林 公司	木4	168
国際会計論b	秋	小林 公司	木4	168

◇ 情報科学 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営数学a	春	本田 勝	木2		169
経営数学b	秋	本田 勝	木2		169
応用統計学a	春	本田 勝	水2	済	170
応用統計学b	秋	本田 勝	水2	済	170
標本調査論a		本年度休講			-
標本調査論b		本年度休講			-
データベース論a	春	堀江 郁美	月2	済	171
データベース論b	秋	堀江 郁美	月2	済	171
データベース論a	春	堀江 郁美	金4	済	171
データベース論b	秋	堀江 郁美	金4	済	171
コンピュータシミュレーション論a	春	富田 幸弘	水2	済	172
コンピュータシミュレーション論b	秋	富田 幸弘	水2	済	172
マルチメディア論a	春	立田 ルミ	水2	済	173
マルチメディア論b	秋	立田 ルミ	水2	済	173
マルチメディア論a	春	森 園子	水4	済	174
マルチメディア論b	秋	森 園子	水4	済	174
情報検索論a	春	福田 求	水1		175
情報検索論b	秋	福田 求	水1		175
情報検索論a	春	福田 求	水2		175
情報検索論b	秋	福田 求	水2		175
情報システム論a	春	今福 啓	金2		176
情報システム論b	秋	今福 啓	金2		176
プログラミング論a	春	加藤 尚吾	月3	済 言 養	177
プログラミング論b	秋	加藤 尚吾	月3	済 言 養	177
プログラミング論a	春	立田 ルミ	火2	済 言 養	178
プログラミング論b	秋	立田 ルミ	火2	済 言 養	178
プログラミング論a	春	堀江 郁美	金2	済 言 養	179
プログラミング論b	秋	堀江 郁美	金2	済 言 養	179
プログラミング論a	春	森 園子	水3	済 言 養	180
プログラミング論b	秋	森 園子	水3	済 言 養	180
情報社会論a	春	柴崎 信三	水1		181
情報社会論b	秋	柴崎 信三	水1		181
情報通信ネットワークa	秋	今福 啓	火4		182
情報通信ネットワークb	春	三宅 真	金4		182

コンピュータネットワーク	春	富澤 儀一	水3	183
コンピュータアーキテクチャ	春	今福 啓	火4	184
情報と職業a	春	富田 幸弘	火3	185
情報と職業b	秋	小林 哲也	金5	185
アルゴリズム論a	春	木村 昌史	月2	186
アルゴリズム論b	秋	木村 昌史	月2	186

◇ 経営システム工学 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
オペレーションズ・リサーチa	春	正道寺 勉	火2		187
オペレーションズ・リサーチb	秋	正道寺 勉	月2		187
システムズエンジニアリングa	春	天笠 美知夫	木4		188
システムズエンジニアリングb	秋	天笠 美知夫	木4		188
経営システム工学a	春	日下 泰夫	火2		189
経営システム工学b	秋	日下 泰夫	火2		189

<<関連専門科目>>

◇ 経済理論・経済政策 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
マクロ経済学a	春	黒木 亮	月1	済	95
マクロ経済学b	秋	黒木 亮	月1	済	95
マクロ経済学a	春	山下 裕歩	水1	済	96
マクロ経済学b	秋	山下 裕歩	水1	済	96
ミクロ経済学a	春	小林 進	金3	済	97
ミクロ経済学b	秋	小林 進	金3	済	97
ミクロ経済学a	春	藤山 英樹	水1	済	98
ミクロ経済学b	秋	藤山 英樹	水1	済	98
経済政策論a	春	阿部 正浩	木2	済	103
経済政策論b	秋	阿部 正浩	木2	済	103

◇ 日本経済・国際経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本経済論a	春	波形 昭一	火5	済 言 養 法	111
日本経済論b	秋	波形 昭一	火5	済 言 養 法	111
日本経済史a	春	奈倉 文二	水1	済	106
日本経済史b	秋	奈倉 文二	水1	済	106
国際経済論a	春	益山 光央	火3	済 外 養 法	109
国際経済論b	秋	益山 光央	火3	済 外 養 法	109

◇ 金融・財政 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
金融経済論a	春	斉藤 美彦	水2	済	119
金融経済論b	秋	斉藤 美彦	水2	済	119
財政学a	春	野村 容康	木3	済	121
財政学b	秋	野村 容康	木3	済	121

◇ 政治・法律 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
法学a	春	内山 良雄	木5	外 養 法	190
法学b	秋	内山 良雄	木5	外 養 法	190
政治学総論a	春	山口 晃	木4	外 養 法	191
政治学総論b	秋	山口 晃	木4	外 養 法	191
民法a(春学期 週2回授業)	春	遠藤 研一郎	火1		法 192
民法b(春学期 週2回授業)	春	遠藤 研一郎	火3		法 192
民法a(春学期 週2回授業)	春	藤田 貴宏	水1		法 193
民法b(春学期 週2回授業)	春	藤田 貴宏	木4		法 193

商法a	春	潘 阿憲	水3	法	194
商法b	秋	潘 阿憲	水3	法	194
著作権法a	春	長塚 真琴	水1	法	195
著作権法b	秋	長塚 真琴	水1	法	195

◇ 総合講座・特殊講義 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
総合講座a	春	経済学部	水3		196
総合講座b	秋	経済学部	水3		196
特殊講義a(経済学入門)	春	阿部 正浩	火1	法	197
特殊講義b(経済学入門)	秋	阿部 正浩	火1	法	197
特殊講義a(経営学科で何が学べるか?)	春	経営学科	水3		198
特殊講義a(心理学史から考えるキャリアマネジメント)	春	松下 信武	土2		199
特殊講義a(心理学史から考えるキャリアマネジメント)	秋	松下 信武	土2		199
特殊講義a(幸福に生きるための対話)	春	松下 信武	土3		200
特殊講義a(幸福に生きるための対話)	秋	松下 信武	土3		200
特殊講義b(資本市場の役割と証券投資)	秋	経済学部	水4		201

◇ 留学生 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本事情a<07年度入学以前>	春	守田 逸人	金4		202
日本事情b<07年度入学以前>	秋	守田 逸人	金4		202
日本語Ⅰa	春	各担当教員	月・水・金3		203
日本語Ⅰb	秋	各担当教員	月・水・金3		203
日本語Ⅱa	春	岩沢 正子/野村 美知子	金2		204
日本語Ⅱb	秋	岩沢 正子/野村 美知子	金2		204
日本語Ⅱa	春	井上 知子	月2		205
日本語Ⅱb	秋	井上 知子	月2		205
日本語Ⅱa	春	斉藤 明	月3		206
日本語Ⅱb	秋	斉藤 明	月3		206
日本語Ⅱa	春	武田 明子	水2		207
日本語Ⅱb	秋	武田 明子	水2		207

2001～2002年度入学生用

経済学科

<<学科基礎科目>>

◇ 経済・経営入門 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済学a	春	倉橋 透	火4	営 外 法	32
経済学b	秋	倉橋 透	火4	営 外 法	32
経済学b	春	小林 進	火1	営 外 法	33
経済学a	秋	小林 進	火1	営 外 法	33
経済学a	春	野村 容康	火1	営 外 法	34
経済学b	秋	野村 容康	火1	営 外 法	34
経済学a	春	浜本 光紹	火3	営 外 法	35
経済学b	秋	浜本 光紹	火3	営 外 法	35
経済学a	春	益山 光央	火4	営 外 法	36
経済学a	秋	益山 光央	火4	営 外 法	36
経済学a	春	山本 美樹子	月2	営 外 法	37
経済学b	秋	山本 美樹子	月2	営 外 法	37
統計学a	春	富田 誠	月2	法	38
統計学b	秋	富田 誠	月2	法	38
統計学a	春	富田 誠	月3	法	38
統計学b	秋	富田 誠	月3	法	38
統計学a	春	富田 幸弘	月2	法	39
統計学b	秋	富田 幸弘	月2	法	39
統計学a	春	富田 幸弘	月3	法	39
統計学b	秋	富田 幸弘	月3	法	39
統計学b(再履修者用)	春	富田 幸弘	月5	法	40
統計学a	春	本田 勝	火3	法	41
統計学b	秋	本田 勝	火3	法	41
統計学a	春	本田 勝	火4	法	41
統計学b	秋	本田 勝	火4	法	41
コンピュータ入門a	春	各担当教員		外 法	42
コンピュータ入門b	秋	各担当教員		外 法	42
プレゼンテーション技法	秋	富澤 儀一	水3		43
経営学a(経済学科生用)	春	上坂 卓郎	金2	営	44
経営学b(経済学科生用)	秋	上坂 卓郎	金2	営	44
簿記原理b	春	井出 健二郎	火2		45
簿記原理a	秋	井出 健二郎	火2		45
簿記原理a	春	内倉 滋	月2		46
簿記原理b	秋	内倉 滋	月2		46
簿記原理a	春	香取 徹	月2		47
簿記原理b	秋	香取 徹	月2		47
簿記原理a	春	金井 繁雅	月4		48
簿記原理b	秋	金井 繁雅	月4		48
簿記原理a	春	中村 泰將	火3		49
簿記原理b	秋	中村 泰將	火3		49
簿記原理a	春	細田 哲	火1		50
簿記原理b	秋	細田 哲	火1		50
簿記原理a	春	百瀬 房徳	木1		51
簿記原理b	秋	百瀬 房徳	木1		51
簿記原理a	春	山内 暁	火4		52
簿記原理b	秋	山内 暁	火4		52

簿記原理a	春	湯田 雅夫	火1	53
簿記原理b	秋	湯田 雅夫	火1	53

◇ 社会科学 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
高齢化社会論a	春	奥山 正司	月1		55
高齢化社会論b	秋	奥山 正司	月1		55
法学	通年	内山 良雄	木5	外 法	190

◇ 人文科学 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
現代文化論a	春	柴崎 信三	金2	外 法	57
現代文化論b	秋	柴崎 信三	金2	外 法	57

◇ 自然科学 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
数学a	春	高木 悟	土1	外 法	54
数学b	秋	高木 悟	土1	外 法	54
数学a	春	高木 悟	土2	外 法	54
数学b	秋	高木 悟	土2	外 法	54

◇ スポーツ・健康 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
精神衛生論	通年	中野 隆史	火4	法	56
医療・福祉概論a		本年度休講			-
医療・福祉概論b		本年度休講			-

* 上記以外の「学科基礎科目」(外国語科目含む)については、全学共通授業科目との合併授業です。
履修を希望する場合は、教務課経済学部係窓口で、合併一覧表を受け取ってください。

<<学科専門科目>>

◇ 経済外国語 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済外国語 I a	春	青木 雅明	月2	営 外 法	58
経済外国語 I b	秋	青木 雅明	月2	営 外 法	58
経済外国語 I a	春	有吉 秀樹	木2	営 外 法	59
経済外国語 I b	秋	有吉 秀樹	木2	営 外 法	59
経済外国語 I a	春	井出 健二郎	火1	営 外 法	60
経済外国語 I b	秋	井出 健二郎	火1	営 外 法	60
経済外国語 I a	春	伊藤 為一郎	木5	営 外 法	61
経済外国語 I b	秋	伊藤 為一郎	木5	営 外 法	61
経済外国語 I a	春	奥山 正司	月2	営 外 法	62
経済外国語 I b	秋	奥山 正司	月2	営 外 法	62
経済外国語 I a	春	香取 徹	水1	営 外 法	63
経済外国語 I b	秋	香取 徹	水1	営 外 法	63
経済外国語 I a	春	金井 繁雅	月5	営 外 法	64
経済外国語 I b	秋	金井 繁雅	月5	営 外 法	64
経済外国語 I a	春	上坂 卓郎	水1	営 外 法	65
経済外国語 I b	秋	上坂 卓郎	水1	営 外 法	65
経済外国語 I a	春	倉橋 透	金2	営 外 法	66
経済外国語 I b	秋	倉橋 透	金2	営 外 法	66
経済外国語 I a	春	黒川 文子	木4	営 外 法	67
経済外国語 I b	秋	黒川 文子	木4	営 外 法	67
経済外国語 I a	春	黒木 亮	木2	営 外 法	68
経済外国語 I b	秋	黒木 亮	木2	営 外 法	68
経済外国語 I a	春	小林 進	金2	営 外 法	69

経済外国語Ⅰb	秋	小林 進	金2	営	外	法	69
経済外国語Ⅰa	春	小林 哲也	金3	営	外	法	70
経済外国語Ⅰb	秋	小林 哲也	金3	営	外	法	70
経済外国語Ⅰa	春	齋藤 正章	月5	営	外	法	71
経済外国語Ⅰb	秋	齋藤 正章	月5	営	外	法	71
経済外国語Ⅰa	春	中村 泰將	火1	営	外	法	72
経済外国語Ⅰb	秋	中村 泰將	火1	営	外	法	72
経済外国語Ⅰa	春	中村 泰將	金4	営	外	法	73
経済外国語Ⅰb	秋	中村 泰將	金4	営	外	法	73
経済外国語Ⅰa	春	波形 昭一	火1	営	外	法	74
経済外国語Ⅰb	秋	波形 昭一	火1	営	外	法	74
経済外国語Ⅰa	春	浜本 光紹	火2	営	外	法	75
経済外国語Ⅰb	秋	浜本 光紹	火2	営	外	法	75
経済外国語Ⅰa	春	藤山 英樹	木5	営	外	法	76
経済外国語Ⅰb	秋	藤山 英樹	木5	営	外	法	76
経済外国語Ⅰa	春	堀江 郁美	水1	営	外	法	77
経済外国語Ⅰb	秋	堀江 郁美	水1	営	外	法	77
経済外国語Ⅰa	春	本田 浩邦	火1	営	外	法	78
経済外国語Ⅰb	秋	本田 浩邦	火1	営	外	法	78
経済外国語Ⅰa	春	益山 光央	木1	営	外	法	79
経済外国語Ⅰb	秋	益山 光央	木1	営	外	法	79
経済外国語Ⅰa	春	松本 栄次	火2	営	外	法	80
経済外国語Ⅰb	秋	松本 栄次	火2	営	外	法	80
経済外国語Ⅰa	春	御園生 眞	水1	営	外	法	81
経済外国語Ⅰb	秋	御園生 眞	水1	営	外	法	81
経済外国語Ⅰa	春	百瀬 房徳	火1	営	外	法	82
経済外国語Ⅰb	秋	百瀬 房徳	火1	営	外	法	82
経済外国語Ⅰa	春	森 健	水1	営	外	法	83
経済外国語Ⅰb	秋	森 健	水1	営	外	法	83
経済外国語Ⅰa	春	森永 卓郎	木4	営	外	法	84
経済外国語Ⅰb	秋	森永 卓郎	木4	営	外	法	84
経済外国語Ⅰa	春	山内 暁	火5	営	外	法	85
経済外国語Ⅰb	秋	山内 暁	火5	営	外	法	85
経済外国語Ⅰa	春	山越 徳	水1	営	外	法	86
経済外国語Ⅰb	秋	山越 徳	水1	営	外	法	86
経済外国語Ⅰa	春	山下 裕歩	火3	営	外	法	87
経済外国語Ⅰb	秋	山下 裕歩	火3	営	外	法	87
経済外国語Ⅰa	春	山本 美樹子	水2	営	外	法	88
経済外国語Ⅰb	秋	山本 美樹子	水2	営	外	法	88
経済外国語Ⅰa	春	米山 昌幸	水2	営	外	法	89
経済外国語Ⅰb	秋	米山 昌幸	水2	営	外	法	89
経済外国語Ⅰa(中国語)	春	全 載旭	金1	営	外	法	90
経済外国語Ⅰb(中国語)	秋	全 載旭	金1	営	外	法	90
経済外国語Ⅰa(留学生用)	春	J. ブローガン	月4	営	外	法	91
経済外国語Ⅰb(留学生用)	秋	J. ブローガン	月4	営	外	法	91
経済外国語Ⅰa(留学生用)	春	J. ブローガン	月5	営	外	法	91
経済外国語Ⅰb(留学生用)	秋	J. ブローガン	月5	営	外	法	91
経済外国語Ⅱa	春	岡村 国和	木3	営	外	法	92
経済外国語Ⅱb	秋	岡村 国和	木3	営	外	法	92
経済外国語Ⅱa	春	野村 容康	火2	営	外	法	93
経済外国語Ⅱb	秋	野村 容康	火2	営	外	法	93
経済外国語Ⅱa(中国語)	春	全 載旭	水2	営	外	法	94
経済外国語Ⅱb(中国語)	秋	全 載旭	水2	営	外	法	94

◇ 経済理論・経済学史 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
マクロ経済学a	春	黒木 亮	月1	営	95

マクロ経済学b	秋	黒木 亮	月1	営	95
マクロ経済学a	春	山下 裕歩	水1	営	96
マクロ経済学b	秋	山下 裕歩	水1	営	96
ミクロ経済学a	春	小林 進	金3	営	97
ミクロ経済学b	秋	小林 進	金3	営	97
ミクロ経済学a	春	藤山 英樹	水1	営	98
ミクロ経済学b	秋	藤山 英樹	水1	営	98
経済学史a	春	黒木 亮	木3		99
経済学史b	秋	黒木 亮	木3		99
経済変動論a	春	山下 裕歩	月1		100
経済変動論b	秋	山下 裕歩	月1		100
経済社会学a	春	森永 卓郎	火3		101
経済社会学b	秋	森永 卓郎	火3		101
経済哲学a		本年度休講			-
経済哲学b		本年度休講			-

◇ 経済統計・計量経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済統計論a		本年度休講			-
経済統計論b		本年度休講			-
計量経済学a	春	藤山 英樹	木4		102
計量経済学b	秋	藤山 英樹	木4		102

◇ 経済政策 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済政策論a	春	阿部 正浩	木2	営	103
経済政策論b	秋	阿部 正浩	木2	営	103
経済開発論a	春	千代浦 昌道	金2	言	104
経済開発論b	秋	千代浦 昌道	金2	言	104
環境政策論a	秋	塩田 尚樹	火1		105
環境政策論b	秋	塩田 尚樹	水1		105

◇ 経済史 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本経済史a	春	奈倉 文二	水1	営	106
日本経済史b	秋	奈倉 文二	水1	営	106
日本社会史a	春	新井 孝重	火1		107
日本社会史b	秋	新井 孝重	火1		107
東洋経済史a		本年度休講			-
東洋経済史b		本年度休講			-
西洋経済史a	春	御園生 眞	火4		108
西洋経済史b	秋	御園生 眞	火4		108

◇ 国際経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
国際経済論a	春	益山 光央	火3	営 外 法	109
国際経済論b	秋	益山 光央	火3	営 外 法	109
国際金融論a	春	山本 美樹子	月3	外 法	110
国際金融論b	秋	山本 美樹子	月3	外 法	110

◇ 地域経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本経済論a	春	波形 昭一	火5	営 言 法	111
日本経済論b	秋	波形 昭一	火5	営 言 法	111
アメリカ経済論a	春	本田 浩邦	月3		112
アメリカ経済論b	秋	本田 浩邦	月3		112
ラテンアメリカ経済論a	春	松本 栄次	月2		113

ラテンアメリカ経済論b	秋	松本 栄次	月2		113
西ヨーロッパ経済論a	春	大西 健夫	火1		114
西ヨーロッパ経済論b	秋	大西 健夫	火1		114
東ヨーロッパ経済論a		本年度休講			-
東ヨーロッパ経済論b		本年度休講			-
東アジア・中国経済論a	春	全 載旭	木2	言	115
東アジア・中国経済論b	秋	全 載旭	木2	言	115
オセアニア経済論a	春	森 健	金3	言	116
オセアニア経済論b	秋	森 健	金3	言	116
アフリカ経済論a	春	千代浦 昌道	月2		117
アフリカ経済論b	秋	千代浦 昌道	月2		117
東南アジア経済論a		本年度休講			-
東南アジア経済論b		本年度休講			-
中東経済論a	春	平井 文子	金2		118
中東経済論b	秋	平井 文子	金2		118

◇ 金融経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
金融経済論a	春	斉藤 美彦	水2	営	119
金融経済論b	秋	斉藤 美彦	水2	営	119
金融システム論a	春	斉藤 美彦	水1		120
金融システム論b	秋	斉藤 美彦	水1		120

◇ 財政 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
財政学a	春	野村 容康	木3	営	121
財政学b	秋	野村 容康	木3	営	121
公共経済学a	春	伊藤 為一郎	月2		122
公共経済学b	秋	伊藤 為一郎	月2		122
日本財政論a<03~07年度>		本年度休講			-
日本財政論b<03~07年度>		本年度休講			-
地方財政論a	春	伊藤 為一郎	木4		123
地方財政論b	秋	伊藤 為一郎	木4		123

◇ 環境・都市・経済地理 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
環境経済学a	春	浜本 光紹	水2		124
環境経済学b	秋	浜本 光紹	水2		124
都市経済学a	春	倉橋 透	金1		125
都市経済学b	秋	倉橋 透	金1		125
経済地理学a	春	犬井 正	火2		126
経済地理学b	秋	犬井 正	火2		126
交通経済論a		本年度休講			-
交通経済論b		本年度休講			-

◇ 産業経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
産業政策論a		本年度休講			-
産業政策論b		本年度休講			-
産業組織論a	春	青木 雅明	月1		127
産業組織論b	秋	青木 雅明	月1		127
産業構造論a	春	山越 徳	木2		128
産業構造論b	秋	山越 徳	木2		128

◇ 労働・社会政策 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
社会政策a	春	酒井 正	木5		129

社会政策b	秋	酒井 正	木5	129
労働経済学a	春	森永 卓郎	木2	130
労働経済学b	秋	森永 卓郎	木2	130

<<関連専門科目>>

◇ 経営・会計 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営学原理a	春	岡部 康弘	木3	営	139
経営学原理b	秋	岡部 康弘	木3	営	139
経営学原理a	春	黒川 文子	火4	営	140
経営学原理b	秋	黒川 文子	火4	営	140
企業論a	春	平井 岳哉	木4	営	153
企業論b	秋	平井 岳哉	木4	営	153
会計学a	春	内倉 滋	火2	法	131
会計学b	秋	内倉 滋	火2	法	131

◇ 統計・情報科学 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
応用統計学a	春	本田 勝	水2	営	170
応用統計学b	秋	本田 勝	水2	営	170
標本調査論a		本年度休講		営	-
標本調査論b		本年度休講		営	-
データベース論a	春	堀江 郁美	月2	営	171
データベース論b	秋	堀江 郁美	月2	営	171
データベース論a	春	堀江 郁美	金4	営	171
データベース論b	秋	堀江 郁美	金4	営	171
コンピュータシミュレーション論a	春	富田 幸弘	水2	営	172
コンピュータシミュレーション論b	秋	富田 幸弘	水2	営	172
マルチメディア論a	春	立田 ルミ	水2	営	173
マルチメディア論b	秋	立田 ルミ	水2	営	173
マルチメディア論a	春	森 園子	水4	営	174
マルチメディア論b	秋	森 園子	水4	営	174
プログラミング論a	春	加藤 尚吾	月3	営 言	177
プログラミング論b	秋	加藤 尚吾	月3	営 言	177
プログラミング論a	春	立田 ルミ	火2	営 言	178
プログラミング論b	秋	立田 ルミ	火2	営 言	178
プログラミング論a	春	堀江 郁美	金2	営 言	179
プログラミング論b	秋	堀江 郁美	金2	営 言	179
プログラミング論a	春	森 園子	水3	営 言	180
プログラミング論b	秋	森 園子	水3	営 言	180

◇ 政治・法律 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
政治学総論	通年	山口 晃	木4	外 法	191
民法(春学期週2回)	春	遠藤 研一郎	火1／火3	法	192
民法(春学期週2回)	春	藤田 貴宏	水1／木4	法	193
商法	通年	潘 阿憲	水3	法	194

◇ 総合講座 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
総合講座(1)a	春	経済学部	水3		196
総合講座(1)b	秋	経済学部	水3		196

◇ 特殊講義 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
特殊講義B(心理学史から考えるキャリアマネジメント)	春	松下 信武	土2		199

特殊講義B(心理学史から考えるキャリアマネジメント)	秋	松下 信武	土2	199
特殊講義B(幸福に生きるための対話)	春	松下 信武	土3	200
特殊講義B(幸福に生きるための対話)	秋	松下 信武	土3	200
特殊講義B(資本市場の役割と証券投資)	秋	経済学部	水4	201

◇ 留学生 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本事情a<07年度入学以前>	春	守田 逸人	金4		202
日本事情b<07年度入学以前>	秋	守田 逸人	金4		202
日本語Ⅰa	春	各担当教員	月・水・金3		203
日本語Ⅰb	秋	各担当教員	月・水・金3		203
日本語Ⅱa	春	岩沢 正子/野村 美知子	金2		204
日本語Ⅱb	秋	岩沢 正子/野村 美知子	金2		204
日本語Ⅱa	春	井上 知子	月2		205
日本語Ⅱb	秋	井上 知子	月2		205
日本語Ⅱa	春	斉藤 明	月3		206
日本語Ⅱb	秋	斉藤 明	月3		206
日本語Ⅱa	春	武田 明子	水2		207
日本語Ⅱb	秋	武田 明子	水2		207

2001～2002年度入学生用

経営学 科

<<学科基礎科目>>

◇ 経済・経営入門 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可			ページ
経営学a	春	有吉 秀樹	水1	済	外	法	132
経営学b	秋	有吉 秀樹	水1	済	外	法	132
経営学a	春	岡部 康弘	水1	済	外	法	133
経営学b	秋	岡部 康弘	水1	済	外	法	133
経営学a	春	日下 泰夫	水1	済	外	法	134
経営学b	秋	日下 泰夫	水1	済	外	法	134
経営学a	春	黒川 文子	水1	済	外	法	135
経営学b	秋	黒川 文子	水1	済	外	法	135
経営学a	春	小林 哲也	水1	済	外	法	136
経営学b	秋	小林 哲也	水1	済	外	法	136
経営学a	春	平井 岳哉	水1	済	外	法	137
経営学b	秋	平井 岳哉	水1	済	外	法	137
簿記原理b	春	井出 健二郎	火2				45
簿記原理a	秋	井出 健二郎	火2				45
簿記原理a	春	内倉 滋	月2				46
簿記原理b	秋	内倉 滋	月2				46
簿記原理a	春	香取 徹	月2				47
簿記原理b	秋	香取 徹	月2				47
簿記原理a	春	金井 繁雅	月4				48
簿記原理b	秋	金井 繁雅	月4				48
簿記原理a	春	中村 泰將	火3				49
簿記原理b	秋	中村 泰將	火3				49
簿記原理a	春	細田 哲	火1				50
簿記原理b	秋	細田 哲	火1				50
簿記原理a	春	百瀬 房徳	木1				51
簿記原理b	秋	百瀬 房徳	木1				51
簿記原理a	春	山内 暁	火4				52
簿記原理b	秋	山内 暁	火4				52
簿記原理a	春	湯田 雅夫	火1				53
簿記原理b	秋	湯田 雅夫	火1				53
コンピュータ入門a	春	各担当教員			外	法	42
コンピュータ入門b	秋	各担当教員			外	法	42
プレゼンテーション技法	秋	富澤 儀一	水3				43
経済学a(経営学科生用)	春	米山 昌幸	木1	済	外	法	138
経済学b(経営学科生用)	秋	米山 昌幸	木1	済	外	法	138
統計学a	春	富田 誠	月2			法	38
統計学b	秋	富田 誠	月2			法	38
統計学a	春	富田 誠	月3			法	38
統計学b	秋	富田 誠	月3			法	38
統計学a	春	富田 幸弘	月2			法	39
統計学b	秋	富田 幸弘	月2			法	39
統計学a	春	富田 幸弘	月3			法	39
統計学b	秋	富田 幸弘	月3			法	39
統計学b(再履修者用)	春	富田 幸弘	月5			法	40
統計学a	春	本田 勝	火3			法	41
統計学b	秋	本田 勝	火3			法	41

統計学a	春	本田 勝	火4	法	41
統計学b	秋	本田 勝	火4	法	41

◇ 社会科学 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
高齢化社会論a	春	奥山 正司	月1		55
高齢化社会論b	秋	奥山 正司	月1		55
法学	通年	内山 良雄	木5	外 法	190

◇ 人文科学 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
現代文化論a	春	柴崎 信三	金2	外 法	57
現代文化論b	秋	柴崎 信三	金2	外 法	57

◇ 自然科学 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
数学a	春	高木 悟	土1	外 法	54
数学b	秋	高木 悟	土1	外 法	54
数学a	春	高木 悟	土2	外 法	54
数学b	秋	高木 悟	土2	外 法	54

◇ スポーツ・健康 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
精神衛生論	通年	中野 隆史	火4	法	56
医療・福祉概論a		本年度休講			—
医療・福祉概論b		本年度休講			—

* 上記以外の「学科基礎科目」(外国語科目含む)については、全学共通授業科目との合併授業です。
履修を希望する場合は、教務課経済学部係で合併一覧表を受け取ってください。

<<学科専門科目>>

◇ 経営外国語 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営外国語 I a	春	青木 雅明	月2	済 外 法	58
経営外国語 I b	秋	青木 雅明	月2	済 外 法	58
経営外国語 I a	春	有吉 秀樹	木2	済 外 法	59
経営外国語 I b	秋	有吉 秀樹	木2	済 外 法	59
経営外国語 I a	春	井出 健二郎	火1	済 外 法	60
経営外国語 I b	秋	井出 健二郎	火1	済 外 法	60
経営外国語 I a	春	伊藤 為一郎	木5	済 外 法	61
経営外国語 I b	秋	伊藤 為一郎	木5	済 外 法	61
経営外国語 I a	春	奥山 正司	月2	済 外 法	62
経営外国語 I b	秋	奥山 正司	月2	済 外 法	62
経営外国語 I a	春	香取 徹	水1	済 外 法	63
経営外国語 I b	秋	香取 徹	水1	済 外 法	63
経営外国語 I a	春	金井 繁雅	月5	済 外 法	64
経営外国語 I b	秋	金井 繁雅	月5	済 外 法	64
経営外国語 I a	春	上坂 卓郎	水1	済 外 法	65
経営外国語 I b	秋	上坂 卓郎	水1	済 外 法	65
経営外国語 I a	春	倉橋 透	金2	済 外 法	66
経営外国語 I b	秋	倉橋 透	金2	済 外 法	66
経営外国語 I a	春	黒川 文子	木4	済 外 法	67
経営外国語 I b	秋	黒川 文子	木4	済 外 法	67
経営外国語 I a	春	黒木 亮	木2	済 外 法	68

経営外国語Ⅰb	秋	黒木 亮	木2	済	外	法	68
経営外国語Ⅰa	春	小林 進	金2	済	外	法	69
経営外国語Ⅰb	秋	小林 進	金2	済	外	法	69
経営外国語Ⅰa	春	小林 哲也	金3	済	外	法	70
経営外国語Ⅰb	秋	小林 哲也	金3	済	外	法	70
経営外国語Ⅰa	春	齋藤 正章	月5	済	外	法	71
経営外国語Ⅰb	秋	齋藤 正章	月5	済	外	法	71
経営外国語Ⅰa	春	中村 泰將	火1	済	外	法	72
経営外国語Ⅰb	秋	中村 泰將	火1	済	外	法	72
経営外国語Ⅰa	春	中村 泰將	金4	済	外	法	73
経営外国語Ⅰb	秋	中村 泰將	金4	済	外	法	73
経営外国語Ⅰa	春	波形 昭一	火1	済	外	法	74
経営外国語Ⅰb	秋	波形 昭一	火1	済	外	法	74
経営外国語Ⅰa	春	浜本 光紹	火2	済	外	法	75
経営外国語Ⅰb	秋	浜本 光紹	火2	済	外	法	75
経営外国語Ⅰa	春	藤山 英樹	木5	済	外	法	76
経営外国語Ⅰb	秋	藤山 英樹	木5	済	外	法	76
経営外国語Ⅰa	春	堀江 郁美	水1	済	外	法	77
経営外国語Ⅰb	秋	堀江 郁美	水1	済	外	法	77
経営外国語Ⅰa	春	本田 浩邦	火1	済	外	法	78
経営外国語Ⅰb	秋	本田 浩邦	火1	済	外	法	78
経営外国語Ⅰa	春	益山 光央	木1	済	外	法	79
経営外国語Ⅰb	秋	益山 光央	木1	済	外	法	79
経営外国語Ⅰa	春	松本 栄次	火2	済	外	法	80
経営外国語Ⅰb	秋	松本 栄次	火2	済	外	法	80
経営外国語Ⅰa	春	御園生 眞	水1	済	外	法	81
経営外国語Ⅰb	秋	御園生 眞	水1	済	外	法	81
経営外国語Ⅰa	春	百瀬 房徳	火1	済	外	法	82
経営外国語Ⅰb	秋	百瀬 房徳	火1	済	外	法	82
経営外国語Ⅰa	春	森 健	水1	済	外	法	83
経営外国語Ⅰb	秋	森 健	水1	済	外	法	83
経営外国語Ⅰa	春	森永 卓郎	木4	済	外	法	84
経営外国語Ⅰb	秋	森永 卓郎	木4	済	外	法	84
経営外国語Ⅰa	春	山内 暁	火5	済	外	法	85
経営外国語Ⅰb	秋	山内 暁	火5	済	外	法	85
経営外国語Ⅰa	春	山越 徳	水1	済	外	法	86
経営外国語Ⅰb	秋	山越 徳	水1	済	外	法	86
経営外国語Ⅰa	春	山下 裕歩	火3	済	外	法	87
経営外国語Ⅰb	秋	山下 裕歩	火3	済	外	法	87
経営外国語Ⅰa	春	山本 美樹子	水2	済	外	法	88
経営外国語Ⅰb	秋	山本 美樹子	水2	済	外	法	88
経営外国語Ⅰa	春	米山 昌幸	水2	済	外	法	89
経営外国語Ⅰb	秋	米山 昌幸	水2	済	外	法	89
経営外国語Ⅰa(中国語)	春	全 載旭	金1	済	外	法	90
経営外国語Ⅰb(中国語)	秋	全 載旭	金1	済	外	法	90
経営外国語Ⅰa(留学生用)	春	J. ブローガン	月4	済	外	法	91
経営外国語Ⅰb(留学生用)	秋	J. ブローガン	月4	済	外	法	91
経営外国語Ⅰa(留学生用)	春	J. ブローガン	月5	済	外	法	91
経営外国語Ⅰb(留学生用)	秋	J. ブローガン	月5	済	外	法	91
経営外国語Ⅱa	春	岡村 国和	木3	済	外	法	92
経営外国語Ⅱb	秋	岡村 国和	木3	済	外	法	92
経営外国語Ⅱa	春	野村 容康	火2	済	外	法	93
経営外国語Ⅱb	秋	野村 容康	火2	済	外	法	93
経営外国語Ⅱa(中国語)	春	全 載旭	水2	済	外	法	94
経営外国語Ⅱb(中国語)	秋	全 載旭	水2	済	外	法	94

◇ 経営 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営学原理a	春	岡部 康弘	木3	済	139
経営学原理b	秋	岡部 康弘	木3	済	139
経営学原理a	春	黒川 文子	火4	済	140
経営学原理b	秋	黒川 文子	火4	済	140
経営戦略論a		本年度休講			-
経営戦略論b		本年度休講			-
経営管理論a	春	黒川 文子	木3		141
経営管理論b	秋	黒川 文子	木3		141
経営組織論a	春	高松 和幸	水2		142
経営組織論b	秋	高松 和幸	水2		142
経営財務論a	春	細田 哲	金4		143
経営財務論b	秋	細田 哲	金4		143
人的資源管理論a	春	岡部 康弘	金2		144
人的資源管理論b	秋	岡部 康弘	金2		144
国際経営論a	春	小林 哲也	木3	法	145
国際経営論b	秋	小林 哲也	木3	法	145

◇ 経営史 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営史a	春	柳 敦	火4		146
経営史b	秋	柳 敦	火4		146
日本経営史a	春	奈倉 文二	水2		147
日本経営史b	秋	奈倉 文二	水2		147

◇ 商業 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
マーケティング論a	春	有吉 秀樹	金3		148
マーケティング論b	秋	有吉 秀樹	金3		148
広告論a		本年度休講			-
広告論b		本年度休講			-
行動科学論a	春	有吉 秀樹	木1		149
行動科学論b		本年度休講			-
保険論a	春	岡村 国和	月3		150
保険論b	秋	岡村 国和	月3		150
貿易論a	春	米山 昌幸	火1		151
貿易論b	秋	米山 昌幸	火1		151
証券市場論a	春	高橋 元	木2		152
証券市場論b	秋	高橋 元	木2		152

◇ 企業 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
企業論a	春	平井 岳哉	木4	済	153
企業論b	秋	平井 岳哉	木4	済	153
企業形態論a		本年度休講			-
企業形態論b		本年度休講			-
ベンチャービジネス論a	春	上坂 卓郎	火1		154
ベンチャービジネス論b	秋	上坂 卓郎	火1		154
非営利組織マネジメント論a	春	高松 和幸	火2		155
非営利組織マネジメント論b	秋	高松 和幸	火2		155
企業文化論a	春	齊藤 善久	水4		156
企業文化論b	秋	齊藤 善久	水4		156
研究・開発マネジメントa	春	日下 泰夫	金2		157
研究・開発マネジメントb	秋	日下 泰夫	金2		157

◇ 会計 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
会計学原理a	春	内倉 滋	水1		158
会計学原理b	秋	内倉 滋	水1		158
財務会計論a	春	中村 泰將	金2		159
財務会計論b	秋	中村 泰將	金2		159
管理会計論a	春	香取 徹	月3		160
管理会計論b	秋	香取 徹	月3		160
社会会計論a	春	湯田 雅夫	月4		161
社会会計論b	秋	湯田 雅夫	月4		161
原価計算論a	春	齋藤 正章	月4		162
原価計算論b	秋	齋藤 正章	月4		162
会計監査論a	春	赤岩 茂	土1		163
会計監査論b	秋	赤岩 茂	土1		163
税務会計論a	春	山田 浩一	土2		164
税務会計論b	秋	山田 浩一	土2		164
経営分析論a	春	百瀬 房徳	火2		165
経営分析論b	秋	百瀬 房徳	火2		165
上級簿記(商業)a	春	細田 哲	金3		166
上級簿記(商業)b	秋	細田 哲	金3		166
上級簿記(工業)a	春	香取 徹	月4		167
上級簿記(工業)b	秋	香取 徹	月4		167
国際会計論a	春	小林 公司	木4		168
国際会計論b	秋	小林 公司	木4		168

◇ 情報科学 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営数学a	春	本田 勝	木2		169
経営数学b	秋	本田 勝	木2		169
応用統計学a	春	本田 勝	水2	済	170
応用統計学b	秋	本田 勝	水2	済	170
標本調査論a		本年度休講		済	-
標本調査論b		本年度休講		済	-
データベース論a	春	堀江 郁美	月2	済	171
データベース論b	秋	堀江 郁美	月2	済	171
データベース論a	春	堀江 郁美	金4	済	171
データベース論b	秋	堀江 郁美	金4	済	171
コンピュータシミュレーション論a	春	富田 幸弘	水2	済	172
コンピュータシミュレーション論b	秋	富田 幸弘	水2	済	172
マルチメディア論a	春	立田 ルミ	水2	済	173
マルチメディア論b	秋	立田 ルミ	水2	済	173
マルチメディア論a	春	森 園子	水4	済	174
マルチメディア論b	秋	森 園子	水4	済	174
情報検索論a	春	福田 求	水1		175
情報検索論b	秋	福田 求	水1		175
情報検索論a	春	福田 求	水2		175
情報検索論b	秋	福田 求	水2		175
情報システム論a	春	今福 啓	金2		176
情報システム論b	秋	今福 啓	金2		176
プログラミング論a	春	加藤 尚吾	月3	済 言	177
プログラミング論b	秋	加藤 尚吾	月3	済 言	177
プログラミング論a	春	立田 ルミ	火2	済 言	178
プログラミング論b	秋	立田 ルミ	火2	済 言	178
プログラミング論a	春	堀江 郁美	金2	済 言	179
プログラミング論b	秋	堀江 郁美	金2	済 言	179
プログラミング論a	春	森 園子	水3	済 言	180
プログラミング論b	秋	森 園子	水3	済 言	180

情報社会論a	春	柴崎 信三	水1	181
情報社会論b	秋	柴崎 信三	水1	181
情報通信ネットワークa	秋	今福 啓	火4	182
情報通信ネットワークb	春	三宅 真	金4	182
コンピュータネットワーク	春	富澤 儀一	水3	183
コンピュータアーキテクチャ	春	今福 啓	火4	184
情報と職業a	春	富田 幸弘	火3	185
情報と職業b	秋	小林 哲也	金5	185
アルゴリズム論a	春	木村 昌史	月2	186
アルゴリズム論b	秋	木村 昌史	月2	186

◇ 経営システム ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
オペレーションズ・リサーチa	春	正道寺 勉	火2		187
オペレーションズ・リサーチb	秋	正道寺 勉	月2		187
システムズエンジニアリングa	春	天笠 美知夫	木4		188
システムズエンジニアリングb	秋	天笠 美知夫	木4		188
経営システム工学a	春	日下 泰夫	火2		189
経営システム工学b	秋	日下 泰夫	火2		189

<<関連専門科目>>

◇ 経済理論・経済政策 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
マクロ経済学a	春	黒木 亮	月1	済	95
マクロ経済学b	秋	黒木 亮	月1	済	95
マクロ経済学a	春	山下 裕歩	水1	済	96
マクロ経済学b	秋	山下 裕歩	水1	済	96
ミクロ経済学a	春	小林 進	金3	済	97
ミクロ経済学b	秋	小林 進	金3	済	97
ミクロ経済学a	春	藤山 英樹	水1	済	98
ミクロ経済学b	秋	藤山 英樹	水1	済	98
経済政策論a	春	阿部 正浩	木2	済	103
経済政策論b	秋	阿部 正浩	木2	済	103

◇ 日本経済・国際経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本経済論a	春	波形 昭一	火5	済 言 法	111
日本経済論b	秋	波形 昭一	火5	済 言 法	111
日本経済史a	春	奈倉 文二	水1	済	106
日本経済史b	秋	奈倉 文二	水1	済	106
国際経済論a	春	益山 光央	火3	済 外 法	109
国際経済論b	秋	益山 光央	火3	済 外 法	109

◇ 金融・財政 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
金融経済論a	春	斉藤 美彦	水2	済	119
金融経済論b	秋	斉藤 美彦	水2	済	119
財政学a	春	野村 容康	木3	済	121
財政学b	秋	野村 容康	木3	済	121

◇ 政治・法律 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
政治学総論	通年	山口 晃	木4	外 法	191
民法(春学期週2回)	春	遠藤 研一郎	火1/火3	法	192
民法(春学期週2回)	春	藤田 貴宏	水1/木4	法	193
商法	通年	潘 阿憲	水3	法	194

著作権法	通年	長塚 真琴	水1	法	195
------	----	-------	----	---	-----

◇ 総合講座 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
総合講座(1)a	春	経済学部	水3		196
総合講座(1)b	秋	経済学部	水3		196

◇ 特殊講義 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
特殊講義B(心理学史から考えるキャリアマネジメント)	春	松下 信武	土2		199
特殊講義B(心理学史から考えるキャリアマネジメント)	秋	松下 信武	土2		199
特殊講義B(幸福に生きるための対話)	春	松下 信武	土3		200
特殊講義B(幸福に生きるための対話)	秋	松下 信武	土3		200
特殊講義B(資本市場の役割と証券投資)	秋	経済学部	水4		201

◇ 留学生 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本事情a<07年度入学以前>	春	守田 逸人	金4		202
日本事情b<07年度入学以前>	秋	守田 逸人	金4		202
日本語Ⅰa	春	各担当教員	月・水・金3		203
日本語Ⅰb	秋	各担当教員	月・水・金3		203
日本語Ⅱa	春	岩沢 正子/野村 美知子	金2		204
日本語Ⅱb	秋	岩沢 正子/野村 美知子	金2		204
日本語Ⅱa	春	井上 知子	月2		205
日本語Ⅱb	秋	井上 知子	月2		205
日本語Ⅱa	春	斉藤 明	月3		206
日本語Ⅱb	秋	斉藤 明	月3		206
日本語Ⅱa	春	武田 明子	水2		207
日本語Ⅱb	秋	武田 明子	水2		207

03 年度以降	インターナショナルコミュニケーション I a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
(担当者が複数ですので、各担当教員によるクラス別ガイダンスにしてください。) この授業は、経済学部 1 年生のために設けられた英語ネイティブ教員による科目です。 International Communication(IC)とは、Test of English for International Communication (TOEIC) の用語からとったものであり、国際的に通用する日常的な実用英語の修得を目指しています。英語による日常のコミュニケーション、つまり話す (Speaking)、書く (Writing)、読む (Reading)、聞く (Listening) という 4 つの能力が高まることを主眼に授業は進められます。 講師は全て英語を母語とする外国人ですので、受講者はネイティブの先生から直に英語を聞き、話す訓練が出来ます。		1 ガイダンス 2 ～ 4 Unit1 and teachers own materials 5 ～ 8 Unit2 and teachers own materials 9 ～ 13 Unit3 and teachers own materials	
テキスト、参考文献		評価方法	
Business Venture I (教科書は必ず購入すること。解答などの書き込みのある中古本を使用しないこと。)		各担当教員による。 なお、欠席を 4 回以上した場合には原則不可 (F) となる。	

03 年度以降	インターナショナルコミュニケーション I b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
インターナショナルコミュニケーション I a を参照してください。		1 ～ 3 Unit1 and teachers own materials 4 ～ 6 Unit2 and teachers own materials 7 ～ 9 Unit3 and teachers own materials 10 ～ 13 Review and teachers own materials	
テキスト、参考文献		評価方法	
Business Venture I		各担当教員による。 なお、欠席を 4 回以上した場合には原則不可 (F) となる。	

03 年度以降	インターナショナルコミュニケーションⅡa	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
(担当者が複数ですので、各担当教員によるクラス別ガイダンスにしてください。) この授業は、経済学部 2 年生のために設けられた英語ネイティブ教員による科目です。 International Communication(IC)とは、Test of English for International Communication (TOEIC) の用語からとったものであり、国際的に通用する日常的な実用英語の修得を目指しています。英語による日常のコミュニケーション、つまり話す (Speaking)、書く (Writing)、読む (Reading)、聞く (Listening) という 4 つの能力が高まることを主眼に授業は進められます。 講師は全て英語を母語とする外国人ですので、受講者はネイティブの先生から直に英語を聞き、話す訓練が出来ます。		1 ガイダンス 2 ～ 4 Unit7 and teachers own materials 5 ～ 8 Unit8 and teachers own materials 9 ～ 13 Unit9 and teachers own materials	
テキスト、参考文献		評価方法	
Business Venture I		各担当教員による。 なお、欠席を 4 回以上した場合には原則不可 (F) となる。	

03 年度以降	インターナショナルコミュニケーションⅡb	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
インターナショナルコミュニケーションⅡa を参照してください。		1 ～ 3 Unit10 and teachers own materials 4 ～ 6 Unit11 and teachers own materials 7 ～ 9 Unit12 and teachers own materials 10 ～ 13 Review and teachers own materials	
テキスト、参考文献		評価方法	
Business Venture I		各担当教員による。 なお、欠席を 4 回以上した場合には原則不可 (F) となる。	

08 年度	大学入門講座	担当者	経済学部
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、新入生諸君が大学生活にスムーズに移行するために行われるものです。 大学生活は、高校までと異なり、学生諸君の自主性が尊重されます。大学の授業・カリキュラムは、勉強したいことややりたいことに応じて自身で自由に選択することが可能です。 しかし、一方で選択の自由は学生諸君の責任の重さの裏返しでもあります。大学での学習活動や友達つきあい、就職活動など、これから大学生活で生じることは全て学生諸君の責任の下で行われることになります。 この講義では大学生活を送る上での重要なポイントを説明し、学生諸君が大学生活を豊かで実りあるものになるような手助けをしたいと考えています。		1. 科目履修のポイント 2. 大学生活のポイント 1 3. 大学生活のポイント 2 4. 外国語学習術 1 5. 外国語学習術 2 6. キャリアガイダンス 1 7. キャリアガイダンス 2 8. 思考技術入門 1 9. 思考技術入門 2 10. 思考技術入門 3 11. 演習科目の紹介 1 12. 演習科目の紹介 2 13. 課題レポート	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する		出席とレポート	

08 年度	クラスセミナー	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義の目的は、大学での学習や研究の進め方について包括的に学ぶことです。 大学での学びは、高校までとは異なり、学生の皆さんが受け身で学ぶのではなく、積極的に能動的に皆さん自身が学びのテーマを見つけ、研究していくことになります。 この講義は、皆さんが学びのテーマを見つけ、研究を遂行していくために必要な情報を集める、情報を整理する、情報をまとめる、といったアカデミック・スキルの修得を目指します。		1. 大学生活と学習・研究 2. 大学生活 3. 大学の学習・研究 4. 情報探索方法のモデル ―キーワードを考える― 5. 情報探索方法のモデル ―「読む」力をつける― 6. 情報探索方法のモデル ―電子情報を見つける― 7. 学習・研究テーマの選び方 8. 情報の収集・整理・加工 9. レポートや論文を書く I 10. レポートや論文を書く II 11. プレゼンテーション I 12. プレゼンテーション II 13. テストの準備と受験	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する		出席とレポート	

01 年度以降	経済学 a (経済学科)	担当者	倉橋 透
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 皆さんがコンビニでパンを買うところから、政府が不良債権対策を行うところまで、経済学は世の中の実に広い範囲の活動に関係する学問である。その意味で、経済学的な考え方は現代に生きる一人ひとりが身に付けるべきものである。 本講義は、皆さんが今後経済学を深く勉強していくにあたっての基礎知識を提供し、経済学的な考え方を身に付けてもらうことを目的とする。 【講義内容】 春学期はミクロ経済学の分野を扱う。 テキストに沿って講義を行うが、進度は受講者の理解度をみながら調整する。		1. ミクロ経済学とは 2. 需要と供給 3. 需要曲線と消費者行動 4. 費用の構造と供給行動 5. 市場取引と資源配分 6. 独占の理論 7. 企業と産業の経済学 8. 市場の失敗と補正 9. 不完全情報の経済学 10. 消費者行動の理論 11. 国際貿易と海外直接投資	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：伊藤元重『入門 経済学』第2版（日本評論社）		定期試験による。	

01 年度以降	経済学 b (経済学科)	担当者	倉橋 透
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 皆さんがコンビニでパンを買うところから、政府が不良債権対策を行うところまで、経済学は世の中の実に広い範囲の活動に関係する学問である。その意味で、経済学的な考え方は現代に生きる一人ひとりが身に付けるべきものである。 本講義は、皆さんが今後経済学を深く勉強していくにあたっての基礎知識を提供し、経済学的な考え方を身に付けてもらうことを目的とする。 【講義内容】 春学期はマクロ経済学の分野を扱う。 テキストに沿って講義を行うが、進度は受講者の理解度をみながら調整する。		1. マクロ経済学とは 2. マクロ経済における需要と供給 3. 有効需要と乗数メカニズム 4. 貨幣の機能 5. マクロ経済政策 6. インフレと失業 7. 財政政策のマクロ分析 8. 経済成長と経済発展 9. 財政・金融政策のメカニズム：IS-LM分析 10. 総需要と総供給：物価の決定 11. 国際金融と国際マクロ経済学	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：伊藤元重『入門 経済学』第2版（日本評論社）		定期試験による。	

01 年度以降	経済学 b (経済学科)	担当者	小林 進
講義目的、講義概要		授業計画	
最近では経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば多数の多重債務者の存在にみられるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮されるので、1 年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。		最初の講義のときにプリント配布 (マクロ経済学を中心にして講義)	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		学期末試験	

01 年度以降	経済学 a (経済学科)	担当者	小林 進
講義目的、講義概要		授業計画	
最近では経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば多くの多重債務者の存在にみられるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮されるので、1 年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。		最初の講義のときにプリント配布 (ミクロ経済学を中心にして講義)	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		学期末試験	

01 年度以降	経済学 a (経済学科)	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。		1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 不完全競争の理論 9. 市場の理論① 10. 市場の理論② 11. 厚生経済学の基本定理 12. 市場の失敗 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

01 年度以降	経済学 b (経済学科)	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。		1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. IS-LM 分析 9. インフレとデフレ 10. 政府債務と財政赤字 11. 経済成長論 12. 開放マクロ経済 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

01 年度以降	経済学 a (経済学科)	担当者	浜本 光紹
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、日本経済の仕組みを理解し、様々な経済現象に関して理論的に考察するうえで必要な分析道具であるマクロ経済学の基礎を習得し、経済理論を用いながら現実の経済問題の本質的要因を探り処方箋を考える力を養うことを目標とする。 経済学 a では、まず経済学という学問が考察対象とする課題について解説しつつ、基本的概念の説明を行なう。そのうえで、国民所得の決定メカニズムおよびマクロ経済における家計・企業・政府の各部門の関係について解説する。講義においては、昨今の日本経済を取り巻く様々な出来事を取り上げることで、受講生にとって理論と現実の対応関係が理解しやすいように配慮したい。		1 経済学という学問について 2 マクロ経済学の課題について 3 家計の消費行動 4 家計の貯蓄とその動機 5 企業の投資行動 6 企業の資金調達と家計の資産選択 7 直接金融 ー株式市場の理論と実際ー 8 間接金融 ー銀行の役割ー 9 貨幣の需要と供給 10 中央銀行の役割と貨幣市場モデル 11 ケインズ経済学 ー有効需要の原理ー 12 財市場モデルと乗数効果 13 IS-LM モデル	
テキスト、参考文献		評価方法	
福田・照山『マクロ経済学・入門』有斐閣		定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。	

01 年度以降	経済学 b (経済学科)	担当者	浜本 光紹
講義目的、講義概要		授業計画	
経済学 b では、経済学 a の講義内容を踏まえて、財政政策・金融政策の理論と現実について検討し、マクロ経済政策の効果に関する理解を深める。また、開放マクロ経済の基礎知識を習得し、グローバル化が進展する中で国際的な経済現象が日本にもたらす影響について考える能力を養う。 続いて、ミクロ経済学の基礎理論を取り上げ、需要と供給、および余剰分析について解説する。さらに、ミクロ経済学の分析枠組を用いて、規制緩和や環境政策といった経済政策・公共政策の意義について検討しながら、政府の役割と市場の役割のあり方に関する展望を試みる。 受講を希望する学生は、経済学 a を既習であることが望ましい。		1 春学期の復習 2 財政政策・金融政策の効果 3 労働市場モデルと失業 4 開放マクロ経済 ー為替レートと経常収支ー 5 ミクロ経済学の課題について 6 需要曲線と供給曲線の意味 7 社会的余剰の考え方 8 競争市場と独占 9 ゲーム理論を用いた経済分析 1 ー寡占市場ー 10 ゲーム理論を用いた経済分析 2 ー公共財の供給問題ー 11 ゲーム理論を用いた経済分析 3 ーコモンズの悲劇ー 12 地球温暖化対策と京都議定書の経済学 13 経済学の応用分野の紹介	
テキスト、参考文献		評価方法	
経済学 a で用いたものを引き続き使用するほか、ミクロ経済学についてはプリントを配布する予定である。		定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。	

01 年度以降	経済学 a (経済学科)	担当者	益山 光央
講義目的、講義概要		授業計画	
経済学 a ではミクロ経済学を講義します。限られた講義回数でたくさんの事柄を学べるように、講義の進行は速いと思います。受講生にとって経済学は大学ではじめて学ぶ分野なので、戸惑いがあるかもしれませんが、なるべくわかり易い講義を心がけます。受講生には毎回の予習と復習を求めます。私語厳禁。		1 ミクロ経済学概観 2 消費者行動の理論 1 3 消費者行動の理論 2 4 消費者行動の理論 3 5 生産者行動の理論 1 6 生産者行動の理論 2 7 生産者行動の理論 3 8 生産者行動の理論 4 9 完全競争市場 1 10 完全競争市場 2 11 不完全競争と独占 1 12 不完全競争と独占 2 13 質問とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
大山道広・伊藤元重『国際貿易』 岩波書店		定期試験 80%、出席 20%	

01 年度以降	経済学 b (経済学科)	担当者	益山 光央
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に扱ったミクロ経済学とともに経済学の大きな柱であるマクロ経済学を学びます。 国民所得の決定というのが大きなテーマです。すべて基本的内容なので、きちんと理解する必要があります。 春学期の経済学 a を履修しているほうがより理解が深まると思います。私語厳禁。		1 マクロ経済学概観 2 国民所得計算 1 3 国民所得計算 2 4 国民所得決定のメカニズム(消費関数) 5 国民所得決定のメカニズム(投資関数) 6 国民所得決定のメカニズム(乗数効果) 7 貨幣市場(流動性選好 1) 8 貨幣市場(流動性選好 2) 9 貨幣市場(中央銀行と貨幣供給) 10 IS 曲線 11 LM 曲線 12 財政・金融政策概観 13 質問とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		定期試験 80%、出席 20%	

01 年度以降	経済学 a (経済学科)	担当者	山本 美樹子
講義目的、講義概要		授業計画	
大学に入学し、初めて経済学を学ぶ 1 年生に対して、経済学とはどのような学問分野なのか、についての説明から始め、簡単なミクロ経済学、マクロ経済学についての説明をして、2 年生以降の各専門分野を学ぶ上の基礎を作っていく。 私のすべきことは、経済学を嫌いにならないようにすることである。非常に重大な仕事である。経済学はたしかにとらえどころがなく、わかり辛いと感じがちであるが、図等を交えて、できるだけ経済学を身近なものにしてもらえるように、そして、この講義を通して、応用経済学の分野に関心を持てるように講義を進めていきたいと考えている。 春学期では、経済学とはどのような学問か、経済学にはどのような分野があるのか、経済学において出てくる 3 つの重要な登場人物である家計、企業、政府というものについての話をしたのち、ミクロ経済学の基礎的な分野についての話をしていく。		1、はじめに 2、経済と経済学 3、ミクロ経済学、マクロ経済学とは何か 4、経済学の発展 5、3 つの重要な登場人物 家計 6、企業 7、政府 8、価格理論の基礎 9、春学期テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に定めない、参考文献は講義時適宜発表する		学期末試験、講義時に行われる小テスト（出席）	

01 年度以降	経済学 b (経済学科)	担当者	山本 美樹子
講義目的、講義概要		授業計画	
大学に入学し、初めて経済学を学ぶ 1 年生に対して、経済学とはどのような学問分野なのか、についての説明から始め、簡単なミクロ経済学、マクロ経済学についての説明をして、2 年生以降の各専門分野を学ぶ上の基礎を作っていく。 私のすべきことは、経済学を嫌いにならないようにすることである。非常に重大な仕事である。経済学はたしかにとらえどころがなく、わかり辛いと感じがちであるが、図等を交えて、できるだけ経済学を身近なものにしてもらえるように、そして、この講義を通して、応用経済学の分野に関心を持てるように講義を進めていきたいと考えている。 秋学期は続きである。春学期では経済における 3 重要登場人物について説明し、そのうち主として家計、企業の行動についての説明をしてきたが、秋学期ではマクロ経済学の基礎を講義する。3 重要登場人物の政府が関わってくる部分である。さらに、われわれが毎日当たり前に使っているお金、これを経済学では、貨幣、あるいは流動性と呼んでいるが、これについて説明していく。		1、国民所得論の基礎 GDP とは何か 三面等価の原則 2、所得と消費 消費関数 均衡国民所得 乗数理論 IS-曲線 3、貨幣と金融 貨幣とは何か 貨幣の需要 貨幣の供給 LM-曲線 4、IS-LM 分析と財政、金融政策 IS-LM 分析による財、資産市場の同時均衡 財政政策、金融政策 5、政府の経済行動 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし、参考文献は講義時適宜発表		学期末試験、講義時に行う小テスト（出席）	

01 年度以降	統計学 a	担当者	富田 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達、データの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組みとその重要性を十分に理解し、応用力を身につけることを目標としている。 その内容は、以下のとおりである。 (1) データの整理 (2) 確率分布		1 統計学とは、評価・受講上の注意など 2 データの整理 (1) 平均・標準偏差 3 データの整理 (2) その他のパラメータ 4 データの整理 (3) 度数分布表・ヒストグラム 5 データの整理 (4) 簡便法 6 データの整理 (5) 相関係数・回帰直線 7 データの整理 (6) 計算演習 8 確率分布 (1) 組合せ・二項定理 9 確率分布 (2) 二項分布・漸化式 10 確率分布 (3) 正規分布・標準化 11 確率分布 (4) その他の確率分布 12 確率分布 (5) 計算演習 13 春学期の復習と定期試験について	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：ホームページから配布 参考書：池田・松井・富田・馬場 共著 『統計学 ― データから現実をさぐる』 内田老鶴圃		定期試験の結果により評価する。 出席状況・レポートなども考慮する。	

01 年度以降	統計学 b	担当者	富田 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達、データの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組みとその重要性を十分に理解し、応用力を身につけることを目標としている。 その内容は、以下のとおりである。 (1) 統計的推定 (2) 統計的仮説検定		1 春学期の復習、評価・受講上の注意など 2 母集団と標本・標本調査・中心極限定理 3 統計的推定 (1) 平均 4 統計的推定 (2) 比率 5 統計的仮説検定 (1) 概説 6 統計的仮説検定 (2) 平均 7 統計的仮説検定 (3) 平均の差 8 統計的仮説検定 (4) 比率 9 統計的仮説検定 (5) 比率の差 10 統計的仮説検定 (6) 分割表 11 統計的仮説検定 (7) その他検定 12 統計的仮説検定 (8) 計算演習 13 秋学期の復習と定期試験について	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：ホームページから配布 参考書：池田・松井・富田・馬場 共著 『統計学 ― データから現実をさぐる』 内田老鶴圃		定期試験の結果により評価する。 出席状況・レポートなども考慮する。	

01 年度以降	統計学 a	担当者	富田 幸弘
講義目的、講義概要		授業計画	
近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達、データの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組みとその重要性を十分に理解し、応用力を身につけることを目標としている。 その内容は、以下のとおりである。 (1) データの整理 (2) 確率分布		1 統計学とは、評価・受講上の注意など 2 データの整理 (1) 平均・標準偏差 3 データの整理 (2) その他のパラメータ 4 データの整理 (3) 度数分布表・ヒストグラム 5 データの整理 (4) 簡便法 6 データの整理 (5) 相関係数・回帰直線 7 データの整理 (6) 計算演習 8 確率分布 (1) 組合せ・二項定理 9 確率分布 (2) 二項分布・漸化式 10 確率分布 (3) 正規分布・標準化 11 確率分布 (4) その他の確率分布 12 確率分布 (5) 計算演習 13 春学期の復習と定期試験について	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：ホームページから配布 参考書：池田・松井・富田・馬場 共著 『統計学 — データから現実をさぐる』 内田老鶴圃		定期試験の結果により評価する。 出席状況・レポートなども考慮する。	

01 年度以降	統計学 b	担当者	富田 幸弘
講義目的、講義概要		授業計画	
近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達、データの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組みとその重要性を十分に理解し、応用力を身につけることを目標としている。 その内容は、以下のとおりである。 (1) 統計的推定 (2) 統計的仮説検定		1 春学期の復習、評価・受講上の注意など 2 母集団と標本・標本調査・中心極限定理 3 統計的推定 (1) 平均 4 統計的推定 (2) 比率 5 統計的仮説検定 (1) 概説 6 統計的仮説検定 (2) 平均 7 統計的仮説検定 (3) 平均の差 8 統計的仮説検定 (4) 比率 9 統計的仮説検定 (5) 比率の差 10 統計的仮説検定 (6) 分割表 11 統計的仮説検定 (7) その他検定 12 統計的仮説検定 (8) 計算演習 13 秋学期の復習と定期試験について	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：ホームページから配布 参考書：池田・松井・富田・馬場 共著 『統計学 — データから現実をさぐる』 内田老鶴圃		定期試験の結果により評価する。 出席状況・レポートなども考慮する。	

01 年度以降	統計学 b（再履修者用）	担当者	富田 幸弘
講義目的、講義概要		授業計画	
近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達、データの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組みとその重要性を十分に理解し、応用力を身につけることを目標としている。 その内容は、以下のとおりである。 （１）統計的推定 （２）統計的仮説検定 【注意】 <u>統計学 a の既修者のみ</u>が履修できる。		1 統計学 a の復習（１）平均・標準偏差 2 統計学 a の復習（２）確率計算 3 母集団と標本・中心極限定理 4 統計的推定（１）平均 5 統計的推定（２）比率 6 統計的仮説検定（１）概説 7 統計的仮説検定（２）平均 8 統計的仮説検定（３）平均の差 9 統計的仮説検定（４）比率 10 統計的仮説検定（５）比率の差 11 統計的仮説検定（６）分割表 12 統計的仮説検定（７）適合度検定など 13 推定と検定のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
池田・松井・富田・馬場 共著 『統計学 ― データから現実をさぐる』 内田老鶴圃		定期試験の結果により評価する。 出席状況・レポートなども考慮する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

01 年度以降	統計学 a	担当者	本田 勝
講義目的、講義概要		授業計画	
我々の身の回りには大量のデータが存在する。それらは観測や測定あるいは実験のデータであったり、各種の調査から得られたデータであったり、その種類は様々である。これらのデータを解析し、推論していく、推測統計学を軸とする近代統計学の手法は、経済学や経営学の分野でもいろいろな形で応用されている。 この講義では、統計学の基本的考え方とそれらを具体的に応用していく方法について述べていく。 講義は以下のような内容についてテキストを中心に進めるが、スライドも使用する。 データの整理の方法 確率の概念 確率分布の考え方		1 統計学で何を学ぶか。 2 データの整理のしかた。平均、中央値、最頻値など。 3 ばらつきの尺度によるデータ特性の把握。 4 データ整理の演習。 5 確率導入の準備（集合および事象）。 6 確率の導入。 7 確率変数と確率分布の考え方。 8 確率分布の平均と分散。 9 2 項分布の性質。 10 ポアソン分布の性質。問題演習。 11 一様分布、指数分布、正規分布の性質。 12 正規分布の確率の求め方と確率変数の標準化。問題演習。 13 春学期の総レビュー	
テキスト、参考文献		評価方法	
本田 勝『基本統計学』 産業図書		定期試験による評価	

01 年度以降	統計学 b	担当者	本田 勝
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的は統計学 a と同じ 講義は以下のような内容についてテキストを中心に進めるが、スライドも使用する。 標本分布の考え方といくつかの例 統計学における推定の問題 統計学における仮説検定の問題 2 変量間の関係のとりえ方		1 標本分布とは。中心極限定理。 2 標本比率の確率分布。2 項分布の正規分布近似。 3 カイ 2 乗分布および t 分布について。標本分散の確率分布。 4 母数の推定について。点推定、区間推定の考え方。 5 母平均の区間推定。問題演習。 6 母集団比率及び母分散の区間推定。 7 仮説検定の考え方。母平均の検定法。 8 検定に関する問題演習。 9 2 変量間の相関関係について。 10 回帰直線とは（線形回帰、最小 2 乗法）。 11 問題演習 12 カイ 2 乗検定の考え方。 13 秋学期の総レビュー	
テキスト、参考文献		評価方法	
本田 勝『基本統計学』 産業図書		定期試験による評価	

01 年度以降	コンピュータ入門 a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、大学でのレポート作成や、ゼミでのプレゼンテーションにおいて必要となる、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な使用法を、Microsoft Office を使用し、実習を通して身につけることと、その活用法について講義します。 コンピュータのスキルとともに、社会に出てから必要となるコンピュータとネットワークの基礎的な知識を身につけることを目的とします。 また、リレーショナルデータベースとよばれる、大規模なデータ管理の際に使用されるデータの作成についても取り扱います。 なお、各テーマが取り扱われる順序や、時間配分については、担当教員によって異なることがあります。		1. 講義の進め方について 2. コンピュータの基礎、ID の管理について 3. ワードプロセッサの使用法 1 文章の作成、各種書式の設定 4. ワードプロセッサの使用法 2 図形描画、表の作成、数式の入力 5. 表計算ソフトの使用法 1 表の入力、グラフの作成 6. 表計算ソフトの使用法 2 関数を用いた計算 7. 表計算ソフトの使用法 3 マクロを用いた計算 8. プレゼンテーションソフトの使用法 1 スライドの作成、プレゼンテーション方法 9. プレゼンテーションソフトの使用法 2 10. データベースの作成 1 ソフトの概要とデータの入力方法 11. データベースの作成 2 データの関連づけ、テーブル 12. データベースの作成 3 データ検索 13. まとめと成果発表	
テキスト、参考文献		評価方法	
NOA 出版、『Office 活用術』 久野靖『情報リテラシー』日経 BP ソフトプレス 本田直也監修『情報活用力』、NOA 出版		出席、レポート、試験などで総合評価します。	

01 年度以降	コンピュータ入門 b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
コンピュータを用いて作業を行う際には、ワープロや表計算のような市販のアプリケーションソフトを使用するだけではなく、コンピュータプログラムを作成し、既存のソフトを使うだけでは出来ないことを行うこともできます。コンピュータプログラムを作成する際には、プログラム言語の文法を覚えることに加えて、どのような手順（アルゴリズム）でコンピュータにより問題を解くのかを考え、それをプログラムとして表現することが重要です。 この講義では、Java、C 言語、Visual Basic といったコンピュータ言語のひとつを使用して、プログラム作成の基礎を学びます。使用する言語は、担当教員ごとに異なりますが、各種言語を用いたプログラム法を学び、基礎的な問題解決の手順をプログラムで表現できるようになることを目指します。		1. 講義の進め方について 2. 使用言語の特徴とプログラムの作成方法 3. 簡単な処理 変数、演算式 4. 場合分け 条件分岐 5. 繰り返す ループ 6. ファイルの処理 7. アルゴリズム 1 簡単なアルゴリズム 8. アルゴリズム 2 関数の利用 9. アルゴリズム 3 複数の関数の利用 10. 総合プログラム作成 1 11. 総合プログラム作成 2 12. 総合プログラム作成 3 担当教員が指定した問題を、数回の講義に分けて作成します。 13. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員指定の教科書および印刷物		出席、レポート、試験などで総合評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

01 年度以降	プレゼンテーション技法	担当者	富澤儀一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 プレゼンテーション・スキルの向上を目指し、「デジタル・プレゼンテーション」の資料作成と発表を実践する。 プレゼンテーションとは、人前で一定の課題について、説明したり、説得したりすることである。レポートを書くことや、ディベートすることと並んで、プレゼンテーションをする機会が多くある。また社会に出ても、プレゼンテーションする機会が多く、いかにうまくプレゼンテーションできるかが仕事の能力の一部となっている。学生時代の早い時期にこのプレゼンテーションについて基本的なことを学ぶことは大きな意義がある。 講義概要 次の 2 項目を主軸として、発表の実践を行う。 (1) プレゼンテーションの基本スキルとして、計画、デザイン、発表方法を学習する。 (2) 各自、登壇して発表を体験する。 学習態度 プレゼンテーションは「伝えたいこと」が相手に伝わることである。プレゼンテーションには発表の他に送呈の意味がある。相手にプレゼントするような気持ちで発表することに他ならない。相手の立場で発表しよう。		1. ガイダンス 2. プレゼンテーションの基本、準備 3. 内容構成、視覚資料、図式化 4. 印象付ける話し方 ・ボディランゲージとジェスチャー ・声と話し方、リハーサルの方法 5. スライド作成 (1) テーマは各自が調査して決定する。自分でテーマが見つからない学生は、2～3 題のテーマを用意しておく。 6. スライド作成 (2) 7. リハーサル (1) 各自リハーサルを行う。 8. リハーサル (2) 9. 発表 (1) 各自が登壇し発表を行う。 10. 発表 (2) 11. 発表 (3) 12. 発表 (4) 13. 発表 (5)	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の資料は YYdainetYtomizawa に格納しておく。		テストは行わず、発表で評価する。	

01 年度以降	経営学 a (経済学科)	担当者	上坂 卓郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は経済学部学生として専門の学習を進める上で、また将来企業人として仕事をする上で必要となる「企業」や「経営」に関する基礎的知識の習得をめざす。また諸君の企業に対する関心の惹起や見方を形成するための契機や導入になるような講義を意図している。講義はテキストをベースにしつつ、テーマにより拡張して進める。なお講義と並行して日頃より新聞やニュース等で企業の動向に関心を持つことをこころがけてください。また、適宜経営学と経済学の関連にも触れていく。		1 経営学とはどのような学問か、経営学の歴史 2 会社設立と形態 法人について 3 経営理念、経営目標 4 ヒトのマネジメント(1) モチベーション 5 同 (2) 賃金、雇用、教育訓練 6 同 (3) 組織の設計 7 同 (4) 組織の管理 8 カネのマネジメント(1) 資金調達 9 同 (2) 資金運用 10 同 (3) キャッシュフロー計画と管理 11 同 (4) 資金リスクマネジメント手法 12 モノのマネジメント (1) 生産計画と管理 13 補足とまとめ ※ 進捗にあわせて内容を変更する可能性がある	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の講義で指示する。また参考資料を適宜配布する		定期試験による。追試、レポートは行わない	

01 年度以降	経営学 b (経済学科)	担当者	上坂 卓郎
講義目的、講義概要		授業計画	
同一担当者の経営学 a の講義を前提として進める。業種、経営規模や業歴などにより企業は驚くほど違う様相をみせているが、変わらない経営の基本がある。本科目では、企業経営を行う場合に必要となる考え方を体系的にわかりやすく説明していく。現実の企業経営について知識のない諸君に、経営学の主要テーマと現実の橋渡しをするような講義を実施する。		1 モノのマネジメント(2) 投資計画の策定と意思決定 2 会社成長のマネジメント(1) 経営戦略立案 3 同 (2) 経営戦略立案(続) 4 同 (3) 経営計画の策定と管理 5 同 (4) 業績管理の設計と経営資源配分政策 6 同 (5) 全社リスク管理体制 7 同 (6) グループ会社政策と管理 8 経営者論 9 コーポレートガバナンス 10 企業買収戦略、買収防衛 11 企業文化の形成 12 企業の持続的発展と社会的責任 13 補足とまとめ ※ 進捗にあわせて内容を変更する可能性がある	
テキスト、参考文献		評価方法	
経営学 a と同様		経営学 a と同様	

01 年度以降	簿記原理 b	担当者	井出 健二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
a の講義をすでに習得された方を対象に講義を進めていきます。 可能な限り平易な解説に努めながら、日本商工会議所簿記検定 3 級試験をクリアできるような内容まで取り扱って生きたいと思っています。 ということは、講義をすると同時に、問題等をできる限りといっていくということになります。		1 仕訳の復習 2 個別の取引 掛取引 3 個別の取引 売買目的有価証券 4 個別の取引 固定資産 5 個別の取引 貸倒れ 6 個別の取引 減価償却 7 個別の取引 手形 8 個別の取引 その他の債権・債務 9 個別の取引 決算整理事項 10 個別の取引 精算表 11 個別の処理 伝票の処理 12 検定試験対策 13 検定試験対策	
テキスト、参考文献		評価方法	
井出『簿記・会計学・経営分析のキソキホン』角川書店		出席 50%、試験等 40%、その他 10%	

01 年度以降	簿記原理 a	担当者	井出 健二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
「再チャレンジのための講義」といってもいいでしょうか。簿記について再度挑戦していただくことになります。 ご承知のように、簿記は皆さんの将来にも関係しています。学部を問わず、『資格』は強い味方になります。簿記に関する資格は日本商工会議所の主催する検定試験が定評あります。さらに、公認会計士や税理士など独立開業して活躍できるものもあれば、国税専門官など公務員として、あるいは米国会計士として海外で活躍することもできることになります。 講義は初心者を対象としますが、伝票・帳簿関係も取り扱うことにします。結果としては、資格にチャレンジしてみようというスピリットを喚起できるようにつとめます。		1 講義にあたってのイントロダクション 2 簿記とは何ですか 3 簿記の手続 仕訳 4 簿記の手続 仕訳 5 簿記の手続 転記 6 簿記の手続 試算表 7 簿記の手続 貸借対照表 8 簿記の手続 損益計算書 9 簿記の手続 精算表 10 伝票 11 帳簿 12 仕訳・転記・試算表・精算表 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
井出『簿記・会計学・経営分析のキソキホン』角川書店		出席 50%、試験等 40%、その他 10%	

01 年度以降	簿記原理 a	担当者	内倉 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
企業会計は、しばしば「事業の言語」とであると言われる。言葉にはすべて文法があるように、企業会計という1つの言語にも「文法」に相当するものがある。「簿記原理」という科目は、いわば、その企業会計の「文法」に相当するものの基本的部分を純粋に形式的に解明していく分野であると言うことができる。 会計という言語は、今日では1つの世界共通語である。それゆえその「文法」に相当するものの中身もまた、基本的には共通的なものであろう。本講義では、そうした共通的な中身のうちの、とりわけ「最大公約数」の部分だけを、丹念に議論していきたいと考えている。そのうち「簿記原理 a」では、「決算整理」を含まない、「分記法」を前提とした「簿記一巡の手続き」までの内容を取り扱うこととなる。		1 企業の財政状態と貸借対照表……簿記の目的；資本；貸借対照表の内容 2 企業の経営成績と損益計算書……簿記の第2目的の達成方法；損益計算書等式（損益計算書） 3 取引と取引の分解……期首B/Sと「取引」記録からのB/S・P/Lの作成；「取引」記録のルール 4 仕訳帳と総勘定元帳 その1：「仕訳」……設例による説明 5 仕訳帳と総勘定元帳 その2：「勘定口座」……その必要性；勘定口座の形式；勘定口座への記入ルール 6 仕訳帳と総勘定元帳 その3：「仕訳帳と元帳」……仕訳帳；元帳（形式、「仕丁」欄、「摘要」欄、「相手勘定科目」） 7 試算表と精算表 その1：「試算表」……決算について；合計試算表；残高試算表；合計残高試算表 8 試算表と精算表 その2：「精算表」……仮設例の提示（次回と共通）；精算表の原理 9 「勘定の振替え」という技法について……定義；具体例による説明 10 決算手続 その1：純損益の振替 11 決算手続 その2：帳簿の締切りと繰越試算表……財務諸表の作成を含む 12 決算手続の復習（第7回～第11回の復習） 13 前期の総復習……同形式の問題により、前期末試験の予行演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
① 中村泰将 編著、『演習 現代簿記』（中央経済社）。 ② 現代会計教育研究会 編、『簿記練習帳 3級商業簿記』（多賀出版）。		評価の中心は期末試験の結果である。その際には、相対評価を基本とし、絶対評価を加味したい。	

01 年度以降	簿記原理 b	担当者	内倉 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
「簿記原理 a」の知識を前提としてこの「簿記原理 b」では、「商品3分法」や各種の「決算整理」といったディテールを内容的に付け加えていき、「会計言語」の文法の中身を、より実際の会計実践に近い形のものに深化させていくことしたい。		1 現金と預金・有価証券……当座借越、有価証券の評価 含む 2 商品の3分法 その1……設例の提示；「修正された」分記法；3分法 3 商品の3分法 その2……値引・返品処理；諸経費の処理 4 仕入と売上の記帳 その1……帳簿の種類；仕入帳・売上帳；掛け売買の記帳（貸倒れの問題含む） 5 仕入と売上の記帳 その2：商品有高帳……その必要性・位置付け；移動平均法と先入先出法 6 受取手形と支払手形……手形の種類；簿記上の勘定と処理；手形の裏書譲渡；手形記入帳 7 貸倒引当金繰入と貸倒引当金……貸倒れの見越しの意義；原理；償却債権の取立て 8 有形固定資産……固定資産の記帳；減価償却（意義、毎期の減価償却費、売却時の処理） 9 その他の債権債務・資本金と引出金……その他の債権・債務の処理；個人企業の資本の記帳 10 収益・費用の見越しと繰延べ……設例の提示；収益・費用の繰延べ；収益・費用の見越し 11 決算整理項目と決算整理仕訳・振替仕訳……8桁精算表の作成を含む 12 帳簿組織と伝票会計…3伝票制；複写式伝票の利用 13 後期の総復習……同形式の問題により、後期末試験の予行演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
「簿記原理 a」と同じ。		「簿記原理 a」と同様。	

01 年度以降	簿記原理 a	担当者	香取 徹
講義目的、講義概要		授業計画	
簿記は必ず身に付けておかなければならない基本的な技術です。どのような職業についても簿記の知識は実社会で不可欠ですから、全学の学生が履修する必要があります。この講義では、日本商工会議所簿記検定3級の範囲を完全に網羅します。また、会計学原理、財務会計論、原価計算論、管理会計論などの会計に関連する科目を学ぶ上でとても重要な基礎になります。 簿記は決して難しいものではありませんが、技術ですから、身につけるためには、練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題の解説をしてから講義に合わせてプリントを配布して練習します。講義中に練習しながら質問を受けていきますし、プリントでも意見や質問を書いて下さい。また、ワークブックも自宅での練習に利用してください。		第1週 テーマ1 簿記の基礎 第2週 テーマ2 日常の手続きⅠ 第3週 テーマ3 日常の手続きⅡ 第4週 同上 第5週 小テスト 第6週 テーマ4 商品売買Ⅰ 第7週 テーマ5 商品売買Ⅱ 第8週 テーマ6 現金 第9週 テーマ7 当座預金 第10週 テーマ8 小口現金 第11週 テーマ9 手形Ⅰ 第12週 同上 第13週 テーマ10 手形Ⅱ	
テキスト、参考文献		評価方法	
合格テキスト 日商簿記3級 TAC 出版 合格トレーニング 日商簿記3級 TAC 出版		5月(100)と定期試験(200)の2回の成績とプリントとワークブック(30)	

01 年度以降	簿記原理 b	担当者	香取 徹
講義目的、講義概要		授業計画	
簿記は必ず身に付けておかなければならない基本的な技術です。どのような職業についても簿記の知識は実社会で不可欠ですから、全学の学生が履修する必要があります。この講義では、日本商工会議所簿記検定3級の範囲を完全に網羅します。また、会計学原理、財務会計論、原価計算論、管理会計論などの会計に関連する科目を学ぶ上でとても重要な基礎になります。 簿記は決して難しいものではありませんが、技術ですから、身につけるためには、練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題の解説をしてから講義に合わせてプリントを配布して練習します。講義中に練習しながら質問を受けていきますし、プリントでも意見や質問を書いて下さい。また、ワークブックも自宅での練習に利用してください。		第1週 テーマ11 その他の期中取引Ⅰ 第2週 テーマ12 その他の期中取引Ⅱ 第3週 テーマ13 その他の期中取引Ⅲ 第4週 テーマ14 その他の期中取引Ⅳ 第5週 テーマ15 試算表の作成Ⅰ 第6週 テーマ16 試算表の作成Ⅱ 第7週 テーマ17 決算の手続きⅠ 第8週 テーマ18 決算の手続きⅡ 第9週 テーマ19 決算の手続きⅢ 第10週 テーマ20 決算の手続きⅣ 第11週 テーマ21 決算の手続きⅤ 第12週 テーマ22 決算の手続きⅥ 第13週 テーマ23 伝票式会計	
テキスト、参考文献		評価方法	
合格テキスト 日商簿記3級 TAC 出版 合格トレーニング 日商簿記3級 TAC 出版		定期試験(100)の成績とプリントとワークブック(10)	

01 年度以降	簿記原理 a	担当者	金井 繁雅
講義目的、講義概要		授業計画	
複式簿記の計算原理を探究することに主眼を置き、商企業の経済活動つまり取引を正確に記録・計算・整理する能力を身につけることを目的とする。 複式簿記の原理および計算構造を学び、複式簿記の一連の手續を習得し、商企業の日常取引の記帳処理と決算処理を理解してもらう。まず、資産、負債、資本、収益および費用という5つの概念とその相互関係、資本等式や貸借対照表等式を解説し、資本をストックとして捉えて利益を計算する財産法と資本をフローとして捉えて利益を計算する損益法の計算原理を理解してもらう。さらに、簿記の対象である取引を分解し、仕訳帳に記入し、それを総勘定元帳に転記し、決算において試算表を作成し、その記録の正確性を検証し、精算表を作成し、決算本手續である帳簿決算の手續を経て、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表を作成するという簿記手續の全体像を把握してもらう。		① 簿記の意義と目的 ② 資産・負債・資本の諸概念 ③ 収益・費用の諸概念 ④ 財産法と損益法 ⑤ 取引と勘定記入 ⑥ 仕訳と転記（1） ⑦ 仕訳と転記（2） ⑧ 試算表と精算表 ⑨ 帳簿決算手續 ⑩ 現金および現金過不足の会計処理 ⑪ 当座預金および当座借越の会計処理 ⑫ 売買目的有価証券の会計処理 ⑬ 商品勘定の3分法	
テキスト、参考文献		評価方法	
中村泰將 編著『演習 現代簿記』 中央経済社		定期試験の結果に出席率を加味して、総合的に成績評価を行う。	

01 年度以降	簿記原理 b	担当者	金井 繁雅
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、基本的な簿記手續の一巡の理解を前提として、企業の複雑な日常取引の会計処理の理解を目的とするとともに、種々の計算表の作成にも習熟してもらうこととする。 ここでは、財産法(ストック計算)や損益法(フロー計算)とよばれている複式簿記の計算構造を再確認しながら、各勘定科目毎に詳細な検討を加えていくことにする。具体的には、企業の日常の諸取引の仕訳を通して種々の会計処理を概説し、それを総勘定元帳へ転記していく主要簿の流れとともに、各勘定科目の詳細を記録する補助元帳や補助記入帳などの補助簿の流れも検討することにする。また、初級簿記の完全な理解のために、複雑な試算表や精算表の作成に多くの時間を取ることにしたい。 簿記は数多くの練習問題を繰り返し解くという勉強態度が要求されるので、講義の前半では、各項目のポイントを説明し、後半で練習問題を解答するという形式で講義を進めることとする。		① 商品勘定の3分法と返品、値引き ② 仕入帳・売上帳・商品有高帳 ③ 得意先元帳と仕入先元帳 ④ 手形取引の記帳 ⑤ その他の債権・債務について ⑥ 貸倒れと貸倒引当金 ⑦ 固定資産と減価償却 ⑧ 資本金と引出金 ⑨ 収益と費用の見越・繰延 ⑩ 試算表の作成と伝票会計 ⑪ 8桁精算表の作成（1） ⑫ 8桁精算表の作成（2） ⑬ 財務諸表の作成	
テキスト、参考文献		評価方法	
中村泰將 編著 『演習現代簿記』 中央経済社		定期試験の結果に出席率を加味して総合的に成績評価を行う	

01 年度以降	簿記原理 a	担当者	なかむら やすまさ 中村 泰將
講義目的、講義概要		授業計画	
授業目的： コンピュータの発達により、計算技術と記憶能力は急速に高まり、また正確な計算も可能になった。しかし、経済活動を一定のルールに基づいて記録し、計算する技術と原理は、コンピュータに取って代わることはできない。なぜならば、コンピュータにインプットするデータは、簿記の原理・原則から生み出され、人間が考えなければならないからである。 本講座の目的は、企業の利益を計算したり、財産の有高を計算したりする、記録と計算のシステム(「簿記」という)を学ぶことである。 授業概要： 春学期は、簿記の基本原則を学び、簿記の一連のプロセス[経済活動の識別→仕訳→勘定→試算表→(精算表)→決算→B/S と P/L の作成]を学ぶことである。これを「簿記のワン・サイクル」とよぶ。ここまでの簿記の基本的構造であり、春学期で学ぶ範囲である。		1. 簿記とは何か。 2. 複式簿記の基本構造 3. 簿記上の取引と種類 4. 貸借対照表と損益計算書 5. 勘定 6. 仕訳 7. 仕訳帳と総勘定元帳 8. 試算表 9. 精算表 10. 決算(1) 11. 決算(2) 12. 現金と当座預金 13. 演習問題	
テキスト、参考文献		評価方法	
中村泰將編著『演習 現代簿記』中央経済社		出席・宿題・小テスト (20%)、定期試験(80%)	

01 年度以降	簿記原理 b	担当者	中村 泰將
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：学期と同様。 講義概要： 秋学期は、春学期で学んだ「簿記の記録と計算の原理」を基礎に、種々の新しい取引や勘定科目が登場してくるので、それらをどのように各種の帳簿に記録し、計算するかを学ぶことである。		1. 商品の仕入・管理・販売の処理 (1)商品の売買利益の計算 (2)商品の 3 分法 (3)商品有高帳の作成 (4)仕入帳と売上帳 2. 有価証券の処理 3. 固定資産の処理 4. その他の債権・債務 5. 手形の取引 6. 資本金と引出金の処理 7. 決算の修正手続き(1) 8. " (2) 9. " (3) 10. 8 桁精算表の作成(1) 11. " (2) 12. 演習問題 13. 演習問題	
テキスト、参考文献		評価方法	
中村泰將編著『演習 現代簿記』中央経済社		春学期と同じ	

01 年度以降	簿記原理 a	担当者	細田 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 「複式簿記」の基本的仕組み、簿記一巡の手続きについて理解すること。また企業における基本的な取引について記帳し、決算手続きを遂行し、損益計算書、貸借対照表作成ができるようになることを目標とする。 講義概要 春学期講義は、学生諸君が複式簿記を理解し、簡単な精算表の作成、決算本手続を遂行できるようにすることを目的とする。講義の個々のテーマを列举すると、次の通りである。 ・ 複式簿記とは ・ 簿記の仕組み ・ 試算表と精算表 ・ 決算(I)		1. 「1.複式簿記とは(1)」 a)簿記の目的と種類 2. 「1.複式簿記とは(2)」 b)複式簿記の計算要素 3. 「2.簿記の仕組み(1)」 a)取引と勘定、b)勘定記入法 4. 「2.簿記の仕組み(2)」 a)取引と勘定、b)勘定記入法 5. 「2.簿記の仕組み(3)」 c)仕訳と転記、d)仕訳帳と総勘定元帳 6. 「2.簿記の仕組み(4)」 c)仕訳と転記、d)仕訳帳と総勘定元帳 7. 「3.試算表と精算表(1)」 a)試算表の作成、b)精算表の作成 8. 「3.試算表と精算表(2)」 a)試算表の作成、b)精算表の作成. 9. 「4.決算(I)(1)」 a)決算の意味と手続 10. 「4.決算(I)(2)」 b)大陸式決算法、c)英米式決算法 11. 「4.決算(I)(3)」 b)大陸式決算法、c)英米式決算法 12. 「4.決算(I)(4)」 d)損益計算書と貸借対照表の作成、e)開始記入 13.決算手続の演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
中村泰将（編著）「講座 現代簿記」（中央経済社）		期末試験の結果による。	

01 年度以降	簿記原理 b	担当者	細田 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期講義は、学生諸君が次の事項を容易に遂行できるようにすることを目的とする。個々の取引に対する記帳、8桁精算表の作成、決算本手続の遂行、損益計算書と貸借対照表の作成である。講義の個々のテーマを列举すると、次の通りである。 ・ 現金・預金取引の記帳 ・ 商品売買取引の記帳 ・ 手形取引の記帳 ・ その他の取引の記帳 ・ 決算(Ⅱ)決算整理 ・ 損益計算書と貸借対照表の作成		1. 「5.現金・預金取引の記帳」 2. 「6.商品売買取引の記帳(1)」 a)分記法、3分法 3. 「6.商品売買取引の記帳(2)」 b)仕入帳と売上帳、c)商品有高帳 4. 「6.商品売買取引の記帳(3)」 b)仕入帳と売上帳、c)商品有高帳、d)掛取引の記帳 5. 「7.手形取引の記帳(1)」 a)約束手形と為替手形、b)受取手形勘定と支払手形勘定、c)手形の裏書と割引 6. 「7.手形取引の記帳(2)」 a)受取手形記入帳と支払手形記入帳 b)不渡手形、f) 手形貸付金と手形借入金 7. 「8.その他の取引の記帳」 a)その他の債権、債務取引、b)有価証券取引 c)固定資産取引、d)営業費等の取引 8. 「9.決算(Ⅱ)決算整理(1)」 a)決算整理の意味、b)棚卸減耗損及び商品評価損 9. 「9.決算(Ⅱ)決算整理(2)」 c)有価証券評価損益、d)固定資産の減価償却 10. 「9.決算(Ⅱ)決算整理(3)」 e)費用・収益の繰延と見越、f) 8 桁精算表の作成 11. 「9.決算(Ⅱ)決算整理(4)」 e)費用・収益の繰延と見越、f) 8 桁精算表の作成 12. 「損益計算書と貸借対照表の作成」 13.精算表作成の演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
中村泰将（編著）「演習 現代簿記」（中央経済社）		期末試験の結果による。	

0 1 年度以降	簿記原理 a	担当者	百瀬 房徳
講義目的、講義概要		授業計画	
簿記原理では、複式簿記を内包した簿記を取り上げる。この簿記を商業簿記と称する。複式簿記は、取引の借方と貸方による仕訳に基づき勘定に分解し、元帳における勘定へ転記し、このシステムを通じて、事業の資産、負債および資本の増減を測定する。この勘定システムと事業体の組織に関連して、各勘定の意義および機能と、各勘定の具体的な処理について基本的な理解を深める。		1 複式簿記の現代における意義 2 複式簿記の体系および簿記における取引とは何か 3 仕訳の基本的原理および取引勘定への転記 4 補助簿への記入および試算表の作成 5 精算表の作成原理および損益勘定と残高勘定への転記 6 取引パターン別の仕訳例の説明 7 パターン別に仕訳された例の勘定への転記 8 例題による取引の仕訳および勘定への転記 9 大陸法と英米法による勘定の締切 10 例題による精算表の作成および決済に際しての損益勘定および残高勘定の完成 11 練習問題 取引の仕訳帳記入および仕訳帳から元帳への転記 12 練習問題 試算表の作成および精算表の作成 13 練習問題 元帳の締め切りによる損益勘定および残高勘定の完成、および試算表および精算表の作成	
テキスト、参考文献		評価方法	
百瀬 房徳「体系複式簿記」森山書店		テスト	

0 1 年度以降	簿記原理 b	担当者	百瀬 房徳
講義目的、講義概要		授業計画	
複式簿記の基本的勘定システムを理解した後、各勘定について、勘定とそれに関連する補助簿の記入を具体的に理解する。そして、最終的に決算制度に関連して、試算表および精算表の作成を通じて、損益勘定から損益計算表を、残高勘定（大陸法）から貸借対照表を作成するプロセスを理解する。		1 現金勘定と現金出納帳 2 当座預金と当座預金出納帳、および小口現金と小口現金出納帳 3 商品勘定の記入方法 単純な商品勘定、混合商品勘定および商品勘定の分割 4 仕入勘定と仕入帳、商品の仕入価格および商品の返品と値引き 5 売上勘定と売上帳 6 繰越商品勘定と商品有高帳、および棚卸減耗損および商品評価損 7 売掛金勘定と得意先元帳、および買掛金勘定と仕入先元帳 8 受取手形勘定と受取手形記入帳、および支払手形勘定と支払手形記入帳 9 貸倒引当金の処理 10 その他の債権・債務の諸勘定、有価証券勘定 11 固定資産の諸勘定 特に減価償却による処理 12 決算前の諸勘定の整理について 13 決算 勘定の締め切り、損益勘定および残高勘定（大陸法）の完成、および8桁精算表の作成	
テキスト、参考文献		評価方法	
百瀬 房徳「体系複式簿記」森山書店		テスト	

01 年度以降	簿記原理 a	担当者	山内 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、会計における記録の手段である簿記の基本原則を習得し、日商簿記検定 3 級程度に合格することを目的としています。 簿記は、トレーニングを重ねることが必要な科目であるため、説明は要点を絞り、できるだけ簡潔にする一方で、特に問題演習に重点をおいて理解の程度を確かめながら講義を進めていきます。 *講義では、レジュメを配布します。		1. ガイダンス・計算機の選び方 2. 簿記の意味・目的・種類 3. 簿記の基礎概念 4. 取引 5. 勘定と仕訳 6. 帳簿の記入 7. 決算と財務諸表（その 1） 8. 決算と財務諸表（その 1） 9. 現金預金取引 10. 現金預金取引 11. 商品売買 12. 売掛金と買掛金 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
上田・小川・渋谷・湯田『演習 商業簿記入門』中央経済社。 加古・渡部『新検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』中央経済社。		出席および期末試験にもとづき評価します。	

01 年度以降	簿記原理 b	担当者	山内 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、簿記原理 a に引き続き、日商簿記検定 3 級程度に合格することを目的とした講義を行っていきます。 簿記原理 b の後半では、簿記原理 a の内容も含めた総合問題に入っていきますので、簿記原理 a を理解しておくことが重要になります。 *講義では、レジュメを配布します。		1. その他の債権と債務 2. 手形 3. 有価証券 4. 固定資産 5. 資本金と引出金 6. 収益と費用 7. 税金 8. 帳簿と伝票 9. 決算と財務諸表（その 2） 10. 決算と財務諸表（その 2） 11. 決算と財務諸表（その 2） 12. 決算と財務諸表（その 2） 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
上田・小川・渋谷・湯田『演習 商業簿記入門』中央経済社。 加古・渡部『新検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』中央経済社。		出席および期末試験にもとづき評価します。	

01 年度以降	簿記原理 a	担当者	湯田 雅夫
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、受講生全員が日本商工会議所検定 3 級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。 複式簿記の基礎的な原理と技法を修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行う。 受講生は、授業の進捗度に応じて教科書の練習問題について、記帳練習を重ねる必要がある。		1. インTRODakション： 講義概要ならびに授業の進め方 2. 簿記の歴史 3. 第 1 章 簿記の意義と目的； 第 2 章 資産・負債・資本と貸借対照表 4. 第 2 章 東京商会の事例解説； 第 3 章 収益・費用と損益計算書 5. 第 4 章 取引；第 5 章 勘定 6. 第 6 章 仕訳と転記 7. 第 7 章 帳簿 8. 第 8 章 簿記一巡の手続き 9. 第 9 章 現金預金 10. 第 10 章 商品売買 11. 第 10 章 商品売買 12. 第 11 章 有価証券 13. 第 12 章 売掛金と買掛金	
テキスト、参考文献		評価方法	
上田・小川・渋谷・湯田『演習 商業簿記入門』中央経済社		期末試験と授業中に行う小テスト、出席状況から総合的に評価する。	

01 年度以降	簿記原理 b	担当者	湯田 雅夫
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、受講生全員が日本商工会議所検定 3 級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。 複式簿記の基礎的な原理と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行う。 受講生は、授業の進捗度に応じて教科書の練習問題について、記帳練習を重ねる必要がある。		1. 第 13 章 その他の債権・債務 2. 第 14 章 手形 3. 第 15 章 貸倒れと貸倒引当金 4. 第 16 章 固定資産；第 17 章 資本金と引出金 5. 第 18 章 収益・費用の繰延と見越 6. 第 19 章 決算予備手続 7. 第 19 章 決算予備手続 8. 第 20 章 例題解説 9. 第 20 章 決算本手続 10. 第 20 章 決算本手続 11. 総合問題 12. 総合問題 13. 本講義の結びとして、 「簿記学習の継続」の必要性を指摘。	
テキスト、参考文献		評価方法	
上田・小川・渋谷・湯田『演習 商業簿記入門』中央経済社		期末試験と授業中に行う小テスト、出席状況から総合的に評価する。	

01 年度以降	数学 a	担当者	高木 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
経済・経営学を学ぶ上で、線形代数（行列など）や解析（微積分など）の知識が必要になることが多々ある。この講義では、線形代数として主に、行列を用いた連立 1 次方程式の解法について解説する。さらに、それらを経済・経営学に応用した産業連関問題、線形計画法を用いた最適化問題についても簡単に触れる。実践力をつけるため、講義だけでなく問題演習の時間をとり、各自問題を解いてもらう。この講義で得た知識を活用し、実際の経済・経営学の問題を解決できるようになることを望む。最初の授業時に、講義内容や成績評価方法について述べるので必ず出席すること。また、下記ホームページの「Lectures」ページに授業に関する情報を掲載する予定である。受講前に一度確認すること。 http://www.edu.waseda.ac.jp/~satoru/ または http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~kt40433/		1. ガイダンス, 基本的事項の説明 2. 行列の定義 3. 行列の演算 4. 行列と連立 1 次方程式 5. 行列の基本変形 6. 行列の簡約化 7. 連立 1 次方程式の解法 8. 行列式の定義 9. 行列式の性質 10. 逆行列 11. クラームルの公式 12. 経済・経営学への応用 13. 期末レポート	
テキスト、参考文献		評価方法	
『経済・経営学のための数学』（高木 悟 著）を使用する予定。受講前に上記の授業ホームページで確認すること。		中間と期末の 2 回のレポートにより評価する。	

01 年度以降	数学 b	担当者	高木 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
経済・経営学を学ぶ上で、線形代数（行列など）や解析（微積分など）の知識が必要になることが多々ある。この講義では、解析として主に、関数、微分、極限、グラフ描画、偏微分について解説する。さらに、それらを経済・経営学に応用した損益分岐点問題、条件付き極値を用いた最適化問題についても簡単に触れる。実践力をつけるため、講義だけでなく問題演習の時間をとり、各自問題を解いてもらう。この講義で得た知識を活用し、実際の経済・経営学の問題を解決できるようになることを望む。最初の授業時に、講義内容や成績評価方法について述べるので必ず出席すること。また、下記ホームページの「Lectures」ページに授業に関する情報を掲載する予定である。受講前に一度確認すること。 http://www.edu.waseda.ac.jp/~satoru/ または http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~kt40433/		1. ガイダンス, 基本的事項の説明 2. 多項式関数 3. 分数関数 4. 指数関数, 対数関数 5. 極限と微分の定義 6. 微分の計算 7. 合成関数の微分 8. 極値とグラフ描画 9. 演習 10. 多変数関数の微分（偏微分） 11. 条件付き極値問題 12. 経済・経営学への応用 13. 期末レポート	
テキスト、参考文献		評価方法	
『経済・経営学のための数学』（高木 悟 著）を使用する予定。受講前に上記の授業ホームページで確認すること。		中間と期末の 2 回のレポートにより評価する。	

01 年度以降	高齢化社会論 a	担当者	奥山 正司
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、人口高齢化がもたらす社会的インパクトや老年期における高齢者の社会生活の変化及び老人福祉、老後保障の内容及び動向などについて、理解を深めることを目的とする。 具体的には、日本における人口高齢化、高齢化の地域的偏在、平均寿命、健康寿命、エイジズム、家族、居住形態、ライフ・サイクル、就業など高齢者の客観的な生活の様相について、諸外国との対比をふまえながら講義し、高齢（化）社会の全体像を明らかにする。		1. 授業の進め方と授業内容 2. ジェロントロジとは 3. 離脱理論、活動理論 4. 人口高齢化と高齢化社会 5. エイジング(加齢、Aging)平均余命、長寿社会 6. 敬老支配とエイジズム 7. 高齢者と家族、老親子の居住形態 8. ライフ・サイクル、家族周期と老年期 9. ライフ・サイクルの過程及び高齢者の生活 10. 高齢者と生計及び経済状況 11. 高齢者世帯の所得水準、所得構造、消費水準 12. 高齢者の社会活動 13. 諸外国の高齢者生活	
テキスト、参考文献		評価方法	
小笠原祐次・橋本泰子・浅野仁編『高齢者福祉』（新版）有斐閣		受講条件：bを必ず履修すること。筆記試験（70%）を基礎にして、レポート（10%）、授業中での小テスト（10%）、出席（10%）等を加味して総合的に評価する。	

01 年度以降	高齢化社会論 b	担当者	奥山 正司
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、老人福祉法及び介護保険法、老人保健法等をふまえ、老人福祉サービスの居宅サービス及び施設サービス、老後保障の動向などについて、理解を深めることを目的とする。 具体的には、老人福祉、老後保障、介護保険などの法的側面及び制度についてと福祉先進国であるスウェーデン、デンマーク及び自立自助の米国と比較しながら日本の高齢者福祉はどのような点に特徴がみられるのか、を講義し、高齢（化）社会の全体像を明らかにする。		1. 老人福祉法、社会福祉法 2. ゴールドプラン、新ゴールドプラン 3. 介護保険法 4. 在宅福祉サービス（1） 5. 在宅福祉サービス（2） 6. 在宅福祉サービス（3） 7. 施設福祉サービス（1） 8. 施設福祉サービス（2） 9. 施設福祉サービス（3） 10. 施設福祉サービス（4） 11. 老齢保障（1）社会保障、財政支出 12. 老齢保障（2）年金保険、医療保険 13. 諸外国の高齢者福祉	
テキスト、参考文献		評価方法	
小笠原祐次・橋本泰子・浅野仁編『高齢者福祉』（新版）有斐閣		受講条件：aを必ず履修すること。筆記試験（70%）を基礎にして、レポート（10%）、授業中での小テスト（10%）、出席（10%）等を加味して総合的に評価する。	

03 年度以降 01～02 年度	精神衛生論 a 精神衛生論	担当者	中野 隆史
講義目的、講義概要		授業計画	
現代の社会では心の健康に関連するできごとが大きな問題となっている。長引く経済不況下で中高年の自殺が増加し、好景気といわれて久しい現在でも自殺者は年間2万人台から3万人台へと激増したままである。精神衛生(=精神保健=メンタルヘルス)の知識は現代を生きる上で不可欠である。本講義では精神保健と精神医学の基本的な知識を身につけることによって自己を理解し、自身の学生生活と今後の人生を豊かにし、友人・家族など身近な人、職場の同僚や部下に対する援助のできる社会人を育成することを目標とする。 精神保健の概念とその実践の対象から講義を始める。次いで精神保健の理解に必要な精神医学の基本的知識を学ぶ。これらを踏まえてライフサイクルから見た精神保健すなわち各ライフステージにおける発達課題とその障害について考えていく。講義全体を通して自分の身の回りの実例やマスメディアの報道などを精神保健の視点からとらえ、これらの事例に関する討論を通じて精神保健の知識と理解を深めてゆく。		1 オリエンテーション 2 精神保健の実践の対象 3 精神医学の基本的知識 (1) 精神障害の成因・分類 4 精神医学の基本的知識 (2) 心因性精神障害 5 精神医学の基本的知識 (3) 内因性精神障害 6 精神医学の基本的知識 (4) 精神科の治療 7 ライフサイクルから見た精神保健 (1) 乳幼児期 8 ライフサイクルから見た精神保健 (2) 児童期 9 ライフサイクルから見た精神保健 (3) 思春期 10 ライフサイクルから見た精神保健 (4) 青年期 11 ライフサイクルから見た精神保健 (5) 成人期 12 ライフサイクルから見た精神保健 (6) 老年期 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはとくに指定しない。レジュメを配布する。参考文献は講義の際に紹介する。		試験の成績による。 再試験・追試験は行わない。	

03 年度以降 01～02 年度	精神衛生論 b 精神衛生論	担当者	中野 隆史
講義目的、講義概要		授業計画	
精神保健(=精神衛生=メンタルヘルス)や精神障害の問題は一部の特別な人だけのものではない。現代のストレスフルな社会(虐待、いじめ、リストラ……)では誰もが必ず関わることがある問題である。「明日はわが身」である。本講義では健常者の精神的健康の維持増進のためのストレス対処法やメンタルヘルス不全者への対応などの基本的な知識を身につけることによって自己を理解し、自身の学生生活と今後の人生を豊かにし、友人・家族など身近な人、職場の同僚や部下に対する援助のできる社会人を育成することを目標とする。 精神衛生論 a を踏まえてそれぞれの生活の場から見た精神保健を考えていく。さらに、精神障害の予防と精神の健康管理(精神的健康の保持増進)、わが国の精神科医療の現状について学ぶ。講義全体を通して自分の身の回りの実例やマスメディアの報道などを精神保健の視点からとらえ、これらの事例に関する討論を通じて精神保健の知識と理解を深めてゆく。		1 オリエンテーション 2 生活の場から見た精神保健 (1) 家族の精神保健(1) 3 生活の場から見た精神保健 (2) 家族の精神保健(2) 4 生活の場から見た精神保健 (3) 学校の精神保健 (1) 5 生活の場から見た精神保健 (4) 学校の精神保健 (2) 6 ストレスとその対処法 7 生活の場から見た精神保健 (5) 職場の精神保健 (1) 8 生活の場から見た精神保健 (6) 職場の精神保健 (2) 9 生活の場から見た精神保健 (7) 職場の精神保健 (3) 10 生活の場から見た精神保健 (8) 地域の精神保健 11 わが国の精神科医療の現状 12 医療費の抑制・市場原理の導入・混合診療の解禁の得失 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはとくに指定しない。レジュメを配布する。参考文献は講義の際に紹介する。		試験の成績による。 再試験・追試験は行わない。	

01 年度以降	現代文化論 a	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
「文化」を意味する culture は語源をたどると「農耕」と深くかかわっている。風土や人間という要素が文化を考える上で重要な意味を持つことを踏まえて、グローバル化という現代を取り巻く条件のもとでその由来とこれからを学んでゆく。 「文化」は「文明」と区別されるが密接なかわりを持つ。言語、宗教、生活習慣、社会システム、人々の価値観など、幅広い領域にその影響が及ぶ。世界にさまざまな文化のかたちがあるなかで、この授業で扱う「米国」は二〇世紀世界にきわめて大きな支配力を広げた。民主主義という統治の仕組みと市場経済の競争システムは冷戦後の世界の普遍的なモデルとなり、大量消費のライフスタイルやハリウッド映画のような大衆文化も世界を吸引するパワーとなった。 ここでは欧州からの移民によって建国された歴史の浅い「米国」という国家が超大国として世界の覇権国家になった背景を探る一方、冷戦の崩壊から「9/11」のテロを経た米国の影響力の翳りを見つめて、グローバル化と文化の関係を考える。		1 はじめに 2 文明のかたち 3 「帝国」と覇権 4 フランクリン型人間像 5 トクヴィルとビジネス信仰 6 WASP と移民国家 7 ロックフェラーと石油の世紀 8 大量生産と大量消費 9 冷戦と豊かな時代 10 「信頼」と社会 11 小さな政府 12 米国標準とソフトパワー 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各回、資料を提供する。佐伯啓思『新「帝国」アメリカを解剖する』（ちくま新書）を参考文献とする。		定期試験の成績に加えて、通常の授業で課するレポートの実績を勘案して評価する。	

01 年度以降	現代文化論 b	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
日本の文化をグローバル化の流れのなかに置いて、その特質と固有の構造を明らかにするとともに、西欧をはじめとする異文化との交渉とその影響を考える。ここでいう「文化」は単に芸術など、表現された表象物に限らず、広く社会システムや価値観、個人と集団との関係など、幅広い領域にわたる。 日本は中国文化圏の影響が強い東アジアの島国という地理的な条件の下で、古来独自の文化を育んできたが、明治維新以降はアジアでの近代化を先駆けて欧米列強の仲間入りを果たした。 近隣の植民地化や敗戦から戦後の復興と経済大国化という 20 世紀の歩みを通して、西欧文明との同化を目指す一方で、風土や伝統との融合によって日本がどのような文化を生み出していったのかを探る。 この授業では文芸や美術など日本の表象物から社会システムや技術開発など、さまざまな領域にこうした「文化」とのかかわりを探り、グローバル化がすすむ世界で「ソフトパワー」と呼ばれる価値がどのように形成されていくかを考えたい。		1 はじめに 2 脱亜入欧とジャポニスム 3 日本型システム 4 天皇制という仕組み 5 敗戦とアメリカ文化 6 1940 年体制と 55 年体制 7 MADE IN JAPAN 8 総中流社会と高度成長 9 ブランドと日本 10 日本礼賛と日本たたき 11 COOL JAPAN 12 日本という表象 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各回、参考資料を提供する。夏目漱石『三四郎』（岩波文庫）、荒井一博『文化の経済学』（文春新書）などを参考文献とする。		定期試験の成績に加えて、平常の授業で課するレポートの実績を勘案して評価する。	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	青木 雅明
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 経済学の基本的な英文が読めるようになってもらいます。 講義概要 下記テキストの 1 章を用い、①音読、②専門用語および基本となる事実と理論の解説、③日本語訳の作成、④訳文の講評、⑤その他を行う翻訳教室です。 毎回、配布したテキストと中型英和辞書または電子辞書を必ず持参してください。		最初の授業時に説明します。テキストのうち利用する部分としては、下記のいずれかを考えています。 ①CHAPTER 36 GROWTH AND PRODUCTIVITY (第 36 章 成長と生産性)の本文 ②上記 CHAPTER 36 の囲み解説欄(図表、政策展望、クローズアップ、経済学の応用など) ③CHAPTER 38 TRADE POLICY (貿易政策) ④上記 CHAPTER 38 の囲み解説欄(図表、政策展望、クローズアップ、経済学の応用など)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Stiglits, J.E. (1997) "Economics 2 nd Edition", W.W.Norton (利用部分のコピーを配布)		翻訳文、出席・遅刻による。欠席 4 回を超えると単位権を喪失します。(遅刻 2 回で欠席 1 回の扱い)	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	青木 雅明
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 経済学の基本的な英文が読めるようになってもらいます。 講義概要 下記テキストの 1 章を用い、①音読、②専門用語および基本となる事実と理論の解説、③日本語訳の作成、④訳文の講評、⑤その他を行う翻訳教室です。 毎回、配布したテキストと中型英和辞書または電子辞書を必ず持参してください。		最初の授業時に説明します。春学期と同じテキスト利用部分の継続になります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Stiglits, J.E. (1997) "Economics 2 nd Edition", W.W.Norton (利用部分のコピーを配布)		翻訳文、出席・遅刻による。欠席 4 回を超えると単位権を喪失します。(遅刻 2 回で欠席 1 回の扱い)	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	有吉 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、マーケティング戦略の外国文献の抜粋を輪読した後、その内容を応用したケーススタディに挑戦する。原書にあたった上で、ケースを実践することにより、マーケティングに対する理解が深まるものと確信している。		1. オリエンテーション 2～4. Marketing: An Overview 5～11. Marketing Case Study (Group Work) 12～13. Marketing Plan Presentation	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する		<u>マーケティング論を受講済みもしくは受講予定の学生のみに限る。</u>グループワークへの参加状況と期中と期末のレポートにより評価する。	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	有吉 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、マーケティング戦略の外国文献の抜粋を輪読した後、その内容を応用したケーススタディに挑戦する。原書にあたった上で、ケースを実践することにより、マーケティングに対する理解が深まるものと確信している。		1. オリエンテーション 2～4. Marketing Management 5～11. Marketing Case Study (Group Work) 12～13. Marketing Plan Presentation	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する		<u>マーケティング論を受講済みもしくは受講予定の学生のみに限る。</u>グループワークへの参加状況と期中と期末のレポートにより評価する。	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	井出 健二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
経済・経営で目にする言葉でもカタカナ標記のもの、あるいは原語で書かれているもの、見かけることがありませんか。いや、あるはずです。 また、ふだん使っている経済・経営用語は、英語でどのように呼ばれているのでしょうか。 それを経済・経営にかかわる英文を読みながらチェックしていきましょう。 そうした中からこれまでの知識を再認識したり、新たな知識を吸収することがあるように努めたいというのが本講義の目的です。 その場合には、英文を読むという作業を皆さんに提供いただかなければなりません。担当を決めて一定範囲のものを訳してきて発表してもらおうということが基本的な進め方となります。 また、必要とあればこちらのほうで解説ということで講義をしていくこともあろうかと思います。		1 講義にあたってのイントロダクション 2 2 から 12 あたりまで担当者による訳出の発表 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時に指示します。		出席 60%、試験等 30%、その他 10%	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	井出 健二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
経済・経営で目にする言葉でもカタカナ標記のもの、あるいは原語で書かれているもの、見かけることがありませんか。いや、あるはずです。 また、ふだん使っている経済・経営用語は、英語でどのように呼ばれているのでしょうか。 それを経済・経営にかかわる英文を読みながらチェックしていきましょう。 そうした中からこれまでの知識を再認識したり、新たな知識を吸収することがあるように努めたいというのが本講義の目的です。 その場合には、英文を読むという作業を皆さんに提供いただかなければなりません。担当を決めて一定範囲のものを訳してきて発表してもらおうということが基本的な進め方となります。 I (b) の場合には、英文会計にかかわる検定試験をも意識して講義してみたいと思います。		1 講義にあたってのイントロダクション 2 2 から 12 あたりまで担当者による訳出の発表 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時に指示します		出席 60%、試験等 30%、その他 10%	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	伊藤 爲一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
経済ニュースや論文を読んで読解力・専門用語の理解等を高めることを目標とします。 受講者は予習をして参加し、内容を理解しておくことを希望します。 教材を受講者が輪読する形で進めます。			
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時にプリントを配布します。		平常点と期末試験の成績を加味して評価します。	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	伊藤 爲一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
経済ニュースや論文を読んで読解力・専門用語の理解等を高めることを目標とします。 受講者は予習をして参加し、内容を理解しておくことを希望します。 教材を受講者が輪読する形で進めます。			
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時にプリントを配布します。		平常点と期末試験の成績を加味して評価します。	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	奥山 正司
講義目的、講義概要		授業計画	
21 世紀に入り、日本は本格的な高齢社会をむかえようとしている。高齢化や高齢者に関しては、社会福祉や保健・医療の分野だけでなく、経済学及び法律学的な問題などさまざまな視点から論ぜられるようになってきている。こうした中で、高齢者と家族、地域社会とのかかわり及び寝たきり老人や認知症高齢者など要介護高齢者を対象とした狭義の福祉や保健・医療サービスなどについては、今後どのようにしていくかというきわめて重要な課題がある。本年度はそれらの課題を視野に入れながら、高齢化について、日本及び英国を中心にした文献を読むことにするとともに、その分野について考える力を身につけさせる。		1. 授業の進め方及び内容の紹介 2. 日本を含む高齢者の 5 か国調査の内容 (1) 3. 日本を含む高齢者の 5 か国調査の内容 (2) 4. 日本を含む高齢者の 5 か国調査の内容 (3) 5. 英国における高齢者の家族生活 (1) 全体の概観 6. 英国における高齢者の家族生活 (2) 家庭と家族 7. 英国における高齢者の家族生活 (3) 生活と親族 8. 英国における高齢者の家族生活 (4) 家族と介護 9. 英国における高齢者の家族生活 (5) 家庭経済 10. 英国における高齢者の家族生活 (6) 息子と娘 11. 英国における高齢者の家族生活 (7) 兄弟と姉妹 12. 英国における高齢者の家族生活 (8) 拡大家族 13. 英国における高齢者の家族生活 (9) 家族と地域	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業のはじめに、コピーした原書を配布する。 Text: Shoji Okuyama, Elderly parents attitudes toward the relationship with their children, 2007		発表 (70%) を基礎にして、出席 (20%) 及びレポート (10%) を加味して総合的に評価する。	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	奥山 正司
講義目的、講義概要		授業計画	
21 世紀に入り、日本は本格的な高齢社会をむかえようとしている。高齢化や高齢者に関しては、社会福祉や保健・医療の分野だけでなく、経済学及び法律学的な問題などさまざまな視点から論ぜられるようになってきている。こうした中で、高齢者と家族、地域社会とのかかわり及び寝たきり老人や認知症高齢者など要介護高齢者を対象とした狭義の福祉や保健・医療サービスなどについては、今後どのようにしていくかというきわめて重要な課題がある。本年度はそれらの課題を視野に入れながら、高齢化について日本及び英国を中心にした文献を読むことにするとともに、その分野について考える力を身につけさせる。		1. 授業の進め方及び内容の紹介 2. 退職とその後の生活 3. 貧困と経済的生活 4. 孤独と孤立 5. 国の高齢者へのサービス 6. 国の高齢者へのサービス 7. 国の高齢者へのサービス 8. 国の高齢者へのサービス 9. 国の高齢者へのサービス 10. 家族との接触頻度 11. 家族と高齢者問題 12. 高齢者への福祉保健サービス 13. 全体の問題と要約	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業のはじめに、コピーした原書を配布する。 Text: Peter Townsend, The Family Life of Old People Pelican Book		発表 (70%) を基礎にして、出席 (20%) 及びレポート (10%) を加味して総合的に評価する。	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	香取 徹
講義目的、講義概要		授業計画	
管理会計は Management(経営) Accounting(会計)といいます。これは、経営と会計の両方の接点という意味です。会計の数値を経営に生かすことは大切です。授業の内容は決して難しくはありません。すこしでも英文会計の基本を理解してほしいと思います。 授業では管理会計の基礎的なテキストを解説したうえで、読んでいこうと思います。			
テキスト、参考文献		評価方法	
資料は配布します。		出席 50 点、試験 50 点	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	香取 徹
講義目的、講義概要		授業計画	
管理会計は Management(経営) Accounting(会計)といいます。これは、経営と会計の両方の接点という意味です。会計の数値を経営に生かすことは大切です。授業の内容は決して難しくはありません。すこしでも英文会計の基本を理解してほしいと思います。 授業では管理会計の基礎的なテキストを解説したうえで、読んでいこうと思います。			
テキスト、参考文献		評価方法	
資料は配布します。		出席 50 点、試験 50 点	

01 年度以降	経済外国語 I a ・ 経営外国語 I a	担当者	金井 繁雅
講義目的、講義概要		授業計画	
経済社会の変動にともなって企業を取り巻く環境は大きく変化し、会計はさまざまな問題を抱えるようになった。これらの問題の一つとして、企業活動の国際化・グローバル化を背景とした会計処理や国際会計基準の設定が問題となっている。会計基準は、それぞれの国において独自の経済・法律および文化などを背景に形成されており、各国の企業が公表する財務諸表はそれぞれの国の会計基準に基づいて作成される。したがって、それらの財務諸表を単純に比較することはできない。そこに会計基準の国際的調和化の必要性が生まれてくるわけである。 この科目では、国際会計に関するテキストを中心に精読し、会計の国際的側面を多面的に検討することにする。			
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時にコピーを配布する。		定期試験の結果に出席率を加味して総合的に成績評価を行う。	

01 年度以降	経済外国語 I b ・ 経営外国語 I b	担当者	金井 繁雅
講義目的、講義概要		授業計画	
「経済外国語 I a」と同一内容です。			
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時にコピーを配布する。		試験の成績に出席率を加味して、総合的に成績評価を行う。	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	上坂 卓郎
講義目的、講義概要		授業計画	
ベンチャー企業や企業金融に関する英語文献の読解を行う。春学期は欧米のビジネススクール教員の手になる企業の資金調達に関するテキストを取り上げる。またそれと並行して、適宜最近のビジネス雑誌の記事なども使う。 ベンチャー企業や企業金融の基本的な単語や概念になじんで、外国の経営関連の文献を読むことに慣れることを主眼にする。そして英語文献を通してベンチャー企業の成長に関する問題点を学んでいく。当然のことだがこのテーマ自体に関心が持てない学生には向いていない。同一担当者の「ベンチャービジネス論」を並行して受講するとより理解が高まる。語学の上達にはかけた時間に比例するといわれる。勤勉に取り組むことが重要であり、テキストや辞書を忘れて出席することがないようにすること。 <u>第1回ガイダンスが重要なので必ず出席すること。</u>		受講者のレベルに応じて授業計画の調整を行う	
テキスト、参考文献		評価方法	
関連資料を配布する予定。詳細は授業開始時に指示する		出席（40%程度）、発表と小テスト(ないしは課題レポート、ノート評価)等（60%程度）による総合評価。	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	上坂 卓郎
講義目的、講義概要		授業計画	
経済・経営外国語 I a と同一のテキストを継続して使用するので経済・経営外国語 I a の履修を前提とする。		受講者のレベルに応じて授業計画の調整を行う	
テキスト、参考文献		評価方法	
関連資料を配布する予定。詳細は授業開始時に指示する		出席（40%程度）、発表と小テスト(ないしは課題レポート、ノート評価)等（60%程度）による総合評価。	

01 年度以降	経済外国語 I a ・ 経営外国語 I a	担当者	倉橋 透
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 この講義では、日本経済をオンタイムで扱ったテキストを題材に、経済英語独特の言い回し及び日本語の経済用語に慣れることを目的とする。 なお、テキストを通じて日本経済の現状についての理解が深まる点でも効果があろう。 【講義概要】 テキストを分担して、英文を音読し和訳する。 各自が分担する範囲は前の講義の際に指定する。 2 回に 1 回の割でディクテーションテスト（書き取り）を行う（最終成績に反映しない）。		各月の“Monthly Economic Report”及び“Economy Watchers Survey”等を読む。	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に配布（内閣府の“Monthly Economic Report”及び“Economy Watchers Survey”等）		出席（一回 4 点）及び定期試験による。なお、分担しているにもかかわらず欠席した場合は 5 点減点する。ただし、病気等理由のある場合は出席扱いとする。	

01 年度以降	経済外国語 I b ・ 経営外国語 I b	担当者	倉橋 透
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 この講義では、日本経済をオンタイムで扱ったテキストを題材に、経済英語独特の言い回し及び日本語の経済用語に慣れることを目的とする。 なお、テキストを通じて日本経済の現状についての理解が深まる点でも効果があろう。 【講義概要】 テキストを分担して、英文を音読し和訳する。 各自が分担する範囲は前の講義の際に指定する。 2 回に 1 回の割でディクテーションテスト（書き取り）を行う（最終成績に反映しない）。		各月の“Monthly Economic Report”及び“Economy Watchers Survey”等を読む。	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に配布（内閣府の“Monthly Economic Report”及び“Economy Watchers Survey”等）		出席（一回 4 点）及び定期試験による。なお、分担しているにもかかわらず欠席した場合は 5 点減点する。ただし、病気等理由のある場合は出席扱いとする。	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	黒川 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、国際人として活躍するために必要である国際ビジネスに関する知識を獲得し、かつ実践的な英語能力を習得することを目標とする。 グローバル企業で働くためには、外国人とのコミュニケーション能力が必須となる。しかし、ビジネス英語の能力には、単なる会話能力だけではなく、相手の国の文化や、習慣、エチケットに関する知識まで含まれる。異文化を理解した上で国際ビジネスに携わるならば、ビジネスで成功することがより容易となるであろう。本講義ではそのようなニーズに答えるために、ビジネスに関する英語の読解、英作文の勉強をしていきます。		1 Corporations: Economies Larger than Countries 2 Banking: Cash, Credit Cards and Checks in the U.S. 3 GATT, WTO and a 65,000-employee Mega-factory in Vietnam 4 Privatizing Government Functions 5 The Internet and Surfing for Dollars 6 Organic Food vs. Non-organic Food 7 Foreign Companies Control American Ports 8 The World Bank, the International Monetary Fund 9 The U.S. Health Care System 10 The Japanese Automobile Industry 11 Articles of International Business (1) 12 Articles of International Business (2) 13 Articles of International Business (3)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Takayuki Ishii et al., <i>"Global Transformation"</i> , SEIBIDO, 2008.		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	黒川 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、経営学の入門から専門書、論文までの読解できる能力を身につけることが目標である。 この分野の読解は、単なる表面的な語句上の意味を学ぶのではなく、その語の背景となっている経営状況を理解しなければ、正しい読解は不可能である。 経営に関する基本的文献を、まずテキストを使って輪読する。ある程度、経営学用語を用いた英文に慣れた後に、英文雑誌や新聞から抜粋した経営に関する論文や記事を配布して、講義を進める。		1 Deficit Spending in the U.S. 2 The Economics of War: Who Says, "War Is Hell"? 3 Japan's Economic Bubble 4 Cutting Health Costs through Alternative Medicine 5 The Next Oil - Water Privatization 6 Banking - Money at a Discount 7 The Economics of Recycling 8 Overpopulation versus Underpopulation 9 The Economics of Renewable Energy Resources 10 Cellphones in Africa: a Low-Cost Solution to Communication Challenges 11 Articles of International Business (1) 12 Articles of International Business (2) 13 Articles of International Business (3)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Takayuki Ishii et al., <i>"Global Transformation"</i> , SEIBIDO, 2008.		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	黒木 亮
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目標 本講義の目的は、経済英語に慣れることである。丁寧に翻訳をつけ、ゆっくりと文献を読み進めることによって、基礎的な読解力を養う。 講義概要 あらかじめ担当者を決めず、毎回ランダムに当て、ひとり数行ずつ、できるだけ多くの人に訳出してもらう。 受講者への要望 毎回しっかり予習をし、辞書（単語の使われ方や例文が数多く紹介されているもの）を持参して授業に臨んでください。		講義概要の通り下記の章を読み進めていく。 Introduction Chapter 1 The Power of Markets	
テキスト、参考文献		評価方法	
Charles Wheelan <i>Naked Economics</i> , W. W. Norton, 2002.		出席状態、予習の程度、報告（翻訳）の内容、小テスト、期末テスト。	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	黒木 亮
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目標 本講義の目的は、経済英語に慣れることである。丁寧に翻訳をつけ、ゆっくりと文献を読み進めることによって、基礎的な読解力を養う。 講義概要 あらかじめ担当者を決めず、毎回ランダムに当て、ひとり数行ずつ、できるだけ多くの人に訳出してもらう。 受講者への要望 毎回しっかり予習をし、辞書（単語の使われ方や例文が数多く紹介されているもの）を持参して授業に臨んでください。		講義概要の通り下記の章を読み進めていく。 Chapter 1 The Power of Markets Chapter 2 Incentives Matter	
テキスト、参考文献		評価方法	
Charles Wheelan <i>Naked Economics</i> , W. W. Norton, 2002.		出席状態、予習の程度、報告（翻訳）の内容、小テスト、期末テスト。	

01 年度以降	経済外国語 Ia・経営外国語 Ia	担当者	小林 進
講義目的、講義概要		授業計画	
経済学の文献を通じて英語の力を一層向上させた いか、または現在の英語の実力を維持したい人の受 講が望ましい。英語の能力は努力を怠ると簡単に下 がってしまうので、受講者は日頃の予習と復習を十 分に行うことが大切である。なお再履修者及び英語 の基礎力の不十分な人、特に TOEIC の点数が著しく 低い人は、英語の基礎力をつけるために相当の努力 が必要である。英語の学習に一番必要なのは忍耐力 である。		受講者のレベルを考えながら講義中に述べる	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定（プリント配布の予定）		平常の出欠と受講態度を重視する。さらに期末の試験(プリント持ち込み可)を加味して評価する。	

01 年度以降	経済外国語 Ib・経営外国語 Ib	担当者	小林 進
講義目的、講義概要		授業計画	
経済学の文献を通じて英語の力を一層向上させた いか、または現在の英語の実力を維持したい人の受 講が望ましい。英語の能力は努力を怠ると簡単に下 がってしまうので、受講者は日頃の復習と予習を十 分に行 うことが大切である。なお再履修者及び英語 の基礎力の不十分な人には、英語の基礎力をつける ために数回のレポート提出を求めるので 十分注意 して履修登録を行ってほしい。		受講者のレベルを考えながら講義中に述べる	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定（プリント配布の予定）		平常の出欠と受講態度を重視する。さらに期末の試験を加味して評価する	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	小林 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
経済関係のニュースや情報を、英語で収集・分析するための基礎的な英語力の養成を目的とする。 ニュースの中には、国内（日本語）での報道と海外のメディアによる報道とで大きな視点の違いがあることが多い。歴史、文化、環境などに関する国際ニュースを思い浮かべれば、発信するメディアによって同一の事件が異なった「ニュース」として報道されることすらある。 日本経済の位置やその分析に関しても、複数の視点による理解がどうしても必要である。しかし、一足飛びに国際的なプロの分析力を手にするわけにはいかない。基本は日本語の新聞をきちんと理解し、基礎的な英語力を身につけることから始まる。 本講義では、英字新聞や雑誌の読解力を身につけることをめざすが、同時に単語力やリスニング力などの基本的な英語力も養成する。そのために毎時間の小テストとテキストの予習が課せられる。		1. 英語のニュース・日本語のニュース 2. サバイバル英語のすすめ 3. News in the world business. 4. News in the world business. 5. News in the world business. 6. News in the world business. 7. News in the world business. 8. News in the world business. 9. News in the world business. 10. News in the world business. 11. News in the world business. 12. News in the world business. 13. News in the world business.	
テキスト、参考文献		評価方法	
VOA Special English 西村肇『サバイバル英語のすすめ』ちくま新書		平常点＋定期試験	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	小林 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
経済関係のニュースや情報を、英語で収集・分析するための基礎的な英語力の養成を目的とする。 秋学期は、英語で読む・調べる・書く、をテーマに、プレゼンテーション演習を取り入れる。参加者は、各自テーマを設定し、英語の資料やソースにあたり、英語で発表することが課せられる。		1. 英語で読む・書く・調べる 2. 英語で読む 新聞 3. 英語で読む 雑誌 4. 英語で読む インターネット 5. 英語で聞く ニュース番組 6. 英語で聞く インターネットラジオ 7. 英語で調べる 辞書の使い方 資料の調べ方 8. 英語で調べる 検索エンジン 9. 英語で書く 身近な文章 10. 英語で書く 専門用語 11. 英語で発表する プレゼンテーションとは 12. 英語で発表する 演習 13. 英語で発表する 演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
		平常点＋発表レポート	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	齋藤 正章
講義目的、講義概要		授業計画	
外国語で書かれた良書は日本語で読めることが少なくありません。最近では、海外で出版されるのとはほぼ同時に翻訳されることもあります。また、インターネットの進展によって翻訳支援ツールも充実してきています。こうした状況は、読解のための語学力はさして高める必要はないと感じさせるかもしれません。しかし、それらはあくまでも「他人の訳」であって自分のものではありません。原著にある微妙なニュアンスは、原著を読んだ人にしか分からないものです。本講義では、原著の内容を自分の言葉で理解するための読解力の養成を目標としています。		皆さんに和訳してもらいますので、積極的に授業に参加して下さい。予習をどれだけするか読解力向上の秘訣があります。 講義を進めていくと、問題なのは英語力ではなく、経済や経営あるいは社会に関する問題意識の欠如や知識不足が原因で読みこなせないという場面に出くわすことが多いです。こういう場合は、基礎概念を平易に解説しながら進めていきます。 内容については、現実に行われている経営や実際に動いている経済に関する記事が中心となります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
英文雑誌『FORTUNE』から経営・経済に関する記事を選び、コピーを配布します。		試験 70 点、出席、発表などの平常点 30 点の合計 100 点。	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	齋藤 正章
講義目的、講義概要		授業計画	
外国語で書かれた良書は日本語で読めることが少なくありません。最近では、海外で出版されるのとはほぼ同時に翻訳されることもあります。また、インターネットの進展によって翻訳支援ツールも充実してきています。こうした状況は、読解のための語学力はさして高める必要はないと感じさせるかもしれません。しかし、それらはあくまでも「他人の訳」であって自分のものではありません。原著にある微妙なニュアンスは、原著を読んだ人にしか分からないものです。本講義では、原著の内容を自分の言葉で理解するための読解力の養成を目標としています。		皆さんに和訳してもらいますので、積極的に授業に参加して下さい。予習をどれだけするか読解力向上の秘訣があります。 講義を進めていくと、問題なのは英語力ではなく、経済や経営あるいは社会に関する問題意識の欠如や知識不足が原因で読みこなせないという場面に出くわすことが多いです。こういう場合は、基礎概念を平易に解説しながら進めていきます。 内容については、現実に行われている経営や実際に動いている経済に関する記事が中心となります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
英文雑誌『FORTUNE』から経営・経済に関する記事を選び、コピーを配布します。		試験 70 点、出席、発表などの平常点 30 点の合計 100 点。	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a (火・1)	担当者	中村 泰将
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 1. 英文の意味内容を的確に理解できるようにすること。 2. 専門用語をできるだけたくさん習得すること。 講義概要： 本講座は、アメリカの代表的なビッグ・ビジネスを取り上げ、これらの企業がどのようにして世界のトップに上り詰めたか、また、これらの企業の経営戦略はどのようなものかについて歴史的にフォローしたテキストを通じて学びます。 本書では、ファースト・フードのマクドナルド、自動車のフォード、ソフト・ドリンクのコカ・コーラ航空機のボーイングなどの企業を取り上げます。 (注意点) 1. 授業には必ず辞書を持参すること。 2. あらかじめ予習をしていくこと。		McDonald's(マクドナルド社) 1. McDonald's success～Mass production 2. Selling the system～The buyout 3. Freedom and choice 4. The product 5. Putting on the style～Conquering the world 6. Hot competition 7. The people～Profits in a good cause Ford(フォード社) 8. The Ford Motor Company 9. The man behind the motor 10. Popular or luxury cars? 11. On the line 12. Selling Ford cars 13. Technology and design	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>"BUSINESS IN ACTION"</i> By WILLIAM GOULD、SHIRO SATO、 SEIBIDO Co.,		出席重視(3 回以上の欠席者は認めない)。授業中の購読、定期試験、宿題などの総合評価。	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b (火・1)	担当者	中村 泰将
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ。		Coca-Cola(コカ・コーラ社) 1. The birth of Coca-Cola 2. The Coca-Cola network 3. Coca-Cola and America 4. Coke old and new 5. Coke's image 6. The cola wars Boeing(ボーイング社) 7. The Business of Boeing 8. Airline pioneers 9. Ups and downs 10. The jumbo jet age 11. How Boeing manages 12. Competition 13. On government orders	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a (金・4)	担当者	中村 泰将
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 1. 英文の意味内容を的確に理解できるようにすること。 2. 専門用語をできるだけ多く習得すること。 講義概要： 本講座は、アメリカの代表的なビッグ・ビジネスを取り上げ、これらの企業がどのようにして世界のトップに上り詰めたか、また、これらの企業の経営戦略・経営理念はどのようなものかについて本テキストを通じて学びます。 本書では、ファースト・フードのマクドナルド、自動車のフォード、ソフト・ドリンクのコカ・コーラ、テーマパークのディズニーランド、ディスカウント・ストアのシアーズ、コンピュータの IBM、通信の AT&T などの企業を取り上げます。 (注意点) 1. 授業には必ず辞書を持参すること。 2. あらかじめ予習をしてくること。		1. Coca-Cola 2. " 3. " 4. Disneyland East and West 5. " 6. " 7. The Automobile Industry 8. " 9. " 10. McDonald's Global Strategy 11. " 12. " 13. "	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>"BIG BUSINESS in AMERICA"</i> By 廣原真由子、Blake Baxter、SEIBIDO		出席重視(3 回以上の欠席者は認めない)。授業中の購読、定期試験、宿題などの総合評価。	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a (金・4)	担当者	中村 泰将
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的、講義概要は春学期と同じです。		1. The Seas Catalog 2. " 3. " 4. Xerox 5. " 6. " 7. IBM 8. " 9. " 10. AT&T 11. " 12. " 13. "	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは、春学期と同じです。		評価基準は、春学期と同じです。	

01年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	波形 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
あらゆる分野についていえることだが、経済学・経営学についても基礎的知識の習得が重要である。基礎がしっかりしていないと、その後の発展が望めないからである。その意味で本講義では、特に経済学の基礎を外国語（英語）で習得することに目標をおく。下記の教科書は経済学の基礎を平明な英語で解説しており、本講義の目的にかなっていると思われる。学生諸君の輪読を中心に授業を進めていきたい。当たり前のことだが、予習を必ずやることを義務づける。		1. Chap.1 A Matter of Choice 2. 3. 4. 5. 6. 7. Chap.2 Meaning of Micro 8. 9. 10. 11. 12. 13.	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Tilmant 著（新井恵理注解）『Economics in Our Life』成美堂		定期試験に平常授業中の熱意（出席状況、発表状況）を加味して評価する。	

01年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	波形 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的およびその概要は春期と同様。春期授業を受けていなければ理解できないというわけではないが、春期授業を受けておくほうが望ましい。		1. Chap.3 Meaning of Macro 2. 3. 4. 5. Chap.4 Politics & Policy 6. 7. 8. 9. Chap.5 At Least in Theory 10. 11. 12. 13.	
テキスト、参考文献		評価方法	
前期と同じ。継続使用。		前期と同じ。	

01 年度以降	経済外国語 Ia・経営外国語 Ia	担当者	浜本 光紹
講義目的、講義概要		授業計画	
環境問題・環境経済学にかかわる英文論文や英語記事などを中心的題材として、現代の環境問題とその対策に関する学術的アプローチを学習する。内容の理解と訳出を通じて学生の理解度を測る。履修学生は毎回英和辞典を持ってくる。			
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回プリントを配布する。		出席状況、課題の提出状況、および定期試験によって評価する。	

01 年度以降	経済外国語 Ib・経営外国語 Ib	担当者	浜本 光紹
講義目的、講義概要		授業計画	
環境問題・環境経済学にかかわる英文論文や英語記事などを中心的題材として、現代の環境問題とその対策に関する学術的アプローチを学習する。内容の理解と訳出を通じて学生の理解度を測る。履修学生は毎回英和辞典を持ってくる。			
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回プリントを配布する。		出席状況、課題の提出状況、および定期試験によって評価する。	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	藤山 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
経済英語を通じて、様々な英語の側面に慣れることを目的とする。より具体的には下記の通りである。 1. 経済・経済学の単語力をつける：経済英単語を6つ覚える。形式は、英文の説明を読み、その定義を記す。課題の単語と定義は事前に配付する。 2. 文法の力をつける：毎回少しずつ復習をしましょう。 3. リスニング力をつける：原則として、ネットや適当な教材から、現在実際に使われている英語を聞く。 4. リーディング力をつける：毎回、経済学のテキストもしくは経済・社会の時事英語に関する資料を配付して、音読・和訳・要約をする。1と5が受講生の負担となるので、なるべく授業中にできる課題をと考えている。 5. ライティング力をつける：毎回2つの経済英単語について、定義を記す。課題の単語と定義は事前に配付。		単語や文法の確認テスト (8分) リスニング (15分) リーディング (50分) その他 (10分) 文法の復習解説、教員による英語でのプレゼンテーションなど。 念頭に置いている教材： ・ 経済学の英文のテキスト (ミクロ経済学, マクロ経済学など。英語が非常に簡単なので読みやすい) ・ 平易な英文の経済社会の記事 (なるべく、Listeningが可能で、全文も文字として得られるものと考えている。NHK-online, Voice of America, NPRなどのインターネットサイト, Japan Times, 茅ヶ崎式・時事英語の教材)	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜、配付する。		出席および授業内の小テスト	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国以後 I b	担当者	藤山 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
基本的な方針は春学期と同じである。ただし、春学期の経験をふまえ、春学期からの受講生の要望も聞いて、内容のバランスを変更する可能性がある。		原則として、春学期と同じである。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜、配付する。		出席および授業内の小テスト	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	堀江 郁美
講義目的、講義概要		授業計画	
英文をただ読むだけでなく、理解するのに必要な基本的読解力を身につけることを目的とする。 コンピュータやデータベースなど情報科学に関する基本書を読む。 毎回しっかり予習をし、辞書を持参して授業に臨むこと。		前もって担当者を決め、担当者の発表後、議論を行う。一回の授業に2～3人を担当者として指名する予定である。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指定する。		発表、授業態度、レポート、出席状況で評価する。	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	堀江 郁美
講義目的、講義概要		授業計画	
a と同じ		a と同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指定する。		発表、授業態度、レポート、出席状況で評価する。	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	本田 浩邦
講義目的、講義概要		授業計画	
英語に限らず、外国語の力は人生を支える大きな武器です。自分なりの目的をみだし、楽しみながら勉強する方法を身につけることができれば、生涯をつうじて外国語に親しみ、それだけ精神的にゆたかな生活をおくることができると思います。 この授業では、文法の復習とリスニングに重点をおいて勉強します。文法は T O E I C 対策になります。リスニングは、1 年間続けるだけでもかなり耳ができてくるはずです。 とくに毎週の予習を課すものではありませんが、各自、The Voice of America のホームページの Special English などは教材として大変すぐれていますので、それらを利用して、リスニングとリーディングの学習を継続的に行ってください。		授業は 3 つのパートに別れる。 1. 文法小テスト (20 分) 2. リスニング (50 分) 3. リーディング、ボキャブラリーその他 (20 分) 学期の最後に、各自、英語に関する任意のテーマで短いプレゼンテーションを行っていただきます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回資料を配付		出席、小テスト結果、その他。(3 分の 1 以上の欠席は自動的に不可とします。)	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	本田 浩邦
講義目的、講義概要		授業計画	
英語に限らず、外国語の力は人生を支える大きな武器です。自分なりの目的をみだし、楽しみながら勉強する方法を身につけることができれば、生涯をつうじて外国語に親しみ、それだけ精神的にゆたかな生活をおくることができると思います。 この授業では、文法の復習とリスニングに重点をおいて勉強します。文法は T O E I C 対策になりますし、リスニングは、1 年間続けるだけでもかなり耳ができてくるはずです。 とくに毎週の予習を課すものではありませんが、各自、The Voice of America のホームページの Special English などは教材として大変すぐれていますので、それらを利用して、リスニングとリーディングの学習を継続的に行ってください。		授業は 3 つのパートに別れる。 1. 文法小テスト (20 分) 2. リスニング (50 分) 3. リーディング、ボキャブラリーその他 (20 分) 学期の最後に、各自、英語に関する任意のテーマで短いプレゼンテーションを行っていただきます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回資料を配付		出席、小テスト結果、その他。(3 分の 1 以上の欠席は自動的に不可とします。)	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	益山 光央
講義目的、講義概要		授業計画	
テキサスインスツルメント社製の関数電卓 BAI plus の英文マニュアルに挑戦する。受講生は電卓とマニュアルのセ購入する必要がある。電卓操作をマスターしたのちに、複利、割引などのいろいろな経済計算を学習する。教材の電卓は高価なので、一年間、落ち着いてじっくり学習する受講生を希望する。 予習と復習が必要です。		1 基本操作 2 基本操作 3 基本操作 4 基本操作 5 基本操作 6 基本操作 8 複利と単利 9 割引現在価値 10 割引現在価値 11 投資 12 投資 13 質問	
テキスト、参考文献		評価方法	
TI 社製関数電卓 BAI Plus		出席 50%、試験 50%	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	益山 光央
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き電卓操作の習得を目標とする。		1 償還 2 償還 3 償還 4 基本操作 5 基本操作 6 基本操作 7 基本操作 8 対数と指数 9 対数と指数 10 三角関数 11 三角関数 12 質問 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
TI 社製関数電卓 BAI Plus		出席 50%、試験 50%	

01年度以降	経済外国語Ⅰa・経営外国語Ⅰa	担当者	松本 栄次
講義目的、講義概要		授業計画	
経済地理または環境経済関係の外国書（英文）または論文をテキストに、学術的英文の読解力を高める。とくに、単なる直訳に終わらせるのではなく、図や表を含めた内容のイメージを的確に把握する能力を養う。		毎回、無差別にできるだけ多数の人を指名し、訳出・内容の説明を担当してもらう。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントして配布する。		出席状況、授業中の発表の成績、および定期試験により総合的に評価する。	

01年度以降	経済外国語Ⅰb・経営外国語Ⅰb	担当者	松本 栄次
講義目的、講義概要		授業計画	
aと同じ。		aと同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントして配布する。		出席状況、授業中の発表の成績、および定期試験により総合的に評価する。	

01年度以降	経済外国語 Ia・経営外国語 Ia	担当者	御園生 眞
講義目的、講義概要		授業計画	
経済英語に慣れると同時に、英文読解力の向上を目指します。 授業では毎回できるだけ多くの人に訳してもらおうことにします。また、定期試験以外にも小テストを頻繁に実施する予定です。 (注意) 第1回の授業でテキストのプリントを配布するので、履習者（予定者も含む）は必ず出席してください。 出席は第1回の授業からとります。 授業には必ず予習をして出席し、辞書を忘れずに持ってきてください。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントを使用します。辞書や参考書については、第1回の授業で説明します。		出席、試験（定期・小テスト）成績、訳出状態で評価します。欠席は3回まで。これ以上欠席した場合は単位が認定されません。	

01年度以降	経済外国語 Ib・経営外国語 Ib	担当者	御園生 眞
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

01年度以降	経済外国語Ⅰa・経営外国語Ⅰa	担当者	百瀬 房徳
講義目的、講義概要		授業計画	
ヨーロッパ経済共同体が、1993年より形成され、現在では欧州連合（EU）として拡大している。この形成のために種々の制度が統一されてきた。そのうちの付加価値税を通じて、統一過程を理解する。 ヨーロッパで発展した付加価値税が日本において消費税として導入された。その意味では、付加価値税について知識を得ておくことは意義があろう。		1 The European Economic Community 2 The Aims of the European Community 3 The White Paper 4 The Community's Institutions The European Parliament 5 The Community's Institutions The Council of Ministers 6 The Community's Institutions The Court of Justice 7 The Financial Means of The Community 8 The Value Added Tax 9 VAT in The Community	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ernst & Young : VAT in Europe		テスト	

01年度以降	経済外国語Ⅰb・経営外国語Ⅰb	担当者	百瀬 房徳
講義目的、講義概要		授業計画	
付加価値税が、ヨーロッパ経済共同体の共通の税となり、かつその財源になって以来、非常に大きな役割を果たすようになってきた。付加価値税の基礎概念、計算方法、付加価値税を全加盟国に導入するための障壁の除去等について理解する。この付加価値税の考え方は、日本の消費税の基礎となっている。		1 Harmonization of VAT in The European Community General 2 Harmonization of VAT in The European EC Council Directive 3 The Proposals for Future Harmonization 4 Commission's Proposals for a Single Market 5 The 1987 Proposals for The Commission Removal of Fiscal Barriers 6 The 1987 Proposals for The Commission The Clearing System 7 The 1987 Proposals for The Commission The Approximation of VAT Rates 8 The 1987 Proposals of The Commission 9 The 1989 Proposals of The Commission	
テキスト、参考文献		評価方法	

01 年度以降	経済外国語 I a ・ 経営外国語 I a	担当者	森 健
講義目的、講義概要		授業計画	
先ず、辞書なしでも英語文献に立ち向かう訓練をする。新聞やテレビでも取り上げられているような経済トピックス（特に日本経済やアジア経済）について書かれた英文の経済社会記事（論文を含む）を用意するので、初めは、辞書を使わず、自分の持っている知識を総動員して大意を推量する努力をする。そのトピックスに関する知識があれば、知らない単語が多い英文もかなり正しく推量することが可能であることに気付いて欲しい。換言すれば、（日本語での）知識がないものは理解不能であることも知ってもらう。日頃から日本語で書かれた記事、論文、テレビでの経済問題解説に触れておけば、日常的な経済英語文献は恐れることはない。この授業を通じて、英文に対する抵抗感をなくして欲しい。		特記するような計画は持たないが、教材には、日本経済の国際化、アジア太平洋諸国の経済に関する課題を中心に取り上げ、随時、理論的な解説を加えることにしたい。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		一定の出席率と宿題（内容は簡単）の提出状況が評価の前提。その上で、期末試験の結果を併せ評価する。	

01 年度以降	経済外国語 I b ・ 経営外国語 I b	担当者	森 健
講義目的、講義概要		授業計画	
（春学期に同じ）		（春学期に同じ）	
テキスト、参考文献		評価方法	
（春学期に同じ）		（春学期に同じ）	

01 年度以降	経済外国語 I a ・ 経営外国語 I a	担当者	森永 卓郎
講義目的、講義概要		授業計画	
経済記事を読むためには英語の知識と経済の知識の双方が必要です。この講義では、その時どきの新聞記事を読むなかで、その背景となる経済現象を学びます。記事の英語は平易なものをを用います。		毎週、講義後に課題の記事を配布し、発表者を決めて、翌週その記事を訳し、その内容を議論します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配ります		出席、試験	

01 年度以降	経済外国語 I b ・ 経営外国語 I b	担当者	森永 卓郎
講義目的、講義概要		授業計画	
経済記事を読むためには英語の知識と経済の知識の双方が必要です。この講義では、その時どきの新聞記事を読むなかで、その背景となる経済現象を学びます。記事の英語は平易なものをを用います。		毎週、講義後に課題の記事を配布し、発表者を決めて、翌週その記事を訳し、その内容を議論します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配ります		出席、試験	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	山内 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、実際の企業の英文アニュアルレポートの主要な箇所をピックアップして読むことにより、基本的な英文会計の知識を身につけると同時に、企業の英語による会計情報とそれに関連する経営などの情報を実際に読み取ることができるようになることを目的としています。		1. ガイダンス 2. Financial Highlights 3. Financial Highlights 4. Letter to Shareholders 5. Letter to Shareholders 6. Business Overview 7. Business Overview 8. Review of Operations 9. Review of Operations 10. Research and Development 11. Research and Development 12. Corporate Governance 13. Corporate Governance	
テキスト、参考文献		評価方法	
英文アニュアルレポート（講義内で配布します。）		出席・講義への参加度・期末試験を総合的に評価します。	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	山内 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、実際の企業の英文アニュアルレポートの主要な箇所をピックアップして読むことにより、基本的な英文会計の知識を身につけると同時に、企業の英語による会計情報とそれに関連する経営などの情報を実際に読み取ることができるようになることを目的としています。		1. Corporate Social Responsibility 2. Corporate Social Responsibility 3. Financial Section 4. Financial Section 5. Stock Information 6. Stock Information 7. Stock Acquisition Rights and Bond Information 8. Stock Acquisition Rights and Bond Information 9. Investor Information 10. Investor Information 11. Notes to the Consolidated Financial Statements 12. Notes to the Consolidated Financial Statements 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
英文アニュアルレポート（講義内で配布します。）		出席・講義への参加度・期末試験を総合的に評価します。	

01 年度以降	経済外国語 I a ・経営外国語 I a	担当者	山越 徳
講義目的、講義概要		授業計画	
この科目は外国語を通して、経済の新しい動きや姿について触れると同時に、専門用語についての知識を増して、国際化の進行に少しでも順応できるようにすることを意図している。そこで本講義ではニュービジネス、新商品、技術変化、グローバリゼーション、産業集積、地域活性化、雇用問題などの中から、幾つかのペーパーを選び出し、それを共に読み、議論し、理解を進めていくことにする。そのためより多くの課題に触れられるよう、一回につき数ページをこなし多くのペーパーに取り組みたい。		なるべく多くの課題、論文を読み進めるため、一回につき、4～5 ページは読み進めていきたい。	
テキスト、参考文献		評価方法	
順次、ペーパーのコピーを授業で配布		課題ペーパー（授業で配布）を訳し、レポートを提出したものと、期末テストの結果および出席と授業の受け答えによる。	

01 年度以降	経済外国語 I b ・経営外国語 I b	担当者	山越 徳
講義目的、講義概要		授業計画	
I a の課題のペーパーをさらに読み進めていく。したがって I a に引き続いて履修することが望ましい。		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	山下 裕歩
講義目的、講義概要		授業計画	
経済・経営分野の入門的書籍から適当な題材を選択し、それを輪読していく形で進める。 内容を理解し、正確に日本語訳することを目標とする。あらゆる分野でいえることだが、専門書を読む場合、その専門分野以外ではほとんど使われないような語句が出てきたり、あるいは、通常とは少し意味の違う特殊な意味で用いられることがある。同時に、これらの語句は専門用語として対応する日本語があり、日本語としても専門用語の意味を正しく理解する必要がある。		受講者にはあらかじめ担当箇所を指定し、日本語訳・内容の解説をしてもらう。	
テキスト、参考文献		評価方法	
第一回目の授業でテキストを配布する。		期末試験・出席・報告・小テストを合わせて総合評価する。	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	山下 裕歩
講義目的、講義概要		授業計画	
経済・経営分野の入門的書籍から適当な題材を選択し、それを輪読していく形で進める。 内容を理解し、正確に日本語訳することを目標とする。あらゆる分野でいえることだが、専門書を読む場合、その専門分野以外ではほとんど使われないような語句が出てきたり、あるいは、通常とは少し意味の違う特殊な意味で用いられることがある。同時に、これらの語句は専門用語として対応する日本語があり、日本語としても専門用語の意味を正しく理解する必要がある。		受講者にはあらかじめ担当箇所を指定し、日本語訳・内容の解説をしてもらう。	
テキスト、参考文献		評価方法	
第一回目の授業でテキストを配布する。		期末試験・出席・報告・小テストを合わせて総合評価する。	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	山本 美樹子
講義目的、講義概要		授業計画	
本演習（外国語購読）は、日頃われわれの暮らしているこの国の経済がどのようなになっているのかに関心を持ってもらうことを目的としている。 経済学部学生である以上、新聞等の経済欄を読み、日常どのようなことが起こっているのかについて関心を持ってもらいたいと思っているが、経済欄あるいは経済に関わる記事は難解で、とっつきが悪いものである。そこで、本演習では英字新聞の中で経済に関わる記事を取り上げ、これを毎回購読していく。英字新聞の購読を通して、今日本経済が置かれている状況、問題点等を肌で理解してもらえたら、と思っている。 取り上げる記事は、Asahi Evening News, The Japan Times, Nikkei Weekly 等の主要英字新聞の記事で、できるだけ最近のものを取り上げていきたいので、授業の際、次の記事のプリントを配布する。 取り上げる記事の分野は日本経済、国際経済、国際金融、貿易にかかわる分野であるが、受講生からどのような分野を読みたいのかについて意見を聴取することも考えている。		1、 授業の進め方等、イントロダクション 次週のプリント配布 2 週以降は前の週に配布したプリントを購読する	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし、講義時、次回に使用するプリントを配布する		出席、予習の有無、試験	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	山本 美樹子
講義目的、講義概要		授業計画	
経済外国語 a と基本的には同じように英字新聞の経済に関わる記事を購読していく。 本演習（外国語購読）は、日頃われわれの暮らしているこの国の経済がどのようなになっているのかに関心を持ってもらうことを目的としている。 経済学部学生である以上、新聞等の経済欄を読み、日常どのようなことが起こっているのかについて関心を持ってもらいたいと思っているが、経済欄あるいは経済に関わる記事は難解で、とっつきが悪いものである。そこで、本演習では英字新聞の中で経済に関わる記事を取り上げ、これを毎回購読していく。英字新聞の購読を通して、今日本経済が置かれている状況、問題点等を肌で理解してもらえたら、と思っている。 取り上げる記事は、Asahi Evening News, The Japan Times, Nikkei Weekly 等の主要英字新聞の記事で、できるだけ最近のものを取り上げていきたいので、授業の際、次の記事のプリントを配布する。 取り上げる記事の分野は日本経済、国際経済、国際金融、貿易にかかわる分野であるが、受講生からどのような分野を読みたいのかについて意見を聴取することも考えている。		1、 授業の進め方等、イントロダクション 次週のプリント配布 2 週以降は前の週に配布したプリントを購読する	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし、講義時次回使用するプリントを配布する		出席、予習の有無、試験の成績	

01 年度以降	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	米山 昌幸
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、英字新聞‘The Japan Times’の経済記事を読んで、ボキャブラリーの増強と読解力の強化を目指します。記事のリスニング教材も用いることで聴解力も磨くことも考えています。 授業の進め方は、まずテキストを用いてトピックごとに過去の記事のヒアリングとリーディングを行い、そのトピックの読解に必要な単語、経済用語・時事用語やニュースの背景を学びます。次に、そこで学んだ語彙や専門用語や経済事情に関する知識をもとに、同じトピックの最新の記事を‘The Japan Times Online’からダウンロードして読みます。 毎週、トピックを代えて経済記事を読んでいくだけでなく、ひとつのトピックについての理解を深めるために、その関連記事を集中的に読むことも考えています。ときには新聞以外の関連文献も読みたいと思います。 毎週授業で読む記事は、事前にプリントを配布するか、事前に授業支援システムにアップしますので、それらの教材を予習した上で授業に臨んでください。また授業で学習した内容については、翌週の授業で単語テスト・読解力テストを行いますので、復習することで知識の定着を図ってください。		取り上げるトピックは、「貿易」「国際」を中心として、できるだけホット・イシューを取り上げていきたいと考えています。 各トピックについて、[授業中] 教材の Listening、Key Word のチェック、ニュースの解説、関連記事の Reading →[復習]単語・専門用語のチェック、[予習]関連記事の辞書引き・読解→[翌週の授業]テストという流れで進めていきます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
ジャパンタイムズ+コミュニケーション英語研究所編『The Japan Times オフィシャル版 英字新聞が読める！聞ける！[経済・ビジネス編]』ジャパンタイムズ、2006 年。他		出席状況、日常的な学習状況、定期試験の総得点によって評価します。評価基準は第 1 回目の授業で説明します。	

01 年度以降	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	米山 昌幸
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、英字新聞‘The Japan Times’の経済記事を読んで、ボキャブラリーの増強と読解力の強化を目指します。記事のリスニング教材も用いることで聴解力も磨くことも考えています。 授業の進め方は、まずテキストを用いてトピックごとに過去の記事のヒアリングとリーディングを行い、そのトピックの読解に必要な単語、経済用語・時事用語やニュースの背景を学びます。次に、そこで学んだ語彙や専門用語や経済事情に関する知識をもとに、同じトピックの最新の記事を‘The Japan Times Online’からダウンロードして読みます。 毎週、トピックを代えて経済記事を読んでいくだけでなく、ひとつのトピックについての理解を深めるために、その関連記事を集中的に読むことも考えています。ときには新聞以外の関連文献も読みたいと思います。 毎週授業で読む記事は、事前にプリントを配布するか、事前に授業支援システムにアップしますので、それらの教材を予習した上で授業に臨んでください。また授業で学習した内容については、翌週の授業で単語テスト・読解力テストを行いますので、復習することで知識の定着を図ってください。		取り上げるトピックは、「財政政策」「金融」「経済状況」を中心として、できるだけホット・イシューを取り上げていきたいと考えています。 各トピックについて、[授業中] 教材の Listening、Key Word のチェック、ニュースの解説、関連記事の Reading →[復習]単語・専門用語のチェック、[予習]関連記事の辞書引き・読解→[翌週の授業]テストという流れで進めていきます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
ジャパンタイムズ+コミュニケーション英語研究所編『The Japan Times オフィシャル版 英字新聞が読める！聞ける！[経済・ビジネス編]』ジャパンタイムズ、2006 年。他		出席状況、日常的な学習状況、定期試験の総得点によって評価します。	

01 年度以降	経済外国語 I a ・経営外国語 I a (中国語)	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では中国語の初級段階を終え、さらに中国語の学習を継続しようとする学生、特に中国経済に関心のある学生を対象にする。ただし授業の内容は履修者の中国語習得レベルに合わせて調整する。 最初には、中国語の基礎的な文法を勉強する。中国経済関連記事を選び、それに沿って授業を進めるが必要に応じて講義もする 中国経済に強い関心を持ち、これから中国語を学ぼうとする学生の履修も歓迎する。			
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて資料を配布する。		出席状況と筆記試験によって評価する	

01 年度以降	経済外国語 I b ・経営外国語 I b (中国語)	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
中国語や中国経済をもっと深く勉強する。 中国経済が抱えているいろいろな問題を、理解できるように授業を進めていきたい。			
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて資料を配布する。		出席状況と筆記試験によって評価する	

01 年度以降	経済外国語 I a ・ 経営外国語 I a (留学生)	担当者	J. ブローガン
講義目的、講義概要		授業計画	
Students joining this class will have had varied English learning experiences. The main aim of the course is to develop the ability to converse in simple, non-specialized English. The main vocabulary and grammatical structures to be used the following week will be given out at the end of each class and students will be expected to translate and add to the vocabulary list before the class. Techniques to improve the ability to keep a conversation going will be shown and emphasis will be on improving these techniques rather than just developing a large vocabulary. In this first semester we will cover the main areas of grammar by talking about things we do, have done and will do in our everyday life. The emphasis will be on spoken conversational English.		Week1:	Describing people: physical appearances and personalities Personal information, family and friends
		Week2:	Describing things: physical appearances and functions
		Week3:	Daily routines (i): the things you do regularly <i>Using 5W/1H questions to keep a conversation going</i>
		Week4:	Daily routines (ii): the things you do regularly How often you do things in your regular routines, when and for how long each time
		Week5:	Daily routines (iii): the things you do regularly <i>Talking about the past and future</i>
		Week6:	Complaints, offers and requests
		Week7:	Likes and Dislikes (i): <i>How you feel about the things and activities</i>
		Week8:	Likes and Dislikes (ii): <i>How much you like or dislike a thing or activity</i>
		Week9:	Abilities (i) <i>Talking about things you can do</i>
		Week10:	Abilities (ii) <i>Talking about how good you, and other people, are at doing things</i>
		Week11:	Giving directions How to give and understand directions
		Week11:	Comparing simple past, habitual and future events with continuous events
		Week13:	Plans for the summer <i>Talking about future definite, and not so definite, plans</i>
テキスト、参考文献		評価方法	
Students should have an A4 folder to hold the printouts that will be provided for each class. They must also bring a dictionary to class. An electronic dictionary is highly recommended.		Class participation and individual improvement will be the most important factors in grading. Final grades will be based on class work and assigned work, so good attendance is essential. Two times late will equal one time absent and more than three times absent per semester will mean a failing grade.	

01 年度以降	経済外国語 I b ・ 経営外国語 I b (留学生)	担当者	J. ブローガン
講義目的、講義概要		授業計画	
In this second semester we will look at some techniques for maintaining and building vocabulary and on summarising what we read and hear. In the second half of the semester students will be given short stories, which they will summarise and present to the rest of the class the following week. The emphasis will be on written English.		Week1:	Past experiences (i) <i>Talking about what we did this summer and planning an essay</i>
		Week2:	Past experiences (ii) <i>Going over the 'What I did this summer' essay with classmates</i>
		Week3:	Mixing up languages <i>A look at some of the reasons behind common mistakes</i>
		Week4:	Suffixes and Prefixes How to guess the meaning of new words
		Week5:	How to keep and build on what we know <i>Some techniques for reviewing and building vocabulary</i>
		Week6:	Retelling a story (i) <i>Creating and summarising stories</i>
		Week7:	Retelling a story (ii)
		Week8:	Retelling a story (iii)
		Week9:	Retelling a story (iv)
		Week10:	Retelling a story (v)
		Week11:	Retelling a story (vi)
		Week11:	Retelling a story (vii)
		Week13:	Review <i>A look at some of the things we have learned and a plan for where to go from here</i>
テキスト、参考文献		評価方法	
Students should have an A4 folder to hold the printouts that will be provided for each class. They must also bring a dictionary to class. An electronic dictionary is highly recommended.		Class participation and individual improvement will be the most important factors in grading. Final grades will be based on class work and assigned work, so good attendance is essential. Two times late will equal one time absent and more than three times absent per semester will mean a failing grade.	

01 年度以降	経済外国語Ⅱa・経営外国語Ⅱa	担当者	岡村 国和
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、英国の福祉制度や社会保障のアウトラインを知ることにあります。できるだけ平易な文章を選びますが、福祉をめぐる一般用語は普段あまり見ない単語、あるいは知っている単語でも決まった専門訳がある単語が出てきますので、注意が必要です。ここを乗り切れば、内容的には我が国の制度とあまり変わりませんので、比較的とり組みやすいと思います。その理由は、日本の制度が英国の制度を模範としている点が多いからです。 なお、適宜トピックスなどを取り入れていきますので、関連書物（邦文）を図書館などで探して予習・復習することをお薦めします。		①参考書などは随時紹介します。 翻訳書がないテキストを使用しますが、関連した内容については邦文の書籍が多数ありますので、概要を知ることにはそれ程努力をしなくてもできるかと思います。 ②テキストは英国 DWP（労働年金省）の Estimating economic and social welfare impacts of pension reform. First Published 2006. ISBN 1 84712 118 7 を予定しています。プリントして配布します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回に用意しますが、履修者と相談して変更することも可能です。		出席を重視し、講義中の発表回数や小テスト等で評価します。	

01 年度以降	経済外国語Ⅱb・経営外国語Ⅱb	担当者	岡村 国和
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期も基本的には春学期と同様の方法で講義を進めます。 ここでは特に年金問題を中心に考えていきますが、福祉全般について興味がある履修者については相談の上、プレゼンテーションを導入することもあります。 本講義の特徴は、英文和訳にあるのではなく、内容の理解とディスカッションにあります。英文和訳して終わる講義ではありませんので、注意してください。		①参考書などは随時紹介します。 翻訳書がないテキストを使用しますが、関連した内容については邦文の書籍が多数ありますので、概要を知ることにはそれ程努力をしなくてもできるかと思います。 ただし、福祉関連の単語は固有の意味を持った専門用語がありますので、解説時に特に注意して指示しますので、注意して下さい。 ②テキストについて、履修者の状況によって春学期の継続（Ⅱaを履修済み）か、新規のもの（Ⅱbのみ履修）にするかは履修者と相談して決めます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回に用意しますが、履修者と相談して変更することも可能です。		出席を重視し、講義中の発表回数や小テスト等で評価します。	

01 年度以降	経済外国語Ⅱa・経営外国語Ⅱa	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 私たちの生活に身近な存在である税制に関する基礎的なテキストを題材にして、そうした個々の税金の仕組み、経済に与える影響、各国での実施状況などについて学んでいく。本講義を終了する頃には、英語の専門書の内容が辞書を引しながらでも何とか理解できるようになることを期待している。 講義概要 あらかじめ報告者にその担当箇所を割当て、英文を日本語に訳してもらい、その邦訳に対してコメントを加える形で講義を進める。テキストを一区切り読み終えた段階で、それまでの内容や専門用語に関する小テストを行う。			
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		出席状況・発表の出来・小テストの結果を勘案して評価する。	

01 年度以降	経済外国語Ⅱb・経営外国語Ⅱb	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 私たちの生活に身近な存在である税制に関する基礎的なテキストを題材にして、そうした個々の税金の仕組み、経済に与える影響、各国での実施状況などについて学んでいく。本講義を終了する頃には、英語の専門書の内容が辞書を引しながらでも何とか理解できるようになることを期待している。 講義概要 あらかじめ報告者にその担当箇所を割当て、英文を日本語に訳してもらい、その邦訳に対してコメントを加える形で講義を進める。テキストを一区切り読み終えた段階で、それまでの内容や専門用語に関する小テストを行う。			
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		出席状況・発表の出来・小テストの結果を勘案して評価する。	

01 年度以降	経済外国語Ⅱ a ・経営外国語Ⅱ a （中国語）	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では経済・経営外国語Ⅰ（中国語）を履修し、さらに中国経済に関心のある学生を対象にする。ただし経済・経営外国語Ⅰ（中国語）を履修しなくてもこの授業が履修できる中国語の能力があれば対象にする。授業の内容は履修者の中国語習得レベルに合わせて調整する。 中国政治・経済に関する新聞記事を取り上げて授業を進めるが、必要に応じて講義もする。			
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて配布する。		出席状況と筆記試験によって評価する	

01 年度以降	経済外国語Ⅱ b ・経営外国語Ⅱ b （中国語）	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
最近の中国経済の動向や日中経済関係などの経済関連記事を選び、それに沿って授業を進める。 講読資料の選択には学生諸君の提案も可能である。			
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて配布する。		出席状況と筆記試験によって評価する	

01 年度以降	マクロ経済学 a	担当者	黒木 亮
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、教科書の「はしがき」にある以下の文章の通りである（したがって、文末の「本書」の部分で、「本講義」に読み替えていただきたい）。 「ほとんど全ての人は、自分自身の経験に基づく『等身大の経済像』をもっている。／ しかしマクロ経済学の対象である一国経済全体の動きについては、われわれが直接に何かを経験した時にえるような『実感』をもって眺めることは不可能である。それどころかこれから学ぶように、経済全体すなわちマクロ経済の動きは、個々の経済主体のミクロ的な動きについてわれわれがもつ直観とは矛盾したものになることも少なくない。…… そこにマクロ経済学の難しさと面白さがある。くり返しになるが、われわれは、マクロ経済を直接『みる』ことはできない。マクロ経済を『みる』ためには必ず『眼鏡』（理論）が必要になる。この『眼鏡』について学ぶことが本書の目的である。」		教科書の第 1 章と第 2 章（可能であれば第 3 章）までの内容を紹介・解説していく。 1. イントロダクション 2. フローとストック 3. GDP 統計の原則 4. 三面等価の原則 5. GDP の成長要因とそれらの寄与度 6. GDP 統計の限界 7. ケインズ経済学と有効需要の原理 8. 消費関数と貯蓄関数 9. 財・サービス市場の需給均衡 10. 乗数と節約のパラドックス 11. 政府支出および税の効果 12. オープン・エコノミー 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
吉川洋『現代経済学入門 マクロ経済学 第 2 版』岩波書店		レポート、期末試験。	

01 年度以降	マクロ経済学 b	担当者	黒木 亮
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、教科書第 3 章「資産市場」の冒頭のパラグラフにある文章の通りである（そして以下は、ほとんどそこからの引用である）。 春季において「われわれはフローである財・サービス市場のマクロ的均衡を考えることにより、各年あるいは各四半期の GDP の動きを理解することができる」ようになった。「しかし経済を理解するためには」春季の最初で「学んだようにフローとストックの両面を押さえる必要がある」。そこで秋季では、春季の後半に「学んだフローの分析を、ストックも含む分析（IS/LM モデル）へと拡張する」。		教科書の第 3 章と第 4 章（可能であれば第 5 章）までの内容を紹介・解説していく。 1. イントロダクション 2. 資産市場と貨幣の意義 3. 貨幣と債券 4. 債券と株式 5. 資産市場の均衡 6. 貨幣供給量と金融政策 7. LM 曲線の形状 8. IS 曲線の形状 9. IS-LM 分析（1） 10. IS-LM 分析（2） 11. 総需要管理政策 12. 国債残高問題 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
吉川洋『現代経済学入門 マクロ経済学 第 2 版』岩波書店		レポート、期末試験。	

01 年度以降	マクロ経済学 a	担当者	山下 裕歩
講義目的、講義概要		授業計画	
マクロ経済学は、国内総生産（GDP）、利子率、失業率、貨幣供給量といった変数を通じて一国の経済活動全体を考察する学問である。特に GDP 水準の決定メカニズムを考察することが主要な目的である。この講義では、ケインズ経済学と古典派経済学の対応関係を 1 つの視点としながら、マクロ経済学の初歩を学ぶ。 また、秋学期のマクロ経済学 b では、この講義で学んだことを基礎として、マクロ経済モデルを学習するので、秋学期のマクロ経済学 b も引き続き受講することが望ましい。		1. マクロ経済学とは？ 2. 完全雇用と不完全雇用 3. セイ法則 4. 有効需要原理 5. 消費 1 6. 消費 2 7. 45 度線モデル 8. 投資 1 9. 投資 2 10. 貨幣需要 11. 貨幣供給 12. 貨幣市場均衡 13. 練習問題の解説	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義でレジュメを配布し教科書は特に指定しない。参考書として以下を推薦する。初級：『マクロ経済学・入門』第 3 版、福田・照山著、有斐閣アルマ、中級：『新経済学ライブラリ 3・マクロ経済学』浅子・加納・倉澤著、新世社		学期末テストにより評価する。但し、講義中に 2 回程度のレポート提出を課し、この点数（合計 20 点程度）は学期末テストに加算される。	

01 年度以降	マクロ経済学 b	担当者	山下 裕歩
講義目的、講義概要		授業計画	
マクロ経済を一般均衡論的立場から考察すること、各モデル間の類似点・相違点を理解することが主要な目的となる。 最も標準的なケインズ経済学のモデルである IS-LM モデルを初めとして、AD-AS モデル、古典派モデルを学ぶ。また、財政・金融政策の基本事項を上記のマクロ経済諸モデルに立脚しながら学習する。 なお、春学期のマクロ経済 a と合わせて受講することが望ましい。		1. 労働市場 2. 生産物市場 3. 貨幣市場 4. IS-LM モデル 1 5. IS-LM モデル 2 6. 財政政策 7. 金融政策 8. AD-AS モデル 1 9. AD-AS モデル 2 10. 古典派モデル 1 11. 古典派モデル 2 12. まとめ 13. 練習問題の解説	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義でレジュメを配布し教科書は特に指定しない。参考書として以下を推薦する。初級：『マクロ経済学・入門』第 3 版、福田・照山著、有斐閣アルマ、中級：『新経済学ライブラリ 3・マクロ経済学』浅子・加納・倉澤著、新世社		学期末テストにより評価する。但し、講義中に 2 回程度のレポート提出を課し、この点数は学期末テストに加算される。	

01 年度以降	ミクロ経済学 a	担当者	小林 進
講義目的、講義概要		授業計画	
受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のすべて人のレベルが必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れる予定である。参考書については(原則として本学図書館にあるものを)必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。		最初の講義のときにプリント配布 (完全競争を中心にして講義)	
テキスト、参考文献		評価方法	
使用しない。参考文献は講義中に指示する。		学期末試験	

01 年度以降	ミクロ経済学 b	担当者	小林 進
講義目的、講義概要		授業計画	
受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のすべて人のレベルが必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れる予定である。参考書については(原則として本学図書館にあるものを)必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。		最初の講義のときにプリント配布 (不完全競争を中心にして講義)	
テキスト、参考文献		評価方法	
使用しない。参考文献は講義中に指示する。		学期末試験	

01 年度以降	ミクロ経済学 a	担当者	藤山 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義の概要> ミクロ経済学とは、個々の最適な意思決定の仕方と、社会全体での帰結を考察する学問といえる。とくに、経済活動においては、相手との駆け引きが非常に重要な要素となってくる。1980 年代以降、これらの点に関する分析が急速に深まった。春学期では、経済活動における駆け引きの帰結を中心に講義する。 <講義の目的> ミクロ経済学の基礎を習得する。より具体的には、第 1 に諸概念の直感的な理解を得る。第 2 に諸概念の抽象的な記号表現をマスターする。以上は、3 年生、4 年生となり、更なる勉強をするときに必要不可欠となる。 <講義の方針> できるだけ予備知識を前提とせず、授業内で自己完結した形で講義を行う。		1 イントロダクション 2・3 独占市場：利潤を最大にする価格設定 4 ナッシュ均衡：駆け引きのとりえ方 5 ゲーム理論 1（戦略形）：ジャンケン型のゲーム 6 ゲーム理論 2（展開形）：時間をともなうゲーム 7 寡占市場(1)：数量での競争 8 寡占市場(2)：価格での競争 9 情報とゲーム(1)：シグナリングゲーム 10 情報とゲーム(2)：モラルハザード 11 時間が余れば補足的なトピックスを説明する。 12 時間が余れば補足的なトピックスを説明する。 13 時間が余れば補足的なトピックスを説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書：『新しい教養のすすめ 経済学』大西・三土編 昭和堂		試験で評価する。	

01 年度以降	ミクロ経済学 b	担当者	藤山 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義の概要> 経済活動において、財やサービスが取引される市場の持つ意味は非常に重要である。この市場を通じた取引は社会的に望ましい状態を導くのか。また、導くとすると、どのような意味で望ましいのか。さらには、そこから、どのような政策的な含意が導かれるのか。これらの点を、講義では解説してゆく。 講義の目的・方針ともに、前期と同じであるが、秋期は完全競争市場についての講義をする。		1 イントロダクション 2・3 市場における需要と供給の作用 4・5 弾力性とその応用 6・7 需要，供給，および政府の政策 8 消費者，生産者，市場の効率性 9 応用：課税の費用 10 応用：国際貿易 11 外部性 12 公共財と共有資源 13 時間が余れば補足的なトピックスを説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『マンキュー経済学 I ミクロ編』N.グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社		試験で評価する。	

01 年度以降	経済学史 a	担当者	黒木 亮
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 本講義の目的は、経済学の形成過程を追体験し、経済理論への理解を深めてゆくための手がかりとして、経済学者が実際に取り組んだ問題や社会的背景、時代的文脈を考察することである。 講義の概要 近代自由主義社会の確立を基礎づけた 17 世紀の経済思想から 19 世紀末の経済思想までを通覧する。		1. ガイダンス： 経済学史とはどのような学問か 2. ロックとヒューム 市場社会の成立を支えた思想 3. フランソワ・ケネー 人類最初のエコノミスト 4-5. アダム・スミス 市場社会の仕組みを解明した経済学の父 6. ジェレミー・ベンサム 「最大多数の最大幸福」を夢想した功利主義者 7. トーマス・ロバート・マルサス 市場社会における貧困と「人口の原理」 8. デイビッド・リカードウ 古典派経済学の体系化 9. 大陸の経済学者たち セー、シスモンディエー、リスト 10. ジョン・スチュアート・ミル 功利主義思想と古典派経済学の批判的統合 11-12. カール・マルクス 資本主義社会と古典派経済学への根源的批判 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献： 高哲男編『自由と秩序の経済思想』名古屋大学出版会		レポート、期末試験。	

01 年度以降	経済学史 b	担当者	黒木 亮
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 本講義の目的は、経済学の形成過程を追体験し、経済理論への理解を深めてゆくための手がかりとして、経済学者が実際に取り組んだ問題や社会的背景、時代的文脈を考察することである。 講義の概要 19 世紀末の経済思想から、われわれの社会を支え、その将来を基礎づけるであろう今日の経済思想までを通覧する。		1. ガイダンス： 春季から秋季への橋渡し 2. グスタフ・シュモラー 新歴史学派の社会政策思想 3. カール・メンガー 主観主義のミクロ経済学 4. ジェヴォンズとワルラス 経済学の数理科学化 5-6. アルフレッド・マーシャル 「冷静な頭脳と暖かい心」の経済学 7-8. ソースティン・ヴェブレン 大量生産・大量消費社会の制度分析 9. ヨゼフ・シュンペーター 企業者の創造的破壊が生み出すダイナミクス 10-11. ジョン・メイナード・ケインズ 貨幣経済のマクロ分析 12. ケインズ以降の経済学 ケインジアン、ニュー・ケインジアン、 ポストケインジアン 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献： 高哲男編『自由と秩序の経済思想』名古屋大学出版会		レポート、期末試験。	

01 年度以降	経済変動論 a	担当者	山下 裕歩
講義目的、講義概要		授業計画	
入門的マクロ経済学では、ケインズ経済学と古典派経済学の対応関係が中心的な視点である。しかし、1970 年度以降、マクロ経済学は大きく変貌し、ケインズ経済学対古典派という対応関係を視点とした上でのマクロ経済論争は建設的なものではないというコンセンサスが形成されるに至った。本講義では、マクロ経済学がどのように変わってきたのか、そして何故このような変化が起こったのかなどを理解することを目的とする。また、様々なマクロ経済政策に対して、その是非を判断する際に、重要な視点を与えると考えられる経済学的論理を学ぶことも主要な目的である。		1. 新古典派総合（短期と長期） 2. マネタリズム 3. 新古典派経済学 4. マクロ経済学のミクロ経済学的基礎 5. 貨幣 6. インフレーション 7. 期待形成 8. 資産市場と資産価格 9. ブレトンウッズ体制と IS-LM モデル 10. マクロ経済政策 11. 動学的不整合性とルール化 12. まとめ 13. 練習問題の解説	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義でレジメを配布し教科書は特に指定しない。参考書は授業中に適宜紹介する。		学期末テストにより評価する。但し、講義中に 2 回程度のレポート提出を課し、この点数は学期末テストに加算される。	

01 年度以降	経済変動論 b	担当者	山下 裕歩
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、経済変動を経済成長と景気循環の 2 つの視点から考察する。具体的には、右の講義計画に沿って、様々な経済成長理論、景気循環理論を学ぶ。経済成長も景気循環も時間の流れを通じた経済現象であり、必然として「時間」という概念が入ってくる。時間の流れを明示的に経済理論に導入することは動学化と呼ばれている。「マクロ経済理論の動学化」という分析視点が何を意味するのか、またこの分析視点により何がもたらされるのか、これらを経済成長理論・景気循環理論を通じて理解することが本講義の主要な目的である。		1. 経済成長論の概説 2. 経済成長論 1 3. 経済成長論 2 4. 経済成長論 3 5. 経済発展と持続的成長 6. 経済格差と経済成長 7. 景気循環論の概説 8. 景気循環論 1 9. 景気循環論 2 10. 景気循環論 3 11. 経済政策と景気循環 12. まとめ 13. 練習問題の解説	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義でレジメを配布し教科書は特に指定しない。参考書は授業中に適宜紹介する。		学期末テストにより評価する。但し、講義中に 2 回程度のレポート提出を課し、この点数は学期末テストに加算される。	

01 年度以降	経済社会学 a	担当者	森永 卓郎
講義目的、講義概要		授業計画	
我々は一人ひとりがより豊かな暮らしをするために社会を作り、経済を発展させてきました。しかし、現実にはいまでも多くの人が貧困と抑圧に苦しんでいます。この講義では、なぜ資本主義社会がすべての人を幸せにできないのかを経済社会の歴史と日本の現状を踏まえて考えていきます。		1. ガイダンス 2. 人はなぜ「経済」を作ったのか 3. 資本主義と商品化の問題点 4. 共産主義社会の失敗と新自由主義の台頭 5. 日本の金融政策とデフレ 6. インフレターゲット政策の是非 7. 不良債権処理 8. 日本経済を襲うアメリカの影 9. 小泉構造改革の本質 10. ライブドア問題が残した課題 11. 外国人労働者と技能実習 12. 新しい反資本主義の動き 13. まとめ ※項目は確定ではありません	
テキスト、参考文献		評価方法	
ネット上で講義資料を公開します		試験	

01 年度以降	経済社会学 b	担当者	森永 卓郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、いま日本で一番問題になっている「格差社会」をキーワードに、日本の格差の実態をみていくとともに、日本の経済社会が将来どのように変化していくのかを考えていきます。		1. ガイダンス 2. 格差は拡大しているのか 3. 少子化はなぜ進むのか、格差と結婚 4. 格差と教育 5. 地域間格差 6. 格差と税制 7. 年金はどうなるのか 8. 年金の再分配機能 9. インターネットと社会構造 10. シングル化とオタクの発生 11. 萌え産業は日本の主力産業となるか 12. 新しい経済社会構造 13. まとめ ※項目は確定ではありません	
テキスト、参考文献		評価方法	
ネット上で講義資料を公開します		試験	

01 年度以降	計量経済学 a	担当者	藤山 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
自学自習ではなかなか理解できない，理論的な側面を重視して，統計学の基礎から計量経済学を解説してゆく。 春学期の目標は，計量経済学で最も基本的な考え方である，最小 2 乗法についてしっかり理解することと，秋学期で頻出する複数の確率変数の扱いに慣れることである。 数学的な予備知識は前提としない．強いていえば，足し算と引き算と掛け算と割り算ぐらいである．もちいる，数学的な概念も全て解説してゆく．したがって，進度はなるべくゆっくりとし，理解することの楽しさを求めてゆく． この授業で，計量経済学を学ぶ上での，基礎的な素養をつけ，その後は自らの力で伸びてゆけるようになること，これが，大きな意味での講義目標となる．		以下のトピックスを順次解説してゆく． 平均と分散 確率変数・期待値 データと確率変数の関係 確率変数の変換 平均・分散・確率変数の行列表現 行列を用いての確率変数の変換 最小 2 乗法（びったりと線を引く方法） 残差平方和の最小の仕方 行列の計算規則 行列の微分 逆行列 決定係数（モデルの当てはまりの良さについて） 2 変数における例	
テキスト、参考文献		評価方法	
藤山英樹『統計学からの計量経済学入門』昭和堂		授業内容の確認を目的としたレポート．授業中に課題を出したときにはそれも考慮します．	

01 年度以降	計量経済学 b	担当者	藤山 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期の目標は，第 1 に，確率モデルにおける最小 2 乗法の望ましい性質を確認することである．言い換えると，推定における望ましさを確認することとなる．第 2 に，検定の考え方を理解し，その具体的な方法をマスターする． 前期に引き続き，新たにもちいる数学的な概念も全て解説してゆく．したがって，進度はなるべくゆっくりとし，理解することの楽しさを求めてゆく． この授業で，計量経済学を学ぶ上での，基礎的な素養をつけ，その後は自らの力で伸びてゆけるようになること，これが，大きな意味での講義目標となる．		確率モデルについて（計量経済学で用いられるモデル） 最小 2 乗法と推定量（モデルをデータから明らかにする） 最小 2 乗法と不偏性（望ましい性質 1） 最小 2 乗法と BLUE（望ましい性質 2） 最小 2 乗法と正規分布（望ましい性質 3） F 検定について t 検定について その他のいろいろな推定の際の工夫．	
テキスト、参考文献		評価方法	
藤山英樹『統計学からの計量経済学入門』昭和堂		授業内容の確認を目的としたレポート．授業中に課題を出した時にはそれも考慮します．	

01 年度以降	経済政策論 a	担当者	阿部 正浩
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、法と経済に関する様々なトピックスについて講義をします。 日々様々な経済問題が司法の場で解決されています。たとえば、マンション景観問題や知的財産所有権の問題などですが、これらには法学と経済学の狭間に重要な問題をはらんでいると考えられています。この授業では、法と経済、および関連する諸政策を分析するための基礎的枠組みを講義します。 なお、この授業を履修する前提として、ミクロ経済学を既修していることが望ましい。		1. はじめに 2. 情報の経済学Ⅰ 3. 情報の経済学Ⅱ 4. 情報の経済学Ⅲ 5. モラルハザードⅠ 6. モラルハザードⅡ 7. モラルハザードⅢ 8. アドバースセクションⅠ 9. アドバースセクションⅡ 10. アドバースセクションⅢ 11. インセンティブ契約Ⅰ 12. インセンティブ契約Ⅱ 13. インセンティブ契約Ⅲ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に紹介する。		出席およびレポート、期末テストによる。	

01 年度以降	経済政策論 b	担当者	阿部 正浩
講義目的、講義概要		授業計画	
経済政策論(a)を参照のこと。 なお、経済政策論(a)を履修していることが望ましい。		1. 法と経済学入門 2. コミットメントと完備契約Ⅰ 3. コミットメントと完備契約Ⅱ 4. コミットメントと完備契約Ⅲ 5. 情報開示Ⅰ 6. 情報開示Ⅱ 7. 情報開示Ⅲ 8. 契約法の経済学Ⅰ 9. 契約法の経済学Ⅱ 10. 契約法の経済学Ⅲ 11. 不完備契約とコーポレート・ガバナンスⅠ 12. 不完備契約とコーポレート・ガバナンスⅡ 13. 不完備契約とコーポレート・ガバナンスⅢ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に紹介する。		出席およびレポート、期末テストによる。	

01 年度以降	経済開発論 a	担当者	千代浦 昌道
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>講義目的</u> 経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。		1 授業の進め方／参考文献・統計資料の紹介など 2 発展途上国の定義と分類 3 発展途上国の所得水準 4 A. センの貧困の定義と人間開発指標（HDI） 5 絶対的貧困と相対的貧困 6 人口増加と人口の都市集中問題 7 経済発展のモデル 8 教育と経済発展 9 社会・文化的条件と経済発展Ⅰ 10 社会・文化的条件と経済発展Ⅱ 11 民主主義と経済発展 12 ガバナンスと女性の果たす役割 13 発展途上国の環境問題	
<u>講義概要</u> 経済開発論の学問的位置づけ、発展途上国の現状・定義・分類、経済開発に関連する基礎知識の充実、発展途上国の貧困問題などを中心に講義する。講義の大部分はパワーポイントとビデオを使って行う。			
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：足立文彦『人間開発報告書を読む』古今書院、2006. M. P. トダロ、S. C. スミス『トダロとスミスの開発経済学』国際協力出版会、2004.		期末の定期試験による。随時に出欠をとり評価の参考資料とする。	

01 年度以降	経済開発論 b	担当者	千代浦 昌道
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>講義目的</u> 経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。		1 授業の進め方／参考文献・統計資料の紹介など 2 A. スミス以前の経済発展論 3 A. スミスの経済発展論 4 経済発展段階説の推移 5 人口と経済発展 6 自由貿易論と保護貿易論 7 雁行形態論とプロダクトサイクル論 8 輸入代替工業化と輸出促進工業化 9 シンガー＝プレビッシュ命題と新国際経済秩序 10 第二次大戦後の国際経済秩序とWTOの役割 11 外国直接投資と途上国経済 12 国際援助と発展途上国経済 13 発展途上国の債務問題	
<u>講義概要</u> 発展途上国と国際経済関係に関するテーマを中心に講義する。講義の大部分はパワーポイントとビデオを使って行う。			
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：高木保興『開発経済学』有斐閣、1992. 西垣昭、下村恭民『開発援助の経済学（新版）』有斐閣、1993.		期末の定期試験による。随時に出欠をとり評価の参考資料とする。	

01 年度以降	環境政策論 a	担当者	塩田 尚樹
講義目的、講義概要		授業計画	
地球温暖化問題のしくみと政策現場での議論について概観し、環境問題の自発的解決の困難さと公的機関による政策の必要性について経済学的に解説します。 まず代表的な環境問題の一つである地球温暖化を取り上げ、環境問題についての具体的なイメージを深めます。本年度は京都議定書以降の温暖化対策にも焦点を当てる予定です。 その後、多くの環境問題に共通する構造を抽象化し、非協力ゲーム理論を使って分析します。「われわれ一人ひとりにとって望ましい行動が社会にとって望ましい行動と一致しないため、自発的解決が期待できず、政策を講じる必要がある」という環境問題の特徴が、よく理解できると思います。 本学で開講されている「ミクロ経済学」、「公共経済学」、「環境経済学」などの科目を合わせて履修すると、相互に理解が深まると思います。強制ではありませんが、履修選択の際の参考にしてください。 なお、「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので、授業態度のよくない人は退出してもらいます。		1 授業のねらいと方針 2 地球温暖化のメカニズム 3 気候変動枠組条約 4 京都議定書 5 京都メカニズム 6 「バリ・ロードマップ」 7 日本の対応 8 環境問題のモデル化 9 個人の最適性と社会的最適性 10 『共有地の悲劇』 11 n 人モデルへの一般化 12 自発的協力の可能性 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
気候ネットワーク編（2002）『よくわかる地球温暖化問題（改訂版）』中央法規		定期試験で評価します。なお、講義中の私語などの迷惑行為で減点する場合があります。	

01 年度以降	環境政策論 b	担当者	塩田 尚樹
講義目的、講義概要		授業計画	
環境政策の手段の有効性について、ミクロ経済学の立場から考察します。環境問題の具体的なトピックとしては、主として地球温暖化問題を取り上げます。 環境税や排出量取引制度のような「経済的」手段が、固定的排出量割当などの「非経済的」手段と比べてどう優れているのが主要論点です。ミクロ経済学で学ぶ「資源配分の効率性」という概念が基礎になります。 まず、経済学で環境問題を取り扱う際に必ず登場する「ピグー税」と呼ばれる課税ルールのしくみとその限界について解説します。その後、実際の環境政策の現場で「経済的」な政策手段が支持される最大の根拠の一つとなっている汚染削減費用の最小化特性について検討します。 本学で開講されている「ミクロ経済学」、「公共経済学」、「環境経済学」などの科目を合わせて履修すると、相互に理解が深まると思います。強制ではありませんが、履修選択の際の参考にしてください。 なお、「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので、授業態度のよくない人は退出してもらいます。		1 授業のねらいと方針 2 環境問題の経済学的把握 3 利潤とその平均変化率 4 企業行動：利潤最大化 5 環境汚染の社会的費用とその平均変化率 6 市場均衡と社会的最適汚染量 7 単位税の企業行動への影響 8 ピグー税による社会的最適性の回復 9 ピグー税の難点 10 汚染削減費用とその最小化 11 ボーモル・オーツ税 12 排出量取引制度 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
塩田尚樹「環境税の経済学的基礎」（講義支援システムにより配布予定）		定期試験で評価します。なお、講義中の私語などの迷惑行為で減点する場合があります。	

01 年度以降	日本経済史 a	担当者	奈倉 文二
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、戦前（第二次大戦前）日本における独特の資本主義成立・発展過程を述べながら、とくに財閥などの大企業システムはどのように成立し、どのような特徴をもっていたのかを明らかにする。 国際環境との関連に留意しながら、日本資本主義の形成・確立及び独占資本確立過程を概観した上で、1920 年代を中心に「戦前日本型大企業システム」の特徴を明らかにし（全体構造及び財閥・紡績独占・国家資本の類型別）、さらに鉄鋼独占についてやや詳述する。 授業計画の項目・順序は一部変更することがあり得る。 〔注意〕毎週の講義前日までに講義資料を講義支援システムに入力しておくので、履修者は必ず事前に講義資料を入手して講義に臨むこと。		1 はじめに：日本の資本主義化と国際環境 2 幕末維新期の経済社会 3 （その 2） 4 日本資本主義の形成（1870～90 年代） 5 同（その 2） 6 産業資本の確立と帝国主義（1900 年代） 7 同（その 2） 8 独占資本の確立過程（1907 年頃～1920 年代） 9 同（その 2） 10 戦前日本型大企業システム（財閥・紡績独占・国家資本） 11 同（その 2） 12 鉄鋼独占 13 終わりに：本講義のねらいと結果	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：独自に作成する講義資料（上記参照）。 参考文献：石井寛治『日本経済史』東京大学出版会、大石嘉一郎『日本資本主義の歩み』同会、その他適宜指示する。		筆記試験	

01 年度以降	日本経済史 b	担当者	奈倉 文二
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、昭和恐慌・準戦時経済及び戦時経済から「戦後改革」を経て「高度成長」に至る日本資本主義の構造変化（とくに産業構造の変化）を述べながら、とりわけ日本独特の大企業システムがいかなる歴史過程のもとで、どのような特徴をもって形成されてきたのかを明らかにする。 授業計画の項目・順序は一部変更することがあり得る。 「日本経済史 a」の受講をしていることが講義内容理解の上で望ましい。 〔注意〕毎週の講義前日までに講義資料を講義支援システムに入力しておくので、履修者は必ず事前に講義資料を入手して講義に臨むこと。		1 はじめに：第二次大戦前後の国際環境と日本 2 金解禁と昭和恐慌 3 準戦時経済（1931～36） 4 旧財閥の転換と新興コンツェルン 5 戦時統制経済（1937～45）の特徴 6 戦時「重化学工業化」と独占資本 7 戦後改革と財閥解体（戦前・戦後の連続と断絶） 8 日本資本主義の復興・再建 9 企業集団の形成 10 日本経済の「高度成長」とそのメカニズム 11 産業構造高度化と鉄鋼独占 12 企業集団の発展・定着・変容 13 終わりに：本講義のねらいと結果	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：独自に作成する講義資料（上記参照）。 参考文献：山本・寺谷・奈倉『近代日本経済史』有斐閣、その他適宜指示する。		筆記試験	

01 年度以降	日本社会史 a	担当者	新井 孝重
講義目的、講義概要		授業計画	
全長 40 メートルの戦艦、炸裂する火薬兵器、降りそそぐ毒矢、異形の巨大軍隊モンゴル軍に打ちのめされた日本の武者達は、かつてないストレスに悩まされ、蔓延する恐怖の念は、全土を神仏頼りの祈祷列島に変えていく。幕府は直面する危機にどう対処したのか。そして、九州の武士は…。合戦死傷者のその後までを追う。 わが国の中世社会はモンゴル戦争を画期にして大きく変わる。この変化が歴史の発展であるのか、それとも単なる民族史的に日本人の性質が変わったにすぎないのか、日本の歴史学の中では大きな問題である。本講義ではこのことを念頭において、まずはモンゴル戦争（蒙古襲来）の実相に迫っていききたい。		① 授業の説明 ② モンゴル帝国の「世界」 ③ 「世界」の吸引力 ④ 「世界」に身構える日本 ⑤ 文永合戦・異なる戦争の作法 ⑥ 戦力の質的違い ⑦ 外征計画の挫折 ⑧ 日本の船は外征に耐えたか ⑨ モンゴル帝国の海上軍勢力 ⑩ イスラム商人が造った船 ⑪ 異国警固と石築地 ⑫ 有無を言わせぬ戦時統制 ⑬ モンゴル戦争期の社会状態	
テキスト、参考文献		評価方法	
新井孝重『蒙古襲来』吉川弘文館（07 年 4 月刊行予定）		テストの成績	

01 年度以降	日本社会史 b	担当者	新井 孝重
講義目的、講義概要		授業計画	
風濤に砕けるモンゴル艦船、合戦恩賞を要求する武士の訴訟、権力中枢に勃発するクーデタ、中世の日本は確実に不安と流動の時代へ入る。 春学期の講義をうけて秋学期では弘安合戦とそれ以降の、特に日本国内の社会様相を観察する。		① 授業の説明 ② クビライ、第二次遠征を命ずる ③ 艦船、激浪に覆没する ④ 三度目の外征計画、悪党を兵力に転用 ⑤ 武士の家、討ち死にによる相続争い ⑥ 刀創・矢傷の治療法 ⑦ 幕府はどのように武士の手柄を認めたか ⑧ 農村領主に「国家」はあったか ⑨ 弘安徳政の挫折、クーデタと肅清 ⑩ 祈祷の防衛体制、敵を囚にして祈り倒す ⑪ 「軍事」と「神事」の関係 ⑫ 時代の変わり目 ⑬ 帝国主義戦争撃退のパラドックス	
テキスト、参考文献		評価方法	
新井孝重『蒙古襲来』吉川弘文館（2007 年 4 月刊）		テストの成績	

01年度以降	西洋経済史 a	担当者	御園生 眞
講義目的、講義概要		授業計画	
現代経済の起点となった産業革命について、そのモデルの事例であるイギリス産業革命を対象とし、特徴と問題点を多面的に考える。 (注意) 最新のシラバスは第1回の授業で配布するので、履習者は必ず出席すること。なお、シラバスの予定は変更される場合がある。 定期試験を実施する。試験は持ち込み無し、論述問題でおこなう。 この講義は春学期、秋学期の順に履習することを前提としている。 教職の科目として履習する場合は、3年生で履習すること。出席は毎回とります。		1. ガイダンス。序論 産業革命とは何か？ 2. 産業革命の前提条件(1)農業の発展 3. 産業革命の前提条件(2)家内工業とプロト工業化 4. 工場制生産の出現：綿工業での技術革新 5. (同上) 6. 動力源の技術革新：蒸気機関 7. 製鉄業の技術革新 8. 輸送・交通の技術革新：鉄道の出現 9. 企業家と事業形態 10. (同上) 11. 外国貿易：イギリス産業革命と世界市場 12. イギリス産業革命の波及：後発国の産業革命 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回の授業で説明する。		単位認定の条件は、9回以上の出席と試験成績 60 点以上の両方を満たすこと。	

01年度以降	西洋経済史 b	担当者	御園生 眞
講義目的、講義概要		授業計画	
イギリスに遅れて産業革命を展開した後発諸国は、一方でイギリス産業革命をモデルとしながら、独自の産業革命を進展させた。秋学期では春学期での論議を基礎に、後発国の産業革命の特徴と問題点について、ヨーロッパ大陸諸国の事例を対象にして考える。 (注意) 春学期に同じ。		1. ガイダンス。序論 後発国の産業革命とは何か？ 2. 後発国の産業革命の前提条件 3. 同上 4. 同上 5. 後発国の産業革命の展開過程 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 後発国の産業革命の特徴と問題点 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

01 年度以降	国際経済論 a	担当者	益山 光央
講義目的、講義概要		授業計画	
国際経済を理解するのに最低限必要と思われる基本的な考えを講義します。その中心は貿易理論、国際貿易の一般均衡、貿易政策となります。講義で扱う内容は、よりすすんだ諸理論を学ぶのに必須の基礎的事項なので厳密な展開を心がけたいと思います。受講生には予習と復習を求めます。私語厳禁。		1 国際貿易概観 2 リカード的比較優位説 3 ヘクシャー・オリーン定理 4 ヘクシャー・オリーン定理 5 国際貿易の一般均衡 6 国際貿易の一般均衡 7 経済成長と貿易 8 国際資本移動と移民 9 国際資本移動と移民 10 関税・輸入数量制限 11 関税・輸入数量制限 12 輸入補助金と輸出自主規制 13 質問とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
大山道広・伊藤元重『国際貿易』 岩波書店		定期試験 80%、出席 20%	

01 年度以降	国際経済論 b	担当者	益山 光央
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に扱った貿易理論とともに国際経済学の大きな柱である国際収支調整メカニズムに関連する事柄を学びます。国際収支の赤字、黒字からはじまり、だんだんと高度な内容へと移行します。すべて基本的内容なので、きちんと理解する必要があります。 春学期の国際経済論 a を履修しているほうがより理解が深まります。私語厳禁。		1 国際収支と国民所得勘定 2 国際収支と国民所得勘定 3 外国為替市場 4 外国為替市場 5 外国為替市場 6 固定相場制下の所得決定 7 固定相場制下の所得決定 8 変動相場制下の所得決定 9 変動相場制下の所得決定 10 国際収支と財政・金融政策 11 国際資本移動と財政・金融政策 12 国際資本移動と財政・金融政策 13 質問とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		定期試験 80%、出席 20%	

01 年度以降	国際金融論 a	担当者	山本 美樹子
講義目的、講義概要		授業計画	
現実の国際金融的現象を理解する上で基本となる事項についての説明をしていく。 最低限の理論的な分析も含まれるが、あくまでも現実の経済現象を理解することを目標とする。 前半 12 コマは国際金融論の基本的な事項についての講義を進める。 講義はパワーポイントを使ってする。講義概略は学の講義支援システムを使い講義前に公開するので、必要な学生は各自プリントアウトすること。		1 インTRODクシヨン 2 国際収支の構造 1、国際収支表 2、経常収支が黒字であることの意味 3、経常収支の金融的側面 4、J カープ効果 3 外国為替市場と為替レート 1、外国為替相場 2、為替リスクのヘッジと金利平価説 3、投機 (1) 投機 (2) 4、政府による介入 4、外国為替決定の理論 1、購買力平価説 2、フローアプローチ	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定 講義時に参考書を提示		出席状態調査を兼ねた小テストと 学期末試験	

01 年度以降	国際金融論 b	担当者	山本 美樹子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に学んだことを基礎として、国際金融論にとって応用的なことを中心に講義する。 21 世紀にますます進展するだろう、リージョナリズムについては、春学期に私が研修で得た最新の知識で、東アジア経済、特に金融についての講義を進めたいと思っている。		5 固定相場制 1、金本位制 2、IMF のブレトンウッズ制度 6 開放マクロ経済政策 1、外国貿易乗数 2、固定相場制の開放マクロ経済政策 3、マンデルフレミングモデル 4、変動相場制の開放マクロ経済政策 5、国際政策協調 7 国際資本移動 1、国際資本取引の拡大 2、金融デリバティブ取引 (1) 8 リージョナリズムと国際通貨体制 1、欧州通貨統合 2、東アジアの通貨統合の可能性 9、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定 参考書は講義時に指示		出席状況調査を兼ねた小テストと 学期末試験	

01年度以降	日本経済論 a	担当者	波形 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
現在の日本経済を理解するには、その生い立ちを知っておくことが重要である。とりわけ高度成長期についての知識が不可欠である。そのため「日本経済論 a」では、高度成長期における日本経済の問題を中心に講義する。 なお、本講義は内容上、春期・秋期を通して聴講するのが望ましい。		1. はじめに 2. 戦後民主化政策と経済改革 3. 戦後経済復興対策 4. ドッジ・ラインとシャウプ勧告 5. 朝鮮戦争と日本経済 6. 高度成長時代の到来 7. 高度成長の構造 8. 高度成長の精神的土台 9. 高度成長の時代背景 10. 高度成長の終焉(1) ドル・ショック 11. 高度成長の終焉(2) オイル・ショック 12. 日本経済の構造転換 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
主に統計表などのプリントを配布。		学期末試験の結果（通年講義は春期・秋期の合計）で評価する。相対評価方法を採用。	

01年度以降	日本経済論 b	担当者	波形 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
1970年代後半から日本経済をめぐる内外の諸環境は大きく変化し、その結果として現在の日本経済がある。したがって「日本経済論 b」では、春学期の講義をふまえて、70年代後半からの日本経済の構造変化、その結果としてのバブル経済と「失われた10年」について論述し、そのうえで近年たたかわされた日本経済再建論議の当否、小泉内閣の構造改革の位置づけ、さらにその後の状況を検討したい。 なお、本講義は内容上、春期・秋期を通して聴講するのが望ましい。		1. はじめに 2. スタグフレーションとその原因 3. レーガノミクスとアメリカ経済 4. プラザ合意後の経済変化 5. バブル経済の発生とその原因 6. バブル経済の崩壊 7. 平成不況の特徴 ―複合不況― 8. 「失われた10年」とその意味 9. 景気対策か構造改革か(1) 10. 景気対策か構造改革か(2) 11. 小泉内閣の構造改革を問う(1) 12. 小泉内閣の構造改革を問う(2) 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春期と同じ。		春期と同じ。	

01 年度以降	アメリカ経済論 a	担当者	本田 浩邦
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期は 1920 年代から現在までの経済の発展過程を扱います。アメリカ経済の現代的な構造や機能は、1930 年代の大不況期から第二次世界大戦後にかけて形成されたものです。講義ではその過程を歴史的にフォローし、その中からどのような経済学的な考え方が生まれてきたのかを考えます。狭い意味での経済問題だけでなく、その背景をなす国際環境の変化、政治社会的な事件をも扱いますので現代史を学ぶつもりで聞いて下さい。 講義で出てくる専門的な用語や概念はその都度できるだけ説明しますが、経済用語辞典などで調べながら聞く習慣を身につけて下さい。また、欠席が多いと話が断片的になり脈絡がつかめませんので、継続的な出席をお願いします。		1. はじめに 2. 経済システムと経済学の諸類型Ⅰ—学説史 3. 経済システムと経済学の諸類型Ⅱ—市場と国家 4. 29 年恐慌とニューディールⅠ—発生と展開 5. 29 年恐慌とニューディールⅡ—実験的進化 6. 冷戦構造と戦後経済 7. 「ゆたかな社会」と「もう一つのアメリカ」 8. ヴェトナム戦争と公民権運動 9. ケインズ経済学—理論と政策 10. 新自由主義の経済学Ⅰ—マネタリズム 11. 新自由主義の経済学Ⅱ—保守派の経済政策論 12. 1990 年代以降—実体経済と金融 13. 農業セクター	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で直接は使いませんが、参考までに以下の文献を適宜読み進めて下さい。萩原伸次郎・中本悟編『現代アメリカ経済』日本評論社、2005 年		出席 50% 定期試験 50%	

01 年度以降	アメリカ経済論 b	担当者	本田 浩邦
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期は現在のアメリカの抱えるいくつかの経済問題に焦点をあてて考察します。アメリカの経常収支問題や経済論争の帰趨は、アメリカはもとより世界のどの国・地域の経済にとっても多大なインパクトをもっていますが、逆に、国際的な条件がアメリカの経済構造や経済政策のあり方を大きく規定してもあります。したがってアメリカ経済の位置をグローバルな国際的文脈のなかでとらえることによって、その意義をより明瞭に把握できるはずです。全体を通じて、アメリカの経済モデルの普遍性と特殊性について考えたいと思います。 春学期と同様、継続的な出席をお願いします。		1. 大統領選挙と経済政策をめぐる論争 2. 所得格差と貧困 3. 家計部門の構造 4. 連邦財政赤字 5. 経常収支赤字の持続可能性 6. 労働市場Ⅰ—構造と機能 7. 労働市場Ⅱ—失業の特徴 8. 国際比較Ⅰ—イギリスとドイツ 9. 国際比較Ⅱ—スウェーデンとオランダ 10. 国際比較Ⅲ—農業セクター 11. 日米経済関係Ⅰ—貿易摩擦 12. 日米経済関係Ⅱ—通貨協調 13. 公正な経済改革のための代替政策	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で直接は使いませんが、参考までに以下の文献を適宜読み進めて下さい。萩原伸次郎・中本悟編『現代アメリカ経済』日本評論社、2005 年		出席 50% 定期試験 50%	

01 年度以降	ラテンアメリカ経済論 a	担当者	松本 栄次
講義目的、講義概要		授業計画	
自然的基盤、歴史的背景、政治的社会的特性などの分析の上に立って、ラテンアメリカ全域の経済の特性について多面的に考察する。 ラテンアメリカ経済の特徴に関係する自然的基盤と歴史的背景などについて概観したうえで、ラテンアメリカ経済の発展過程を通覧する。さらに、変革期にある現代のラテンアメリカ経済の状況、およびこの地域の社会・経済が抱える諸問題とその将来展望について考察する。		1 ラテンアメリカにおける最近の経済トピックス 2 ラテンアメリカ（以下LA）地域の国々 3 LAの住民・社会・政治の特徴 4 LA経済の自然的基盤(1)土地条件と地下資源 5 LA経済の自然的基盤(2)農牧林業環境 6 LA経済の歴史的背景 7 LA経済の発展過程(1)植民地期の経済 8 LA経済の発展過程(2)輸出経済期の経済 9 LA経済の発展過程(3)輸入代替工業化期の経済 10 現代のLA経済(1)債務危機と「失われた10年」 11 現代のLA経済(2)新自由主義経済とラテンアメリカ 12 LA主要国のマクロ経済 13 LA経済と日本	
テキスト、参考文献		評価方法	
国本伊代・中川文雄『ラテンアメリカ研究への招待（改訂新版）』新評論、2005年。		定期試験の成績と出席状況を総合して行う	

01 年度以降	ラテンアメリカ経済論 b	担当者	松本 栄次
講義目的、講義概要		授業計画	
自然的基盤、歴史的背景、政治的社会的特性などの分析の上に立って、多面的に、国および地方レベルの地域経済について考察する。 おもに、ラテンアメリカ経済の一つの中核をなすブラジルをとりあげ、その特色のある産業経済の発展過程および諸地域における経済活動の特質を考察し、同国の経済発展の現状と問題点を指摘する。また、アマゾン川流域地域（アマゾニア）を事例として、その自然環境・住民と社会・地域経済の特性、および国際的関心の高い経済開発と環境保全の調和の問題について考察する。		1 現代ラテンアメリカ経済とブラジル 2 現代のブラジル経済と社会 3 ブラジルの諸地域と地域格差(1)先進地域 4 ブラジルの諸地域と地域格差(2)発展途上地域 5 ブラジル産業史の特質：ブーム&バーストのサイクル 6 ブーム&バースト地域の現在と将来 7 ブラジルの地下資源とその開発 8 アマゾニアの生態と環境 9 アマゾニアの居住・開発の歴史 10 アマゾニア地域開発と問題点 11 アマゾニアにおける開発と環境の問題 12 アマゾニアにおける経済開発と生態系保全調和の道 13 おわりに：ブラジル経済と日本	
テキスト、参考文献		評価方法	
小池洋一他編『現代ブラジル事典』新評論、2005年。 グールディング他著（山本・松本訳）『恵みの洪水ーアマゾン沿岸の生態と経済』 同時代社、2001年。		定期試験の成績と出席状況を総合して行う	

01 年度以降	西ヨーロッパ経済論 a	担当者	大西 健夫
講義目的、講義概要		授業計画	
EU は、ヨーロッパ全域に拡大を続けるとともに、ユーロは国際通貨としてその地位を確立した。EU は、西ヨーロッパのみならず東欧・中欧に広がる世界最大の地域経済共同体を形成している。この意味で、「西」ヨーロッパ経済という用語は意味を失っている。 この授業では、先ず、地域経済統合の意味を理解するため、世界経済秩序を概説し、そこにおける地域経済統合の位置付けをNAFTA, AFTA, EUなどを例として解説する。 その上で、世界経済における EU 経済の位置付け、その発展と構造を分析し、EU および加盟国経済が抱える諸問題を説明する。 授業レジメは下記参照のこと。 <u>YdainetYdohnishi</u> ここから“Europe A”		1. 戦後世界経済秩序の形成 2. ヨーロッパ経済の形成 3. 国際貿易秩序、WTO における EU 4. 国際決済秩序、IMF における EU 5. 世界の地域経済統合における EU 6. 貿易取引と地域経済統合 7. 国際収支表にみるヨーロッパ経済 8. ヨーロッパの産業構造 9. ヨーロッパの主要企業 10. ヨーロッパの雇用問題 11. ヨーロッパの金融市場 12. EU における経済統合 13. EU における通貨統合	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示する。		期末に論文形式での試験を行い、評価する	

01 年度以降	西ヨーロッパ経済論 b	担当者	大西 健夫
講義目的、講義概要		授業計画	
自由貿易協定 FTA の段階にある NAFTA や AFTA と比べ、EU は、共同市場であり、西ヨーロッパのみならず東欧・中欧に広がる世界最大の地域経済共同体である。この授業は、ヨーロッパの経済安全保障体制として発足した石炭鉄鋼共同体が地域経済共同体へと発展していく過程を概観し、単一通貨ユーロ導入により超国家的金融政策の一元化にまで進展した EU の構造と機能を解説する。 先ず、EC から EU までの統合過程を概説し、さらに、共同市場の拡大と深化がヨーロッパ経済を活性化してゆくメカニズムを分析する。 そして、単一通貨ユーロの導入と通貨同盟のメカニズムと今後の課題、拡大 EU 経済の可能性とその問題点を分析する。 授業レジメは下記参照のこと。 <u>YdainetYdohnishi</u> ここから“Europe B”		1. 戦後世界経済秩序の形成 2. ヨーロッパ経済の形成 3. ヨーロッパ統合の理念 4. 石炭鉄鋼共同体 5. 関税同盟と共通政策 6. 域内貿易の進展 7. 単一欧州議定書と共同市場の完成 8. マーストリヒト条約による EU 9. 経済・通貨同盟 10. EU の組織機構 11. EU の法的地位 12. EU の拡大と深化 13. 世界の地域統合における EU	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示する		期末に論文形式での試験を行い、評価する	

01 年度以降	東アジア・中国経済論 a	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
近年東アジアの急速な発展と域内諸国の相互依存関係の強化によって、東アジアは世界経済を牽引する存在になったと言われている。なかでも中国経済の動向は 21 世紀の世界経済の新たな秩序を左右する最大のファクターの一つである。この授業では東アジア全体に目を配りつつ、中国経済を中心に考察する。 日本もまた東アジアにあって、この地域の諸国と相互に密接な関係をもっている。本科目の履修を通じて、この地域のあり方に関心を向けてもらいたい。 この授業では中国経済の歴史、発展可能性などについて 1970 年代末から始まった改革・開放を中心に講義を進めていきたい。		1 中国経済の全般的な動向 (1) 2 中国経済の全般的な動向 (2) 3 世界の工場か、世界の市場か? (1) 4 世界の工場か、世界の市場か? (2) 5 社会主義市場経済とは何か? (1) 6 社会主義市場経済とは何か? (2) 7 メイド・イン・チャイナは世界市場を席捲するか? (1) 8 メイド・イン・チャイナは世界市場を席捲するか? (2) 9 国有企業改革はどこまで進んだか? (1) 10 国有企業改革はどこまで進んだか? (2) 11 農村はいかに変化したか? (1) 12 農村はいかに変化したか? (2) 13 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門第 2 版』日本評論社、2005 年。 その他必要に応じて資料を配布する。		出席状況と筆記試験によって評価する。	

01 年度以降	東アジア・中国経済論 b	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
中国経済の発展をめぐる内的な課題と、対外貿易の発展、外資導入などの経済成長への役割、近年中国の台頭による東アジア経済の再編について論じていく。 貿易と投資を通じて急速に緊密化している日中経済関係の現状と今後のあり方についても考察する。また東アジアにおける経済統合の実現可能性も取り上げる。 東アジア・中国経済論 a を履修し、中国の経済発展メカニズムの基本を把握していることが望ましい。		1 失業率は本当に低いのか? 2 金融は中国経済のアキレス腱か? 3 輸出は成長のエンジンか? (1) 4 輸出は成長のエンジンか? (2) 5 外資は何をもたらしたか? (1) 6 外資は何をもたらしたか? (2) 7 中国は国際社会にとって脅威か? 8 日中関係はいかにあるべきか? 9 持続成長は可能か? (1) 10 持続成長は可能か? (2) 11 成長の果実は誰の手に? 12 21 世紀における東アジア経済と中国経済 13 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門第 2 版』日本評論社、2005 年。 その他必要に応じて資料を配布する。		出席状況と筆記試験によって評価する。	

01 年度以降	オセアニア経済論 a	担当者	森 健
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、オーストラリアを中心に上げる。但し、オーストラリアとの関連で、他のアジア太平洋諸国についても言及する。近年、オーストラリアは、先進国の中でトップクラスの好調な経済運営を続ける国、自国およびアジア太平洋地域の貿易・投資の自由化に熱心な国、さらに、自国の多文化社会化に努め、世界で最も人気の高い移住先および留学先として知られている。しかし、この国は 70 年代中期から 80 年代にかけては、経済パフォーマンスの最も悪い国の一つであった。また、かつては、名だたる保護貿易主義国、アジア人を含む有色人種移民を排除する人種差別国家であった。オーストラリアがこのような政策転換を行った理由は何か。新政策はどのような影響をオーストラリアに及ぼしているのか。この講義では、このような課題について、春秋期を通じて、分野別に説明する。		1 講義の目的、地域研究の意義、中高生用ビデオ教材によるオーストラリア社会概観 2 総論：オーストラリア社会構造変化の流れ（1） 3 総論：オーストラリア社会構造変化の流れ（2） 4 平等主義、仲間主義の起源 5 金発見、高度成長と 1890 年代恐慌 6 戦争と国家・国民意識の形成 7 アボリジニ 8 白豪主義の終焉と多文化主義社会化 9 反多文化主義と現況 10 女性の社会進出と少子高齢化 11 法律の特色、司法制度、マボ判決の意義 12 政治制度 13 （予備日）	
テキスト、参考文献		受講条件・評価方法	
竹田いさみ・森健・永野隆行編『新版オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年 9 月およびプリント。		受講条件：b も受講すること。 評価方法：定期試験。感想文提出を求める場合もある。	

01 年度以降	オセアニア経済論 b	担当者	森 健
講義目的、講義概要		授業計画	
（春期の講義を受講していることを前提として講義を進めるので、秋季に初めて受講する場合はテキストの前半部分に眼を通しておくこと。講義目的と概要については春期の欄を参照。）		1 春期の復習を兼ねたオーストラリア歴史概観 2 外交：冷戦時代の政策 3 外交政策（安保体制、国連外交） 4 アジア太平洋政策と日米の位置 5 経済構造の特色と変化 6 1970 年代以前の主要政策体系 7 70 年代の経済困難と金融財政政策 8 ホーク・キーティング労働党政権の政策 9 ハワード政権の政策とラッド政権の政策 10 貿易構造と体内・対外投資 11 日豪関係（1） 12 日豪関係（2） 13 （予備日）	
テキスト、参考文献		評価方法	
（春期と同じ）		（春期に準ずる）	

01 年度以降	アフリカ経済論 a	担当者	千代浦 昌道
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>講義目的</u> 世界の中でも現在経済的にもっとも停滞しているとされるアフリカ地域を、経済面のみならず政治・社会・文化面からも多角的に捉えて、まずこの地域に関する正確な知識により歴史と現状を十分に把握し正しく理解した後に、経済問題を中心とする現在のさまざまな問題の解決へ向けて、世界の国々に、とりわけ日本などを中心とする先進諸国がどのような関わりを持つことができ、またどのような関わりを持つのが望ましいかを探る。		1 授業の進め方、参考文献の紹介など 2 アフリカ概観Ⅰ 3 アフリカ概観Ⅱ 4 アフリカ概観Ⅲ 5 アフリカ概観Ⅳ 6 現代アフリカ経済の歴史的背景Ⅰ 7 現代アフリカ経済の歴史的背景Ⅱ 8 現代アフリカ経済の歴史的背景Ⅲ 9 現代アフリカ経済の歴史的背景Ⅳ 10 アフリカ経済の現状Ⅰ 11 アフリカ経済の現状Ⅱ 12 アフリカ経済の現状Ⅲ 13 アフリカ経済の現状Ⅳ	
<u>講義概要</u> アフリカ大陸の全体像、アフリカ経済の歴史的背景に次いで、第二次大戦後に独立を迎えたアフリカ諸国の経済発展と経済の現状について講義する。講義の大部分はパワーポイントとビデオを使って行う。			
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：小田英郎他著『アフリカ 第2版』自由国民社、1999. 宮本正興、松田素二編『新書アフリカ史』（講談社現代新書）、1997.		期末試験による。随時に出欠をとり、評価の参考資料とする。	

01 年度以降	アフリカ経済論 b	担当者	千代浦 昌道
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>講義目的</u> アフリカ経済論 a と同じ。		1 アフリカの経済発展 2 アフリカの貿易問題 3 アフリカの農業・食糧問題 4 アフリカの資源問題 5 アフリカの人口問題 6 アフリカの都市問題 7 アフリカの難民問題 8 アフリカの環境問題 9 対アフリカ援助と国際協力の現状Ⅰ 10 対アフリカ援助と国際協力の現状Ⅱ 11 アフリカの地域経済統合 12 AU（アフリカ連合）とNEPAD 13 アフリカの経済発展と日本	
<u>講義概要</u> アフリカ地域についての最重要課題である経済発展、貿易、農業・食糧、資源、人口、都市、難民、環境、援助と国際協力、地域統合、アフリカ連合とNEPAD、日本との関係等についてテーマ別に講義する。講義の大部分はパワーポイントを使って行う。ほぼ毎回、講義内容に関連するビデオを上映して、アフリカ経済・社会の現状を教室で実感してもらう。			
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：『アフリカを知る事典 改訂版』平凡社、1999. 北川勝彦、高橋基樹編『アフリカ経済論』、ミネルヴァ書房、2004.		期末試験による。随時に出欠をとり、評価の参考資料とする。	

01 年度以降	中東経済論 a	担当者	平井 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 最近の中東は、一方ではアフガニスタン、イラク、パレスチナに見られる戦争・紛争、テロ、難民そして貧困が、他方ではドバイ等湾岸諸国に見られるオイル・マネーを梃子にした空前の開発ブームが特徴となっており、中東としてひとくくりにできない複雑でアンバランスな様相を呈している。そこで、本講では、石油を軸に第1次世界大戦戦後処理から現在のグローバル化時代に至る中東政治経済1世紀の軌跡をたどる試みを行う。 講義概要 春学期には、第1次世界大戦戦後処理から90年代半ばまでの時期をカバーする。英米等西側による中東石油支配を軸に諸事件・出来事の意味を解明するとともに、中東諸国における政治経済の変化をダイナミックにとらえる。 授業計画に従い、ほぼ毎週講師作成のプリントを配布し、それをテキストとする。折に触れビデオを観たり、参考文献を紹介したりする。途中でレポート提出あり。出席は毎回取る。		1 講義目的、概要についての説明。参考文献紹介 2 中東についての基礎知識 3 現代中東のスタート：第1次世界大戦戦後処理（サンレモ協定）、キルクーク油田確保を狙った英、幻のクルド国家、パレスチナ問題の起源 4 オイル・メジャーズの独壇場、米のサウジ独占 5 第2次世界大戦と中東、イスラエルの誕生 6 アラブ諸国独立時代：パン・アラビズムの顛末と4次にわたる中東戦争 7 イラン石油闘争と米 CIA の画策 8 OPEC 時代の到来、西側世界を震撼させたオイル危機 パレスチナ人民の民族的権利承認 9 オイル・ブームとアラブ世界再編成、イラン・イスラム革命 10 欧米の巻き返し戦略：石油価格の国際市場原理化 11 イラン、イラク戦争、湾岸戦争：米の狙い 12 中東和平プロセス：オスロ合意の顛末 13 春学期まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
平井作成プリント マイケル・クレア『血と油—アメリカの石油獲得戦争』、NHK 出版、2004		出席、レポートおよび定期試験による	

01 年度以降	中東経済論 b	担当者	平井 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 上記とおなじ。 講義概要 秋学期は90年代半ばに始まるいわゆる「IT 革命とグローバル化」の時代以後の中東経済について、湾岸諸国、とりわけアラブ首長国連邦のドバイの開発・経済成長をオイル・マネーの流入という背景とともに講義する。 最近の TV 番組の VTR を 5、6 本観ながら、オイル・マネーを呼び込んで空前の開発ブームに沸くドバイや苦悩する石油大国サウジアラビアの実像に触れる。参考文献に示す『グローバリゼーションとガルフ』の一部を翻訳したプリントをテキストに、より理論的なアプローチを試みる。 また、トルコとエジプトにおける穏健なイスラミストたちからなる新しいビジネスの発展についての VTR を見ることで、イスラム復興とグローバル化との関係についてより深く認識する。最後に、アメリカによるイラク戦争の目的と結果を示す VTR を鑑賞する。途中でレポート提出あり。出席は毎回取る。		1 講義目的、概要についての説明。参考文献紹介 2 グローバル化とは何か。「9.11 事件」以後の中東 3 VTR「イスラムの挑戦～13 億の民はどこへ～」鑑賞 4 同 VTR についての解説： エジプト、ドバイに見られる最近の社会経済変化をイスラム復興およびグローバル化という観点から捉える 5 VTR「膨張するオイル・マネー① 巨大資金の流れが変わる」鑑賞 6 同 VTR についての解説と湾岸のグローバル化について：ドバイの新しい経済発展を 9.11 以後のオイル・マネーの流れとの関連でみる 7 VTR「サウジアラビア～石油大国の光と影～」鑑賞 8 同 VTR についての解説：一方で働く意欲を持たない青年が、他方で、ジハードのためにイラクに出かける青年が出現していることの苦悩 9 VTR「原油高騰」鑑賞：投機対象化された石油 10 VTR「変わるトルコのビジネス界」鑑賞 11 VTR「イラク分裂の危機～始まった石油争奪戦～」 12 秋学期まとめ 13 予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
平井作成プリント Ed. by J. Fox et al, <i>Globalization and the Gulf</i>, Routledge, 2006		出席、レポートおよび定期試験による	

01年度以降	金融経済論 a	担当者	斉藤 美彦
講義目的、講義概要		授業計画	
(目的) 金融の基礎を理解し、金融に関連した新聞記事が読め、議論ができるようになるということを目的とする。 (概要) 講義は、まずマネーと銀行業との関わり、すなわちマクロ的に貨幣供給はどのように行われているかについての解説からはじめる、そして銀行業による貨幣供給と決済システムとの関わりについても解説する。そのあとに金融におけるフローとストック、金融取引における金利の役割等について解説する。		1. インTRODakション：銀行は特別な存在か？ 2. マネー（貨幣）と銀行業（1） 3. マネー（貨幣）と銀行業（2） 4. マネー（貨幣）と銀行業（3） 5. マネー（貨幣）と銀行業（4） 6. 金融のフローとストック（1） 7. 金融のフローとストック（2） 8. 金融のフローとストック（3） 9. 金融のフローとストック（4） 10. 金利・資産価格・利回り（1） 11. 金利・資産価格・利回り（2） 12. 金利・資産価格・利回り（3） 13. 金利・資産価格・利回り（4）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：辻信二『新版 金融と銀行』学文社、1995年。		期末試験、レポートによる。	

01年度以降	金融経済論 b	担当者	斉藤 美彦
講義目的、講義概要		授業計画	
(目的) 金融政策、国際金融、現下の金融問題等についての議論を理解でき、自分なりの見解を持つことができるようになることを目的とする。 (概要) 近年の中央銀行の金融調節方式の変化を踏まえた上で、金融政策の基本から実際の中央銀行の金融政策運営についてまで講義を行う。その後に国際金融の基本、近年の金融に関する諸問題等を幅広く解説する。		1. INTRODUCTION：近年の中央銀行の金融調節方式 2. 中央銀行の役割（1） 3. 中央銀行の役割（2） 4. 中央銀行の役割（3） 5. 中央銀行の役割（4） 6. 中央銀行の役割（5） 7. 金融の国際的側面（1） 8. 金融の国際的側面（2） 9. 近年の金融状況・銀行経営（1） 10. 近年の金融状況・銀行経営（2） 11. 近年の金融状況・銀行経営（3） 12. 近年の金融状況・銀行経営（4） 13. 近年の金融状況・銀行経営（5）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：辻信二『新版 金融と銀行』学文社、1995年。および斉藤美彦『金融自由化と金融政策・銀行行動』日本経済評論社、2006年。		期末試験、レポートによる。	

01年度以降	金融システム論 a	担当者	斉藤 美彦
講義目的、講義概要		授業計画	
世界各国の金融システムは歴史的条件等からそれぞれ個性的なものとして発展してきた。ただし近年はグローバリゼーションの進展によりその差異は縮小しつつある。講義では戦後日本の金融システムの特徴につき解説した後に近年の自由化等について解説する。		1. イントロダクション：戦後金融規制の3本柱 2. 日本の金融機関（1） 3. 日本の金融機関（2） 4. 日本の金融機関（3） 5. 日本の金融機関（4） 6. 金融自由化の進展と金融機関（1） 7. 金融自由化の進展と金融機関（2） 8. 金融自由化の進展と金融機関（3） 9. バブルの形成・崩壊と金融機関（1） 10. バブルの形成・崩壊と金融機関（2） 11. バブルの形成・崩壊と金融機関（3） 12. 金融における新潮流（1） 13. 金融における新潮流（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：斉藤美彦『金融自由化と金融政策・銀行行動』日本経済評論社、2006年。		期末試験、レポートによる。	

01年度以降	金融システム論 b	担当者	斉藤 美彦
講義目的、講義概要		授業計画	
世界各国の金融システムを理解することは日本の金融システムを理解する上でも重要なことである。講義では近代的な金融システムの発祥の地であるイギリスの金融システムについて解説した後に大陸ヨーロッパ、アメリカ等の金融システムについて解説する。		1. イントロダクション：グローバリゼーションの進展と金融システム 2. イギリスの金融システム（1） 3. イギリスの金融システム（2） 4. イギリスの金融システム（3） 5. イギリスの金融システム（4） 6. イギリスの金融システム（5） 7. 欧州通貨統合 8. 大陸ヨーロッパ諸国の金融システム（1） 9. 大陸ヨーロッパ諸国の金融システム（2） 10. アメリカの金融システム（1） 11. アメリカの金融システム（2） 12. アジア諸国の金融システム（1） 13. アジア諸国の金融システム（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：なし 参考文献：斉藤美彦『イギリスの貯蓄金融機関と機関投資家』日本経済評論社、1999年。他は講義中に紹介する。		期末試験、レポートによる。	

01 年度以降	財政学 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 本講義では、財政赤字、税制改革、年金改革、公共事業といったわが国の財政問題を考えていく際の手掛かりとなるように財政学の基礎的事項について概説する。本講の受講を通じて、財政の基礎的な制度とその機能について理解を深め、現実の財政問題について自分なりに考える力を身につけてほしい。		1. 財政とは何か 2. 財政学とその変遷 3. 資源配分の調整機能 4. 財政と所得再分配 5. 財政政策の理論① 6. 財政政策の理論② 7. 公共財の理論① 8. 公共財の理論② 9. 補助金の効果 10. わが国財政の現状 11. 公債の制度と理論 12. 公的高齢年金① 13. 公的高齢年金②	
講義概要 前期は、どちらかと言えば政府の支出活動面に重点を置きながら、財政の機能とわが国財政の現状、公共支出に関する理論、政府債務の問題、公的年金問題等について解説する。後期は、政府収入の中で最も重要な租税に関する議論（租税理論、制度、税制改革論等）に焦点を絞って授業を進める。			
受講者への要望 受講生は新聞などを通じてできるだけ財政制度改革、税制改正の動向についてフォローし、わが国の財政に関する問題意識を高めてほしい。なお、受講のためにはミクロ経済学の基礎的知識を習得していることが望ましい。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 里中恆志・八巻節夫『新財政学』文眞堂 参考書 『図説日本の財政』、『図説日本の税制』		定期試験の成績で評価する。 出席は考慮しない。	

01 年度以降	財政学 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
(財政学 a 参照)		1. 租税の意義と根拠 2. 租税の基礎的概念 3. 課税の公平性 4. 課税の中立性 5. 租税の転嫁と帰着 6. 包括的所得税論 7. 支出税と最適課税の考え方 8. 二元的所得税の考え方 9. 個人所得課税 10. 法人所得課税 11. 間接消費課税 12. 資産課税 13. グローバル化と課税	
テキスト、参考文献		評価方法	
(財政学 a 参照)		(財政学 a 参照)	

01 年度以降	公共経済学 a	担当者	伊藤 爲一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
わたしたちの日々の生活は公共部門の活動によって支えられています。上下水道、ゴミ処理、教育、福祉、警察、外交、国防などさまざまな公共サービスの恩恵を受けています。 こうした公共サービスは国民が支払った税金によって支えられています。受益と負担についてもっと関心を寄せることを求められています。 公共部門と民間部門の経済活動とはどのような関係があるのか、公的規制はどうあるべきか、公共部門の活動を活性化するにはどのように対応するべきか。 経済の発展とともに公共部門の活動領域は量的にも質的にも大きく変動してきました。その歴史的変遷をたどりながら、現代の公共部門の諸活動の特徴を明らかにします。		はじめに 生活と公共サービス 生産と公共サービス 消費と公共サービス 公共部門と市場の関係 市場の失敗をめぐる議論 公共部門とは。 公共部門の失敗をめぐる議論 公共部門存在の理由 公共部門の活動領域の拡大 生産と生活の社会化の進展 公共政策の展開 公共政策の多様化と総合性 主体の多様化 中央政府と地方政府 分権の推進力 公共部門の新しい課題 グローバル化 守備範囲の再検討	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義中文献の紹介をし、関連するプリントを配布します。		期末テストおよび小テストの成績により評価します。	

01 年度以降	公共経済学 b	担当者	伊藤 爲一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
わたしたちの日々の生活は公共部門の活動によって支えられています。上下水道、ゴミ処理、教育、福祉、警察、外交、国防などさまざまな公共サービスの恩恵を受けています。 こうした公共サービスは国民が支払った税金によって支えられています。受益と負担についてもっと関心を寄せることを求められています。 公共部門と民間部門の経済活動とはどのような関係があるのか、公的規制はどうあるべきか、公共部門の活動を活性化するにはどのように対応するべきか。 経済の発展とともに公共部門の活動領域は量的にも質的にも大きく変動してきました。その歴史的変遷をたどりながら、現代の公共部門の諸活動の特徴を明らかにします。		はじめに 財政の現状と課題 文献紹介 租税国家の危機 公債の累増 公共サービスの供給と財源調達 なぜ租税が必要か 公平な租税とは 租税原則と租税配分 わが国の租税構造の変遷とその特徴 所得に課せられる税 消費に課せられる税 資産に課せられる税 少子高齢化社会の到来と財政 少子化対策と年金 地方財政の発展 地域の経済的自立と発展 経済再生と財政改革	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義中文献の紹介をし、関連するプリントを配布します。		期末テストおよび小テストの成績により評価します。	

01 年度以降	地方財政論 a	担当者	伊藤 爲一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
地方財政は「行政のデパート」といわれるように、義務教育、警察、消防、上・下水道、商工政策のような地域振興政策、まちづくり等多様な公共サービスを供給しています。 こうした公共サービスは市民が働いて得た所得から支払われた税金で賄われていますから「受益と負担」について納税者はもっと関心を寄せることが求められています。 地方公共団体のこのような活動を金銭面からとらえたものが地方財政です。」住民の日常生活と密接に関連している地方財政の役割を明らかにすることが目標です。 自然条件、地理的要因、産業構造、人口構成等が多様な自治体がそれぞれの資源を有効に活用して、自立して生きていくことができるように知恵と工夫を凝らすことをもとめられています。		はじめに 文献紹介 地方財政の現状 地方政府と中央政府 経済の発展と地方財政の機能の拡大 地方財政の国際比較 地方財政の多様性 地方分権の推進・町村合併 機関委任事務の廃止 地方税・財源の改革をめぐる議論 地方財政の課題	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義の中で紹介します		期末テスト及び中間での小テストの成績により評価します	

01 年度以降	地方財政論 b	担当者	伊藤 爲一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
地方財政は「行政のデパート」といわれるように、義務教育、警察、消防、上・下水道、商工政策のような地域振興政策、まちづくり等多様な公共サービスを供給しています。 こうした公共サービスは市民が働いて得た所得から支払われた税金で賄われていますから「受益と負担」について納税者はもっと関心を寄せることが求められています。 地方公共団体のこのような活動を金銭面からとらえたものが地方財政です。」住民の日常生活と密接に関連している地方財政の役割を明らかにすることが目標です。 自然条件、地理的要因、産業構造、人口構成等が多様な自治体がそれぞれの資源を有効に活用して、地域が活力を持って自立して生きていくことができるように知恵と工夫を凝らすことをもとめられています。		はじめに 地方財政の状況 地方政府サービスと財源 財源配分をめぐる対立の歴史 地方税 地方財政調整制度 地方交付税制度 国庫支出金制度 地方債制度 地方分権の推進 地方におけるまちづくり 地方自治と行財政改革	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義の中で紹介します		期末テスト及び中間での小テストの成績により評価します	

01 年度以降	環境経済学 a	担当者	浜本 光紹
講義目的、講義概要		授業計画	
近年の環境問題の深刻化とともに、環境保全と経済活動の調和を求めて、新たな社会経済システムの構築への模索が試みられている。本講義では、経済学の立場から、環境破壊が進行する要因を検討し、環境保全型社会経済システムの構築のために環境政策はどのように設計される必要があるのかについて考えていく。 「環境経済学 a」では、環境経済学の理論的基礎、環境資源の貨幣的評価とその手法、および環境問題の解決において司法や行政が果たす役割について講義を行なう。		1 インTRODakション…環境経済学がいかなる分析視点から環境問題を考察するのかについて解説する。 2 費用便益分析…環境と開発をめぐる問題における費用便益分析の意義・限界について考察する。 3 環境評価手法…経済理論に則った環境価値の評価手法の意義と限界について考察する。 4 環境問題の調整のあり方と環境政策…環境問題の調整において司法や行政が果たす役割について理論的に検討する。 注：以上の4つのテーマはそれぞれ2～4回の講義にわたって解説が行なわれる。また、参考文献については講義中に適宜指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
バリー・C・フィールド『環境経済学入門』日本評論社 細田衛士・横山彰『環境経済学』有斐閣 および講義中に配布するプリント		定期試験による。	

01 年度以降	環境経済学 b	担当者	浜本 光紹
講義目的、講義概要		授業計画	
「環境経済学 b」では、日本や米国、欧州における現実の環境政策の諸事例を検討しながら、地球温暖化に代表されるような地球環境問題に対処するための環境政策の設計はいかにあるべきかということに関する政策的含意を導き出していく。 この講義は、環境経済学 a の講義内容を前提として行なわれるので、これを既習のうえで受講することが望ましい。		1 環境政策の基礎理論…直接規制、環境税、排出権取引といった環境政策手段の機能について、ミクロ経済学の観点から考察する。 2 米国の環境政策…米国の酸性雨対策において導入されている二酸化硫黄排出許可証取引制度について検討する。 3 地球温暖化…地球温暖化をめぐる国際的取り組みの経緯を解説し、京都議定書の構造および京都メカニズムの課題について検討する。 4 環境税制改革…欧州における環境税導入の事例を検討しながら環境保全型社会経済システムの構築に向けた税体系のあり方を考察する。 5 廃棄物とリサイクルの経済分析…近年法制化が進むリサイクル関連法を題材に、循環型社会のあり方を検討する。 注：以上の4つのテーマはそれぞれ2～4回の講義にわたって解説が行なわれる。また、参考文献については講義中に適宜指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義中に配布するプリント、および バリー・C・フィールド『環境経済学入門』日本評論社 細田衛士・横山彰『環境経済学』有斐閣		定期試験による。	

01 年度以降	都市経済学 a	担当者	倉橋 透
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 個人がアパートを借りたり住宅を買ったりする、企業が自分の会社のオフィスを証券化する、地方公共団体が寂れた中心市街地の活性化を図るなど都市に係る話題は我々の周りにあふれている。この講義は、こうした都市をめぐる諸問題の最新の状況を述べるとともに、ミクロ経済学を応用し分析することを目的とする。 【講義概要】 春学期は身近なところで交通問題（主に交通渋滞）、土地、住宅、都市環境問題について述べる。		1. 交通問題（道路の混雑料金） 2. 交通問題（道路建設のメリットと費用） 3. 交通問題（新駅建設による地価上昇の恩恵はだれが受けるべきか） 4. 土地市場（地代の決まり方） 5. 土地市場（地価の決まり方、その1） 6. 土地市場（地価の決まり方、その2） 7. 不動産の証券化と J-REIT 8. 不動産金融工学（その1） 9. 不動産金融工学（その2） 10. 住宅ローンの現状 11. 住宅ローンの証券化 12. サブプライムローン騒動 13. 都市環境問題（都市環境の価値をどう図るか、よりよい環境をどう実現するのか）	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。参考文献は宮尾尊弘『現代都市経済学』第2版（日本評論社）、金本良嗣『都市経済学』（東洋経済新報社）とする。また講義中に追加する。		定期試験による。	

01 年度以降	都市経済学 b	担当者	倉橋 透
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 個人がアパートを借りたり住宅を買ったりする、企業が自分の会社のオフィスを証券化する、地方公共団体が寂れた中心市街地の活性化を図るなど都市に係る話題は我々の周りにあふれている。この講義は、こうした都市をめぐる諸問題の最新の状況を述べるとともに、ミクロ経済学を応用し分析することを目的とする。 【講義概要】 秋学期は都市全体を対象に、その発生、発展、土地利用決定等を述べる。		1. 都市と都市問題（都市の定義） 2. 都市と都市問題（都市の成立要因） 3. 都市と都市問題（市場の失敗と都市問題の発生原因） 4. 都市の発展段階（都市の発展段階） 5. 都市の発展段階（シャッター商店街の現状と対策） 6. 都市の発展段階（ケーススタディ：鳥取市） 7. 都市と土地利用（住宅の立地決定メカニズム） 8. 都市と土地利用（オフィスの立地決定メカニズム） 9. 都市と土地利用（土地利用規制とその経済的影響） 10. 都市と財政（まちづくり交付金） 11. 最適都市規模 12. 道州制 13. 草加のまちづくり	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。参考文献は宮尾尊弘『現代都市経済学』第2版（日本評論社）、金本良嗣『都市経済学』（東洋経済新報社）とする。また講義中に追加する		定期試験による。	

01 年度以降	経済地理学 a	担当者	犬井 正
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目標 経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。		1. 本講義の受講の心構え、講義方法、講義内容等についてのオリエンテーションを行い受講者数を決定。 2. 経済地理学の研究方法と研究対象について、経済学と地理学の方法の相違をふまえながら講述する。 3. 経済地理学研究のためのデータの収集とその活用の方法。特にセンサスデータ、地図の活用などを中心として。 4. 農業活動と自然環境との関係を、具体的な農業地域を事例にして考察する。 5. 農業生産と農業労働力を中心として、専業・兼業別農家の経営形態の地域的差異を考察する。 6. 農業経営規模と土地の保有形態を中心として、農業経営形態や他産業との競合を視点として考察する。 7. 農産物と市場・流通・輸送形態の関係について具体的な農業地域を事例として考察する。 8・9. 国家と農業政策、土地利用と土地利用計画・政策について考察する。 10. 日本と世界の諸地域の農業経営形態の差異と農業地域区分の方法を考察する。 11・12. 東京近郊洪積台地上の農業地域のフィールドワーク実施（日曜日に振り替えて実施する）。 13. 前期のまとめと評価。フィールドワークのレポート提出	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：D. グリッグ著『農業地理学』1997 年、農林統計協会		試験、およびフィールドワークのレポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。毎回必ず講義に積極的に出席できる勉学意欲旺盛な者に限る。	

01 年度以降	経済地理学 b	担当者	犬井 正
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目標 経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。		1. 日本の農業の特色と農業地域の概観。 2. 首都圏の農業地域の構造と特色。 3. 環境保全型農業の構造と特色。 4. 米作地域の農業経営の特色と問題点。〈小論提出〉 5. 農産物の自由化と日本の農業の関係を文化、経済の視点からみる。 6. イギリスの農業の特色と農業地域の概観。 7. イギリスの LFA 地域と集約農業地域の特色を考察する。 8. イギリスの工業化する農業と農業地域の特色。 9. グリーンツーリズムとエコツーリズム 10・11. 農産物の過剰生産と農業補助金政策をイギリスの小麦、日本の米を対象にして考察し、それぞれの国の農業地域の対応の仕方を考察する。 12. パネルディスカッションの実施。 13. 後期の講義のまとめと評価。パネルディスカッションのレポート提出。	
講義概要 単に講義による農業地理学の理論だけでなく、VTR やスライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実の姿が把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、ディベート形式などもとり入れ、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに課題テーマの小論を提出し、レポート・論文の書き方の基本を習得する。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：D. グリッグ著『農業地理学』1997 年、農林統計協会		試験、およびレポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。毎回必ず講義に積極的に出席できる勉学意欲旺盛な者に限る	

01 年度以降	産業組織論 a	担当者	青木 雅明
講義目的、講義概要		授業計画	
経済学の一分野である産業組織論（Industrial Organization）の基本的考え方と手法、応用分野について学びます。産業組織論は、財貨・サービスの各市場における供給者（売手）と需要者（買手）としての企業の行動を理論的・実証的に研究します。企業の行動に影響を与える市場の構造、政府の介入（規制など）、需要と供給の基礎条件を明らかにします。そして、それらが市場の成果（資源の配分や利用効率）に与える影響を評価し、その成果を経済政策に応用します。なお、労働市場および資本市場における研究は進んでいませんので、ここでは対象外とします。 産業組織論の基礎となっているのはミクロ経済学ですので、産業組織論を応用する経済政策はミクロ経済政策です。その中心は競争促進政策または独占禁止政策ですが、近年市場設計などその他の分野にも拡張されています。 企業の機能と構造、独占企業の行動、垂直的制限、競争の形態、市場参入の効果、カルテルなどについて学びます。		1. オリエンテーション 2. 産業組織分析の基礎概念 3. 企業① 4. 企業② 5. 独占企業の行動① 6. 独占企業の行動② 7. 垂直的制限① 8. 垂直的制限② 9. 競争の形態 10. 市場参入① 11. 市場参入② 12. カルテル① 13. カルテル②	
テキスト、参考文献		評価方法	
・長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』¥2646 日本評論社 1998 年（必ず購入して下さい） ・企業家伝記㊸（コピーを配布）		定刻出席の状況および企業家伝記㊸・テキスト・講義内容に関連したテーマのレポート作成によって評価します。 欠席 4 回超で単位修得不能（遅刻 2 回＝欠席 1 回）	

01 年度以降	産業組織論 b	担当者	青木 雅明																																	
講義目的、講義概要		授業計画																																		
産業組織論 a に引き続いて情報の非対称性と企業行動、企業の戦略的行動、技術進歩と研究開発競争、知的財産権、共同研究開発、マクロ経済における技術進歩とイノベーション、貿易と直接投資、規制と規制改革などについて学びます。 ⑨ 理論の背景となっている現実的な事象をより良く認識するとともに、比較的長文の読解力と作文力を増進するため、この教材を使ったレポート作成をホームワークとします。過去に利用した伝記の企業家は次の通りです。 <table><tr><td>03 年秋</td><td>松下幸之助</td><td>松下電器産業創業者</td></tr><tr><td>04 年春</td><td>岡田卓也</td><td>イオン創業者（名誉会長）</td></tr><tr><td>04 年秋</td><td>小倉昌男</td><td>宅急便創業者</td></tr><tr><td>05 年春</td><td>伊藤雅俊</td><td>イトーヨーカ堂創業者</td></tr><tr><td>05 年秋</td><td>飯田 亮</td><td>セコム創業者</td></tr><tr><td>06 年春</td><td>江頭匡一</td><td>ロイヤル創業者</td></tr><tr><td>06 年秋</td><td>島野喜三</td><td>シマノ会長</td></tr><tr><td>07 年春</td><td>島野喜三</td><td>シマノ会長</td></tr><tr><td>07 年秋</td><td>鈴木敏文</td><td>セブソン&アイ・ホールディングス会長</td></tr><tr><td>08 年春</td><td>アラン・グリーンズパン</td><td>前 F R B 議長（予定）</td></tr><tr><td>08 年秋</td><td>鈴木敏文</td><td>セブソン&アイ・ホールディングス会長（予定）</td></tr></table>		03 年秋	松下幸之助	松下電器産業創業者	04 年春	岡田卓也	イオン創業者（名誉会長）	04 年秋	小倉昌男	宅急便創業者	05 年春	伊藤雅俊	イトーヨーカ堂創業者	05 年秋	飯田 亮	セコム創業者	06 年春	江頭匡一	ロイヤル創業者	06 年秋	島野喜三	シマノ会長	07 年春	島野喜三	シマノ会長	07 年秋	鈴木敏文	セブソン&アイ・ホールディングス会長	08 年春	アラン・グリーンズパン	前 F R B 議長（予定）	08 年秋	鈴木敏文	セブソン&アイ・ホールディングス会長（予定）	1. 情報の非対称性と企業行動① 2. 情報の非対称性と企業行動② 3. 企業の戦略的行動 4. 技術進歩と研究開発競争① 5. 技術進歩と研究開発競争② 6. 知的財産権 7. 共同研究開発とネットワーク外部性 8. マクロ経済における技術進歩とイノベーション① 9. マクロ経済における技術進歩とイノベーション② 10. グローバリゼーションとのかかわり 11. 貿易と直接投資 12. 規制と規制改革 13. まとめ	
03 年秋	松下幸之助	松下電器産業創業者																																		
04 年春	岡田卓也	イオン創業者（名誉会長）																																		
04 年秋	小倉昌男	宅急便創業者																																		
05 年春	伊藤雅俊	イトーヨーカ堂創業者																																		
05 年秋	飯田 亮	セコム創業者																																		
06 年春	江頭匡一	ロイヤル創業者																																		
06 年秋	島野喜三	シマノ会長																																		
07 年春	島野喜三	シマノ会長																																		
07 年秋	鈴木敏文	セブソン&アイ・ホールディングス会長																																		
08 年春	アラン・グリーンズパン	前 F R B 議長（予定）																																		
08 年秋	鈴木敏文	セブソン&アイ・ホールディングス会長（予定）																																		
テキスト、参考文献		評価方法																																		
・長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』¥2646 日本評論社 1998 年（必ず購入して下さい） ・企業家伝記⑨（コピーを配布）		定刻出席の状況および企業家伝記⑨・テキスト・講義内容に関連したテーマのレポート作成によって評価します。 欠席 4 回超で単位修得不能（遅刻 2 回＝欠席 1 回）																																		

01 年度以降	産業構造論 a	担当者	山越 徳
講義目的、講義概要		授業計画	
経済の発展、成長に伴い、様々な側面の経済構造が変化することはよく知られており、またその変化がより一層の発展、成長を促す。本講義ではそれらの構造変化の主たる産業構造の変動に注目し、近代的経済発展、産業社会の形成、生産技術構造、それらを支える経済構造、相互依存関係を考察し、高度経済成長や重化学工業化の意味を考える。そのため、その姿を捉える上で有力な分析道具の一つである産業連関表についても解説、それを用いた日本経済の分析についても見ていくことにする。		1. 経済成長、経済発展：経済成長とは、S.クズネッツの指標、経済構造の変化、工業化、高度化、多様化 2. 近代的経済発展：一人当たり国民所得、GNP、労働生産性、産業規模、産業社会、産業革命 3. 産業の概念：産業の経済学、生産構造、生産技術、産業分類、分業、産業統計、商品ベースと企業ベース 4. 経済成長と産業構造Ⅰ：経済進歩の歴史過程、エネルギー集約化、基本三部門分類、ペティの法則、AMS 分類 5. 経済成長と産業構造Ⅱ：労働力構成と所得構成、成長の弾性、所得弾性、時系列データとクロスセクションデータ 6. 経済成長と産業構造Ⅲ：発展段階説、製造業内部の構造と発展、消費財と投資財、最終財と中間財、輸入と国産化、輸入代替、生産規模 7. 経済成長と産業構造Ⅳ：輸入指向型工業化、先進工業国と NIES、雁行形態、重化学工業化、ローマクラブ、石油危機 8. 産業連関表とはⅠ：新 SNA、投入係数、逆行列、中間投入、中間需要、最終需要、付加価値部門、直接および間接の生産波及、総合依存関係 9. 産業連関表とはⅡ：産業特性、感応度係数と影響度係数、前方連関と後方連関、投入係数の固定性と変化、貿易構造、スカイライン分析 10. 産業連関表による分析Ⅰ：構造変化の要因分析、投入係数の変化と技術変化、生産プロセスと産業部門、部門の再配列、ブロック化、三角形化、部門の独立性 11. 産業連関表による分析Ⅱ：素原材料系統の転換、工業原材料と生産規模、ユニットストラクチャー、構造転換、規模別 I-O 表 12. 産業連関表による分析Ⅲ：資本マトリックス、産職マトリックス、地域 I-O 表、国際 I-O 表、国際分業、公害 I-O 表 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
宮沢健一『産業の経済学』第 2 版 東洋経済新報社 米倉誠一郎『経営革命の構造』岩波新書 鶴田俊正、伊藤元重『日本産業構造論』NTT 出版		レポート（課題は講義の中で提示）と期末テストによる。	

01 年度以降	産業構造論 b	担当者	山越 徳
講義目的、講義概要		授業計画	
産業構造論 a の講義内容を踏まえて、石油危機後の激しい構造変化、サービス経済化、ソフト化、情報化、国際化などの変動の事例の分析を通して、新しく出てきた諸問題、これまでの構造変化の指標にとってかわるべき新しい指標、産業構造の捉え方を一緒に考察していくことにする。		1. 産業構造の新しい方向：サービス化、ソフト化、情報化、多様化、高度化、複合化、国際化、構造変化の指標 2. 産業構造の新しい指標：財とサービス、サービスの生産物と生産性、有形財と無形財、間接労働と直接労働、労働投入と評価、構造変化の流れ 3. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅠ：3つのオートメーション、高度経済成長期の生産技術と 80 年代 90 年代の生産技術、技術波及 4. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅡ：鉄鋼、電機、時計、印刷、銀行、小売などの事例 5. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅢ：ロボットとコンピュータ、労働への影響分析 6. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅣ：ME 革命と IT 化、何が起きているか 7. 構造変化と就業構造Ⅰ：労働力の需要と供給、人口構造、産業構造と職業構造、基幹労働力と縁辺労働力、性別労働力 8. 構造変化と就業構造Ⅱ：日本の労働市場、新規学卒労働力、大企業と中小企業、雇用制度、雇用慣行、雇用調整、労働の属性 9. 構造変化と就業構造Ⅲ：ソフト化、知識集約化と職業構造および女子労働 10. 産業と地域Ⅰ：地域活性化と産業、国際化と地域、大企業と中小企業、地場産業 11. 産業と地域Ⅱ：大都市産業、産業集積、地域の取り組みの事例 12. 経済政策、産業政策、労働政策の結びつき、地域活力、インキュベータ、自治体の役割 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
関満博『フルセット型産業構造を越えて』中公新書 清成忠男、橋本寿朗『日本型産業集積の未来像』日本経済新聞社 他		レポート（課題は講義の中で提示）と期末テストによる。	

05 年度以降 01～04 年度	社会保障論 a 社会政策 a	担当者	酒井 正
講義目的、講義概要		授業計画	
新聞をはじめとするマスコミで、日々、社会保障制度に関わる問題が取り上げられており、また実際にも生活に密着した問題でありながら、社会保障ほど若い時に関心を持ちにくい分野も少ないかもしれません。しかし、まさにそれが社会保障の特質とも言えます。この授業では、働いてゆくことと社会保障制度の関わりを中心に、経済学の観点から講義を進めたいと思います。昨今、議論となっている問題についても取り上げ、分析して行くつもりです。尚、トピックスについては、やむを得ない事情から取捨選択することがあります。		1. イントロダクション 2. 日本における就業と格差の実態 3. 日本の社会保障制度の概況 4. 社会保障制度の役割 ―経済学の視点から― 5. 社会保障の財源 6. 〔各論〕公的年金① 基礎知識 7. 〔各論〕公的年金② 年金改革 8. 〔各論〕公的年金③ 公的年金と就業 9. 〔各論〕医療保険 10. 〔各論〕介護保険 ―介護と家族の就業― 11. 〔各論〕労働保険（雇用保険と労災保険） 12. 予備日 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書： 小塩隆士(2005)『社会保障の経済学[第3版]』日本評論社		レポート及び期末試験	

05 年度以降 01～04 年度	社会保障論 b 社会政策 b	担当者	酒井 正
講義目的、講義概要		授業計画	
少子高齢化や格差の拡大といった事態に直面している我が国の現状と社会保障制度との関わりについて考察します。人びとの働きかたの変容が社会保障制度の在り方に影響を及ぼすと同時に、社会保障制度の在り方もまた人びとの就業決定に影響しているという相互関係を念頭におきながら、授業を進めたいと思います。巷で言われていることを鵜呑みにせず、自ら議論するための土台を提示するのがこの講義の目的です。そのため履修者には、多様な角度から政策を咀嚼する姿勢が求められます。尚、トピックスについては、やむを得ない事情から取捨選択することがあります。 （講義は、社会政策 a で講義した内容を前提とします。）		1. イントロダクション 2. 少子高齢社会と社会保障① 3. 少子高齢社会と社会保障② 4. 育児支援策 5. 就業の多様化と社会保障 6. 社会保険の未加入・未納問題 7. 社会保険料の帰着問題 8. 貧困の問題 9. 生活保護・最低賃金 10. 雇用政策 11. 所得再分配の政治経済学 12. 企業福利 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しませんが、関連する文献については授業内で紹介します。		レポート	

01 年度以降	労働経済学 a	担当者	森永 卓郎
講義目的、講義概要		授業計画	
労働経済学は、労働分野の諸問題を経済学の枠組みで説明する学問です。 この講義では、労働経済学の基礎理論を学びます。経済学の知識はあったほうが望ましいですが、知識がなくても理解できるように講義を進めます。		1. ガイダンス 2. 労働経済学とは何か 3. 無差別曲線と就業選択 4. 労働需要 5. 失業 6. 雇用調整 7. 情報の役割 8. 雇用をとりまく構造変化 9. 賃金と労働時間 10. 高齢者の就業促進 11. 人事と労働インセンティブ 12. 労働経済理論と現実の乖離 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
清家篤「労働経済」東洋経済新報社 ネット上で講義資料を公開します		試験	

01 年度以降	労働経済学 b	担当者	森永 卓郎
講義目的、講義概要		授業計画	
労働経済学は、労働分野の諸問題を経済学の枠組みで説明する学問です。 この講義では、労働経済学の理論を現実の経済・社会に適用して、現代の雇用システムの問題点を探ります。		1. ガイダンス 2. ジニ係数と所得格差の現状 3. 非婚化の進展と少子化 4. 男女雇用均等法と税制 5. 公平な税制とは何か 6. 日本的雇用慣行とは何か 7. 知的創造性を育む雇用制度とは 8. U F J 総合研究所の評価システム 9. 自由と自己責任の評価がもたらすもの 10. ビジヨナリーカンパニーと労働 11. イタリアはなぜ強いのか 12. 人はなぜ働くのか～自由と自己責任の雇用制度 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
ネット上で講義資料を公開します		試験	

01 年度以降	会計学 a	担当者	内倉 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
企業会計もまた 1つの言語であるとしばしば評されるが、言語を対象とした科学の分野には、その文法を純粹形式的に明らかにしていく「構文論」と、言葉の持つ意味の解明を試みる「意味論」と、社会的制度の中での言葉の用いられ方を研究する「語用論」とがある。本講義は、「簿記原理」という構文論の知識を前提に(それゆえ、少なくとも「簿記原理 a」を修得していることが望ましい)、それに内容的な意味付けを試みていくところの、会計学における「意味論」に相当するものである。その後に展開される会計学における「語用論」(=「経営分析論」等の応用・専門学科目)への 1つの橋渡しとなるものだ、とも言える。 なお授業計画は右に掲げたとおりであるが、おおむね「会計学 a」では、会社の決算書の作成にかかわる諸ルール of の概要説明をしていきたい。		1 オリエンテーション(本講義の目的等) 2 テキスト第 1 章 決算書から見える世界(①決算書とは、②会計学の 2つの領域) 3 テキスト第 2 章 会計と決算 その 1:複式簿記の基本概念と 貸借対照表, 損益計算書 4 テキスト第 2 章 会計と決算 その 2:取引の仕訳 5 テキスト第 2 章 会計と決算 その 3:勘定口座への転記 6 テキスト第 2 章 会計と決算 その 4: 決算修正 7 テキスト第 2 章 会計と決算 その 5: 貸借対照表, 損益計算書 の中身について 8 テキスト第 2 章 会計と決算 その 5: 間接法によるキャッシュフロー計算書 9 テキスト第 2 章 会計と決算 その 6: 直接法によるキャッシュフロー計算書 10 テキスト第 2 章 会計と決算 その 7: グループ経営と決算書(連結財務諸表の作成) 11 テキスト第 2 章 会計と決算 その 8: 資産, 負債定義とリース取引 12 ①テキスト第 2 章第 4 節, ②テキスト第 3 章 第 1, 2 節 13 テキスト第 3 章 第 3 節: 資産評価の基礎	
テキスト、参考文献		評価方法	
山浦久司・廣本敏郎 編著、『ガイダンス企業会計入門[第 2 版]』(白桃書房)		評価の中心は期末試験の結果である。その際には、相対評価を基本とし、絶対評価を加味したい。	

01 年度以降	会計学 b	担当者	内倉 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
「会計学 a」の知識を前提として「会計学 b」では、「会計監査論」, 「管理会計論」, 「経営分析論」, 「税務会計論」といった領域の諸問題を、教科書に沿った形で講義していきたい。		1 テキスト第 3 章 決算書のルール その 1: 剰余金の額, 剰余金の配当 2 テキスト第 3 章 決算書のルール その 2: 会計基準の登場, 会計基準の国際的調和 3 テキスト第 4 章 :製造会社の決算書[≒原価計算論] 第 1 節 4 テキスト第 4 章 :製造会社の決算書[≒原価計算論] 第 2 節 その 1: 総合原価計算 その 1 5 テキスト第 4 章 :製造会社の決算書[≒原価計算論] 第 2 節 その 2: 総合原価計算 その 2 6 テキスト第 4 章 :製造会社の決算書[≒原価計算論] 第 2 節 その 3: 個別原価計算 7 テキスト第 4 章 :製造会社の決算書[≒原価計算論] 第 4 節 標準原価計算 8 テキスト第 5 章 決算書の信頼性を確かめる[≒会計監査論] 9 テキスト第 6 章 決算書の内部利用[≒管理会計論] 第 2 節 CVP 分析 10 テキスト第 6 章 決算書の内部利用[≒管理会計論] 第 4 節 機会原価概念, 差額原価収益分析 11 テキスト第 7 章 決算書を読んでみよう[≒経営分析論] 12 テキスト第 8 章 決算書と税金[≒税務会計論] 13 テキスト第 8 章の特論: 税効果会計	
テキスト、参考文献		評価方法	
「会計学 a」と同じ。		「会計学 a」と同様。	

01 年度以降	経営学 a (経営学科)	担当者	有吉 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、会社の経営がどのように行なわれているものなのかについて、大まかに理解してもらうことを目的としている。ある会社設立のケースを想定し、グループに分かれて、ビジネスプランを立ててもらう。今後学ぶ様々な専門科目への理解・興味の橋渡しとなれば幸いである。		1. オリエンテーション 2～12. グループワークによるビジネスプラン作成 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
ケーススタディと参考資料を配布する		グループワークへの参加状況と期末レポートにより評価する	

01 年度以降	経営学 b	担当者	有吉 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、会社の経営がどのように行なわれているものなのかについて、大まかに理解してもらうことを目的としている。ある会社設立のケースを想定し、グループに分かれて、ビジネスプランを立ててもらう。今後学ぶ様々な専門科目への理解・興味の橋渡しとなれば幸いである。		1. オリエンテーション 2～12. グループワークによるビジネスプラン作成 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
ケーススタディと参考資料を配布する		グループワークへの参加状況と期末レポートにより評価する	

01 年度以降	経営学 a (経営学科)	担当者	岡部 康弘
講義目的、講義概要		授業計画	
経営学は、かなり幅広い学問領域を含んでいる。主たるものでも、戦略論、組織論、組織行動論、人的資源論、国際経営論等がある。本講座はこれらの領域の中で組織行動論に焦点を当てる。組織行動論とは、企業などの組織環境の中で人はなぜその行動を取るのかを理解することに主眼を置く。講義方法前半はPPTを使いなるべくわかり易く企業の実例をあげて理論の説明をする。後半はグループでのケース分析と討論と発表を行う。		1. イントロダクション 2. モチベーション 3. グループの性質 4. リーダーシップ 5. コミュニケーション 6. 紛争と対立 7. 意思決定 8. パワーとポリティクス 9. 紛争・対立 10. 組織変革 11. 企業文化 12. 組織構造 13. 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし。講義資料は各自フォルダーから入手すること。		出席と試験による。	

01 年度以降	経営学 b (経営学科)	担当者	岡部 康弘
講義目的、講義概要		授業計画	
経営学は、かなり幅広い学問領域を含んでいる。主たるものでも、戦略論、組織論、組織行動論、人的資源論、国際経営論等がある。本講座はこれらの領域の中で組織行動論に焦点を当てる。組織行動論とは、企業などの組織環境の中で人はなぜその行動を取るのかを理解することに主眼を置く。講義方法前半はPPTを使いなるべくわかり易く企業の実例をあげて理論の説明をする。後半はグループでのケース分析と討論と発表を行う。		1. イントロダクション 2. モチベーション 3. グループの性質 4. リーダーシップ 5. コミュニケーション 6. 紛争と対立 7. 意思決定 8. パワーとポリティクス 9. 紛争・対立 10. 組織変革 11. 企業文化 12. 組織構造 13. 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし。講義資料は各自フォルダーから入手すること。		出席と試験による。	

01 年度以降	経営学 a(経営学科)	担当者	日下 泰夫
講義目的、講義概要		授業計画	
入門講座として、経営学の基本的な概念と重要なトピックスを説明します。《<u>変化の時代</u>》の経営学が極めて興味深い学問領域であることを理解できるような分かりやすい講義をめざしています。 講義の前半（1～7）は経営学の基本的な概念を説明します。後半（8～13）は、近年、重要性を増している経営課題として、環境経営、技術経営/研究開発、経営のグローバル化 を説明します。 講義では、最新のトピックスを出来るだけ紹介します。		1 企業と外部環境 2 経営資源とマネジメント 3 経営戦略 1 4 経営戦略 2 5 経営と情報 6 コーポレート・ガバナンス 7 企業組織と人材マネジメント 8 環境経営 1 9 環境経営 2 10 技術経営 1:プロダクト・イノベーション 11 技術経営 2: テクノイノベーション 12 技術経営 3: マーケティング・イノベーション 13 経営のグローバル化	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：高村寿一『ベーシック経営入門』、日経文庫。 参考文献は開講時に紹介します。		期末試験を中心に出席状況を加味して評価します。	

01 年度以降	経営学 b（経営学科）	担当者	日下 泰夫
講義目的、講義概要		授業計画	
入門講座として、経営学の基本的な概念と重要なトピックスを説明します。《<u>変化の時代</u>》の経営学が極めて興味深い学問領域であることを理解できるような分かりやすい講義をめざしています。 講義の前半（1～7）は経営学の基本的な概念を説明します。後半（8～13）は、近年、重要性を増している経営課題として、環境経営、技術経営/研究開発、経営のグローバル化 を説明します。 講義では、最新のトピックスを出来るだけ紹介します。		1 企業と外部環境 2 経営資源とマネジメント 3 経営戦略 1 4 経営戦略 2 5 経営と情報 6 コーポレート・ガバナンス 7 企業組織と人材マネジメント 8 環境経営 1 9 環境経営 2 10 技術経営 1:プロダクト・イノベーション 11 技術経営 2: テクノイノベーション 12 技術経営 3: マーケティング・イノベーション 13 経営のグローバル化	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：高村寿一『ベーシック経営入門』、日経文庫。 参考文献は開講時に紹介します。		期末試験を中心に出席状況を加味して評価します。	

01年度以降	経営学a（経営学科）	担当者	黒川 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
経営学が学問として認知されるようになったのは、古いことではない。20世紀に入ってから確立した領域が経営学であろう。そのため、研究対象となる分野は、細分化の方向に向かうと同時に、近年では総合化の方向に進んでいる。 本講義では、企業の競争力の重要な源泉となっている新製品開発力について理解を深めていく。製造コストではアジア諸国に競争優位があるが、日本は高い技術力を駆使した新製品の開発に競争力がある。新製品開発のすべてのプロセスを、自動車やファッション衣料等のケースを用いて考察する。 本講義に関心を持つならば、いかに経営学が生きた学問であるかを実感として把握できるようになるであろう。		1 新製品開発の意義 2 新製品開発のプロセス 3 自動車開発のケース 4 医薬品開発のケース 5 ファッション衣料開発のケース 6 機会の探索とコンセプト形成 7 ITと新製品開発 8 社会・環境問題と新製品開発 9 開発の組織 10 評価の原理 11 発売後の管理 12 新製品の発売中止と現在製品の廃止 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

01年度以降	経営学b（経営学科）	担当者	黒川 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
経営学が学問として認知されるようになったのは、古いことではない。20世紀に入ってから確立した領域が経営学であろう。そのため、研究対象となる分野は、細分化の方向に向かうと同時に、近年では総合化の方向に進んでいる。 本講義では、企業の競争力の重要な源泉となっている新製品開発力について理解を深めていく。製造コストではアジア諸国に競争優位があるが、日本は高い技術力を駆使した新製品の開発に競争力がある。新製品開発のすべてのプロセスを、自動車やファッション衣料等のケースを用いて考察する。 本講義に関心を持つならば、いかに経営学が生きた学問であるかを実感として把握できるようになるであろう。		1 新製品開発の意義 2 新製品開発のプロセス 3 自動車開発のケース 4 医薬品開発のケース 5 ファッション衣料開発のケース 6 機会の探索とコンセプト形成 7 ITと新製品開発 8 社会・環境問題と新製品開発 9 開発の組織 10 評価の原理 11 発売後の管理 12 新製品の発売中止と現在製品の廃止 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

01 年度以降	経営学 a (経営学科)	担当者	小林 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
現代企業の国際化と情報化の動きを中心に、経営学の基礎的な事項の学習を進めることを目的とする。 現代企業を取り巻く条件は、急速に変化している。アジア諸国の工業化にともなって、世界の産業地図は大きく描き直されようとしているし、IT 革命の進展とともに、企業の組織や戦略にも大きな変化が見られる。 本講義では、主として日本経済および日本企業の経験に学びながら、経営学の基礎知識および現代企業の直面する問題を議論していく。		1. 経済学と経営学 ノートの取り方情報の集め方 2. 情報技術革命のインパクト 3. 「失われた 10 年」と日本企業 4. 技術革新と競争優位 5. 日本的経営とシステムとしての日本企業 6. 日本的生産システムの進化 7. 情報化とネットワーク 8. 世界の多国籍企業 9. 技術革新と新しい国際分業 10. 日本企業の海外進出 11. グローバリゼーション 12. グローバリゼーション賛成・反対 13. 日本企業の行方	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献として 三橋規宏他『ゼミナールに本経済入門』日本経済新聞社		出席および定期試験	

01 年度以降	経営学 b (経営学科)	担当者	小林 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
現代企業の国際化と情報化の動きを中心に、経営学の基礎的な事項の学習を進めることを目的とする。 現代企業を取り巻く条件は、急速に変化している。アジア諸国の工業化にともなって、世界の産業地図は大きく描き直されようとしているし、IT 革命の進展とともに、企業の組織や戦略にも大きな変化が見られる。 本講義では、主として日本経済および日本企業の経験に学びながら、経営学の基礎知識および現代企業の直面する問題を議論していく。		1. 経済学と経営学 ノートの取り方情報の集め方 2. 情報技術革命のインパクト 3. 「失われた 10 年」と日本企業 4. 技術革新と競争優位 5. 日本的経営とシステムとしての日本企業 6. 日本的生産システムの進化 7. 情報化とネットワーク 8. 世界の多国籍企業 9. 技術革新と新しい国際分業 10. 日本企業の海外進出 11. グローバリゼーション 12. グローバリゼーション賛成・反対 13. 日本企業の行方	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献として 三橋規宏他『ゼミナールに本経済入門』日本経済新聞社		出席および定期試験	

01 年度以降	経営学 a (経営学科)	担当者	平井 岳哉
講義目的、講義概要		授業計画	
経営とは、複数の人々が集まり、特定の目的を達成するために協働するもので、その場合、いい知恵を出して効率的と思われる最善の方法を講じることです。 そこには、①組織の形成、②人を動かす仕組み、③成功の確率を高めるための戦略立案などが必要です。 この講義では、経営学全般の事柄について、できるだけわかりやすい事例を使って、基礎的な知識の習得を図ります。		1 オリエンテーション 2 分業と協業 3 組織形態 4 モチベーション 5 リーダーシップ 6 組織における競争と協調 7 マーケティング① 8 マーケティング② 9 戦略の考え方 10 戦略理論① 11 戦略理論② 12 戦略理論③ 13 事業評価	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。		期末試験の結果と講義での貢献	

01 年度以	経営学 b (経営学科)	担当者	平井 岳哉
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ。		春学期と同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

01 年度以降	経済学 a(経営学科)	担当者	米山 昌幸
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。 この講義の目的は、初めて経済学を学ぶ学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この2つです。経済学の基礎学力をつけることが、遠回りのようでじつは経済学的思考のセンスを磨くことにつながるのです。そのためには公務員試験問題のトレーニングも有益でしょう。 この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としています。経済学を学ぶ初心者としては経済学部 of 学生も他学部 of 学生も同じです。新聞記事や経済データを提示して、経済学的な考え方になれてもらうようにしたいと考えています。 経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。<u>春学期は、家計・企業・政府といった個々の経済主体の決定について考察しその相互作用を研究する、ミクロ経済学の分野を中心に講義します。</u>ビジネスの事例もできるだけ取り上げたいと思います。		1. 経済学とは 2. 完全競争 3. 市場メカニズム 4. 需給の変化 5. 消費者余剰 6. 生産者余剰 7. 競争市場均衡 8. 弾力性 9. 市場介入の効果 10. 生産者行動の理論 11. 消費者行動の理論 12. 外部不経済と市場の失敗 13. 不完全競争	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤元重『はじめての経済学(上)(下)』日経文庫、2004 年。 清野一治『ミクロ経済学入門』シリーズ・新エコノミクス、日本評論社、2006 年。		出席状況、練習問題、定期試験の総得点によって評価します。評価基準は第 1 回目の授業で説明します。	

01 年度以降	経済学 b (経営学科)	担当者	米山 昌幸
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。 この講義の目的は、初めて経済学を学ぶ学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この2つです。経済学の基礎学力をつけることが、遠回りのようでじつは経済学的思考のセンスを磨くことにつながるのです。そのためには公務員試験問題のトレーニングも有益でしょう。 この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としています。経済学を学ぶ初心者としては経済学部 of 学生も他学部 of 学生も同じです。新聞記事や経済データを提示して、経済学的な考え方になれてもらうようにしたいと考えています。 秋学期は、GDP、物価指数、失業率といった経済全体を捉える変数の決定を考察し、<u>労働市場・生産物市場・資本市場の相互作用について研究する、マクロ経済学の分野を中心に講義します。</u>景気指標、金融・財政政策、財政赤字、経済成長などのニュース・トピックもできるだけ取り上げたいと思います。		1. マクロ経済学とは何か 2. GDP、所得循環、景気循環 3. 物価指数、インフレーション 4. 経済成長 5. 金融システム 6. 資本市場 7. 労働市場と失業 8. 生産物市場 9. 短期の経済分析 10. 所得・支出分析 11. 財政赤字 12. 開放経済 13. 開放マクロ経済学	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤元重『はじめての経済学(上)(下)』日経文庫、2004 年。 二神孝一『マクロ経済学入門』シリーズ・新エコノミクス、日本評論社、2006 年。		出席状況、練習問題、定期試験の総得点によって評価します。評価基準は第 1 回目の授業で説明します。	

01 年度以降	経営学原理 a	担当者	岡部 康弘
講義目的、講義概要		授業計画	
60 年代に S W O T 分析を考案したアンゾフ、「組織は戦略に従う」と考え、M 型事業部組織を提唱したチャンドラー、70 年代に事業の多角化を議論したリグリー、ポートフォリオマネジメントを考案したボストン・コンサルティング・グループ、80 年代に S B U（ストラテジック・ビジネス・ユニット）の本社に対する貢献から価値ベース戦略を考えたジェンセン、企業の競争優位から基本戦略を提唱したポーター、そして、80 年代終わりから 90 年代に資源ベース理論を提唱したワーナーフェルトやバーニー等経営学（戦略論）は進化している。本講では、主に資源ベース理論から企業戦略を考える。 講義前半は P P T を使い理論の説明をする。後半はグループでのケース分析と討論と発表を行う。		1. イントロダクション 2. 企業戦略の必要性 3. 企業戦略のフレームワーク 4. 企業戦略に関するこれまでのアプローチ 5. 資源ベース戦略 6. 事業戦略と業界分析 7. 単一業界における事業範囲 1 8. 単一業界における事業範囲 2 9. 事業の多角化 10. 多角化の形態 11. 企業の範囲 12. DVD 学習 13. 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義資料は各自でフォルダーから入手すること。参考文献は下。		出席と試験による。	

01 年度以降	経営学原理 b	担当者	岡部 康弘
講義目的、講義概要		授業計画	
60 年代に S W O T 分析を考案したアンゾフ、「組織は戦略に従う」と考え、M 型事業部組織を提唱したチャンドラー、70 年代に事業の多角化を議論したリグリー、ポートフォリオマネジメントを考案したボストン・コンサルティング・グループ、80 年代に S B U（ストラテジック・ビジネス・ユニット）の本社に対する貢献から価値ベース戦略を考えたジェンセン、企業の競争優位から基本戦略を提唱したポーター、そして、80 年代終わりから 90 年代に資源ベース理論を提唱したワーナーフェルトやバーニー等経営学（戦略論）は進化している。本講では、主に資源ベース理論から企業戦略を考える。 講義前半は P P T を使い理論の説明をする。後半はグループでのケース分析と討論と発表を行う。		1. イントロダクション 2. 企業の範囲の選択 3. 多角化企業のマネジメント 4. マネジメントコンテキストの説定 5. 凝集性を高めるメカニズム 6. 企業優位の創出 1 7. 企業優位の創出 2 8. 企業戦略の評価 1 9. 企業戦略の評価 2 10. コーポレートガバナンスの失敗 11. 現代のコーポレートガバナンス 12. DVD 学習 13. 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：資源ベースの経営戦略論 コリス・モンゴメリー著、ケースで学ぶ経営学 岩坪他著、ケースで学ぶ経営戦略 横山著		出席と試験による。	

01年度以降	経営学原理 a	担当者	黒川 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
経営学が他の学問領域と異なる最も基本的かつ重要な問題を中心に講義する。その上に立って、今日の問題、すなわち規制緩和、企業の国際化と空洞化、E ビジネス等をアプローチする。経営学ほど変化の激しい領域はないので、原理を把握していれば、どのような状況にもうまく対処できよう。 講義では、経営学の理論の紹介だけでなく、実際の企業のケースを取り上げて、理解しやすいように授業を進めていく。経営学原理 a では、企業の目的、株式会社制度などの企業経営の基本的なコンセプトを理解した上で、経営戦略の策定について学習する。		1 企業経営とは何か 2 変貌する現代のビジネス 3 企業とビジネスの関係 4 ニュービジネスの登場と経営革新 5 現代の会社制度と企業経営 6 資本主義経済と株式会社 7 経済のグローバル化と株式会社の機構改革 8 企業の目的と業績評価 9 業績評価尺度 10 多角化企業と競争環境 11 持続的競争優位と戦略 12 職務とは何か 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

01年度以降	経営学原理 b	担当者	黒川 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
経営学原理 b では、まず経営戦略と密接な関係にある組織について講義する。最近、「アウトソーシング」や「バーチャル・コーポレーション」などで注目を浴びている「IT 革新とネットワーク組織」についても見ていく。 次に、生産、マーケティング、人的資源等の現代的な経営オペレーション・システムについて理解を深める。最後に、経営倫理やイノベーションとベンチャーといった、現代の経営にとって重要な問題についても焦点をあてて講義していく。		1 機能別組織とプロセス組織 2 事業別組織とカンパニー制 3 IT 革新とネットワーク組織 4 伝統的な組織間関係 5 日本的な企業グループと系列 6 伝統的なジョブ・ショップと流れ作業生産 7 モジュール組立方式とセル生産 8 トヨタのカンバン方式とリーン生産 9 マーケティング戦略 10 人的資源戦略 11 経営倫理 12 イノベーションとベンチャー 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

01年度以降	経営管理論 a	担当者	黒川 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
経営管理論ほど、時代の変化とともに進展した領域はない。古くは、単なる工場内の管理から、今日では、経営管理論は地球環境問題を含めて議論されている。アメリカでは経営学といえば経営管理論と同一視されているほど、経営学の中心領域であるので、基本的な事項を十分時間をかけて講義する。 経営管理論 a では、まず今日の企業制度を理解してから、経営管理論の歴史的展開を考察していく。		1 今日の企業制度 2 現代企業のコーポレート・ガバナンス 3 現代社会の変化と企業経営 4 企業組織のマネジメント機能について 5 現代における経営者（CEO）の機能と責任 6 テイラーの科学的管理法 7 ファヨールの管理論 8 管理過程学派 9 人間関係論とホーソン実験 10 従来の管理機能論の枠組み 11 クーンツ理論 12 管理機能論の新展開 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

01年度以降	経営管理論 b	担当者	黒川 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
経営管理論 b では、働く人の人間的側面に焦点を当てて、いかに動機づけをすべきかについて理解を深めていく。次に、目標達成に向けて、組織のメンバーに影響を及ぼすリーダーの多様なリーダーシップについても見ていく。 最後に、変化の激しい企業環境の中で、どのような経営組織が環境に適合するかを考えた上で、経営者の役割を再確認していく。		1 動機づけの諸理論 2 マグレガーの X 理論と Y 理論 3 マズローの欲求段階論 4 動機づけ—衛生理論 5 期待理論 6 リーダーシップ論の多様な発展 7 オハイオ州立大学・リーダーシップ・プログラム 8 マネジリアル・グリッド論 9 企業文化と経営 10 経営組織の編成原理 11 経営組織の活性化 12 経営組織の革新 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

01年度以降	経営組織論 a	担当者	高松 和幸
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：春学期では、伝統的組織論から近代組織論への発展を前提として、とくに近代組織論の内容について理解を深めることを目的とする。経営組織論においては、組織を取り巻く環境の土台のうえに、個人と組織との関わりがもっとも重要な課題であり、こうした諸問題をとりあげて講義する。 講義概要：伝統的組織論を出発点として、人間関係論におけるモチベーション理論やコンティンジェンシー理論をとりあげ、そのうえで近代組織論として、協働システムとしての組織、意思決定システムとしての組織など、周辺諸問題をとりあげて講義する。また最後に春学期の授業内容をまとめる。		1. 伝統的組織論①…古典的組織論の特徴 2. 伝統的組織論②…ファヨールやクーーンツ 3. 近代組織論①…バーナード 4. 近代組織論②…マーチ＝サイモン理論 5. 経営組織モデルの発展段階…経営組織モデル 6. 組織とモチベーション理論① 7. 組織とモチベーション理論② 8. 組織とコンティンジェンシー理論① 9. 協働システムとしての組織① 10. 協働システムとしての組織② 11. 意思決定システムとしての組織① 12. 意思決定システムとしての組織② 13. まとめ	
テキスト、参考文献		受講条件・評価方法	
高松和幸著『経営組織論講義(増補版)』創成社, 2003. プリント配布		受講条件：bも履修すること 評価方法：期末試験(70%)・出席(20%)・課題(10%)など	

01年度以降	経営組織論 b	担当者	高松 和幸
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：秋学期では、伝統的組織論から近代組織論への発展を前提に、近代組織論の内容について理解を深めることを目的とする。経営組織論においては、近代組織論を前提に VSM に関する諸問題をとりあげて講義する。 講義概要：近代組織論を出発点として、組織均衡理論、組織のサステナビリティ、コンフリクト、サイバネティックス、VSM、必要多様性の法則など、近代組織論として、協働システムの理解を深めること、VSM としての組織に重点をおいて、その周辺諸問題をとりあげて講義する。		1. 組織均衡の理論① 2. 組織均衡の理論② 3. ゴーイング・コンサーンとしての組織① 4. ゴーイング・コンサーンとしての組織② 5. 組織とコンフリクト① 6. 組織とコンフリクト② 7. 組織とサイバネティックス① 8. 組織とサイバネティックス② 9. 生存可能システムとしての組織① 10. 生存可能システムとしての組織② 11. 組織のカタストロフィー・モデル 12. 組織と必要多様性の法則 13. 組織における自律性の概念	
テキスト、参考文献		受講条件・評価方法	
高松和幸著『経営組織論講義(増補版)』創成社, 2003. プリント配布		受講条件：aを履修していること 評価方法：期末試験(70%)・出席(20%)・課題(10%)など	

01 年度以降	経営財務論 a	担当者	細田 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者（財務担当者）は、資本市場により関心を払って財務的意思決定を行わなければならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意思決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点について検討する。 講義概要 各週別の講義予定を見られたい。		「1.企業の目的と財務政策」 - 市場型経済における消費・貯蓄・投資の決定 - 企業による市場を通じる価値創造 「1.企業の目的と財務政策」 - 資本市場の役割 - 企業の財務的意思決定のフレームワーク 「2.資産の価値をどう評価するか」 - 現在価値の評価 「2.資産の価値をどう評価するか」 - 債券の評価 「3.株式の価値はどう決まる」 - 配当割引モデルの考え方 - 一定成長配当割引モデルと株価収益率 「3.株式の価値はどう決まる」 - 配当割引モデルの応用、日本の株価水準と期待収益率 「4.リスクをどう測るか」 - 投資リスクの尺度 「4.リスクをどう測るか」 - ポートフォリオのリスク 「4.リスクをどう測るか」 - ベータ値と資本資産評価モデル 「5.資本コストとは何か」 - 資本コストとは、b)投資のキャッシュ・フロー 「5.資本コストとは何か」 - 資本コストの推計方法 「5.資本コストとは何か」 - 日本企業の資本コストの計算例 - 資本コストと資金コスト - まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
・井手正介、高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール 経営財務入門」（日本経済新聞社）		期末試験の結果による。	

01 年度以降	経営財務論 b	担当者	細田 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者（財務担当者）は、資本市場により関心を払って財務的意思決定を行わなければならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意思決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点について検討する。 講義概要 各週別の講義予定を見られたい。		「6.望ましい資本構成とは」 - 完全資本市場における資本構成と企業価値 「6.望ましい資本構成とは」 - 法人税や倒産可能性が企業価値に与える影響 「6.望ましい資本構成とは」 - 企業価値の最大化と株価の最大化 - 資本構成決定の現実的な考慮点 - 日本企業の資本構成の動向 「7.配当政策の考え方」 - 配当政策の理論、b)配当政策をめぐる問題点 「7.配当政策の考え方」 - 株式配当と株式分割、d)日米企業の配当政策 「8.自社株取得」 - 自社株取得の本質、b)自社株取得の利用動機 「8.自社株取得」 - 自社株取得と株価評価 - 自社株取得をめぐる我が国の現状 「9.リスク管理とデリバティブの利用」 - デリバティブとは何か 「9.リスク管理とデリバティブの利用」 - デリバティブを利用した金利リスク管理 - 企業財務とリスク管理 「10. 社債の格付け」 「11.企業の合併・買収」 「12.日本の伝統的な金融システムの特色と問題点」 「13.日本企業の財務政策の課題」	
テキスト、参考文献		評価方法	
・井手正介、高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール 経営財務入門」（日本経済新聞社）		期末試験の結果による。	

01 年度以降	人的資源管理論 a	担当者	岡部 康弘
講義目的、講義概要		授業計画	
今日企業を取り巻く経営環境は刻々と変化する。国境を越えた競争の激化、マイノリティー、女性等の新たな労働者の労働市場への参入、労働者の価値観の変化、消費者の嗜好の多様化、政府の規制緩和あるいは規制の強化等である。企業は生き残るためにはこのような市場の変化に敏感に対応しないといけない。 このような要請に十分に答えることができなかった従来の人事管理論（Personnel Management）と異なり、人的資源管理（HRM）は企業の経営戦略と結びつき戦略を履行するため能動的に人材育成などの人事政策・慣行を総合的に考えるものである。企業のミッションや経営戦略は、どんなに立派でも実行できないと意味がない。結局、企業の経営は人の問題に帰着する。HRMは企業を人の面から分析する。講義前半はPPTを使い理論の説明をする。後半はグループでのケース分析と討論と発表を行う。		1. イントロダクション 2. HRM とはなにか。 3. 戦略的 HRM 環境 4. 法律的环境 5. グローバル環境 6. 人材計画と職務分析 7. 募集 8. 選別と配置 9. 評価管理 10. 教育訓練 11. キャリア計画と開発 12. DVD学習 13. 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義資料は各自フォルダーから入手すること。DeNish & Griffin (2002) <i>Human Resource Management</i> . Houghton Mifflin Company		出席と試験による。	

01 年度以降	人的資源管理論 b	担当者	岡部 康弘
講義目的、講義概要		授業計画	
今日企業を取り巻く経営環境は刻々と変化する。国境を越えた競争の激化、マイノリティー、女性等の新たな労働者の労働市場への参入、労働者の価値観の変化、消費者の嗜好の多様化、政府の規制緩和あるいは規制の強化等である。企業は生き残るためにはこのような市場の変化に敏感に対応しないといけない。 このような要請に十分に答えるため、人的資源管理（HRM）は企業の経営戦略と結びつき戦略を履行するため能動的に人材育成などの人事政策・慣行を総合的に考えるものである。企業のミッションや経営戦略は、どんなに立派でも実行できないと意味がない。結局、企業の経営は人の問題に帰着する。HRMは企業を人の面から分析する。講義前半はPPTを使い理論の説明をする。後半はグループでのケース分析と討論と発表を行う。		1. イントロダクション 2. 基本的な報酬 3. インセンティブ 4. 福利厚生 5. 労務管理 6. 労働環境の管理 7. 多様性の管理 8. 新しい労働関係の管理 9. 今後の課題 10. ビデオ鑑賞 11. ゲストスピーカー 12. 復習 I 13. 復習 II	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義資料は各自フォルダーから入手すること。DeNish & Griffin (2002) <i>Human Resource Management</i> . Houghton Mifflin Company		出席と試験による。	

01 年度以降	国際経営論 a	担当者	小林 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
グローバリゼーションの原動力の一つは、国境を越えて活動する多国籍企業である。現代企業は、財の生産や販売だけでなく、情報や金融の世界でも、グローバル化を進めている。生産・流通・広告・金融などでの技術革新により、新しい形で国際分業が再編成されていると言える。 本講義では、企業の国際化に伴う諸問題を包括的に議論し、グローバリゼーションを理解するための理論的枠組みを提供することを目的とする。 前半で主として理論・歴史を取り扱い、後半でケーススタディを行うので、通年受講が望ましい。		1. グローバリゼーションの時代 2. 現代経済における多国籍企業 3. 巨大企業と「豊かな社会」 4. コーポレートガバナンスの変貌 5. フォードシステム 6. 日本的生産システム 7. 情報技術革命のインパクト 8. 情報技術革命と企業組織 9. 企業組織と経営戦略の変貌 10. 情報技術革命と日米企業 11. 生産性と競争優位 12. 多国籍企業と新しい国際分業 13. 情報化社会と日本的経営の再審	
テキスト、参考文献		評価方法	
トーマス・フリードマン『フラット化する世界』日本経済新聞社		定期試験	

01 年度以降	国際経営論 b	担当者	小林 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期は、多国籍企業の活動にかかわるケーススタディを中心として、グローバリゼーションの現状を分析する。		1. 日本企業の国際化 2. 日本企業の海外進出 戦後復興から 90 年代 3. 日本企業の海外進出 「摩擦」の政治経済学 4. 日本企業の海外進出 アメリカの日系企業 5. 日本企業の海外進出 ヨーロッパの日系企業 6. 日本企業の海外進出 アジアへの進出と撤退 7. 「世界の工場」中国の登場 8. IT 革命と世界的な産業の再編成 9. ハイテク産業の覇権をめぐる 10. 自動車産業の再編成 11. 新しいビジネスモデルの登場 12. 製品および産業のアーキテクチャ 13. 日本企業の課題	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜指示する		定期試験	

01 年度以降	経営史 a	担当者	柳 敦
講義目的、講義概要		授業計画	
欧米を中心とし、企業経営行動の歴史の変遷をたどる。各時期、各地域における企業行動の合理性（あるいは非合理性）を歴史的制約、文化的側面をも含めて考える。 近代工業改善の企業行動を概観し、次いで、英国における産業革命の特徴と企業経営の問題を検討する。		1 経営史の課題と問題 2 ヨーロッパ前近代における企業と経営 (1) 3 ヨーロッパ前近代における企業と経営 (2) 4 ヨーロッパ前近代における企業と経営 (3) 5 ヨーロッパ前近代における企業と経営 (4) 6 重商主義とアダム・スミス 7 資本主義とその精神 8 英国産業革命とその特徴 (1) 9 英国産業革命とその特徴 (2) 10 英国産業革命期の企業経営 (1) 11 英国産業革命期の企業経営 (2) 12 工場制の導入と労働規律の変化 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		期末試験の成績によって評価を行う。	

01 年度以降	経営史 b	担当者	柳 敦
講義目的、講義概要		授業計画	
欧米を中心とし、企業経営行動の歴史の変遷をたどる。各時期、各地域における企業行動の合理性（あるいは非合理性）を歴史的制約、文化的側面をも含めて考える。 後発工業国であるフランス、ドイツ、米国の事例を検討しながら 19 世紀における企業経営のありかたを考察し、次いで、20 世紀型企業経営の問題を考える。		1 後発国での工業化の特徴 2 19 世紀フランスにおける工業化とその特徴 3 19 世紀フランス企業経営の特徴 4 19 世紀ドイツにおける工業化とその特徴 5 19 世紀ドイツ企業経営の特徴 6 19 世紀における小売業界での変化と特徴 7 19 世紀米国における工業化とその特徴 8 19 世紀米国企業経営の特徴 9 ビッグビジネスの展開と独占禁止法 10 科学的管理法の展開 11 企業組織の問題 12 フォードと GM 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		期末試験の成績によって評価を行う。	

01 年度以降	日本経営史 a	担当者	奈倉 文二
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では日本の大企業経営の形成発展について個別企業や経営者など具体的事例をあげながら明らかにする。 まず、資本主義成立発展過程に即して、日本独特の会社制度や大企業システム形成上の様々な事例と問題点を国家と企業及びその国際的諸関係に留意しながら明らかにする。財閥・国有企業・外資系企業についてはやや立ち入った検討を加え、当時のコーポレート・ガバナンスについても考察する（授業計画の項目・順序は変更あり得る）。 具体的イメージを持てるようにVTRも活用する予定。講義内容を理解する上で「日本経済史 a」をも受講することが望ましい。 〔注意〕毎週の講義前日までに、講義資料を講義支援システムに入力しておくので、履修者は必ず事前に講義資料を入手して講義に臨むこと。		1 はじめに：近代的企業経営・株式会社・大企業システム 2 幕末維新と政商（小野組・島田組と三井） 3 外商の活動と外資規制（グラバーと高島炭坑） 4 「近代化」・「工業化」の担い手（渋沢と岩崎） 5 会社制度の導入・発展（紡績・鉄道・銀行） 6 官業払い下げ、「政商から財閥へ」 7 「番頭経営」と専門経営者 8 国有国営企業と軍事関連企業 9 外資系企業の進出（英米系企業中心） 10 日本企業の中国進出（満鉄と在華紡） 11 財閥コンツェルンと持株会社 （財閥のコーポレート・ガバナンス） 12 外資系会社とコーポレート・ガバナンス （日本製鋼所を中心に） 13 終わりに：本講義のねらいと結果	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：宇田川・中村編『マテリアル日本経営史』（有斐閣）、経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）、その他適宜指示する。		筆記試験	

01 年度以降	日本経営史 b	担当者	奈倉 文二
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、戦前から戦後にかけての大企業経営の変遷とその特徴について具体的事例をあげながら説明する。 まず、1930 年代の大企業経営のあり方を官民関係の変容、新興コンツェルンの蓄積様式（旧財閥との比較）、外資系企業の展開と規制、戦時期の軍需産業の展開、統制会方式等について述べる。さらに、戦後大企業システムの形成発展について、財閥解体、企業集団の形成、「日本型企业システム」「日本的経営者支配」の内容、重化学大企業の発展様式、企業集団とコーポレート・ガバナンス等について述べる（授業計画の項目・順序は変更あり得る）。 講義内容を理解する上で「日本経営史 a」「日本経済史 ab」をも受講することが望ましい。 〔注意〕毎週の講義前日までに、講義資料を講義支援システムに入力しておくので、履修者は必ず事前に講義資料を入手して講義に臨むこと。		1 はじめに（日本大企業システムの「連続と断絶」） 2 日本製鉄の設立と官民関係 3 新興コンツェルン（日産等）と旧財閥 4 外資系企業の展開と規制（石油・自動車） 5 軍需産業の展開（三菱重工と中島飛行機） 6 統制会方式とその破綻 （「指導者原理」と「所有と経営の分離」！？） 7 財閥解体（集排法・独禁法含む）の経営史的意義 8 企業集団形成（株式持合・社長会・系列融資） 9 「日本型企业システム」・「日本的経営者支配」 10 耐久消費財（家電・自動車）大企業と鉄鋼寡占資本 11 企業集団・系列とコーポレート・ガバナンス 12 持株会社解禁・「経営統合」・メガバンクと企業集団の変容 13 終わりに：本講義のねらいと結果	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：宇田川・中村編『マテリアル日本経営史』（有斐閣）、経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）、その他適宜指示する。		筆記試験	

01 年度以降	マーケティング論 a	担当者	有吉 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
マーケティングは、消費者のニーズを企業の目標である利益獲得に結びつけるための経営上の重要なツールである。ただ単に「作れば売れる」という大量生産・大量消費の時代が終わりを告げた現在、消費者の嗜好はますます個別化してきている。どのような消費者をターゲットとするのか、そのような消費者の手元に確実に自社商品・サービスを届けるためには、どのような手段を用いたらよいのかといった問題について、マーケティングは答えを与えてくれる。講義では、マーケティング戦略と企業全体の戦略との関係を常に意識しながら、論理的かつ事例を交えて具体的に解説したいと思う。 教員による一方的な講義ではなく、双方向性やディスカッションを重視するので、教科書の該当箇所を事前に読んできていることが望ましい。		1. マーケティングとは何か？ 2. 企業戦略・事業戦略とマーケティング戦略の関係 3. 企業理念の重要性とその設定・変更 4. 企業目標の選定① 5. 企業目標の選定② 6. 外部環境要因の分析① 7. 外部環境要因の分析② 8. 内部環境要因の分析① 9. 内部環境要因の分析② 10. 企業戦略の策定①～プロダクト・ライフサイクルの分析 11. 企業戦略の策定②～アンゾフの成長戦略 12. 企業戦略の策定③～競争上の地位と企業戦略 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
有吉秀樹『企業価値向上のマーケティング戦略』中央経済社。必要があれば補足プリントを配布する		授業中の発言と期末試験により評価する	

01 年度以降	マーケティング論 b	担当者	有吉 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
マーケティングは、消費者のニーズを企業の目標である利益獲得に結びつけるための経営上の重要なツールである。ただ単に「作れば売れる」という大量生産・大量消費の時代が終わりを告げた現在、消費者の嗜好はますます個別化してきている。どのような消費者をターゲットとするのか、そのような消費者の手元に確実に自社商品・サービスを届けるためには、どのような手段を用いたらよいのかといった問題について、マーケティングは答えを与えてくれる。講義では、マーケティング戦略と企業全体の戦略との関係を常に意識しながら、論理的かつ事例を交えて具体的に解説したいと思う。 教員による一方的な講義ではなく、双方向性やディスカッションを重視するので、教科書の該当箇所を事前に読んできていることが望ましい。		1. 目標売上高と目標利益の算定 2. 市場細分化と標的市場の選定 3. ポジショニング 4. マーケティング目標の設定①～販売予測 5. マーケティング目標の設定②～販売分析 6. マーケティング目標の設定③～販売高計画と販売割当 7. 製品戦略① 8. 製品戦略② 9. 価格戦略 10. 流通経路戦略 11. プロモーション戦略 12. マーケティング戦略の実行と監査 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
有吉秀樹『企業価値向上のマーケティング戦略』中央経済社。必要があれば補足プリントを配布する		授業中の発言と期末試験により評価する	

01 年度以降	行動科学論 a	担当者	有吉 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
行動科学とは、人間の行動を科学的に研究し、その法則性を明らかにする学問である。特に本講座では、企業の経営戦略立案に必要不可欠な消費者行動にスポットを当てる。講座を通して、感覚ではなく、具体的なデータから消費者ニーズやその行動パターンを読み取り、企業戦略に活用する手法を実践的に学ぶことができるようにしたい。尚、教員による一方的な講義ではなく、グループによる活動を重視するので、能動的に学ぼうという意思のある学生の参加を望む。		1. ガイダンス、グループ分け 2～11. グループごとに消費者行動データを利用したマーケティング戦略を立案 12～13. 戦略案のプレゼン	
テキスト、参考文献		評価方法	
有吉秀樹『企業価値向上のマーケティング戦略』中央経済社。必要があれば補足プリントを配布する		マーケティング論を受講済みもしくは受講予定の学生のみに限る。グループワークへの参加状況と期中と期末のレポートにより評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は秋は開講しません。			
テキスト、参考文献		評価方法	

01 年度以降	保険論 a	担当者	岡村 国和
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、幅広い現実の保険現象を理解し、現在進行中の保険事業をめぐる環境変化を分析する能力を取得することにあります。 春学期の目標は保険理論の理解であり、主として保険の技術や原則を中心に、保険のシステム全体について講義します。保険の本質的機能を十分理解すれば、近接他業との相互関係や環境変化・市場再編の方向が理解でき、また保険における契約者保護の重要性を知ることができます。 上記のことを理解する前提として、近代保険業がなぜ生まれたのか、またその性格はいかなるものであるのか、を理解することが重要です。 なるべく丁寧に講義を進めることを心がけますが、進度やトピックスの挿入などによって、右記の授業計画の一部を割愛することがあります。		1 講義の進め方、保険学の学問的位置づけなど。 2 リスクとリスクマネジメントの一般理論について。 3 期待効用に基づく保険モデルの解説。 4 保険の歴史(1)：原始共済について。 5 保険の歴史(2)：近代保険について。 6 保険の構造(1)：保険の理論的構造の概観。 7 保険の構造(2)：主として損害保険の主要概念。 8 保険の構造(3)：「危険負担の一般原則」および「損害填補の一般原則」とその例外について。 9 保険の構造(4)：告知義務と通知義務について。 10 保険各論(1)：生命保険の仕組みや機能について。 11 保険各論(2)：自動車保険、火災保険について。 12 保険各論(3)：第3分野保険、傷害保険について。 13 春学期のまとめ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
パワーポイントによる授業を行います。UP する予定はありませんので注意してください。参考文献などは適宜指示します。		定期試験（80%）により評価しますが、小テストや講義感想などのミニレポート（20%）を書いていただくことがあります。	

01 年度以降	保険論 b	担当者	岡村 国和
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期は保険会社の経営についての講義を中心に講義を進めます。具体的には保険業の収益構造や保険市場の構造的変化について、日米の保険業を比較検討します。 収益面では、バブル期までの生保業の中心的な収益源泉が、保険販売収益ではなく金融収益であったことを知っているでしょうか。金融収益が保険収益を上回るという本業と副業の収益面での「ねじれ現象」が発生しています。 バブル崩壊後に生命保険も損害保険も保険会社の収益構造が変容しましたが、重要であるにもかかわらず、一般的な教科書には余り記載されていません。この点についても解説します。 また、日本の大手生保会社は、「保険業法」に基づいて設立された相互会社（非営利中間法人）であるということを知らない人が多いと思います。		1 秋学期の講義目的や内容について 2 保険経営の特徴 3 保険市場の概要と主要な問題 4 保険企業の形態：株式会社と相互会社 5 保険経営の特殊性(1)：保険技術的危険について。 6 保険経営の特殊性(2)：保険料の算定、アンダーライティングについて。 7 保険の限界とその拡張。 8 損害保険会社の収益構造。 9 保険収益のサイクルとコンバインドレシオ 10 生命保険会社の収益構造。 11 予定利率をめぐる問題。 12 保険における消費者保護の現状。 13 秋学期のまとめ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
パワーポイントによる授業を行います。UP する予定はありませんので注意してください。参考文献などは適宜指示します。		定期試験（80%）により評価しますが、小テストや講義感想などのミニレポート（20%）を書いていただくことがあります。	

01 年度以降	貿易論 a	担当者	米山 昌幸
講義目的、講義概要		授業計画	
貿易論は、財・サービスの国際取引や資本・労働・経営資源の国際移動を分析対象とする学問分野です。 この講義の目的は、国際貿易や貿易政策の基礎理論や現実の貿易、貿易実務について学んで、現実の国際貿易のテーマを考察するための経済学的な思考方法を手に入れることです。国際貿易のメカニズムやさまざまなテーマを考察するうえで有用な貿易理論を身に付けてもらいたいと思います。あわせて実際のデータを提示して国際貿易の実態についての理解も深めていきたいと思います。 <u>春学期は、一般均衡モデルを用いて伝統的な国際貿易の基礎理論を中心に講義します。貿易論でもっとも重要な概念である比較優位をはじめ、貿易パターン、貿易利益、比較優位を決める要因などを取り上げます。</u> ミクロ経済学の基礎的なところから貿易論の分野へつなげるように、できるだけいねいに説明していきますので、貿易理論を学ぶことで、経済学的な思考方法で貿易を捉えることができるようになってもらいたいと思います。		1. 貿易とは 2. 貿易の取引と決済の仕組み(1) 3. 貿易の取引と決済の仕組み(2) 4. リカードの比較生産費説(1) 5. リカードの比較生産費説(2) 6. リカードの比較生産費説(3) 7. ヘクシャー＝オリー理論(1) 8. ヘクシャー＝オリー理論(2) 9. 産業内貿易と規模の経済 10. 国際貿易の基礎理論 11. 貿易と国際収支・為替レート 12. 貿易と経済活動・経済発展 13. 日本経済と貿易の歩み	
テキスト、参考文献		評価方法	
小峰隆夫『貿易の知識(第2版)』日経文庫、2004年。 久保広正『ベーシック貿易入門』日経文庫、2005年。 石川城太・菊地徹・椋寛『国際経済学をつかむ』有斐閣、2007年。		出席状況、練習問題、定期試験の総得点によって評価します。評価基準は第1回目の授業で説明します。	

01 年度以降 (秋)	貿易論 b	担当者	米山 昌幸
講義目的、講義概要		授業計画	
貿易論は、財・サービスの国際取引や資本・労働・経営資源の国際移動を分析対象とする学問分野です。 この講義の目的は、国際貿易や貿易政策の基礎理論や現実の貿易、貿易実務について学んで、現実の国際貿易のテーマを考察するための経済学的な思考方法を手に入れることです。国際貿易のメカニズムやさまざまなテーマを考察するうえで有用な貿易理論を身に付けてもらいたいと思います。あわせて実際のデータを提示して国際貿易の実態についての理解も深めていきたいと思います。 <u>秋学期は、部分均衡モデルを用いて貿易政策の基礎理論を説明したのち、個別テーマを問題接近的に講義します。</u> 国際貿易のルールと貿易交渉、アンチ・ダンピング措置や緊急輸入制限措置(セーフガード)、貿易と環境、地域統合と FTA(自由貿易協定)など、新しいテーマを取り上げたいと思います。 ミクロ経済学の基礎的なところから貿易論の分野へつなげるように、できるだけいねいに説明していきますので、貿易理論を学ぶことで、経済学的な思考方法で貿易を捉えることができるようになってもらいたいと思います。		1. 戦後の国際経済体制と世界貿易の発展 2. 貿易政策の目的 3. 貿易政策の手段 4. 部分均衡分析による貿易利益 5. 貿易政策の効果(1)―関税・生産補助金 6. 貿易政策の効果(2)―輸入数量制限・輸出自主規制 7. 戦略的貿易政策 8. 国際貿易のルールと貿易交渉―GATT/WTO 体制 9. アンチダンピングとセーフガード 10. 貿易と環境 11. 多国籍企業と直接投資、国際労働移動 12. 地域統合と FTA 13. グローバリゼーションと反グローバリゼーション	
テキスト、参考文献		評価方法	
小峰隆夫『貿易の知識(第2版)』日経文庫、2004年。 久保広正『ベーシック貿易入門』日経文庫、2005年。 石川城太・菊地徹・椋寛『国際経済学をつかむ』有斐閣、2007年。		出席状況、練習問題、定期試験の総得点によって評価します。評価基準は第1回目の授業で説明します。	

01 年度以降	証券市場論 a	担当者	高橋 元
講義目的、講義概要		授業計画	
グローバリゼーションや自由化の進展は、わが国の経済構造を大きく変革せしめている。とりわけ、間接金融から直接金融へのシフトが加速化することにより、個人と証券・証券市場との距離は急速に接近しつつある。このことはまた、個人が自己責任原則の下に多様なリスクに晒される時代の到来を意味している。 本講義では、証券と証券市場を巡る制度、歴史、理論などを体系的に学ぶことにより、その国民経済的な意義を明らかにする事を目的とする。また、日々の出来事などについて実践的な解説を適宜施すことで、より理解を深めるよう試みたい。これらを通じて、直接金融主導の経済環境において、個人としてリスクを制御する上で最低限必要な知識の涵養も目指していく。 証券市場 a では、証券の定義や証券市場のメカニズムなど、基本的な領域について幅広く学習する。講義は口述と板書を中心に、必要に応じてプリント類を配布する。授業は、原則として計画に沿って進行するが、金融資本市場の変化などに応じて、流動的に対応していく。		1. 講義の概要——進め方、評価方法等のガイダンス 2. 戦後の経済発展と証券市場 3. 証券の意義と種類（その1） 4. 〃 （その2） 5. 証券市場の機能と沿革 6. 制度改革とその影響 7. 証券業務と証券会社 8. 証券市場の構成者 9. 機関投資家と個人投資家 10. 証券化の仕組みとその功罪 11. 新しい金融商品の基礎 12. 証券市場の現状と課題 13. 総括——まとめと期末試験へのアナウンス	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しないが、参考文献として下記を挙げる。『入門現代の証券市場（第2版）』佐藤昇、木村由紀雄、高橋元、相沢幸悦／著、東洋経済／刊（2003年）		出席状況、授業中に実施するレポートの提出状況と内容、試験結果などを総合的に勘案し評価する。	

01 年度以降	証券市場論 b	担当者	高橋 元
講義目的、講義概要		授業計画	
グローバリゼーションや自由化の進展は、わが国の経済構造を大きく変革せしめている。とりわけ、間接金融から直接金融へのシフトが加速化することにより、個人と証券・証券市場との距離は急速に接近しつつある。このことはまた、個人が自己責任原則の下に多様なリスクに晒される時代の到来を意味している。 本講義では、証券と証券市場を巡る制度、歴史、理論などを体系的に学ぶことにより、その国民経済的な意義を明らかにする事を目的とする。また、日々の出来事などについて実践的な解説を適宜施すことで、より理解を深めるよう試みたい。これらを通じて、直接金融主導の経済環境において、個人としてリスクを制御する上で最低限必要な知識の涵養も目指していく。 証券市場論 b では、株式を中心に証券価格の評価などに関わる理論的な考察を行い、専門的且つ高度な知識の習得を図る。講義は口述と板書を中心に、必要に応じてプリント類を配布する。授業は、原則として計画に沿って進行するが、金融資本市場の変化などに応じて、流動的に対応していく。		1. 講義の概要——進め方、評価方法等のガイダンス 2. 証券の価格形成 3. 証券投資理論の基礎（リスクとリターン） 4. 株式と株式会社 5. 金利の意義と債券投資理論 6. 株式投資尺度（その1） 7. 〃 （その2） 8. 評価モデルの構造と種類 9. ポートフォリオ理論の基礎 10. ポートフォリオ理論の発展形態 11. デリバティブズ 12. 新しい投資理論の展開 13. 総括——まとめと期末試験へのアナウンス	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しないが、参考文献として下記を挙げる。『入門現代の証券市場（第2版）』佐藤昇、木村由紀雄、高橋元、相沢幸悦／著、東洋経済／刊（2003年）		出席状況、授業中に実施するレポートの提出状況と内容、試験結果などを総合的に勘案し評価する。	

01 年度以降	企業論 a	担当者	平井 岳哉
講義目的、講義概要		授業計画	
大学卒業後の進路として、就労の場である企業の存在は無視できないものがあります。しかし、学生の企業に対する問題意識は総じて希薄であり、企業に関する情報や知識も断片的・表層的なものでしかないものと考えられます。 本講義では、企業における諸制度や仕組みの概要説明を通じて、日本企業の多面的な性格・特徴を論じていきたいと思います。特に昨今、日本型経営システムは大きな転換期を迎えていると言われています。今後の方向性についても、最新の企業情報を織りまぜながら、ともに考えていきたいと思います。 春学期は企業内部の諸制度や仕組みに、秋学期は企業外部との関係にそれぞれ焦点を当てます。		1 オリエンテーション 2 終身雇用 3 高齢者雇用・定年 4 女性雇用 5 年功賃金 6 人事異動 7 昇進 8 採用 9 教育・研修、人事評価 10 福利厚生 11 労働時間、休暇 12 労働組合 13 オフィス環境	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は特に指定しない。		期末試験の結果と講義での貢献	

01 年度以降	企業論 b	担当者	平井 岳哉
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。		1 会社の種類・形態 2 トップマネジメント 3 家族経営者と専門経営者 4 家族企業 5 横の企業グループ 6 縦の企業グループ 7 系列取引 8 中小企業 9 企業創業 10 社会貢献 11 企業リスク 12 企業と政府（行政との関係） 13 業界再編	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

01 年度以降	ベンチャービジネス論 a	担当者	上坂 卓郎
講義目的、講義概要		授業計画	
ベンチャー企業も一つの企業であるという基本認識に立って、企業の役割や機能をトータルに把握できるようにする。その理解の上に、ベンチャー企業特有の問題や政策支援の内容などを理解していく。今年度はテキストに準拠してすすめる。 この講義を受講してすぐ起業できるわけではない。しかし将来起業したり、独立する際に知っておくべき基礎的な知識を習得する。また起業に関心はなくても、意識の高い企業人や社会人になろうとする人は受講してほしい。他学部の学生も歓迎する。 経験則として単位取得と講義の受講は強い正の相関関係にある。各自判断のうえ受講すること。		1 会社とはなにか 2 会社の誕生（１） 3 会社の誕生（２） 4 会社の設立 5 会社の成長と組織 6 会社の資金調達 7 ベンチャー企業支援政策 8 ベンチャー企業と知財（特許）戦略 9 資本市場の仕組み 10 ベンチャー企業と上場市場の活用 11 ベンチャー企業の内部管理体制 12 ベンチャー起業家の講演 13 まとめと課題 ※ 進捗にあわせて内容を変更する可能性がある	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：上坂卓郎『ベンチャー企業入門』中央経済社（2006）。毎回関連資料を配布する		定期試験を行う。なお追試、レポートは実施しないので注意すること（特に４年生）。授業中はノートをとること	

01 年度以降	ベンチャービジネス論 b	担当者	上坂 卓郎
講義目的、講義概要		授業計画	
ベンチャービジネス論 a と同様だが、より専門的な話題を盛り込んだ内容とする。また最近の盛んになっている企業買収、MBO など組織再編のテーマについても、ベンチャー企業の成長政策の一つとして触れる。秋学期はビジネススクールで取り扱うベンチャー企業の問題を平易に解説していく。 今年度はテキストに準拠してすすめる。		1 ベンチャー企業と資金繰り 2 ベンチャーキャピタルの役割（１） 3 ベンチャーキャピタルの役割（２） 4 ベンチャー企業評価 5 起業家にとっての資本政策 6 ベンチャー企業とビジネスリスク 7 プライベートエクイティとM&A、MBO 8 ベンチャー企業の成長戦略 9 産業動向とベンチャー企業戦略立案 10 ビジネスエンジェルの役割 11 ベンチャーキャピタリストの講演 12 経営再起とベンチャー企業、 13 まとめと課題 ※ 進捗にあわせて内容を変更する可能性がある	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：上坂卓郎『ベンチャー企業入門』中央経済社（2006）。毎回関連資料を配布する		定期試験を行う。なお追試、レポートはないので注意すること（特に４年生）。授業中はノートをとること	

01 年度以降	非営利組織マネジメント論 a	担当者	高松 和幸
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要：非営利組織（NPO）マネジメント論では、NPO の事業・活動に関する、その運営の多様性について講義する。春学期では、授業計画にあるように、基礎的な知識習得に努める。 NPO で活躍が期待される事業や組織運営に関する基礎を理解すると同時に、事例を取り上げる予定である。NPO は地域・企業・行政によって支えられているが、その活動も多岐にわたるため、本講義の内容也多岐になる、そのため年間を通じて授業を受けることが望ましい。 講義目標：NPO 活動を、マネジメントの視点から整理すること、マネジメントの理論などを取り上げることで、健全な活動ができることを学ぶことにある。		1. NPO とは何か：ボランティア組織・フィランソロピー・NGO・市民セクター 2. NPO の成立：ランティア活動・NPO の萌芽 3. NPO の発展：ボランティア革命 4. NPO の規模：構造・分類・公益法人制度 5. NPO の形態：人制度・市民活動団体 6. NPO の成立基盤：制度化・活動資金 7. NPO の経営環境：外部環境・政府との関係 8. NPO の経営管理：管理機構・意思決定 9. NPO の管理手法：経営戦略・業績管理 10. NPO の会計制度：会計書類・会計基準 11. NPO の予算管理：予算制度・収支計算書 12. NPO の業績評価：事業評価 13. まとめ	
テキスト、参考文献		受講条件・評価方法	
プリント配布など 高松和幸著『NPO マネジメント』五弦舎、2002 年.		受講条件：b も履修すること 評価方法：出席(20%)・レポート(10%)・試験(70%)など	

01 年度以降	非営利組織マネジメント論 b	担当者	高松 和幸
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要：非営利組織（NPO）マネジメント論では、非営利組織の事業・活動、評価に関して取り上げる。 秋学期では、NPO で活躍が期待される事業や組織運営での事例に基づく学習と共に、諸外国の動向や NPO が地域・企業・行政によって支えられていること、その活動もフィランソロピーやボランティアと共に注目されていることなどを、地域や社会の変遷とともに、その基礎理論を理解するためにも、現実の NPO 活動を理解することが大切であることは言うまでもない。そのため春学期で学んだことをさらに深めることになる。 講義目的は、春学期と同じ。		1. NPO の経営分析：分析手法 2. NPO の業績評価方法：財務と非財務情報 3. NPO の国際比較：比較視点 4. 世界の NPO・NGO 5. アメリカの NPO 6. イギリスの NPO 7. ドイツの NPO 8. フランスの NPO 9. 中国の NPO 10. その他の国の NPO：ハンガリー・トルコ 11. NPO の I T 化：NPO の変化・組織の価値 12. NPO の今後 13. まとめ	
テキスト、参考文献		受講条件・評価方法	
プリント配布など 高松和幸著『NPO マネジメント』五弦舎、2002 年.		受講条件：a を履修していること 評価方法：出席(20%)・レポート(10%)・試験(70%)など	

01 年度以降	企業文化論 a	担当者	斉藤 善久
講義目的、講義概要		授業計画	
1、企業文化を学ぶことは、企業は誰のために何のために存在するのかを考えることです。 2、優良企業、エクセレント・カンパニー、オンリーワン企業、いい会社について考えます。自分にとって何がいい企業かを見る目を養います。 3、優れた企業文化を創りあげた創業者の発想を学びます。 4、自分の発想力を鍛えるためにブレインストーミングを体で覚え、発想のヒントをつかみます。 ※2年生と3年生の受講を勧めます		1、オリエンテーション 2、いい企業とは 3、演習 4、E S（雇用者満足）とC S（顧客満足） 5、演習 6、優れた創業者・経営者 7、演習 8、C S R（企業の社会的責任）、メセナ活動 9、演習 10、発想法とは 11、演習 12、総合演習とまとめ 13、発表と審査、表彰と講評、	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ひらめきのマジック』さいとうぜんきゅう著 ボイジャー社 1400円		出席と数回のレポート、試験による	

01 年度以降	企業文化論 b	担当者	斉藤 善久
講義目的、講義概要		授業計画	
1、企業文化を学ぶために秋期は企業の不祥事について考えます。 犯罪や事故を起こす企業について何が問題なのか考えます。 2、そのため企業体質、企業風土、組織心理などについて考察します。 3、春期と秋期をつうじて、自分と企業の関係についてキャリアイメージを考えます。 さらに自分のキャリア戦略を立案するためのヒントを考えます。 また自分のキャリアを経済面からだけでなく、文化面からも考えてみましょう。 ※2年生と3年生の受講を特にお奨めします		1、オリエンテーション 2、よくない企業とは 3、演習 4、企業犯罪と企業事故の原因 5、演習 6、コンプライアンス（法令順守）、とコーポレート・ガバナンス（企業統治） 7、演習 8、ラブストーリーのある企業 9、演習 10、自分のプレゼン法 11、演習 12、総合演習とまとめ 13、発表と審査、表彰と講評	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ひらめきのマジック』さいとうぜんきゅう著 ボイジャー社 1400円		出席と数回のレポート、試験による	

01 年度以降	研究・開発マネジメント a	担当者	日下 泰夫
講義目的、講義概要		授業計画	
情報技術、環境技術、バイオテクノロジー、新素材、ナノテクノロジー等の技術革新は、社会・経済、産業、経営、個人に大きな影響を与えています。企業の発展はこうした技術革新の原動力となる企業の研究開発（R&D）によって支えられており、いかに競争優位の研究開発マネジメント・システムを構築するかは、企業経営の重大な関心事となっています。 本講義では、技術革新をはじめとするイノベーションを引き起こすための研究開発マネジメントの基本的な視点を、事例をまじえて学習します。講義では最新のトピックスも出来るだけ紹介します。 将来、社会人として、新商品、新サービス、新事業の開発に関わりたいてと考えている人は、技術に関わる経営の戦略的マネジメント（技術経営：Management of Technology）の理解は必須となるでしょう。この領域では文系の方々の必要としています。“研究開発は理系の分野”という先入観に捉われず、文系の皆さんがこの新しい領域に積極的に挑戦されることを期待しています。		1 ガイダンス、企業の未来と研究開発、イノベーション 2 環境変化と研究開発マネジメント 1 3 環境変化と研究開発マネジメント 2 4 技術革新の潮流 1：技術の未来ロードマップ 5 技術革新の潮流 2：技術のライフサイクルとマネジメント 6 経営戦略と技術戦略 1 7 経営戦略と技術戦略 2 8 事業創造：事業のライフサイクルと技術・商品開発 9 商品開発 1：新しいパラダイム、プロダクト・イノベーション 10 商品開発 2：革新的な商品開発とコンセプト創造 11 研究開発とマーケティング 12 研究開発と人材育成 13 企業における技術経営への取り組み（講演予定）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：山之内昭夫『新・技術経営論』、日本経済新聞社（適宜、資料を配布）。参考文献：各テーマ毎に紹介します。		期末試験を中心に、出席を加味して評価します。	

01 年度以降	研究・開発マネジメント b	担当者	日下 泰夫
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的は春期に同じ。 秋期は、研究開発に関わる重要なトピックスについて、その現状と課題を事例をまじえながら説明します。 講義は春学期講義 a での基礎概念の履修を前提に進めます。講義では最新のトピックスも出来るだけ紹介します。		1 研究開発と環境マネジメント 1：研究開発における環境マネジメントの視点 2 研究開発と環境マネジメント 2：自動車産業の環境経営 3 研究開発と産学協同 4 研究開発と地域産業 5 研究開発と知財管理 1 6 研究開発と知財管理 2 7 研究開発とグローバル化 8 研究開発と情報システム 9 研究開発とアライアンス 1 10 研究開発とアライアンス 2 11 研究開発マネジメントの研究：世界の動向から 12 研究開発の意思決定研究：モデリング・アプローチ 13 企業における技術経営の取り組み（講演予定）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：山之内昭夫『新・技術経営論』、日本経済新聞社（適宜、資料を配布）。参考文献：各テーマ毎に紹介します。		期末試験を中心に、出席を加味して評価します。	

01 年度以降	会計学原理 a	担当者	内倉 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、‘制度としての会計’の解明を目的とする。その目的のため、我が国における企業会計に関する慣習的な諸ルールを直接の分析対象に選び、その規定している内容と、それを支えている理論的な背景の紹介をしていきたい。 講義計画は右に掲げるとおりであるが、おおむね「会計学原理 a」では、会計学の領域のうちで従来から議論されてきた伝統的な部分の概要を紹介していく予定である。 なお、複式簿記の基本的知識を前提に議論を発させるため、「簿記原理 a, b」を修得していること、または同等の知識のあることを履修の条件とする。		1 本講義の目的等 2 テキスト第 1 章 会計と会計理論 3 テキスト第 2 章 企業会計と関係法規 4 テキスト第 3 章 企業会計原則 5 テキスト第 4 章 貸借対照表 6 テキスト第 5 章 損益計算書 7 テキスト第 6 章 その 1：間接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成 8 テキスト第 6 章 その 2：直接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成 9 テキスト第 8 章 有価証券 10 テキスト第 9 章 固定資産 11 テキスト第 10 章 固定資産の減損と時価評価 12 テキスト第 11 章 繰延資産 13 前期の総復習……同形式の問題により、前期末試験の予行演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
平井克彦・石津寿恵、『損益計算と情報開示』（白桃書房）		評価の中心は期末試験の結果である。その際には、相対評価を基本とし、絶対評価を加味したい。	

01 年度以降	会計学原理 b	担当者	内倉 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
「会計学原理 a」の伝統的な会計学領域に関する知識を前提として、この「会計学原理 b」では、‘連結財務諸表’，‘税効果会計’，‘外貨換算’，‘デリバティブ’といった比較的新しい問題(ないし、最近においてその制度的中身が大幅に改変された領域)を講義の対象としたい。会社法が施行されて 2 年目をむかえる本年の場合は、それに加えて、会社法の計算規定の解説にも、ウェイトを置きたいと考えている。		1 テキスト第 12 章 負債 2 テキスト第 13 章 引当金 3 テキスト第 14 章 資本 その 1：株主持分額の中身について 4 テキスト第 14 章 資本 その 2：株式報酬, ストック・オプション 5 テキスト第 14 章 資本 その 3：吸収型組織再編行為について 6 テキスト第 14 章 資本 その 4：剰余金の配当 7 テキスト第 14 章 資本 その 5：「純資産の部」の表示, 株主資本等変動計算書 8 テキスト第 17 章 連結会計 その 1：‘基本の基’ 9 テキスト第 17 章 連結会計 その 2：会社法のもとの連結精算表, 連結株主資本等変動計算書の作成 10 テキスト第 18 章 税務会計, テキスト第 19 章 税効果会計 11 テキスト第 20 章 外貨換算会計 12 テキスト第 21 章 デリバティブ会計 13 後期の総復習……同形式の問題により、後期末試験の予行演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
「会計学原理 a」と同じ。		「会計学原理 a」と同様。	

01 年度以降	財務会計論 a	担当者	なかむら やすまさ 中村 泰將
講義目的、講義概要		授業計画	
会計は、企業で発生するさまざまな経済活動あるいは経済事象などをあらかじめ決められたルール（「会計基準」という）にしたがって貨幣的言語で表現（「測定」という）し、伝達する行為です。 本講座では、株式会社を中心とする企業会計を対象とし、会社法および会計基準に基づいて会計理論を説明します。企業会計の中でも財務会計は、主として資金の提供者である株主や債権者などの利害関係者に企業の会計情報を提供することを目的とします。財務会計は、また従業員（退職金や年金）や国・地方公共団体（税金）、消費者（料金や価格）などのステーク・ホルダーにも関係し、彼らにも情報を提供し、利害を調整します。 授業では、毎回講義のレジュメを配布し、理論ばかりでなく実際に企業でどのように会計が利用されているかを新聞、雑誌などの資料を利用して説明します。		（総論） 1. 会計(学)とは、どのような学問か。 2. 企業会計の理論的構造は何か。 3. 企業会計の計算構造は何か。 4. 日本および米国の会計制度はどのような仕組みになっているのか。 5. 「企業会計原則」の構造を学ぶ。 （各論） 6. 資産会計 （ア）資産の意義 （イ）資産の分類 （ウ）資産の評価 7. 流動資産の意義・分類・評価 8. 当座資産の意義・分類・評価 9. 有価証券の意義・分類・評価 10. 固定資産の意義・分類・評価・償却 11. 繰延資産の意義・評価・償却 12. 無形固定資産の意義・評価・償却 13. 演習問題	
テキスト、参考文献		評価方法	
新井清光著・加古宜士（補訂）『現代会計学』（第8版）中央経済社 参考文献『会計法規集』中央経済社、税務経理協会など		出席・レポート、定期試験の総合評価。	

01 年度以降	財務会計論 b	担当者	中村 泰將
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期は、講義目的については春学期と同様です。春学期に単位を落としても、秋学期は履修できます。 秋学期の財務会計の範囲としては、貸借対照表の貸方側の負債と資本から始まります。 負債は、年金の問題、リースの問題などが入り、計算の構造が割引キャッシュフローでもって測定する形になります。 資本では、商法の会社法が 70 年ぶりに改正され、資本の分類、資本の項目なども変わり、自己株式の会計、合併の会計処理など新たな会計基準が登場してきました。 損益会計では、あくまでも近代会計は損益の計算を重視していますから、利益の計算は重要です。 連結財務諸表は、今日の企業の系列、統合化、再編などと相まってますます企業グループの財務諸表の重要性が高まっています。米国では、連結財務諸表が中心です。日本でも連結財務諸表が個別財務諸表よりも主たる財務諸表となっております。		1. 負債会計(1) ①負債の概念・分類・評価 2. 負債会計(2) ①口引当金の会計処理、②リースの会計処理、③退職給付会計 3. 純資産(資本)会計(1) ①資本会計の領域と意義、②資本会計の経済的分類と法律的分類、③会社法の種類 4. 純資産(資本)会計(2) ①払込資本、②増資・減資の会計 5. 純資産(資本)会計(3) ①評価替資本と受贈資本の会計 6. 純資産(資本)会計(4) 7. 損益会計(1) 8. 損益会計(2) 9. 損益会計(3) 10. 財務諸表の種類とその意義 11. 連結財務諸表(1) 12. 連結財務諸表(2) 13. 演習問題	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト、参考文献とも春学期に同じです。		評価方法も春学期に同じです。	

01 年度以降	管理会計論 a	担当者	香取 徹
講義目的、講義概要		授業計画	
日本の企業には今、経営管理における経済性・効率性が強く求められています。経済的意思決定はキャッシュフローの考え方を基本に行います。この講座では、有効なコスト削減の考え方、原価改善や生産性向上のためのコストデータの使い方、有利な製品や生産物流の方法の選び方、設備投資や事業選択、限られた資源の有効な配分などのキャッシュフロー情報の使い方をなどのケースで学習します。 春期は、キャッシュフローによる経済的な意思決定の基本的な考え方、意思決定のタイプと判断基準についてケース・スタディをします。		第1週 管理会計とは？ 最近のトピックスから 第2週 意思決定とは？ キャッシュフローとは？ 第3週 関連原価・無関連原価 (1) 第4週 関連原価・無関連原価 (2) 第5週 貢献利益とは？ 第6週 赤字製品、黒字製品 第7週 減価償却費はキャッシュフロー 第8週 Constraints の話。 第9週 KAIZEN(改善)の効果。 第10週 意思決定の問題タイプ。 第11週 意思決定の問題タイプ(1) 独立案 第12週 意思決定の問題タイプ(2) 排反案 第13週 意思決定の問題タイプ(3) 混合案	
テキスト、参考文献		評価方法	
『キャッシュフロー管理会計』伊藤・香取、中央経済社		定期試験	

01 年度以降	管理会計論 b	担当者	香取 徹
講義目的、講義概要		授業計画	
日本の企業には今、経営管理における経済性・効率性が強く求められています。経済的意思決定はキャッシュフローの考え方を基本に行います。この講座では、有効なコスト削減の考え方、原価改善や生産性向上のためのコストデータの使い方、有利な製品や生産物流の方法の選び方、設備投資や事業選択、限られた資源の有効な配分などのキャッシュフロー情報の使い方をなどのケースで学習します。 秋期は、フリー・キャッシュフローと企業価値、投資計画の評価基準について検討します。Excel を使ってキャッシュフロー計算書やシミュレーション・モデルを作成して、分析します。		第1週 管理会計の最近のトピックス 第2週 フリー・キャッシュフロー 1.資金の時間価値 1.1 現在価値 NPV 第3週 1.2 現在価値と年価(NAV) 第4週 2.企業価値 FCF と企業価値 第5週 3.1 連結キャッシュフロー計算書 第6週 3.2 キャッシュフロー計算書の作成 第7週 3.3 営業キャッシュフローの計算 第8週 同上 第9週 4. 事業計画から投資案の評価まで 第10週 Excel による実習 第11週 5. 投資案の評価基準 第12週 6. 投資の業績評価 EVA 第13週 キャッシュフロー経営と経済性のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『キャッシュフロー管理会計』伊藤・香取、中央経済社		定期試験	

01 年度以降	社会会計論 a	担当者	湯田 雅夫
講義目的、講義概要		授業計画	
大企業、公営企業で普及している環境経営、環境会計を社会会計の視点から講義します。 環境経営、環境会計および CSR 会計は、21 世紀の企業経営において必要不可欠のものです。環境経営と環境会計および CSR 会計の内容を出来るだけわかりやすく、講義していきます。 皆さんも、新聞や雑誌で取り上げている環境問題に関する記事を出来るだけ読むように心がけてください。 「社会会計論 a」と「社会会計論 b」は、連続した講義なので、「春学期」「秋学期」共履修すること。		1 オリエンテーション 2 社会会計、環境会計、環境会計の学び方、研究対象 3 環境経営、環境会計、CSR 会計の研究方法及び関連領域 4 人類の歴史と環境問題 5 地球環境問題ならびに国際的取組み 6 国連の環境への取り組み① 7 国連の環境への取り組み② 8 循環型経済社会構築と諸課題 9 持続可能性と企業活動の 3 つの領域 10 環境会計の体系 3 つのアプローチ 11 環境会計アプローチの事例 12 環境会計アプローチに対する批判的考察 13 春学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
湯田雅夫『講義ノート』 参考文献はその都度指示します。		期末試験により評価します。	

01 年度以降	社会会計論 b	担当者	湯田 雅夫
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、環境経営、環境会計および CSR 会計の具体的内容を講義します。 物量計算としての環境負荷計算と貨幣計算としての環境原価計算、そしてその組み合わせから環境効率を明らかにすることが出来ます。地球の環境容量との関連で、この環境効率を高めることは、大変重要です。 皆さん一人一人は、この講義で得た知識と技術を、是非、社会で実践してください。 「社会会計論 a」と「社会会計論 b」は、連続した講義なので、「春学期」「秋学期」共履修すること。		1 秋学期オリエンテーション 2 環境負荷計算 物量計算 3 環境原価計算 貨幣計算 4 環境原価と環境負荷を統合する環境経営 5 国際標準 ISO と EMAS の内容と課題 6 環境監査 内部監査と外部監査 環境審査員の役割 7 環境効率 環境効率革命に向けて 8 環境効率 企業の事例 9 環境報告書の基本構造ならびに入手方法 10 環境報告書の評価方法 11 CSR および CSR 会計 12 秋学期のまとめ 13 授業のまとめと講評	
テキスト、参考文献		評価方法	
湯田雅夫『講義ノート』 参考文献はその都度指示します。		期末試験により評価します。	

01 年度以降	原価計算論 a	担当者	齋藤 正章
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 原価計算には、大きく分けて、財務会計目的と管理会計目的という2つの目的があります。財務会計目的のための原価計算を「制度原価計算」といいますが、これは財務諸表作成のために必要な原価数値を計算する手続き全般を指します。他方、管理会計目的の原価計算は、経営管理のための原価計算で、企業の生産システム、製造技術、情報技術などの進歩や市場環境の変化に伴い、従来のシステムからの変革を迫られています。本講義は、この2つの視点から企業における原価計算の役割や手続きについて理解を深めることを目標としています。 講義概要 「原価計算基準」にもとづく原価計算制度の枠内の実際原価計算と標準原価計算、枠外の直接原価計算を中心に講義を行います。		1. 原価計算総説 2. 原価とは何か 3. 原価計算の基礎手続き 4. 原価の費目別計算（1）材料費 5. 原価の費目別計算（2）労務費・経費 6. 原価の費目別計算（3）製造間接費 7. 原価の部門別計算（1）第1次集計 8. 原価の部門別計算（2）第2次集計 9. 原価の部門別計算（3）第3次集計 10. 個別原価計算（1） 11. 個別原価計算（2） 12. 個別原価計算（3） 13. 活動基準原価計算	
テキスト、参考文献		評価方法	
『原価計算』奥村輝夫・齋藤正章・井出健二郎、新世社。		出席 10%, 定期試験の結果 90%で評価します。	

01 年度以降	原価計算論 b	担当者	齋藤 正章
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 原価計算には、大きく分けて、財務会計目的と管理会計目的という2つの目的があります。財務会計目的のための原価計算を「制度原価計算」といいますが、これは財務諸表作成のために必要な原価数値を計算する手続き全般を指します。他方、管理会計目的の原価計算は、経営管理のための原価計算で、企業の生産システム、製造技術、情報技術などの進歩や市場環境の変化に伴い、従来のシステムからの変革を迫られています。本講義は、この2つの視点から企業における原価計算の役割や手続きについて理解を深めることを目標としています。 講義概要 「原価計算基準」にもとづく原価計算制度の枠内の実際原価計算と標準原価計算、枠外の直接原価計算を中心に講義を行います。		1. 総合原価計算（1）概説 2. 総合原価計算（2）平均法・先入先出法 3. 総合原価計算（3）後入先出法 4. 総合原価計算（4）工程別計算 5. 総合原価計算（5）等級別計算 6. 総合原価計算（6）組別計算 7. 総合原価計算（7）副産物と連産品 8. 標準原価計算（1） 9. 標準原価計算（2） 10. 直接原価計算（1） 11. 直接原価計算（2） 12. CVP 分析 13. 原価計算の新展開	
テキスト、参考文献		評価方法	
『原価計算』奥村輝夫・齋藤正章・井出健二郎、新世社。		出席 10%, 定期試験の結果 90%で評価します。	

01 年度以降	会計監査論 a	担当者	赤岩 茂
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目的) わが国経済も 20 世紀末のバブル経済崩壊を受け、会計制度の変革（会計ビッグバン）が推進された。また、それと合わせて監査制度の変革もすすめられ、新たな制度で実務が推進されるようになった。 公認会計士・監査法人による財務諸表監査制度は、財務諸表の適正表示についての意見を表明することを通じて投資家保護を目的としているが、それを通じて証券市場の信頼性の確立という重大な目的を有している。 本講義では、理論的な背景を説明するが、実際の監査実務の事例をもとに、監査基準及び監査手続の理解を深めることを目的とする。 (講義概要) 本講義は、基本的にはテキストを使用する。このため、予習を確実にすることが望まれる。		1 財務諸表監査の意義と目的 2 監査基準 3 財務諸表監査の生成と発展 4 日本における監査制度の発展 5 監査の目的と二重責任 6 監査人の適格性 7 監査の実施～リスク・アプローチ 8 監査の実施～監査計画と内部統制 9 監査の実施～監査手続と監査調書 10 監査の実施～監査判断と監査証拠 11 監査の実施～監査判断と合理的保証概念 12 監査の実施～実務上の課題① 13 監査の実施～実務上の課題②	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：小関・柳田著『監査総論』東京経済情報出版		出席（30点）と試験（70点）による。	

01 年度以降	会計監査論 b	担当者	赤岩 茂
講義目的、講義概要		授業計画	
(講義目的) わが国経済も 20 世紀末のバブル経済崩壊を受け、会計制度の変革（会計ビッグバン）が推進された。また、それと合わせて監査制度の変革もすすめられ、新たな制度で実務が推進されるようになった。 公認会計士・監査法人による財務諸表監査制度は、財務諸表の適正表示についての意見を表明することを通じて投資家保護を目的としているが、それを通じて証券市場の信頼性の確立という重大な目的を有している。 本講義では、前期に習得した知識をもとに監査報告の内容を理解する。また、現在では、企業だけでなく、被監査組織体や監査対象も拡大している。そこで、非営利法人等の監査等関連問題も幅広く紹介することとする。 (講義概要) 本講義は、基本的にはテキストを使用する。ただし7回目以降は別途参考文献を指定する場合がある。前期に引き続き予習を確実にすることが望まれる。		1 監査報告～監査報告書の内容 2 監査報告～監査意見 3 監査関連問題～中間監査 4 監査関連問題～連結財務諸表監査 5 監査関連問題～内部監査と監査役監査 6 監査関連問題～システム監査 7 監査関連問題～監査委員監査と外部監査人監査 8 監査関連問題～非営利法人等に対する監査 9 監査関連問題～会社法と会計参与 10 監査関連問題～監査の国際的動向 11 監査関連問題～監査及び監査周辺の職業 12 総括① 13 総括②	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：小関・柳田著『監査総論』東京経済情報出版		出席（30点）と試験（70点）による。	

01 年度以降	税務会計論 a	担当者	山田 浩一
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、我が国租税制度の概略を網羅的に概観することとしたい。 租税制度を含め社会規範はその存立に歴史的必然性を伴っているものであり、制度とその背景たる社会構造の関連性に対する理解を持つことが制度の適切な把握に重要と考えている。 本講義ではそのような観点から、租税制度を通じ課税権者と租税負担者の関係を受講者に考えてもらいたいと思う。 関連科目として財政学等が参考となろうが、講義に簿記・会計学的思考方法を援用することとなるので、それら関連科目の受講を併せて行うことを望む。		1. 税に関する基本事項 2. 租税法律主義と租税法の法源等 3. 所得税 4. 法人税 5. 相続税と贈与税 6. 消費税 7. 国際課税 8. その他の国税 9. 地方税 10. 税務行政組織 11. 租税の確定（租税債権の成立、確定） 12. 租税の徴収（租税債権の徴収） 13. 納税者の権利救済	
テキスト、参考文献		評価方法	
『三訂版 租税法入門』川田剛（財団法人大蔵財務協会）		授業出席および定期試験によって評価する。	

01 年度以降	税務会計論 b	担当者	山田 浩一
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では企業課税の中心となる法人税の考え方を概観することが主眼となる。 企業の財政状態、経営成績、キャッシュフローの状況等を適切に表現することを使命とする企業会計に対して、税務会計としては、その中心的役割として企業の負担する法人税とその計算基礎である課税所得の計算に焦点が当てられる。 会計処理の法人税に与える影響を無視しては会計実践として成立せず、租税負担が経営に与える影響を考慮しつつ会計上の諸要請に依っていくことが必要である。 財務会計の考え方と税務の考え方の違いを具体的な項目に即して解説していきたいと考える。		1. 税務会計の概念、法人税の納税主体と課税所得 2. 各事業年度の所得金額、販売・請負等の収益 3. 棚卸資産と売上原価、有価証券の譲渡損益および時価評価損益 4. 固定資産と減価償却、特別償却 5. 繰延資産の償却、営業費用と損失 6. 営業外収益、引当金と繰入額 7. 準備金と積立額、圧縮記帳と圧縮損 8. 借地権・国際課税・リース取引、欠損金等 9. 税額の計算、申告、納付、更正、決定等 10. 資本金等の額と利益積立金、法人税申告書の基本構造 11. 企業組織再編税制、連結納税制度 12. 法人税等の会計、消費税の仕組みと経理処理 13. 補足	
テキスト、参考文献		評価方法	
『税務会計要論 15 訂版』中田信正（同文館出版社）		出席および定期試験の成績により評価する。	

01年度以降	経営分析論 a	担当者	百瀬 房徳
講義目的、講義概要		授業計画	
経営分析は、財務諸表分析として発展してきた。そして、このためには、統一した財務諸表の作成方法を促進させてきた。財務諸表の分析の始まりは、金融機関が貸付金の返済能力を診断したところにある。その後、証券市場では、収益性の分析を発展させてきた。現在では、特定の実体（例えば企業）の評価または診断、当該実体の属する産業の動向、国民経済の動向を分析するまでに発展している。歴史的発展過程をふまえる形で、経済環境と分析技法の二面により考察し、全体像の理解を深めることにする。		1 経営分析の現代における意義 2 米国の経済環境における手形市場の形成過程 3 手形市場、特に手形の割引に際しての銀行から見た信用分析の形成過程。 4 信用分析の側面から見た財務諸表 特に貸借対照表を中心に 5 信用分析における2対1の原則から体系的な分析への過程 6 信用分析のケーススタディ ウォール、ブリス 7 信用分析のケーススタディ ギルマン、ウォール、シュマルツ 8 信用分析の新展開 9 収益性の分析および、その他の分析への発展 10 生産性の分析とその応用 11 経営分析の意義とその限界 12 経営分析の主体とその目的 13 経営分析の種類	
テキスト、参考文献		評価方法	
前林 和寿「経営分析の基礎」森山書店		テスト	

01年度以降	経営分析論 b	担当者	百瀬 房徳
講義目的、講義概要		授業計画	
代表的企業の有価証券報告書総覧に記載されている財務諸表を資料として、体系的な分析をする。特に、安全性、収益性、生産性について、解説しながら分析数値を算出する。そして、この分析数値が何を意味するかを考察する。この分析をテーマごとにレポートを完成させ、提出してもらう。		1 安全性の分析(1) 比率分析 (レポート提出) 2 安全性の分析(2) 資金移動表の解説 3 安全性の分析(3) 資金移動表の作成 (レポート提出) 4 収益性の分析(1) 各種資本利益率 5 収益性の分析(2) 資本利益率とレバレッジ効果 6 収益性の分析(3) 売上高利益率 (レポート提出) 7 収益性の分析(4) 利益増減の原因分析 (レポート提出) 8 生産性の分析(1) 付加価値の意義 9 生産性の分析(2) 付加価値の計算と数値の意味 10 生産性の分析(3) 付加価値表の作成 (レポート提出) 11 損益分岐点分析(1) 損益分岐点と意義 12 損益分岐点分析(2) 損益分岐点の計算と数値の意味 13 損益分岐点分析(3) 損益分岐点の計算 (レポート提出)	
テキスト、参考文献		評価方法	
前林 和寿「経営分析の基礎」森山書店		前林 和寿「経営分析の基礎」森山書店	

01 年度以降	上級簿記（商業）a	担当者	細田 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 「簿記原理」履修者あるいは「日商簿記検定」3級以上の合格者が、複式簿記に関するさらに高度の知識・技術を習得すること。また、近年続々と公表されている新会計基準の内容について理解を深めることを目標とする。 講義概要 春学期講義の内容 主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。 ○銀行勘定調整表の作成 ○手形取引の記帳 ○特殊商品売買取引に関する記帳 ○株式会社会計		1. 「1.銀行勘定調整表の作成」 2. 「2.手形取引の記帳(1)」 - a)手形裏書譲渡・割引に関する偶発債務についての記帳 3. 「2.手形取引の記帳(2)」 - a)手形裏書譲渡・割引に関する偶発債務についての記帳 - b)荷為替手形 4. 「3.特殊商品売買取引(1)」 - a)未着品売買、b)委託販売、c)受託販売 5. 「3.特殊商品売買取引(2)」 - a)未着品売買、b)委託販売、c)受託販売 6. 「3.特殊商品売買取引(3)」 d)割賦販売 7. 「3.特殊商品売買取引(4)」 d)割賦販売 8. 「4.株式会社会計(1)」 - a)株式会社の資本金、b)資本剰余金、c)利益剰余金 9. 「4.株式会社会計(2)」 d)剰余金の配当など 10. 「4.株式会社会計(3)」 e)社債の発行、利払、償還 11. 「4.株式会社会計(4)」 f)繰延資産、g)引当金、h)法人税等 12. 「4.株式会社会計(5)」 i)会社の合併 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
加古・渡辺・片山（編著）「検定簿記講義 2級 商業簿記」（中央経済社）		期末試験の結果による。	

01 年度以降	上級簿記（商業）b	担当者	細田 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期講義の内容 主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。 ○本支店会計 ○帳簿組織 ○連結会計 ○リース会計 ○金融商品の会計 ○退職給付会計 ○税効果会計		1. 「5.本支店会計(1)」 - a)本店集中会計制度と支店独立会計制度、 - b)支店分散会計制度と本店集中計算制度 2. 「5.本支店会計(2)」 - c)未達事項の整理、d)内部利益の控除と合併財務諸表 3. 「5.本支店会計(3)」 - c)未達事項の整理、d)内部利益の控除と合併財務諸表 4. 「6.帳簿組織(1)」 a)普通仕訳帳と特殊仕訳帳 5. 「帳簿組織(2)」 b)伝票式会計 6. 「7.連結会計(1)」 - a)連結財務諸表の目的、連結の範囲、連結決算日等 7. 「7.連結会計(2)」 b)連結貸借対照表の作成 8. 「7.連結会計(3)」 c)連結損益計算書の作成 9. 「8.リース会計(1)」 10. 「8.リース会計(2)」 11. 「9.金融商品の会計」 12. 「10.退職給付会計」 13. 「11. 税効果会計」	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストおよび TAC 簿記検定講座 「合格テキスト 日商簿記 1 級商業簿記会計学Ⅱ、Ⅲ」（TAC 出版）		期末試験の結果による。	

01 年度以降	上級簿記(工業)a		担当者	香取 徹
講義目的、講義概要		授業計画		
この上級簿記論は、日商簿記検定 2 級の試験範囲のうち<u>工業簿記</u>を 1 年間かけて完全に制覇することを目的としています。日商簿記検定の 2 級の試験は、商業簿記と工業簿記の 2 種類の簿記の検定試験です。工業簿記は製造業で行われる簿記のことで、原価計算や管理会計論の基礎として重要な技術であるので、是非習得してほしいと思います。 簿記は難しいものではありませんが、技術ですから、身につけるためには、練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題の解説をしてから講義に合わせてプリントを配布して練習します。講義中に練習しながら質問を受けていきますし、プリントでも意見や質問を書いて下さい。また、ワークブックも自宅での練習に利用してください。		第 1 週 ガイダンス 第 2 週 テーマ 1 工業簿記の基礎 第 3 週 テーマ 2 工業簿記の勘定連絡 第 4 週 テーマ 3 材料費(1) 第 5 週 テーマ 4 材料費(2) 第 6 週 テーマ 5 労務費(1) 第 7 週 テーマ 6 労務費(2) 第 8 週 テーマ 7 経費 第 9 週 テーマ 8 個別原価計算(1) 第 10 週 テーマ 9 個別原価計算(2) 第 11 週 テーマ 10 部門別個別原価計算(1) 第 12 週 テーマ 11 部門別個別原価計算(2) 第 13 週 同上		
テキスト、参考文献		評価方法		
合格テキスト日商簿記 2 級 工業簿記 TAC 出版 合格トレーニング日商簿記 2 級 工業簿記 TAC 出版		定期試験 90,プリントとトレーニング 10		

01 年度以降	上級簿記(工業)b		担当者	香取 徹
講義目的、講義概要		授業計画		
この上級簿記論は、日商簿記検定 2 級の試験範囲のうち<u>工業簿記</u>を 1 年間かけて完全に制覇することを目的としています。日商簿記検定の 2 級の試験は、商業簿記と工業簿記の 2 種類の簿記の検定試験です。工業簿記は製造業で行われる簿記のことで、原価計算や管理会計論の基礎として重要な技術であるので、是非習得してほしいと思います。 簿記は難しいものではありませんが、技術ですから、身につけるためには、練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題の解説をしてから講義に合わせてプリントを配布して練習します。講義中に練習しながら質問を受けていきますし、プリントでも意見や質問を書いて下さい。また、ワークブックも自宅での練習に利用してください。		第 1 週 テーマ 12 総合原価計算(1) 第 2 週 テーマ 13 総合原価計算(2) 第 3 週 テーマ 14 総合原価計算(3) 第 4 週 テーマ 15 総合原価計算(4) 第 5 週 テーマ 16 総合原価計算(5) 第 6 週 テーマ 17 財務諸表 第 7 週 テーマ 18 標準原価計算(1) 第 8 週 テーマ 19 標準原価計算(2) 第 9 週 同上 第 10 週 テーマ 20 直接原価計算(1) 第 11 週 テーマ 21 直接原価計算(2) 第 12 週 同上 第 13 週 テーマ 22 本社工場会計		
テキスト、参考文献		評価方法		
合格テキスト日商簿記 2 級 工業簿記 TAC 出版 合格トレーニング日商簿記 2 級 工業簿記 TAC 出版		定期試験 90,プリントとトレーニング 10		

01 年度以降	国際会計論 a	担当者	小林 公司
講義目的、講義概要		授業計画	
1. 講義目的 わが国及び世界の企業は、多国において事業活動を行い、まさに、多国籍企業としてグローバルな企業活動を展開している。これにより、国際会計基準（IAS／IFRS）への関心が急速に高まっている。近年、わが国の会計基準も、国際会計基準や米国会計基準など国際的な会計基準を基礎にして改訂／作成されている。 また、海外においては、会計ルールの統一化を図ろうとする動きが活発である。特に EU(欧州連合)諸国は、IFRS 導入に熱心であり、2005 年度より EU 域内の公開企業は、原則として IFRS に準拠した連結財務諸表の作成が義務付けられた。国際会計基準委員会（IASB）は、会計基準の世界統一化（Convergence）を目指して活動している。アメリカの FASB（財務会計基準委員会）も IASB と会計基準の調和化・統一化の作業に入っている。このような動きの中で、わが国会計基準の IAS／IFRS と同等性の義務付けの時期は2009 年度と目前に迫っている。この講義では国際会計基準（IAS／IFRS）を理解することにある。 2. 講義概要 国際会計基準の主要なテーマについて、解説すると共に日本の会計基準、米国の会計基準との比較考察をする。		1. 国際会計基準の概要—国際会計基準委員会の組織、基準設手続き、IAS／IFRS の歴史、IOSCO 承認、会計基準のコンバージェンス等 2. 財務諸表の体系、IAS のフレームワーク、IAS の財務諸表の範囲、作成・開示・表示に関する基本概念 3. SEC 基準による英文財務諸表を読む 4. キャッシュ・フロー計算書—基準の内容の理解、経営者・株主にとっての重要性の理解など 5. 連結財務諸表—基準の内容の理解 6. 関係会社／投資の会計基準—基準の内容の理解 7. ジョイント・ベンチャー等の会計基準—ジョイント・ベンチャー／特別目的会社に関する会計基準の解説 8. 法人所得税の会計処理—税効果会計に関する会計基準の解説／日本・米国の会計基準との違いなどの理解 9. 金融商品／時価会計／外貨会計(1)—金融商品会計／時価会計／外貨会計基準の内容の理解 10. 金融商品／時価会計／外貨会計(2) 前回の続き 11. 収益認識基準／工事収益認識基準—基準の理解 12. 関連当事者取引の会計基準—基準の内容の理解 13. IAS／IFRS 最近の動き—最新情報の理解	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義時にレジメを用意する予定。 「国際財務報告基準ハンドブック」中央青山監査法人編 中央経済社刊		本講座は、「国際会計論 a」と「国際会計論 b」から構成されており、「国際会計論 a」は本講座の前半部分である。評価方法は、授業の出席率とレポートの成績で評価する。	

01 年度以降	国際会計論 b	担当者	小林 公司
講義目的、講義概要		授業計画	
1. 講義目的 わが国及び世界の企業は、多国において事業活動を行い、まさに、多国籍企業としてグローバルな企業活動を展開している。これにより、国際会計基準（IAS／IFRS）への関心が急速に高まっている。近年、わが国の会計基準も、国際会計基準や米国会計基準など国際的な会計基準を基礎にして改訂／作成されている。 また、海外においては、会計ルールの統一化を図ろうとする動きが活発である。特に EU (欧州連合) 諸国は、IFRS 導入に熱心であり、2005 年度より EU 域内の公開企業は、原則として IFRS に準拠した連結財務諸表の作成が義務付けられた。国際会計基準委員会（IASB）は、会計基準の世界統一化（Convergence）を目指して活動している。アメリカの FASB（財務会計基準委員会）も IASB と会計基準の調和化・統一化の作業に入っている。このような動きの中で、わが国会計基準の IAS／IFRS との同等性の義務付けの時期は2009 年度と目前に迫っている。本講義では、国際会計基準（IAS／IFRS）を理解することにある。 2. 講義概要 国際会計基準の主要なテーマについて、解説すると共に日本の会計基準、米国の会計基準との比較考察をする		1. 棚卸資産会計基準—基準の内容の理解 2. 有形固定資産／借入費用／減損会計（1）—有形固定資産会計、借入費用会計、減損会計についての基準の内容の理解 3. 有形固定資産／借入費用／減損会計（2）—第2 回の講義の続き 4. リース会計（1）—リース取引に係る基準の内容の理解及び会計処理などの理解 5. リース会計（2）—第4 回の講義の続き 6. 退職給付／年金／ストック・オプション会計—基準の内容の理解、日本の会計・米国の会計との違いの理解 7. 企業結合会計—基準の内容の理解、日本基準との違い 8. 会計基準と監査基準について—監査の重要性、監査の概要、監査上の問題点 9. 国際監査基準について—概要、監査基準のコンバージェンス 10. 内部統制—内部統制の概要、日米の比較 11. 財務報告の適正性確保のための内部統制について 12. 財務諸表の国際比較 13. 国際会計／国際監査をめぐる最近の情報	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義時にレジメを用意する予定。 「国際財務報告基準ハンドブック」中央青山監査法人編 中央経済社刊		本講座は、「国際会計論 a」と「国際会計論 b」から構成されており、「国際会計論 b」は本講座の後半部分である。授業への出席率及びレポートの成績により総合評価する。	

01 年度以降	経営数学 a	担当者	本田 勝
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は「経営数学」という名前になってはいるが、経済学や経営学とその周辺の学問を学ぶにあたって必要な数学の基本的な部分を習得することを目的とする。 回帰分析の手法や目的関数の最適化などを行うには微分や行列の概念が必要であるし、産業構造の把握に欠かせない産業連関分析にも行列論の概念が使われる。 講義ではテキストを中心に進めるが、プリントを配布することもある。参考書については講義の際に紹介する。 また理解を深めてもらうために、受講者自身の演習を取り入れたり、数式処理ソフトを用いてコンピュータによる考え方の提示も取り入れたい。		1 講義を始めるにあたって 2 ベクトルとベクトルの演算 3 行列の定義と演算 4 逆行列 5 行列の基本変形について 6 連立方程式を解く 1 7 連立方程式を解く 2 8 行列式の定義と演算 1 9 行列式の定義と演算 2 10 行列式を用いて連立方程式を解く 11 固有値と固有ベクトル 12 固有値の応用 13 まとめと演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		演習、レポート、出席調査および定期試験による総合評価	

01 年度以降	経営数学 b	担当者	本田 勝
講義目的、講義概要		授業計画	
経営数学 a と同じ		1 関数、数列の極限 2 特殊な関数 1 3 特殊な関数 2 4 微分の意味 5 微分の計算 6 微分の応用（極大極小） 7 関数の最適化と偏微分 8 条件付きの極大極小問題 9 差分と差分方程式 10 微分方程式とその応用 11 不定積分 12 置換積分と部分積分 13 定積分と面積	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		演習、レポート、出席調査および定期試験による総合評価	

01 年度以降	応用統計学 a	担当者	本田 勝
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では「統計学」で学んだ 1 変量統計学の知識をもとにして、多変量統計解析の考え方を習得する。 多変量統計解析とは、お互いに何らかの関係を持つ多変量データを用いて、その背後にある総合特性を探り、判断あるいは評価の道具に利用することである。この解析にはコンピュータの利用が不可欠であり、本講義では EXCEL を使用するが、R 言語および S A S などのプログラムパッケージを使用することもある。 したがって、受講者は<u>統計学の既習者</u>に限るし、<u>コンピュータの操作はもちろんのこと EXCEL についても熟達している必要がある</u>ので、受講の際は注意すること。<u>安易な気持ちで履修しないで欲しい。</u>		1 多変量解析とは何か。 2 データの入力と E X C E L 関数 3 グラフおよび散布図 4 度数分布表の作成。 5 行列および行列式の扱い方。 6 行列および行列式についての復習をする。 7 回帰分析をおこなう。 8 回帰係数の評価方法。 9 実例データを各自用意し、演習を行う。 10 重回帰分析を行なう。 11 分析結果の回帰係数の検討。 12 回帰分析演習(結果の解釈) 13 実例データを各自用意し、演習を行う。	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定 講義時に指示		定期試験、レポートおよび出席調査による総合評価	

01 年度以降	応用統計学 b	担当者	本田 勝
講義目的、講義概要		授業計画	
応用統計学 a と同じ		1 主成分分析とは。 2 多変量データの主成分分析の考え方。 3 実例データを用いた例題と主成分の解釈。 4 実例データを各自用意し、演習を行う。 5 主成分分析結果の解釈および検討。 6 判別分析とは。 7 多変量データの判別分析の考え方。 8 実例データによる多変量判別分析の演習。 9 実例データを各自用意し、演習を行なう。 10 時系列データの分析-1。 11 時系列データの分析-2。 12 時系列データを各自用意し、演習を行なう。 13 クラスタ分析とは。	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定 講義時に指示		定期試験、レポートおよび出席調査による総合評価	

01 年度以降	データベース論 a	担当者	堀江 郁美
講義目的、講義概要		授業計画	
はじめに、データベースの歴史を概観し、データベースの仕組みを学習する。 その後、現在使用されている関係データベースのもっとも単純な例として、表計算ソフト (MS-Excel) のデータベース機能を利用し、実習しながらデータベースおよびその検索の基礎を学ぶ。 実際のデータとして国勢調査の結果の人口情報と、百人一首を利用し、それらの取り扱いを通じて数値中心のデータベースと文字列中心のデータベースの扱いの基礎を学ぶ。		1 データベースとは (1) : データベース概観、歴史 2 データベースとは (2) : データベースモデル 3 データベースとは (3) : データベースの三層スキーマ 4 データベースとは (4) : データベース管理システム 5 データベースの実際 (1) : レコード、項目、フィールド 6 データベースの実際 (2) : レコードの分類と集計 7 データベースの実際 (3) : レコードの抽出 8 データベースの実際 (4) : 条件検索 (1) 文字列データの条件設定 9 データベースの実際 (5) : 条件検索 (2) 数値データの条件設定 10 データベースの実際 (6) : 条件検索演習 11 データベースの実際 (7) : クロス集計 (1) 12 データベースの実際 (8) : クロス集計 (2) 13 総合問題とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト : 前田、松山、和高、高柳、石田共『Windows による情報活用 - MS - Office2003 対応』共立出版、2005 参考書 : 鈴木健司『データベースがわかる本』オーム社、1998		定期試験、レポートおよび出席を加味して評価する。	

01 年度以降	データベース論 b	担当者	堀江 郁美
講義目的、講義概要		授業計画	
現在最も普及している関係データベースに焦点をあて、データベースの理論と実践を学習する。 理論としては、関係データベースの特徴からはじめ、順に、関係代数やデータ構造、問い合わせ言語 SQL について学習する。 実践としては、MS-Access を使用し、「データベース論 a」で MS-Excel 上に作成したデータを用い、データベース作成や問い合わせなどの実際の操作を学ぶ。 なお、この講義は「データベース論 a」の既習が前提となる。		1 関係データベース (1) : 関係モデルと SQL 2 関係データベース (2) : キー、関数従属、正規化 3 関係データベース (3) : 主キー、外部キー、参照整合性 4 関係データベースの実際 (1) : Excel 上の表の正規化と Access へのインポート 5 関係データベースの実際 (2) : 主キーの設定、関係間の関連付け 6 関係データベースの実際 (3) : クエリーの表現 7 関係データベース (4) : 関係代数の演算 8 関係データベース (5) : 関係代数と SQL 9 関係データベース (6) : SQL の構文と演算子 10 関係データベースの実際 (4) : QBE と SQL 11 関係データベースの実際 (5) : SQL による検索 12 関係データベースの実際 (6) : SQL によるデータベース定義、更新処理 13 総合問題とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト : 前田、松山、和高、高柳、石田共著『Windows による情報活用 - MS - Office2003 対応』共立出版、2002 参考書 : 芝野耕司『SQL がわかる本』オーム社、1998		定期試験、レポートおよび出席を加味して評価する。	

01 年度以降	コンピュータシミュレーション論 a	担当者	富田 幸弘
講義目的、講義概要		授業計画	
情報処理の応用コースとして開設されている科目である。「コンピュータ入門」で学習した <u>Excel</u> をより高度に利用し、「プログラミング論」で学習した <u>Visual Basic</u> などのプログラミング言語も利用する。 さらに、経営科学の考え方とその分析方法を学習するとともに、コンピュータシミュレーションの技法についても学習する。 また、パソコンのより高度な利用法について学習するとともに、各自の興味に従ったコンピュータシミュレーションを作成する。 必ず、第一回目の講義に出席して、自分が履修可能であるかどうかを判断すること。		1 必要な基礎知識・評価・受講上の注意など 2 シミュレーションを必要とする経営科学と利用例 3 統計データの読み方 4 時系列データと経済変動 5 時系列分析と需要予測とシミュレーション 6 在庫の種類と費用 7 在庫管理とABC分析 8 在庫管理シミュレーション 9 日程管理とPERT 10 日程管理シミュレーション 11 待ち行列問題 12 待ち行列シミュレーション 13 経営科学とシミュレーションのまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献などは、必要に応じて紹介する。 毎回の講義については、プリントを配布する。		数回のレポート、各自の作成したデータ処理の内容、出席状況などを考慮して総合評価する。	

01 年度以降	コンピュータシミュレーション論 b	担当者	富田 幸弘
講義目的、講義概要		授業計画	
情報処理の応用コースとして開設されている科目である。「コンピュータ入門」で学習した <u>Excel</u> をより高度に利用し、「プログラミング論」で学習した <u>Visual Basic</u> などのプログラミング言語も利用する。 さらに、経営科学の考え方とその分析方法を学習するとともに、コンピュータシミュレーションの技法についても学習する。 また、パソコンのより高度な利用法について学習するとともに、各自の興味に従ったコンピュータシミュレーションを作成する。 必ず、第一回目の講義に出席して、自分が履修可能であるかどうかを判断すること		1 必要な基礎知識・評価・受講上の注意など 2 一様乱数列とその発生法・検定 3 その他の乱数とモンテカルロシミュレーション 4 経営シミュレーション概説 5 シミュレーションモデルの作成手順 6 各経営部門などの要因関連構造 7 価格戦略シミュレーション 8 生産戦略シミュレーション 9 販売戦略シミュレーション 10 シミュレーションゲームと競争力決定構造 11 部門管理ゲームの例 12 ビジネスゲームの例 13 コンピュータシミュレーションのまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献などは、必要に応じて紹介する。 毎回の講義については、プリントを配布する。		各自の作成したシミュレーションゲームの内容・レポートなどを考慮して総合評価する。	

01 年度以降	マルチメディア論 a	担当者	立田 ルミ
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、マルチメディア作成のソフトウェアを利用して図形・画像処理、静止画、アニメーションに関する講義と実習を行う。ここでは、マルチメディアシステムがどのようなものかを、実例を挙げながら実習する。また図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、画像編集などの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成のためのソフトウェアを用いて実習する。これらで作成したファイルを、Word や Power Point で利用し、プレゼンテーションを行う。また、静止画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについて講義し、画像取り込みや合成方法について実習する。また、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーション並びに実習すると共に、最終レポートとしてマルチメディア作品を制作する。		1 マルチメディアの基礎：講義 2 情報のデジタル表現：講義 3 静止画像の作成：講義と実習 4 画像ソフトとファイル形式：講義 5 静止画の作成：講義と実習 6 スキャナーの利用：講義と実習 7 デジカメ取り込みと画像処理：講義と実習 8 マルチメディアの処理：実習 9 アニメーション作成：講義と実習 10 プレゼンテーションツールの利用（１）：実習 11 プレゼンテーションツールの利用（２）：実習 音声、アニメーションの処理 12 マルチメディア作品作成：実習 マルチメディア作品を作成 13 マルチメディア作品作成：実習	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ他『情報メディア入門』 実教出版		出席 20%、試験 40%、レポート 40%	

01 年度以降	マルチメディア論 b	担当者	立田 ルミ
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、インターネット上でのマルチメディアシステムがどのようなものかを、実例を挙げながら講義し、それらを作成するためにいくつかのソフトウェアを用いて実習を行なう。また、先輩たちの作成したマルチメディア作品を紹介する。ここでは、音声の取り込みおよび編集について講義と実習を行なう。またアニメーション作成のためのソフトウェアを用いて、アニメーション作成および音声入力を行なう。3D に関しては、ワイヤフレームモデルやサーフェスモデルなどのモデリングを行い、レンダリングを行なって作品を作成する。また、ビデオの取り込みのために必要なハードウェアとソフトウェアと、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法について講義とデモンストレーションを行い、ビデオクリップを用いて動画編集を行なう。最後レポートとして、受講生が独自の作品を制作しインターネット上に発表する。		1 インターネットとマルチメディア：講義 2 音声取り込みと処理：実習 3 音楽作成と編集—テキストファイル：講義と実習 4 音楽作成と編集—MIDI ファイル：講義と実習 5 ホームページ作成—（１）静止画：講義と実習 6 ホームページ作成—（２）リンク：講義と実習 7 ホームページ作成（３）レイアウト：講義と実習 8 アニメーション作成—画像：講義と実習 9 アニメーション作成—文字：講義と実習 10 ビデオ画像編集：講義と実習 ビデオ画像の合成と文字挿入 11 3D 作成：講義と実習 12 3D 合成：実習 13 マルチメディア作品アップ：実習 インターネット上に作品発表	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ他『情報メディア入門』 実教出版		出席 20%、試験 40%、レポート 40%	

01 年度以降	マルチメディア論 a	担当者	森 園子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：現在、インターネット上で利用されているマルチメディア表現及び、その技術を知り、それらの構造を理解する。そのために、デジタルカメラ、スキャナ、ビデオカメラ等のマルチメディア機器を利用する。また、PhotoShop、PowerPoint、VideoStudio等いくつかのソフトウェアを通して、図形・画像処理・静止画・動画・音声処理に関する実習を行う。さらに、インターネットを用いてアメリカなどの大学にアクセスし、マルチメディア技術がどのように利用されているか、最新の図形・画像処理・静止画・動画・音声の表現を紹介し、マルチメディアの動向を探る。 それらを通して、マルチメディアの利用と技術を習得し、マルチメディアとは何かを考えるものである。 講義概要：前期は、マルチメディアシステムがどのようなものかを、CD-ROM などで事例を挙げながら実習する。また、PhotoShop等、図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、フォトタッチなどの機能を学ぶ。さらに、サウンド編集や、アニメーション作成を通して、音声及び、動画に関する構造や技術を理解する。これらで作成したファイルを、Word やPowerPoint を用いてまとめる。また、静止画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについての事例を通して、色彩変換や合成方法、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーションを通して実習すると共に、マルチメディア作品を制作する。		1. マルチメディアの基礎:年間予定、授業方法についての説明。 マルチメディアとは何か、マルチメディアで使う用語、マルチメディアの利用とは何か、どのコンピュータの部分でマルチメディアが重要かについての解説およびデモンストレーション。情報メディアについて 2. 情報のデジタル表現: アナログとデジタル、デジタル化のメリット、2進文字の表現 3. 静止画:ラスターグラフィック、ベクターグラフィック、ファイル形式 4. 画像ソフトとファイル形式:マルチメディアを扱うソフトとファイル形式の解説。ドロー系ソフト、ペイント系ソフト、プレゼンテーションソフト及び、解像度、画像圧縮について解説。 5. 静止画の作成:大学にある画像作成ソフトウェアを用い、静止画像を作成。ファイル形式と記憶容量の確認。 6. スキャナー取り込みと画像処理:スキャナーのタイプ、解像度、カラーとグレースケールの解説。スキャナーから画像を取り込み、加工。 7. デジカメ取り込みと画像処理: デジカメによる画像取り込みと処理、画像の合成、効果の処理 8. ワープロによる画像処理: ワープロで静止画を扱う。ファイル形式と記憶容量の確認。 9. アニメーション作成(1):静止画像とアニメーション、GIF アニメーション、ソフトウェアの解説と実習 10. アニメーションの作成(2):バナー作成、写真の効果、トランジション 11. プレゼンテーションツールでマルチメディアを扱う:プレゼンテーションツールで図形、静止画、アニメーションを扱う。 12. マルチメディア作品作成:マルチメディア作品を作成する。 13. まとめとプレゼンテーション:マルチメディア作品を作成し、プレゼンテーションを行う。	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ他『情報メディア入門』実教出版 各種ソフトの参考文献については、授業時に紹介する。		後期:定期試験を行い、それを40%の評価とする。各実習でネットワーク上にレポートを提出してもらい、それを60%の評価とする。	

01 年度以降	マルチメディア論 b	担当者	森 園子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：現在、インターネット上で利用されているマルチメディア表現及び、その技術を知り、それらの構造を理解する。そのために、デジタルカメラ、スキャナ、ビデオカメラ等のマルチメディア機器を利用する。また、PhotoShop、PowerPoint、VideoStudio等いくつかのソフトウェアを通して、図形・画像処理・静止画・動画・音声処理に関する実習を行う。さらに、インターネットを用いてアメリカなどの大学にアクセスし、マルチメディア技術がどのように利用されているか、最新の図形・画像処理・静止画・動画・音声の表現を紹介し、マルチメディアの動向を探る。 それらを通して、マルチメディアの利用と技術を習得し、マルチメディアとは何かを考えるものである。 講義概要：後期は、インターネット上でのマルチメディアシステムがどのようなものかを、インターネット上で事例を挙げながら講義し、それらを作成するために、いくつかのソフトウェアを用いて実習を行う。 具体的には、図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、三次元空間や画像変換などの機能を学ぶ。さらに、ワイヤフレームモデル及びサーフェスモデルなどのモデルレンダリングなどを実習する。また、3D やビデオ画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについて事例を通して学び、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても、講義とデモンストレーションを行う。これらの技術を総合させ、受講生が独自の作品を制作し、インターネット上に発表する。		1. インターネットとマルチメディア: インターネットの概説とマルチメディア作品の紹介と解説。 2. 音声取り込みと処理:オーディオファイル作成、ワープロで音声出力 3. 音楽作成と編集:音楽作成ソフトウェアの解説、音階、音の長さ、音色、音声ファイルの種類。 4. ネットワークとマルチメディア:ネットワークについての理論的な説明 5. オーサリングソフトウェア(1):プレゼンテーション向きソフトウェア、カードベースオーサリング、アイコンベースオーサリング、タイムベースオーサリング、オーサリングプログラムの紹介と解説。 6. オーサリングソフトウェア(2):大学にあるオーサリングソフトウェアを使って、簡単なマルチメディア作品を作成する。 7. ネットワーク:ネットワーク対応のマルチメディア素材がどのように出来ているかを解説。ネットワークにあるマルチメディアのコースを探す。 8. 3D の概要:3D ソフトウェアの解説。インターネット上で3Dを用いた作品の紹介。Java、JavaScript を用いたWeb ページの紹介。 9. 3D ソフトウェアの利用: 3D ソフトウェアを用いて、3D 作品の作成を行う。 10. 動画取り込みと編集: ビデオ標準、ビデオボード、デジタルビデオカメラの紹介と解説。 11. 動画処理:動画編集、音声貼り付け、エフェクト、テロップ作成 12. 作品作成:静止画、音声、3D、アニメーション、動画を統合させ、ネットワークに載せる。 13. 作品発表:受講生の作成したマルチメディア作品を発表し、ディスカッションを行う。	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ他『情報メディア入門』実教出版 各種ソフトの参考文献については、授業時に紹介する。		後期:定期試験を行い、それを40%の評価とする。各実習でネットワーク上にレポートを提出してもらい、それを60%の評価とする。	

01 年度以降	情報検索論 a	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に、コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を、解説および実習を通して体得する。 【概要】本講義ではまず、情報検索に関する基礎的な概念について解説し、情報検索を取り巻くシステムの仕組みを概観する。		1 オリエンテーション；情報検索の定義 2 情報検索の種類，歴史 3 データベースの定義，意義，構成要素，種類，歴史 4 検索に代わるサービス 5 索引語 6 シソーラス 7 前半部分のまとめ；質問受付 8 情報検索関連作業のプロセス 9 検索式(1)：論理演算子 10 検索式(2)：トランケーション 11 検索式(3)：位置演算子，フィールド演算子 12 検索結果の評価 13 授業全体のまとめ；質問受付	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。	

01 年度以降	情報検索論 b	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に、コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を、解説および実習を通して体得する。 【概要】情報検索論 a での知識を踏まえた上で、実際の情報検索技術に慣れ、習熟するために、CD-ROM データベースや WWW の検索エンジン、商用オンラインデータベースを用いた情報検索の実習を行う。実習では可能なかぎり、受講者が今後の調査／研究活動で利用できるような情報源を紹介する。		1 オリエンテーション 2 CD-ROM 検索(1) 3 CD-ROM 検索(2) 4 WWW の検索エンジン(1)：インターネット／WWW の基礎 5 WWW の検索エンジン(2)：種類 6 前半部分のまとめ；質問受付 7 WWW の検索エンジン(3)：ロボット 8 WWW の検索エンジン(4)：インデックス 9 WWW の検索エンジン(5)：検索結果の表示 10 検索という観点からのウェブサイト構築 11 最新の検索サービス(1) 12 最新の検索サービス(2) 13 授業全体のまとめ；質問受付	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。	

01 年度以降	情報システム論 a	担当者	今福 啓
講義目的, 講義概要		授業計画	
大量のデータや情報を処理することで進めていく必要のある業務では、コンピュータによる効率的な処理・分析を行うシステムを構築することが不可欠です。また、必要となるデータや情報を適した形で利用して問題解決を行うには、コンピュータのハードウェアやソフトウェア、ネットワーク、データ構造や問題解決手順（アルゴリズム）、解決する問題に応じたモデル化手法といった幅広い知識が必要となります。情報システム論 a では、コンピュータに関連したシステムに関連する基礎的な技術についての理解を深めることを目的とします。		1. コンピュータによる問題解決について 2. コンピュータのハードウェア 3. ソフトウェアとコンピュータ言語 4. ネットワークとネットワーク機器 5. コンピュータ内部におけるデータの表現 6. データ構造 1－配列、リスト 7. データ構造 2－木 8. 問題解決手順－アルゴリズムの考え方 9. アルゴリズム 1－探索 10. アルゴリズム 2－整理 11. 問題のモデル化とは 12. モデル化手法 1－図を用いた表現 13. モデル化手法 2－数値と数式による表現	
テキスト, 参考文献		評価方法	
指定しません		期末試験と課題の結果を総合して判断します	

0 1 年度以降	情報システム論 b	担当者	今福 啓
講義目的, 講義概要		授業計画	
コンピュータを用いてさまざまな問題を解決する際には、問題に適した解法をシステムに実装する必要があります。しかし、時々刻々と変化していく状況を扱う問題では、状況を固定的なものとして考えて、あらかじめ解決手順を用意しておくことができないことが多くあります。情報システム論 b では、そのような問題を解決するための枠組みや、コンピュータ内部において進化的に計算を行うことで問題解決を行う手法、過去に起こった状況をもとに学習して問題を解決する手法について学び、それぞれの手法の基礎的な内容を理解することを目的とします。		1. 知的ソフトウェアエージェントとは 2. 協調, 競合する環境におけるエージェントのはたらき 3. マルチエージェントシステム 4. 進化的計算手法とは 5. 進化的計算手法 1－遺伝的アルゴリズム 6. 遺伝的アルゴリズムによる問題解決 7. 進化的計算手法 2－遺伝的プログラミング 8. 機械学習とは－教師あり学習、教師なし学習 9. 機械学習での学習－学習できる内容 10. 機械学習手法 1－ニューラルネットワーク 11. ニューラルネットワークによる問題解決 12. 機械学習手法 2－TD 学習、Q 学習 13. Q 学習による問題解決	
テキスト, 参考文献		評価方法	
指定しません		期末試験と課題の結果を総合して判断します	

01 年度以降	プログラミング論 a	担当者	加藤 尚吾
講義目的、講義概要		授業計画	
Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic.NET をプログラミング言語としてとりあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解することを目的とする。また、同時に実際にプログラミングをどのようにすればよいかを理解することを目的とする。 基本的な命令から、その組み合わせまでを、例をあげて講義する。その後、ひとつひとつの命令に関して実際に Visual Basic.NET でプログラミングの演習を行う。 ほぼ毎回、演習課題を行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。		1. 授業のガイダンスとコンピュータ概説：ソフトウェアの概略とコンピュータの構成 2. Visual Basic.NET の概略：イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ 3. 簡単なプログラム作成（1）：アプリケーション開発手順、文字の入出力 4. 簡単なプログラム作成（2）：四則演算 5. 簡単なプログラム作成（3）：キャッシュレジスター 6. 選択のあるプログラム作成（1）：アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 7. 選択のあるプログラム作成（2）：多くの選択のあるプログラムの処理 8. 選択のあるプログラム作成（3）：オプションボタン、チェックボタンの利用 9. 選択のあるプログラム作成（4）：リストボックス、ドラッグアンドドロップの利用 10. 繰り返しのあるプログラム作成（1）：If と Go To, For Next を用いた繰り返し 11. 繰り返しのあるプログラム作成（2）：Case 文、While 文 12. 総合問題作成 13. 総合問題作成：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
林 直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習－Visual Basic.NET、サイエンス社		出席、演習、レポートで総合的に評価する。	

01 年度以降	プログラミング論 b	担当者	加藤 尚吾
講義目的、講義概要		授業計画	
プログラム論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目標とする。画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成することを目的とする。 本講義では、プログラム論 a と同様に、Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic.NET をプログラミング言語としてとりあげる。 ほぼ毎回、演習課題を行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。		1. 授業のガイダンスとプログラミング論 a の復習 2. 図形の処理（1）：直線を描く、曲線を描く 3. 図形の処理（2）：円を描く、色を塗る 4. 図形の処理（3）：Windows の画像処理、タイマーの利用、 5. 図形の処理（4）：ドラッグアンドドロップの利用 6. 音声、動画の処理：音声を録音する、音声を再生する 7. 配列とコントロール配列：一元配列、コントロール配列の利用 8. プルダウンメニュー：コンボボックス、プルダウンメニューの利用 9. ファイルの利用（1）：テキストファイルの読み込み 10. ファイルの利用（2）：画像ファイルの読み込み 11. ファイルの利用（3）：シーケンスファイルの作成 12. ファイルの利用（4）：シーケンスファイルの読み込みと利用 13. インターネットの利用：Visual Basic.NET とホームページとのリンク	
テキスト、参考文献		評価方法	
林 直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習－Visual Basic.NET、サイエンス社		出席、演習、レポートで総合的に評価する。	

01 年度以降	プログラミング論 a	担当者	立田 ルミ
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、Visual Basic.NET をプログラミング言語として採りあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。 そのために、Windows の機能をフルに活用できるオブジェクト記述型言語である Visual Basic.NET で実際にプログラミングを行うことにより、プログラミングとはどういうことかを体得してもらうことを目的とする。 基本的な命令から始め、それらを組み合わせるようなプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの 1 つ 1 つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1 週間に 1 度の課題ネットワークファイル上に提出する。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。授業の最初に、先輩たちの作成したプログラムを紹介する。また、同じクラスの人たちの作ったプログラムも紹介する。		1 授業のガイダンスとコンピュータ概説:講義 2 Visual Basic.NET の概略:講義と実習 3 文字の表示: 講義と実習 4 簡単な計算: 講義と実習 5 関数の利用: 講義と実習 6 飛び越し命令: 講義と実習 7 条件判断による分岐: 実習 8 コントロールによる分岐: 実習 9 選択用コントロールによる分岐: 実習 リストボックス、チェックボックスの利用 10 回数指定による繰り返し: 講義と実習 If と Go To、For Next を用いた繰り返し 11 条件指定による繰り返し: 講義と実習 12 総合問題作成 1: 実習 いろいろなオブジェクトを用いて問題を作成する 13 総合問題作成 2: 実習	
テキスト、参考文献		評価方法	
林 直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著: 実習—Visual Basic.NET、サイエンス社		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

01 年度以降	プログラミング論 b	担当者	立田 ルミ
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目的とする。ここでは、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic.Net で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行い、最終のレポートとする。		1 プログラムの分割: 講義と実習 2 プログラムの構造化: 講義と実習 3 配列の処理: 講義と実習 4 配列の入出力: 講義と実習 ドラッグアンドドロップの利用 5 文字列の処理: 講義と実習 6 図形の描画: 講義と実習 7 画像の取り扱い: 実習 8 ファイル処理と記憶装置: 講義と実習 9 シーケンシャルファイルの処理: 講義と実習 10 ランダムファイルの処理: 講義と実習 11 ファイルダイアログコントロール: 講義と実習 12 インターネットの利用: 講義と実習 Visual Basic.NET とホームページとのリンク 13 総合問題作成: 実習	
テキスト、参考文献		評価方法	
林 直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著: 実習—Visual Basic.NET、サイエンス社		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

01 年度以降	プログラミング論 a	担当者	堀江 郁美
講義目的、講義概要		授業計画	
コンピュータープログラミングの基礎を学びます。プログラミング言語としては Java 言語を用います。 コンピューターの仕組・操作や、プログラムを作る際の考え方を学習するところからはじめ、簡単な問題であれば、独力で Java のプログラムが書けるようになることを目指します。 課題として、実際にプログラムを作成してもらい、動作させることにより、講義内容の理解を深めます。		1：ガイダンス：コンピュータの仕組・操作法 2：情報表現 3：プログラムとは、考え方 4：データ型、変数、演算 5：入力、出力 6：配列 7：式、条件判断・分岐 8：繰り返し(1) 9：繰り返し(2) 10：文字と文字列 11：メソッド(1) 12：メソッド(2) 13：総合問題、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜、必要な資料を提示する。		定期試験、レポートおよび出席を加味して評価する。	

01 年度以降	プログラミング論 b	担当者	堀江 郁美
講義目的、講義概要		授業計画	
「プログラミング論 a」で学習したことをベースにして、Java の特徴であるオブジェクト指向に焦点をあてて、オブジェクト指向を用いたプログラムの作成方法を学習します。最終的には、やや難しい問題やオブジェクト指向を用いた問題でも、独力で Java プログラムが書けるようになることを目指します。 課題として、実際にプログラムを作成してもらい、動作させることにより、講義内容の理解を深めます。		1：ガイダンス：オブジェクト指向とは 2：クラスの概要 3：クラスとインスタンス(1) 4：クラスとインスタンス(2) 5：フィールドとローカル変数 6：コンストラクタ 7：継承 (1) 8：継承 (2) 9：メソッドのオーバーライド 10：リスト 11：例外処理とファイル入出力 12：GUI ツールキット 13：総合問題、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜、必要な資料を提示する。		定期試験、レポートおよび出席を加味して評価する。	

01 年度以降	プログラミング論 a	担当者	森 園子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的: 現在、ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。本講座では、それらのソフトウェアが、どのように開発されているかを理解し、実際にプログラムを組むことを通して、その根本となる論理的な思考、即ちアルゴリズムについて習得する。使用言語は、Visual Basic.Net である。プログラミングの過程で、画像や音声などのマルチメディアファイルの取り扱い、Windows の他のアプリケーションとの連携、さらに、ネットワーク対応のプログラムの作成方法等についても理解する。 講義概要: コンピュータの構造を概説し、最新のソフトウェアに関してコンピュータとネットワークを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすればよいかを、イベントドリブン型の言語の1つである Visual Basic .Net を用いて解説し、演習を行う。さらにインターネットやマルチメディアについても、デモンストレーションを行うと共に、それらのプログラミングについても、自分でテーマを決めて製作する。		1. 授業のガイダンスとコンピュータシステムの概説: ハードウェア及び、システムの構成と概略 2. ソフトウェアの分類、OS、ネットワークの概略 3. プログラム開発手順: PCと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ 4. Visual Basic の概略: イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ等の概略 5. 簡単なプログラム作成(1): アプリケーション開発手順、文字の入出力 6. 簡単なプログラム作成(2): 四則演算、変数のまとめ 7. 選択のあるプログラム作成(1): アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 8. 選択のあるプログラム作成(2): 分岐するプログラムの処理、選択ステートメントのまとめ 9. 選択のあるプログラム作成(3): オプションボタンの利用、チェックボタンの利用 10. 選択のあるプログラム作成(4): リストボックスの利用、ドラッグアンドドロップの利用 11. 繰り返しのあるプログラム作成: If と Go To を用いた繰り返し、For Next を用いた繰り返し 12. 総合問題作成: いろいろなコントロールを用いて問題を作成する。 13. 総合問題作成: まとめとプレゼンテーション	
テキスト、参考文献		評価方法	
林直治嗣 “実習 VisualBasic.Net” サイエンス社		前期: リポート:70% ネットワーク上に提出 定期試験: 30%	

01 年度以降	プログラミング論 b	担当者	森 園子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的: 現在、ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。本講座では、それらのソフトウェアが、どのように開発されているかを理解し、実際にプログラムを組むことを通して、その根本となる論理的な思考、即ちアルゴリズムについて習得する。使用言語は、Visual Basic.Net である。プログラミングの過程で、画像や音声などのマルチメディアファイルの取り扱い、Windows の他のアプリケーションとの連携、さらに、ネットワーク対応のプログラムの作成方法等についても理解する。 講義概要: コンピュータが現在どのように使われているかを概説し、最新のソフトウェア開発についてネットワークを用いて紹介する。 さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらのプログラミングについて、イベントドリブン型の言語の1つである Visual Basic.Net を用いて解説し、演習を行う。また、インターネットやマルチメディアについてもデモンストレーションを行い、それらを踏まえたプログラミングについて講義と演習を行う。 最後に、自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行う。		1. 図形の処理(1): 講義と実習 コンピュータグラフィックスの基礎 2. 図形の処理(2): 講義と実習 点・直線・円を描く、色を塗る 3. 図形の処理(3): 講義と実習 Windows の画像処理ソフトを使う、タイマーの利用 4. プログラムの構造化(1): プログラムの分割と構造化 5. プログラムの構造化(2) Sub プロシージャと Function プロシージャ 6. 音声・動画の処理: 講義と実習 音声の録音と再生、動画再生のデモンストレーション 7. 配列とコントロール配列: 講義と実習 一次元配列、コントロール配列、二次元配列 8. ブルダウンメニュー: 実習 コンボボックス、ブルダウンメニューの利用 9. メニューエディタの利用: 実習 メニューエディタの編集と利用、ポップアップメニューの取り扱い 10. ファイルの利用(1): 講義と実習 コントロールの利用、シーケンスファイルの利用 11. ファイルの利用(2): 講義と実習 ランダムファイルの利用とアクセスファイルの利用: 12. インターネットの利用: 講義と自習 Visual Basic.Net とホームページとのリンク 13. まとめ: 講義と実習 課題の説明と作成	
テキスト、参考文献		評価方法	
林直治嗣 “実習 VisualBasic.Net” サイエンス社		後期: リポート:60% ネットワーク上に提出 定期試験: 40%	

01 年度以降	情報社会論 a	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
産業革命以降の社会は石油化学エネルギーという歴史の「僥倖」を足場にして、大量生産と大量消費という仕組みを広げた。その中心をなしてきたのは材料と労働力に依存した「ものづくり」である。 企業やそれを取り巻くシステム、法制度、社会基盤などはこれに対応するかたちで発展を遂げてきたが、コンピューターを核とした情報技術の進展はこの基本構造を大きく変化させた。それは単に生産、流通、消費という経済活動のプロセスの効率化だけでなく、社会を動かす基本財が「モノ」による規模拡大から「情報」による差異の創造に転換することを意味する。 アルウィン・トフラーは文明の発展のなかで、狩猟時代から農耕社会へ、そして産業社会から情報社会へいたるこの局面を「第三の波」と名づけた。この授業ではこうした大きな流れの変化の下で、企業を動かす価値やルール、組織のあり方など基本的な枠組みの揺らぎと、その直面する課題を考察する。 情報社会は既存の産業社会型の仕組みを流動化させるとともに、「モノ」に代わって社会を動かす「情報」が「公益」とどうかかわるかも争点として問われる。		1 はじめに 2 「第三の波」 3 電子商取引を巡って 4 ニューエコノミーの虚実 5 I T バブル 6 企業組織の転換 7 知的財産と企業社会 8 著作権と特許権 9 情報化と規制緩和 10 エンロン破綻 11 消費と情報格差 12 コンテンツとメディア 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各回、参考資料を提供する。吉川元忠『情報エコノミー』（文春新書）を参考文献とする。		定期試験の成績に平常の授業内で求めるレポートの実績を勘案して評価する。	

01 年度以降	情報社会論 b	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
産業社会から情報社会への転換は、それまで対応してきた個人と社会、あるいは国家との関係を大きく変化させ、これまで社会が共有してきた法や規範などのルールを巡って摩擦を広げている。 情報社会は個人と個人、個人と組織が国境を越えたネットワークを通して自由に結ばれ、情報の独占によるピラミッド型の社会を崩してゆく半面、これまで調和的な関係にあった「公」と「私」のかかわりをさまざま局面から揺さぶりつつある。 例えば個人の「表現の自由」が広がる一方で「プライバシー」や個人情報の流出のリスクが高まる。ネットを利用した犯罪が社会の安全を脅かすことから、これまで「通信の秘密」として守られていた個人の情報のやりとりにも一定の制約が加えられる。 情報社会の「自由」と「安全」を巡るこうした社会の利害の相反の一方で、行政や企業活動を測る価値基準の揺らぎは社会に新たなルールを要請している。 この授業では、情報社会のこうした断面をとらえて「私」と「公」、個人と企業や国家など、共有すべき秩序のありかたを考察する。		1 はじめに 2 電子政府と個人情報 3 「表現の自由」とプライバシー 4 ネット犯罪と社会リスク 5 情報化と社会規範 6 電子マネーと認証 7 政治と情報化 8 デジタルデバイド（情報格差） 9 NPO と互酬社会 10 安全保障と情報 11 メディアと情報 12 監視社会と自由 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各回、資料を提供する。名和小太郎『情報の私有・共有・公有』（NTT出版）などを参考文献とする。		定期試験の成績に加え、平常の授業のなかで課すレポートの実績を勘案して評価する。	

01 年度以降	情報通信ネットワーク b	担当者	三宅 真
講義目的、講義概要		授業計画	
情報通信ネットワークの発達によって、時間と空間の制約を越えて、自由にコミュニケーションができる時代が訪れました。人類の歴史において画期的なことがらであり、産業革命に匹敵する大きな変革であるという意味において、情報通信革命と呼ばれるゆえんです。 20 世紀後半から始まった通信のデジタル化に続いて、情報通信ネットワークは、今再び大きな飛躍の時期を迎えようとしています。今年 2008 年は、次世代ネットワーク (NGN) サービスが始まった年として歴史に刻まれることになるでしょう。また、次世代高速無線通信は、KDDI グループとウィルコムに免許が与えられることが昨年 12 月に決まり、2009 年に商用サービスが始まります。 この講義では、無線 (ワイヤレス) 通信を中心に、情報通信ネットワークのシステムとテクノロジーについての基本的なことがらを、事例に則して、例題演習を交えながら解説します。通信 (コミュニケーション) の人間的・社会的な側面にも言及しながら、情報通信ネットワークの全体像と発展経緯を述べます。この講義を通じて、受講生諸君が情報通信ネットワークについての正しい知識を身につけて、新しい情報通信ネットワークの展望と活用についての考え方を確立することを期待します。		1. 概論：情報通信の発展動向と最近のトピックス 2. 概論：通信信号の基本的事項と電波の周波数 3. 移動通信ネットワーク：システム構成 4. 移動通信ネットワーク：発展動向とテクノロジー 5. 移動通信ネットワーク：移動通信のプロトコル 6. 衛星通信ネットワーク：システム構成 7. 衛星通信ネットワーク：発展動向とテクノロジー 8. 衛星通信ネットワーク：衛星の軌道 9. 情報伝送と情報理論：シャノンの通信系モデル 10. 情報伝送と情報理論：情報のデジタル化と情報量 11. 情報伝送と情報理論：情報源符号と誤り訂正符号 12. 情報伝送と情報理論：暗号とセキュリティ 13. 情報通信と社会：標準化と特許・知財権	
テキスト、参考文献		評価方法	
・奥村、他『移動通信の基礎』電子情報通信学会 ・有本『現代情報理論』電子情報通信学会 ・坂村『グローバルスタンダードと国家戦略』NTT 出版		出席とレポートによって評価します。	

01 年度以降	情報通信ネットワーク a	担当者	今福 啓
講義目的、講義概要		授業計画	
複数のコンピュータを接続してネットワークを構成し、コンピュータを相互に利用したり、インターネットに接続することは容易に実現できます。しかし、コンピュータを設置する環境に応じて使いやすいネットワーク環境を構築する際には、さまざまな知識が必要となります。この授業では、環境にあわせた構築するために必要となる知識を身につけることを目的とします。		1. コンピュータネットワークについて 2. ネットワークの構成－LAN、WAN、インターネットとは 3. OSI 基本参照モデルと TCP/IP 4. TCP/IP による通信の詳細 5. ネットワーク上で使用されるアドレス－IP アドレス、MAC アドレス 6. グローバル IP アドレス、プライベート IP アドレス 7. IP アドレスの変換－NAT と NAPT 8. DNS の役割と構成 9. パケットのルーティングについて 10. ルーティングのプロトコルについて 11. ネットワークのセキュリティー－ファイアーウォール、電子署名、SSL	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しません。		期末試験と授業時間内の課題の結果を総合して判断します。	

01 年度以降	コンピュータネットワーク	担当者	富澤 儀一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 インターネットで使われている TCP/IP を講義と演習をまじえて学習する。これからネットワーク技術を学習しようと思っている学生が必ず身につけておかなければならない TCP/IP の基本である。 本講義の目標とするところは、「日経 NETWORK」が読める程度の基礎を固めることである。 講義概要 はじめてネットワークを学ぶ学生のために、基礎知識から TCP/IP の主要なプロトコルまでの内容を網羅し、90 分の講義を 12 回で完結する。 受講上の注意 本科目は、毎時間の学習の積み重ねである。したがって理解できないときは、その場で質問をし、疑問を後々まで残さないようにしてもらいたい。欠席されたときは友達に授業内容をよく聞いて、次の授業に備える。欠席が重なると理解不能となるので、連続した欠席が予想される場合は次年度に受講を繰り延べることを勧める。		1. ガイダンス 2. 情報の表現 ―整数の表現― 3. 情報の表現 ―ブール代数、情報の単位― 4. 演習（情報の表現の演習） 5. ネットワークモデル 6. 物理層、データリンク層 7. ネットワーク層の IP プロトコル 8. TCP、UDP プロトコル 9. TCP、UDP によるデータ伝送 10. プライベート IP アドレス、DHCP プロトコル 11. 制御用プロトコル ICMP 12. アドレス解決、名前解決 13. 総合演習 テキストに沿って、授業を行う。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 「情報ネットワーク ―TCP/IP―の基礎」、崔冬梅著、創成社		授業中の演習、期末テストで評価する。期末テストは、テキストの章末にある演習問題を中心に出題する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

01 年度以降	コンピュータアーキテクチャ	担当者	今福 啓
講義目的, 講義概要		授業計画	
この講義では, コンピュータのハードウェアの基本構造と, その動作原理を理解することを目的とします. 身の回りにあるコンピュータがどのように構成されているのか, またどのようにして動作しているのかを理解することで, コンピュータを使用する際の手助けとなる知識が得られることを目指します.		1. コンピュータの構成 2. データの表現 3. コンピュータの命令実行手順 4. 演算装置の構造と動作 5. 演算 1—算術演算 6. 演算 2—論理演算 7. 演算 3—シフト演算 8. 論理回路 9. 制御装置の構造と動作 10. 記憶装置の構造と動作 11. 機械語の命令について 12. 命令とプログラム 13. 効率良い処理のための構造	
テキスト, 参考文献		評価方法	
特に指定しません.		期末試験と課題などの結果を総合して判断します.	

		担当者	
講義目的, 講義概要		授業計画	
テキスト, 参考文献		評価方法	

01 年度以降	情報と職業 a	担当者	富田 幸弘
講義目的、講義概要		授業計画	
情報化社会の急激な進展と、その社会の中で働くことについて考え、学習する。情報の獲得・利用する職業についての関わり方を学習し、情報に関わる職業人としての勤労観・倫理観などについても考える。 (1) 報化社会での各種情報の開示と、個人情報の保護や危機管理について学習する。 (2) 情報産業で関心の高い業界・業種・職種と変動する生活・ビジネスについて学習する。 (3) 数人のグループを編成し、「情報と職業」について各種のテーマを設定し、研究成果を発表し、討論する。 高等学校の「情報科」の教員の免許取得に必要な法定科目であるので、必ず、第一回目の講義に出席し、履修可能であるかどうかを判断すること。		1 情報について 2 情報化社会の情報システム・情報化社会の信頼性 3 基盤技術・開発技術・生産技術・新利便 4 インターネット・通信・衛生放送・災害と情報 5 情報開示の実態と責任・リスク管理 6 情報の収集と発信・個人情報の保護と責任 7 新時代の社会と職業・情報産業の職種 8 インターネットで変わる生活・ビジネス 9 情報の収集と発信にかかわる職業人の勤労と倫理 10 教育現場での情報教育・教育方法の新規試み 11 研究課題の発表(1) 12 研究課題の発表(2) 13 研究課題の発表(3)、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献などは、必要に応じて紹介する。 毎回の講義概要については、プリントを配布する。		研究発表の内容、期末試験の結果、レポートの内容、出席状況などを考慮して総合評価する。	

01 年度以降	情報と職業 b	担当者	小林 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
情報社会の歴史的意義を解説した上で、インターネットをはじめとする情報技術が、社会に与えた影響について、議論していく。 Web2.0 ともいわれる情報社会の新しい意義を理解するには、ある程度ネットワークの仕組みやインターネットの特性などの技術的な側面にも立ち入って議論する必要がある。また、インターネットの普及にともなって、情報倫理や知的財産権をめぐる制度や法についても変容が迫られている。 こうした技術的知識や制度的な議論をいとわない学生の参加を望む。 なお、本講義は高等学校「情報科」教員の免許取得に必要な法廷科目である。		1. 序論：情報と職業について 2. インターネットの「爆発」 3. インターネットの分権制と公開性 4. 情報技術「革命」の諸側面 5. IT 革命と企業組織 6. IT 革命後のビジネス環境 7. 国境を越える IT 空間 8. Web2.0 9. 知的財産権をめぐる 10. 知的財産権：ケーススタディ 11. 知的財産権：パブリック・ドメイン 12. デジタル・デバイド 情報をめぐる諸格差 13. 情報科社会の諸問題	
テキスト、参考文献		評価方法	
近藤勲『情報と職業』丸善		授業参加および定期試験	

01 年度以降	アルゴリズム論 a	担当者	木村 昌史
講義目的、講義概要		授業計画	
アルゴリズムとは、狭い意味ではコンピュータを用いた問題解決のための処理方法のことであり、プログラミングを行う際の前段階のものになる。コンピュータによる処理は、必ずしも人間の思考による処理のプロセスとは同一ではなく、コンピュータに特有のものである場合も多い。ここでは比較的処理方法が確立されている、コンピュータ科学の基礎をなす決定的アルゴリズムについて学ぶ。 前期 a では、「問題解決とは何か」の考え方から、結果が予測できる問題について、処理の視覚化、図示化を行いつつその方法を理解する。基本的アルゴリズムは、大きな問題を扱う上での要素的手法でもあり、多くの分野に適用できる。授業では可能ならば PC の実習も取り入れて進める。プログラミングの知識は前提としないが、Excel の基本的操作（関数やグラフの利用）程度は前提とする。		1 アルゴリズムとは何か コンピュータによる問題解決の方法 2 条件判断・分岐・繰り返し Excel の関数の例 3 アルゴリズムの図示化 フローチャート、PERT、UML 4 データ構造とアルゴリズム スタックやキュー、データの表現 5 整列のアルゴリズム ソートの各種手法、クイックソート 6 探索のアルゴリズム 線形探索法、二分探索法 7 アルゴリズムと計算量 アルゴリズムの効率の評価 8 ハッシュ法 効率的な探索法、暗号化 9 木構造・索引付け 二分木、B 木 10 文字列の探索 KMP 法、BM 法 11 グラフの表現と最短経路問題 12 ダイクストラ法 13 前期のまとめと補足 実習のまとめ、補足	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。 授業時に Web 資料などを提示する予定である。		試験または実習レポート、および出席状況から総合的に評価する。	

01 年度以降	アルゴリズム論 b	担当者	木村 昌史
講義目的、講義概要		授業計画	
前期 a では狭い意味での決定的アルゴリズムを扱ったが、後期 b ではより広い意味のコンピュータによる問題解決方法としての非決定的アルゴリズムを採り上げる。 解決方法が確立していない問題に対しては、コンピュータによる処理を適用する以前に、問題に対する正しい分析や洞察が必要になる。例としてゲームの必勝法や現象の将来予測などを挙げるが、適用ルールや条件などを深く分析することが必要である。解決へのアプローチには、分析的手法に加えて、コンピュータ特有の発見法的手法やシミュレーションの手法も加わる。これらの方法は実用的価値は十分であるものの、近似的な手法であることを理解する。また経済・経営分野に関連させたアルゴリズムの例題も取り入れる。前期と同様に Excel を応用したアルゴリズム(簡単な VBA 含む)の実習も取り入れたい。		1 ゲームの理論 囚人のジレンマ、ゲームの必勝法 2 最適配置問題 8 クイーン問題、枝刈り探索法 3 シミュレーションの方法 乱数とモンテカルロ法 4 在庫管理の問題 在庫数と発注のタイミング 5 待ち行列の問題 サービス窓口の効率、ネットワーク通信量 6 動的計画法 ナップザック問題と分割統治法 7 巡回セールスマン問題 複数都市を最短コスト訪問ルート 8 困難な問題と NP 完全問題 P 問題、NP 問題、指数問題の類別 9 現代暗号の問題 暗号のしくみ、公開鍵暗号 10 株価変動の問題 株価変動とブラウン運動 11 フラクタルのアルゴリズム 12 決定的アルゴリズムとカオス 13 後期のまとめと補足	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。 授業時に Web 資料などを提示する予定である。		試験または実習レポート、および出席状況から総合的に評価する。	

01 年度以降	オペレーションズ・リサーチ a	担当者	正道寺 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
オペレーションズ・リサーチ (Operations Research : 一般には、略して OR と呼ばれる) は、軍事目的を達成させるために研究され始めたが、現在では限られた制約条件のもとで効率よく目的を達成するための手段として、広く利用されている。OR の範疇に入る手法はたくさんあるが、現実の問題を解くにあたっては、その問題をいかにしてモデル化するかが大変重要である (OR 手法の出番は、モデル化の後である)。本講義では、OR の基本となる考え方 (モデル化の重要性を含む) とその応用について分かりやすく講義する。特に、経済学部 の 学生に興味のある話題を提供する積りである。 受講者への要望: 本講義を受講するにあたり、統計学、経営数学、コンピュータの知識を持っていることが望ましいが、なければ授業中にフォローする。		1. OR の概要 : OR の歴史、OR の発展、OR の定義 2. OR の考え方とモデル化の概念 モデル化の例、OR 手法の紹介 3. ランチェスターの法則 第二次世界大戦とランチェスター 4.-5. アルゴリズム アルゴリズムの重要性、再帰式と逐次近似、フィボナッチ数列と黄金分割 6. AHP【ゲーム感覚意思決定法】(1) AHP の概要 (曖昧な状況下での意思決定) 7. AHP【ゲーム感覚意思決定法】(2) AHP の整合性、応用例 8. AHP【ゲーム感覚意思決定法】(3) 演習 9.-10. マルコフ過程 マルコフ過程の概要、マルコフ連鎖、推移確率、例題、演習 11. 線形計画法 (1) 線形計画法(LP)の概要、図による解法 12. 線形計画法 (2) 主問題と双対問題の関係、LP の一般形 13. 線形計画法 (3) 整数計画法	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト／小田中敏男、正道寺勉：『初等オペレーションズ・リサーチ』、槇書店 (1993) 参考文献／開講時に随時紹介する。		出席とレポートも考慮して評価を行う。	

01 年度以降	オペレーションズ・リサーチ b	担当者	正道寺 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の講義科目である「オペレーションズ・リサーチ a」に引き続き、経済学部 の 学生にとって有用な手法を選び、分かり易く講義する。また、講義の中では効率よく目的を達成するために必要な「最適化の考え方」や最新の OR (Operations Research) の研究動向についても触れる。 右の授業計画欄に示したトピックス以外にも OR の手法はたくさんあるが、時間の許す限りそれらの手法についても紹介する積りである。 受講者への要望: 本講義を受講するにあたり、統計学、経営数学、コンピュータの知識を持っていることが望ましい。また、「オペレーションズ・リサーチ a」を履修していることが望ましいが、秋学期から受講しても理解できる講義を心掛けるので心配は不要である。		1. 線形計画法 (1) 線形計画問題の復習及び一般形 2. 線形計画法 (2) シンプレックス法 3. 線形計画法 (3) 線形計画問題と輸送問題、輸送問題の解法 4. 線形計画法 (4) シンプレックス法の演習 5.-7. 最短経路問題 (1)、(2) 最短経路問題の概要、グラフによる表現、最適性の原理、作図による解法及び演習 8. ゲームの理論 (1) ゲームの理論の概要、利得行列の戦略 9. ゲームの理論 (2) : 混合戦略の考え方及び演習 10. ゲームの理論 (3) 囚人のジレンマ、チキンゲームほか 11. PERT、CPM (1) PERT、CPM の概要、アローダイアグラム 12. PERT、CPM (2) クリティカルパスの求め方、完全 PERT 13. 今後の展望	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト／小田中敏男、正道寺勉：『初等オペレーションズ・リサーチ』、槇書店 (1993) 参考文献／開講時に随時紹介する。		出席とレポートも考慮して評価を行う。	

01 年度以降	システムズ・エンジニアリング a	担当者	天笠 美知夫
講義目的、講義概要		授業計画	
経営・経済システムや社会システムなどの大規模・複雑で、かつ、あいまい性をもつシステムの本質を把握し、設計・開発するにあたり主要な学問であるシステムズ・エンジニアリングの役割と具体的な方法論、ならびに情報システムとその効果的な活用法について理解と意識を高めることを目的とする。 本講義は概ね次に示す 2 つの部分から構成される。 ①第Ⅰ部 システム・認識プロセス ②システム論的問題解決法 尚、理論を実証する意味で、適宜、情報システムを活用しながら事例演習を行い、その報告書を作成させる。本講義を受講するための前提となる必修科目はない。		1 オリエンテーション：受講者の確認・決定 年間予定、授業方法等の注意事項についての説明 2 第Ⅰ部 システム・認識プロセスと問題解決法 3 システム環境と特性 4 システムアナリシスとシステムシセシス 5 システム認識プロセス 6 問題の定義とシステム分類(1) 7 問題の定義とシステム分類(2) 8 システム開発の手順と組織 9 問題解決法のフレームワーク 10 システム認識プロセスの実際問題への応用 —人事評価システムの構造化(1) 11 システム認識プロセスの実際問題への応用 —人事評価システムの構造化(2) 12 実際問題演習(1) 13 実際問題演習(2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
天笠美知夫『システムと科学的アプローチ』創成社予定 寺野寿郎『システム工学入門』共立出版 1985 参考文献		事例演習およびそのレポートと、出席ならびに期末試験の結果を考慮して総合的に評価する。	

01 年度以降	システムズ・エンジニアリング b	担当者	天笠 美知夫
講義目的、講義概要		授業計画	
経営・経済システムや社会システムなどの大規模・複雑で、かつ、あいまい性をもつシステムの本質を把握し、設計・開発するにあたり主要な学問であるシステムズ・エンジニアリングの役割と具体的な方法論、ならびに情報システムとその効果的な活用法について理解と意識を高めることを目的とする。 本講義は概ね次に示す 2 つの部分から構成される。 第Ⅱ部 システムと科学的アプローチ システムの構造化法 ② いろいろな科学的アプローチ 尚、理論を実証する意味で、適宜、情報システムを活用しながら事例演習を行い、その報告書を作成させる。本講義を受講するためにはシステムズ・エンジニアリング a を履修しておくことが望ましい。		1 第Ⅱ部 システムと科学的アプローチ (問題設定・予測) デルファイ法とニューデルファイ法(1) 2 システムの評価と意思決定 (問題設定・予測) デルファイ法とニューデルファイ法(2) 3 (予測) 移動平均法 4 (価値体系) 機能分析と価値評価(1) 5 (価値体系) 機能分析と価値評価(2) 6 (価値体系) 多属性評価 7 (分析・合成) グラフ理論によるシステムの構造化(1) 8 (分析・合成) グラフ理論によるシステムの構造化(2) 9 (分析・合成の準備) データの標準化と相関係数 10 (分析・合成) 統計的方法による構造化 主成分分析法 (SPSS の活用) 11 統計的手法によるシステム認識(1) Questionnaire の作成と調査 12 統計的手法によるシステム認識(2) データの整理と分析 13 結果の分析とレポート作成、報告	
テキスト、参考文献		評価方法	
天笠美知夫『システムと科学的アプローチ』創成社予定 寺野寿郎『システム工学入門』共立出版 1985		事例演習およびそのレポートと出席、ならびに期末試験の結果を考慮して総合的に評価する。	

01 年度以降	経営システム工学 a	担当者	日下泰夫
講義目的、講義概要		授業計画	
経営システム工学は、社会に出て役立つ「問題解決・意思決定の考え方と方法を学ぶ極めて実践的な学問」です。本講義では、文系の人を対象に、企業経営をはじめとして実社会で遭遇する諸問題を実践的に解決する基本的な考え方と方法を分かりやすく解説します。「汲めども尽きぬ問題解決の泉」を開発することを目指しています。 変化の時代には、新たに出現する問題を解決したり、新たな問題を創造する必要性に迫られるでしょう。ここでは、時代の潮流を洞察し、重要な問題を発見・創造し、これらの問題の解決策を出来るだけ科学的・合理的・客観的な方法で具体的に提案し実施する能力、いわゆる、「問題解決能力・意思決定能力」が重要になります。 前期は、外部環境変化と経営システムの課題、意思決定の要点、経営システム工学の概念、経営学・経済学との違いなどの基本的な考え方、経営システム工学で使用される典型的な問題解決技法などを学びます（基本的な考え方を理解することが本講義の主な目的ですので、技法の紹介は必要最小限にとどめます）。		1 外部環境変化と経営の課題 2 イノベーション・マネジメント 3 経営活動の体系的理解：諸側面 1 4 経営活動の体系的理解：諸側面 2 5 経営の問題解決・意思決定 6 経営システム工学とは 1 7 経営システム工学とは 2 8 経営システム工学における問題解決技法：技法の概観、モデルの概念、最適化とシミュレーション 8 Q C 7 つ道具 1：概説 9 Q C 7 つ道具 2：演習 10 在庫管理の考え方と技法：考え方、方式、最適化とシミュレーション、POS システムの本質 11 線形計画法 1：資源配分問題、問題の構造、定式化 12 線形計画法 2：単体法（逐次改良法）の考え方、単体表による解法、アルゴリズム 13 線形計画法 3：グラフによる解法を用いたアルゴリズムの理解、Solver による解法（デモ）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：日下泰夫『経営工学概論』、中央経済社（適宜、資料を配布）。参考文献はその都度紹介します。		前期末に実施する試験を中心に、出席状況、レポートなどを加味して評価します。	

01 年度以降	経営システム工学 b	担当者	日下泰夫
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的は前期と同じです。 後期は、資源配分のもう 1 つの有力な技法として知られている動的計画法（D P）、経済的な意思決定の局面で広く応用されている投資の経済計算技法（E E）、定性的・多目標のかつソフトな意思決定技法として実社会で広く利用されている階層分析法（A H P）を学び、簡単な演習を行います。次いで、春学期・秋学期の諸概念と諸技法の理解を基礎として、本講義の中心的な課題である「問題解決法の体系的理解」を学び、意思決定における経営システム工学の役割を考察します。さらに、情報化・創造化、技術経営、環境経営の分野で、経営システム工学が挑戦すべき問題解決・意思決定の新たな課題を明らかにします。最後に、将来、社会人として問題解決・意思決定の諸局面に遭遇するであろう皆さんへ、キャリア開発として問題解決能力の向上に取り組むことの重要性和その取り組みの視点を述べます。 講義では、最新の経営トピックスも出来るだけ紹介します。講義は春学期の講義の履修を前提に進めます。		1 動的計画法 1：資源配分問題、多段決定過程、最適性の原理 2 動的計画法 2：定式化と解法 3 経済的な意思決定 1：経済性分析の基礎概念 4 経済的な意思決定 2：投資分析の基礎手法 5 多価値基準下の意思決定-階層分析法 1（A H P） 6 多価値基準下の意思決定-階層分析法 2（A H P）：演習 7 問題解決法の体系的理解 1 8 問題解決法の体系的理解 2 9 意思決定における経営システム工学の役割 10 情報化・創造化と意思決定 11 技術経営と意思決定 12 環境経営と意思決定 13 問題解決能力向上への取り組みの視点	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：日下泰夫『経営工学概論』、中央経済社（適宜、資料を配布）。参考文献はその都度紹介します。		期末試験を中心に、出席状況、レポートなどを加味して評価します。	

03 年度以降 01～02 年度	法学 a 法学	担当者	内山 良雄
講義目的、講義概要		授業計画	
法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在します。そして、法は、社会内で生起する紛争を未然に防止し、発生してしまった場合の解決に指針を与え、その平穏・円滑な営みを支えています。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁でいることはありえません。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合にも、冷静かつ的確に対応することが必要となります。しかし、そのためには、法的素養を備えていることが強く求められるのです。 そこで本講義では、最初に法の基本概念を解説したうえで、憲法に規定された基本原理や人権についての議論を概観します。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていく予定です。		1. ガイダンス 2. 法とは何か 3. 法学とは何か 4. 法の学び方 5. 法体系の枠組みと法の分類 6. 憲法の基本原理（1）－国民主権－ 7. 憲法の基本原理（2）－平和主義－ 8. 憲法の基本原理（3）－基本的人権尊重主義－ 9. 国の統治機構 10. 平等権 11. 自由権（1）－精神的自由・経済的自由－ 12. 自由権（2）－人身の自由－ 13. 社会権 ＊ 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあるので、あらかじめ、ご了承ください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
大谷實編著『エッセンシャル法学 [第4版]』成文堂		定期試験の答案に基づいて評価します。	

03 年度以降 01～02 年度	法学 b 法学	担当者	内山 良雄
講義目的、講義概要		授業計画	
法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在します。そして、法は、社会内で生起する紛争を未然に防止し、発生してしまった場合の解決に指針を与え、その平穏・円滑な営みを支えています。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁でいることはありえません。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合にも、冷静かつ的確に対応することが必要となります。しかし、そのためには、法的素養を備えていることが強く求められるのです。 そこで本講義では、社会のさまざまな場面と法との関わり合いについての議論を概観します。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていく予定です。法の基本的な事柄は、「法学 a」で取り扱いますので、「法学 a」を受講してから本講義を受講することを強く推奨します。		1. 裁判の仕組み（1） 2. 裁判の仕組み（2） 3. 財産関係と法（1） 4. 財産関係と法（2） 5. 財産関係と法（3） 6. 経済取引と法（1） 7. 経済取引と法（2） 8. 家族と法（1） 9. 家族と法（2） 10. 犯罪・刑罰と法（1） 11. 犯罪・刑罰と法（2） 12. 医療と法（1）－医療提供の理念－ 13. 医療と法（2）－医療過誤－ ＊ 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあるので、あらかじめ、ご了承ください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
大谷實編著『エッセンシャル法学 [第4版]』成文堂		定期試験の答案に基づいて評価します。	

03年度以降 01～02年度	政治学総論 a 政治学総論	担当者	山口 晃
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちの日常の言葉と、政治学を考えるために使う専門的な用語とは、どのようにつながっているのか。出来事、制度、秩序を各人が見つけ、洞察し、考えていく中で、この二つの言葉と用語をつなぐ道を探っていく。地域社会に暮らす住民として、歴史の中の人間として、制度を支える市民として、私たち個人が、この政治学という学問に向かい合う。その自己認識の道を、理性と言葉を頼りに進んでいく。 前期では、出来事から理論への道をたどる。		1 はじめに 2 身近なところから政治を考える（1） 3 身近なところから政治を考える（2） 4 身近なところから政治を考える（3） 5 地域社会と政治 6 国民の視点で政治を考える（1） 7 国民の視点で政治を考える（2） 8 国民の枠を外して政治を考える 9 政治学にとっての古代と中世の意義（1） 10 政治学にとっての古代と中世の意義（2） 11 秩序について（1） 12 秩序について（2） 13 おわりに	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、講義のレジュメを配布する。 参考文献は、講義の中で随時紹介する。		試験、レポート、出席状況による総合評価	

03年度以降 01～02年度	政治学総論 b 政治学総論	担当者	山口 晃
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちの日常の言葉と、政治学を考えるために使う専門的な用語とは、どのようにつながっているのか。出来事、制度、秩序を各人が見つけ、洞察し、考えていく中で、この二つの言葉と用語をつなぐ道を探っていく。地域社会に暮らす住民として、歴史の中の人間として、制度を支える市民として、私たち個人が、この政治学という学問に向かい合う。その自己認識の道を、理性と言葉を頼りに進んでいく。 後期では、民主主義がテーマとなる。		1 はじめに 2 民主主義のいくつかの源流（1） 3 民主主義のいくつかの源流（2） 4 民主主義のいくつかの源流（3） 5 民主主義のいくつかの源流（4） 6 風土と政治（1） 7 風土と政治（2） 8 非政治的なものと政治（1） 9 非政治的なものと政治（2） 10 制度と政治（1） 11 制度と政治（2） 12 政治と言葉——市民社会—— 13 おわりに	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、講義のレジュメを配布する。 参考文献は、講義の中で随時紹介する。		試験、レポート、出席状況による総合評価	

03年度以降 01～02年度	民法 a・b 民法（春学期週2回授業）	担当者	遠藤 研一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
【春学期週2コマ開講】 本講義は、(1)「民法総則」および「物権(担保物権を除く)」に関する諸制度、各条文の理解を深めるとともに、(2)民法の導入科目として、民法の全体像をも理解させることを目的とする。 授業は、以下のとおり、およそ3段階に分けて段階的に進める予定である（ただし、②および③は、組み合わせて実施する）。 ①第1段階(導入)・・・民法の全体構造・基本原理の理解 ②第2段階(基礎)・・・民法「総則」・「物権(担保物権を除く)」の諸制度・各条文の趣旨・要件・効果の基礎的理解 ③第3段階(展開)・・・「民法総則」「物権(担保物権を除く)」に関する基本的論点の検討 全学共通授業科目の民法 a,民法 b のいずれかを既に修得していることを受講の前提とします。		1. ガイダンス 2. ～4. 民法導入 5. ～6. 自然人、物 7. ～10. 法律行為総説、無効・取消、意思表示 11. ～13. 代理 14. 法人 15. ～18. 時効、占有権 19. ～22. 物権の基礎概念、物権変動 23. ～24. 所有権、用益物権 25. ～26. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講（ガイダンス）時に指示する。基本的に、毎回プリントを配布する予定。		期末試験を原則とするが、加点对象・任意提出のレポートを受付ける（詳細は、開講時に説明）。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降 01～02 年度	民法 a・b 民法（春学期週 2 回授業）	担当者	藤田 貴宏
講義目的、講義概要		授業計画	
【春学期週 2 回開講】 法律行為論及び物権変動論を中心に、民法（財産法）の基本的論点について講義します。 全学共通授業科目の民法 a,民法 b のいずれかを既に修得していることを受講の前提とします。		1・2：ガイダンス、民法の全体像と基本概念 3・4：意思表示の瑕疵 5・6：法律行為の内容 7・8：物権変動(1) 9・10：物権変動(2) 11・12：法律行為の無効・取消と第三者保護 13・14：時効(1) 15・16：時効(2) 17・18：代理(1) 19・20：代理(2) 21・22：代理(3) 23・24：行為能力と法定代理 25・26：まとめと補充	
テキスト、参考文献		評価方法	
大村敦志『基本民法Ⅰ』（有斐閣） 潮見佳男『入門民法（全）』（有斐閣）		学期末試験	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 01～02年度	商法 a 商法	担当者	潘 阿憲
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、会社法のうち、主として株式会社に関する法的規制を取りあげる。本講義の目標としては、初学者が会社法について基本的、体系的な理解を得られることを主眼とする。したがって、まずは会社法上の諸制度について、その基本的な内容と果たすべき機能を理解し、個々の制度をめぐるこれまでの解釈論を把握しておくことが必要となる。それと同時に、会社法上の諸制度は、実際にどのように運用されているのか、当該法制度は果たして企業社会の実態に合致しているのか、問題点があるとすれば、これを如何に克服すべきであるのかといった視点から、会社法上の諸制度を動的にとらえることも必要だと考えられる。そこで、講義時には、関連する資料や重要な裁判例を適宜に取りあげ、会社上の諸制度をめぐる具体的な議論や紛争の事例を検討し、「生きた会社法」の修得を目指したいと考えている。		1 企業形態と会社 2 会社の設立(1) 3 会社の設立(2) 4 株式(1) 5 株式(2) 6 株式(3) 7 株主総会(1) 8 株主総会(2) 9 株主総会(3) 10 取締役と取締役会(1) 11 取締役と取締役会(2) 12 取締役と取締役会(3) 13 監査役と監査役会(1) 14 監査役と監査役会(2) 15 委員会設置会社	
テキスト、参考文献		評価方法	
平出慶道＝山本忠弘＝田澤元章編『新会社法概論』（青林書院）		筆記試験の成績による	

03年度以降 01～02年度	商法 b 商法	担当者	潘 阿憲
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、会社法のうち、主として株式会社に関する法的規制を取りあげる。本講義の目標としては、初学者が会社法について基本的、体系的な理解を得られることを主眼とする。したがって、まずは会社法上の諸制度について、その基本的な内容と果たすべき機能を理解し、個々の制度をめぐるこれまでの解釈論を把握しておくことが必要となる。それと同時に、会社法上の諸制度は、実際にどのように運用されているのか、当該法制度は果たして企業社会の実態に合致しているのか、問題点があるとすれば、これを如何に克服すべきであるのかといった視点から、会社法上の諸制度を動的にとらえることも必要だと考えられる。そこで、講義時には、関連する資料や重要な裁判例を適宜に取りあげ、会社上の諸制度をめぐる具体的な議論や紛争の事例を検討し、「生きた会社法」の修得を目指したいと考えている。		16 株式会社の計算(1) 17 株式会社の計算(2) 18 株式会社の計算(3) 19 募集株式発行(1) 20 募集株式発行(2) 21 定款の変更 22 資本の減少 23 社債 24 事業譲渡等 25 会社の合併 26 会社の分割 27 株式交換・株式移転 28 会社の解散 29 会社の清算 30 持分会社	
テキスト、参考文献		評価方法	
平出慶道＝山本忠弘＝田澤元章編『新会社法概論』（青林書院）		筆記試験の成績による	

03 年度以降 01～02 年度	著作権法 a 著作権法	担当者	長塚 真琴
講義目的、講義概要		授業計画	
本や CD やパッケージソフトなどの「中身」は、文章や音楽やコンピュータ・プログラムである。これらの「中身」を他人が勝手にコピーしたり、真似したりしたら、著作権法の出番である。 この講義は、著作権法の条文を踏まえて、著作権に関する基礎知識を身につけることを目的とする。主に法学部以外の学生を想定した講義である。 レジュメ集と新書を用い、裁判例に関する画像やウェブサイトなど、視覚情報も重視しつつ講義を進める。レジュメ集は、講義開始後数週間以内に販売する。著作権法の条文はレジュメ集に収録してある。 担当教員の講義の情報を掲載するサイトはこちら。http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0080/ ○履修上の注意：情報教員免許取得のためには、「初めて」と「諸問題」の両方を履修する必要がある。 ○著作権法の概要を簡略にまとめた参考文献として、常岡・小柳編『基本民事法』（成文堂）第 13 章「知的財産権法」（長塚執筆）がある。		1 ガイダンスと導入 2 著作物 1 3 著作物 2 4 著作者と著作権者 5 著作者人格権 6 著作権 1 7 著作権 2 8 著作権の制限 1 9 著作権の制限 2 10 著作権の譲渡とライセンス 11 著作隣接権 12 著作権の侵害 13 質問への回答と復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：長塚真琴『初めての著作権法レジュメ集』 教科書：福井健策『著作権とは何か』（集英社新書） 参考書：大淵哲也他『知的財産法判例集』（有斐閣）		定期試験と、講義期間の半ばに 1 度おこなう小テストによる。	

03 年度以降 01～02 年度	著作権法 b 著作権法	担当者	長塚 真琴
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、著作権法に関する基礎知識を踏まえて、著作物の主要な分野ごとに、実際に起こった紛争を詳しく解説する。受講者として、法学部生 3 年生以上と、情報教員免許取得を目指す経済学部生を想定している。毎回、次週の予習のための文献が指定され、講義はそれを読んできたことを前提におこなわれる。 レジュメ集の他に新書と判例集を用い、裁判例に関する画像やウェブサイトなど、視覚情報も重視しつつ講義を進める。 レジュメ集は、講義開始後数週間以内に販売する。予習文献はレジュメ集に収録されている。 担当教員の講義の情報を掲載するサイトはこちら。http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0080/ ○履修上の注意：この講義は応用編である。著作権法を本気で学んでいる学生向けに、今、実際に争点となっている諸問題を、ややマニアックに解説する。 最低でも春学期の「初めての著作権法」は履修済みで、著作権法に関する基礎知識があることを前提とする。基礎知識なしでこの講義をいきなり履修しても、単位を取得できない可能性がきわめて高い。		1 ガイダンス 2 映画 3 ゲームソフト 4 インターネット 1（放送等との異同／ファイル共有 1） 5 インターネット 2（ファイル共有 2） 6 インターネット 3（掲示板への投稿等） 7 音楽と放送 8 キャラクター 9 デザイン・応用美術 10 編集著作物 11 肖像権・パブリシティ権 12 高校教育と著作権 13 質問への回答と復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：長塚真琴『著作権法の諸問題レジュメ集』 教科書：福井健策『著作権とは何か』（集英社新書）、大淵哲也他『知的財産法判例集』（有斐閣）		定期試験と、講義期間の半ばに 1 度おこなう小テストによる。記述式問題の答えは、法律論としての完成度を重視して採点する。	

03 年度以降 01～02 年度	総合講座 a 総合講座 (1) a	担当者	経済学部
講義目的、講義概要		授業計画	
「今後の社会を展望する」というタイトルの下で、学外から著名な方々を招き、講義をしていただきます。少子高齢化や情報化、グローバル化、地球環境問題の顕在化などによって、これからの社会は大きく変動していくと考えられます。世界や日本がどのように変化していくのか、そして私たちはそうした変化に同対応していけばよいのかを考えていきます。 総合タイトルの性質上、社会経済文化など広範なテーマが取り上げられる。それぞれの分野の研究者・専門家・実務家の豊富な経験に基づく知見や最新情報のエッセンスをうかがえる貴重なチャンスである。 <u>学外からの講師をお招きするので、時間厳守で出席のこと。講義中の私語は厳禁。受講態度の悪いものは退室を命ずることがある。</u>		第 1 回講義で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
講師により参考文献が指示されることがある。		出席、授業中の態度およびレポートを総合的に判断する。詳細は第 1 回授業で説明する。	

03 年度以降 01～02 年度	総合講座 b 総合講座 (1) b	担当者	経済学部
講義目的、講義概要		授業計画	
「今後の社会を展望する」というタイトルの下で、学外から著名な方々を招き、講義をしていただきます。少子高齢化や情報化、グローバル化、地球環境問題の顕在化などによって、これからの社会は大きく変動していくと考えられます。世界や日本がどのように変化していくのか、そして私たちはそうした変化に同対応していけばよいのかを考えていきます。 総合タイトルの性質上、社会経済文化など広範なテーマが取り上げられる。それぞれの分野の研究者・専門家・実務家の豊富な経験に基づく知見や最新情報のエッセンスをうかがえる貴重なチャンスである。 <u>学外からの講師をお招きするので、時間厳守で出席のこと。講義中の私語は厳禁。受講態度の悪いものは退室を命ずることがある。</u>		第 1 回講義で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
講師により参考文献が指示されることがある。		出席、授業中の態度およびレポートを総合的に判断する。詳細は第 1 回授業で説明する。	

03 年度以降	特殊講義 a (経済学入門)	担当者	阿部 正浩
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、現実の経済社会を概観しながら、ツールとしての経済学を学習します。 経済学は社会学の女王とよばれています。経済学を用いた議論は論理的厳密性が要求されます。その一方で、経済学は実社会の問題を解決しようとしてきました。この講義では経済学の基本的な考え方と、その応用について考えていきます。		1. ガイダンス (授業の進め方についてお話しします) 2. 経済ってなに I 3. 経済ってなに II 4. マーケットの仕組み I 5. マーケットの仕組み II 6. マーケットの仕組み III 7. 働くということ I 8. 働くということ II 9. 消費の仕組み I 10. 消費の仕組み II 11. 企業の仕組み I 12. 企業の仕組み II 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示します。		レポートと期末テスト	

03 年度以降	特殊講義 b (経済学入門)	担当者	阿部 正浩
講義目的、講義概要		授業計画	
特殊講義 a (経済学入門) を参照してください。 なお、特殊講義 a (経済学入門) を既修していることが望ましいですが、既習していなくとも履修することはできます。		1. ガイダンス (授業の進め方についてお話しします) 2. 三つのマーケット 3. 経済の大きさ I 4. 経済の大きさ II 5. 経済が成長する理由 I 6. 経済が成長する理由 II 7. 経済が変動する理由 I 8. 経済が変動する理由 II 9. 物価の動きとその背景 I 10. 物価の動きとその背景 II 11. 失業問題 I 12. 失業問題 II 13. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示します。		レポートと期末テスト	

03 年度以降	特殊講義 a(経営学科で何が学べるか)	担当者	経営学科
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、経営学科の新入生に対して、4年間で学ぶ学問領域や学習対象についての見通しを立ててもらうことを目的としています。 現在3年生後半から始まる就職活動までの時間は、残念ながら多くありません。1人1人が経営学科学生として何を・どのように学ぶか、その学問は将来どのように役に立つのか、などを考えながら教科を選択していく必要があります。経営学科生にふさわしい教養や体系的な学問を身につけ、勉強の仕方やプレゼンテーションの作法なども、自分のものとしなくてはなりません。 経営学科には、マネジメント、ビジネス、情報、会計の4つのコースが用意されています。各コースごとに設定された科目を履修していくことで、それぞれの学問分野を効率的に履修できるように構成されています。この科目では、各コースの経営学科教員が、それぞれのコースの特色や各学問分野の話題を解説します。どのような学問分野があるのか、どのように勉強を進めていったらいいのか、どのゼミを選択したらよいか、など知りたいことがたくさんあると思います。そんな戸惑いや不安を解消するためにも、この講義に積極的に参加してください。		1 ガイダンス 2 ビジネスコース (1) 3 ビジネスコース (2) 4 情報コース (1) 5 情報コース (2) 6 情報コース (3) 7 情報コース (4) 8 マネジメントコース (1) 9 マネジメントコース (2) 10 会計コース (1) 11 会計コース (2) 12 会計コース (3) 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		出席および定期試験 各回の担当者ごとに2問出題	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 01～02年度	特殊講義 a(心理学史から考えるキャリアマネジメント) 特殊講義 B(心理学史から考えるキャリアマネジメント)	担当者	松下 信武
講義目的、講義概要		授業計画	
心理学で偉大な業績をあげた研究者たちの思想を紹介しながら、自分たちのキャリアを考える 人生を幸せに生きることがキャリアマネジメントの目的であり、その目的を達成するために、私たちはどう考え、どう行動すればよいのかを、講義を通して考えてもらう。		1:フロイト 2:ラカン 3:ユング 4:ジョーゼフ・キャンベル 5:河合隼雄 6:神谷美恵子 7:アドラー 8:フランクル 9:ベック 10:バンデューラ 11:カーネマン 12:サロヴェイ&メイヤー 13:アスリートのための心理学	
テキスト、参考文献		評価方法	
順次講義のなかで紹介していく		出席 50点 研究協力 20点 レポート 30点	

03年度以降 01～02年度	特殊講義 a(心理学史から考えるキャリアマネジメント) 特殊講義 B(心理学史から考えるキャリアマネジメント)	担当者	松下 信武
講義目的、講義概要		授業計画	
心理学で偉大な業績をあげた研究者たちの思想を紹介しながら、自分たちのキャリアを考える 人生を幸せに生きることがキャリアマネジメントの目的であり、その目的を達成するために、私たちはどう考え、どう行動すればよいのかを、講義を通して考えてもらう。		1:フロイト 2:ラカン 3:ユング 4:ジョーゼフ・キャンベル 5:河合隼雄 6:神谷美恵子 7:アドラー 8:フランクル 9:ベック 10:バンデューラ 11:カーネマン 12:サロヴェイ&メイヤー 13:アスリートのための心理学	
テキスト、参考文献		評価方法	
順次講義のなかで紹介していく		出席 50点 研究協力 20点 レポート 30点	

03 年度以降 01～02 年度	特殊講義 a (幸福に生きるための対話) 特殊講義 B(幸福に生きるための対話)	担当者	松下 信武
講義目的、講義概要		授業計画	
心理学のさまざまな視点から、どうすれば幸福に生きることができるかを対話を通して考えてもらう		1.対話とは何か 2.ホメロスの世界 3.愛すること 4.ねたみ 5.天職 6.うそ 7.自省録の世界 8.アイデンティティ 9.自己実現 10.共感 11. 死について 12.信頼 13.価値観	
テキスト、参考文献		評価方法	
順次、講義の中で紹介していく		出席点 50 点 研究協力 20 点 レポート 30 点	

03 年度以降 01～02 年度	特殊講義 a (幸福に生きるための対話) 特殊講義 B(幸福に生きるための対話)	担当者	松下 信武
講義目的、講義概要		授業計画	
心理学のさまざまな視点から、どうすれば幸福に生きることができるかを対話を通して考えてもらう		1.対話とは何か 2.ホメロスの世界 3.愛すること 4.ねたみ 5.天職 6.うそ 7.自省録の世界 8.アイデンティティ 9.自己実現 10.共感 11. 死について 12.信頼 13.価値観	
テキスト、参考文献		評価方法	
順次、講義の中で紹介していく		出席点 50 点 研究協力 20 点 レポート 30 点	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降 01～02 年度	特殊講義 b（資本市場の役割と証券投資） 特殊講義 B(資本市場の役割と証券投資)	担当者	経済学部
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、毎回「野村証券グループ」の講師陣がリレー方式により、今日の資本市場に求められる役割と証券投資に関する基礎的な事項や考え方について、理論と実務の両面からわかりやすく解説する。証券・金融業界の第一線で活躍する「プロ」の生の声を聞けることは、単なる金融リテラシーの習得にとどまらず、今後の社会人としてのキャリア形成に向けて、自らの職業意識を醸成するうえでもきわめて有用な機会であると考え。		未定	
テキスト、参考文献		評価方法	
本講義での資料は、毎回受講者自身の手により事前に本学サーバー上の dainet 共有フォルダからダウンロード・印刷のうえ持参すること。アクセス方法は初回に説明する。		定期試験の成績により評価する。	

01～07 年度	日本事情 a (2007 年度入学以前)	担当者	守田 逸人
講義目的、講義概要		授業計画	
以下の点に留意しながら、前近代史を中心に日本の歴史を概観する。 ◎ 日本という世界のなかの一つの国家やその文化がどのように形成されていったのか、とくに東アジア近隣諸国との関係に注目し、国家とは何か、また地域とは何かを考える。 ◎ 生産の基盤となった「土地」に対する国家や人々の営みに注目し、土地政策を基軸に行われた社会編成の推移を検証する。 ◎ その他、近年の日本の歴史学界のなかで、前近代史のどのような点が注目されているのか、講義の中で適宜触れていきたい。 ◎ 希望者を募り、鎌倉など、前近代の日本の社会構造や文化のあり方を残す現地の巡見を行う。 ※前・後期ともに、現代の価値観から過去を評価するのではなく、当時の価値観を復元しながら、歴史を認識することを心がける。		1 なぜ、歴史学は必要なのか？ 2 原始社会論 東アジアの自然環境と日本列島の形成 稲作のはじまりと富の蓄積 3 ヤマト政権と朝鮮半島 古墳文化 4 仏教の伝来 仏教とは何か？神道とは何か？ 5 日本の古代国家とは？ 律令国家財政の展開と土地政策 遣唐使は何をもたらしたか？ 付論古代文化の特徴 6 日本の中世国家とは？ 「大開墾時代」と荘園制 なぜ荘園はたてられたのか？ 日宋貿易と平氏政権 鎌倉幕府の形成 7 鎌倉幕府論 中世の封建制とは？ 荘園地頭制の歴史的意義 荘園制下の人々の生活と空間構造 日元貿易と元寇 8 室町幕府論 幕府権力と地域社会・一揆 日明勘合貿易 倭寇とはなにか？ 付論中世文化の特徴 9 戦国大名論 なぜ戦国大名はあらわれたのか？ 戦国大名の紛争解決 戦国時代に生きた人々の暮らし 豊臣政権と朝鮮侵略 10 江戸幕府の構造と対外意識 鎖国と対中国・朝鮮政策 11 江戸時代前期の諸政策と社会構造 近世の封建制とは？ 開発技術の進展と新田開発 江戸時代前期の暮らし 12 江戸時代後期の幕政改革と社会の変容 江戸時代後期の暮らし 付論 近世文化の特徴 13 総論：日本の封建制と東アジア／前近代の対外交渉 前近代の「国境」とは？	
テキスト		評価方法	
適宜指摘		出席状態 試験成績	

01～07 年度	日本事情 b (2007 年度入学以前)	担当者	守田 逸人
講義目的、講義概要		授業計画	
以下の点に留意しながら、近・現代史を中心に日本の歴史を概観する。 ◎ 16 世紀以降の西欧の世界進出を振り返り、日本がそれに対してどう向き合っていたのか、明らかにしてから、激動の 19・20 世紀を立体的に検証する。 ◎ 20 世紀は多くの映像資料も残されている。それらをできるだけ利用する。 ◎ また、明治時代以来の日本の歴史学界の軌跡についても講義の中で簡単に触れていきたい。 ◎ 希望者を募り、博物館展示などの見学も行う。		1 16 世紀における世界秩序の展開と日本 世界システムとは何か？ 江戸時代の対外意識 江戸時代の思想と学問 2 明治新政府の樹立 徳川政権はなぜ崩壊したのか？ ペリー来航・不平等条約とその後の影響 3 明治政府の国政改革 明治政府は何を目指したのか？ 日本の近代化と富国強兵・殖産興業政策 4 明治政府の展開 松方財政と株式会社 明治期の農村構造 5 明治期の社会と思想 自由民権運動の意義 民衆運動とは？ ドイツ学協会の設立 明治時代の暮らし 6 議会の開設と条約改正 議会はなぜ必要だったのか？ 条約改正をめぐる日本の苦悩 7 日清・日露戦争と韓国併合 帝国主義とは？ 伊藤博文をめぐる内外の評価 8 映像にみる 20 世紀前半の世界と日本 9 大正デモクラシーと第 1 次世界大戦 社会主義国家の建設と共産主義 大正時代の暮らし 10 日本の帝国主義と第 2 次世界大戦 日中戦争は誰が支持したのか？ 第 2 次世界大戦は世界に何を残したか？ 戦時下の人々 11 映像にみる 20 世紀の戦乱 12 戦後改革と逆コース 日本の高度成長 13 総論：帝国主義と現代 ～日本のいまを取り巻く環境～	
テキスト		評価方法	
適宜指摘		出席状態 試験成績	

03年度以降 01～02年度	日本語 Ia 日本語 I	担当者	各担当教員（下欄参照）																
講義目的、講義概要		授業計画																	
本コースは、タイトルにもあるように日本語を総合的に学び、大学における専門科目の履修上において必要とされる日本語力を向上させるためのものである。週3コマで構成されており、この3コマは1セットで、連続して履修しなければならない。 授業内容は以下のとおりである。 ①プレゼンテーション： 具体的な方法を学んだ後、学期中少なくとも2回は、プレゼンテーションを準備し、発表する。 ②読解：読解教材は、トピックに基づき本、雑誌、新聞等から抜粋した生教材で構成される。内容理解はもちろん文中の表現、語彙を学習し、豊かな表現力を身につけることを目的とする。 ③作文：作文の課題は各トピック毎に宿題として課されるが、コースでは文献からの引用の仕方について学習した上で、レポート作成の具体的な指導を行なう。 語学教育においては、予習、復習が重要であることは当然であるが、3コマ1セットになっている本コースでは、出席を非常に重視している。また、宿題等についても指定された期日を厳守しなければならない。		読解教材：1つのトピックには、4～5コマが当てられる。 1. 「若者のライフスタイル」 2. 「高齢化・少子化」 3. 「起業」 4. 「医療問題」 各トピック修了時にテストがある。 〔担当者〕 <table> <tr> <td>A</td><td></td><td>B</td><td></td></tr> <tr> <td>月曜日</td><td>井上和子</td><td>月曜日</td><td>野村美知子</td></tr> <tr> <td>水曜日</td><td>武田明子</td><td>水曜日</td><td>東中川かほる</td></tr> <tr> <td>金曜日</td><td>武田明子</td><td>金曜日</td><td>岩沢正子</td></tr> </table>		A		B		月曜日	井上和子	月曜日	野村美知子	水曜日	武田明子	水曜日	東中川かほる	金曜日	武田明子	金曜日	岩沢正子
A		B																	
月曜日	井上和子	月曜日	野村美知子																
水曜日	武田明子	水曜日	東中川かほる																
金曜日	武田明子	金曜日	岩沢正子																
テキスト、参考文献		評価方法																	
①テキスト： プリント配布 ②その他の参考文献は授業において紹介する。		①各トピック終了時のテスト結果 ②クラス態度 ③宿題 ④プレゼンテーション																	

03年度以降 01～02年度	日本語 Ib 日本語 I	担当者	各担当教員（春学期に同じ）
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		読解教材：1つのトピックには、4～5コマが当てられる。トピックについては多少の変更あり。 1. 「食文化・食生活」 2. 「日本を知る」 3. 「情報化社会」 4. 「国際社会」 各トピック修了時にテストがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
①テキスト： プリント配布 ②その他の参考文献は授業において紹介する。		①各トピック終了時のテスト結果 ②クラス態度 ③宿題 ④プレゼンテーション	

03年度以降 01～02年度	日本語Ⅱ a 日本語Ⅱ	担当者	岩沢 正子
講義目的、講義概要		授業計画	
言語文化学科以外の留学生を対象とする日本語のクラスである。 例年、この授業を選択する学生は、専門の勉学に多くの時間をさかれ、現実におこっている日本や世界の出来事、抱える問題等に接する機会が少ないことが多々ある。そのような学生に対して、日本語で情報を得、理解し、背景を考え、意見を言えるような技術を高める授業を考えている。取り扱う内容、教材に関しては学生の要望も考慮し、取り入れる。		①オリエンテーション ② 新聞記事から - 新聞記事から - 新聞記事から - 新聞記事から - 雑誌から - 雑誌から - 雑誌から - 雑誌から - 専門誌から - 専門誌から - 専門誌から - テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、プリントを配布。		- 授業参加度。 - 授業中の小テスト。 - 担当部分の準備と実践 - 出席 - テスト	

03年度以降 01～02年度	日本語Ⅱ b 日本語Ⅱ	担当者	野村 美知子
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 新聞記事・録画ビデオ等により現代日本事情に関する知識を増やすとともに、そのテーマについて各自意見を整理し、口頭で、また文章で表現できるように練習する。 〔講義概要〕 新聞記事・録画ビデオ等を使用し、はじめは教師が共通のテーマを提示、学生はその課題についてさらに自分で調べ、レポートにまとめ、レジュメを作成して発表する。次の段階では、各自がテーマを選び、同様のことを学生主体で行う。		- 授業についてのガイダンス 等 - 課題提示（ビデオ）、レジュメ作成練習 - 課題提示（新聞）、レジュメ作成練習 - レポート課題提示、レポート作成の手順説明 - レポート作成経過報告 - グループ内発表 レジュメ・小レポート提出 - 課題提示（ビデオ） - 課題提示（新聞記事） - 課題提示（ビデオ） - 課題提示（新聞記事） - レポート作成経過報告 - プレゼンテーション - プレゼンテーションのフィードバック レポート提出	
テキスト、参考文献		評価方法	
清水明美・他著『Practical 日本語 文章表現編——成功する型——』おうふう		- 課題提出、授業での発表 - 出席状況、授業への参加度・取り組み姿勢	

03年度以降 01～02年度	日本語Ⅱa 日本語Ⅱ	担当者	井上 知子
講義目的、講義概要		授業計画	
さまざまな場面で実際に話されている日本語を効果的に聴き取れるようになることを目的とする。一言一句を正確に聴くことよりも、全体を通して大切なポイントを捉え、メモを取り、概略がまとめられるようになることが、第一の目標である。授業では、聴解練習用に作られた教材ではなく、ラジオやテレビで放送された音声、画像等を用いる。聴解が中心となるが、必要に応じて、予備知識を得るための読解を行うことがある。 毎時限の聴解は、ノートを取りながら行い、その後、内容の確認作業としてのディスカッションを行う。授業後にノートをもとに概略をまとめ、次の時間までに提出するものとする。 右記はおおまかな計画であり、変更される場合がある。		1 授業の進め方 ノートの取り方 2～4 講義、説明を聴く 5～7 主張、スピーチを聴く 8～10 二者の討論を聴く 11～13 二者の会話を聴く	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布等		課題の提出率とその精度、出席率、授業への貢献度に対して行う。	

03年度以降 01～02年度	日本語Ⅱb 日本語Ⅱ	担当者	井上 知子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準ずるが、秋学期は日本語そのもののバリエーションに注目し、右記のように、方言、若者ことば、外国人が話す日本語、丁寧な日本語、あいまいな日本語などに取り組む。 右記はおおまかな計画であり、変更される場合がある。		1～3 方言を聴く 4～5 子供、若者の日本語を聴く 6～8 外国語話者の日本語を聴く 9～10 丁寧な日本語を聴く 11～13 総合的な聴解練習	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布等		春学期に準ずる。	

03年度以降 01～02年度	日本語Ⅱ a 日本語Ⅱ	担当者	斎藤 明
講義目的、講義概要		授業計画	
〔1〕教材 公表、出版された新聞、雑誌、単行本、日本の企業や官庁などの組織の内外で使用されている様々な文書や、個人が書いた各種の文章の実例等を使用する。これらの教材は、使用時に学生に配布する。 〔2〕授業のねらい 外国人留学生のうち、日本語Ⅰを履修したものためのより進んだ科目として、今日の日本社会に一般に通用している文章を適切に理解し、日本人とのコミュニケーションを円滑に行える能力を習得することを目的とする。 〔3〕教授法 毎時限、かならず実際に使われた文章を読んだり書きなおしたりする。文字教材のほか、音声テープやビデオテープも使用し、聴いたり話したりする能力も統合して発展させる。 〔4〕その他 この科目は日本語Ⅰを履修した者が履修するために設置される。		1 文書と文章 1 文章を書くとはどういうことか 2 文書と文章 2 文章の種類 3 文書と文章 3 文書の形式 4 文書と文章 4 文書の役割と目標 5 文書と文章 5 主題と与えられた課題 6 文書と文章 6 材料 参考書 メモ カード チャート 7 表記の技術 1 現代仮名遣い 常用漢字 送りがな 8 表記の技術 2 地名 人名 数字 記号 9 表記の技術 3 図表 写真 10 表記の技術 4 原稿用紙 レポート用紙 ワープロ 11 表記の技術 5 訂正 校正 12 文章の構造 1 文章の構成法 13 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時間中に指示する。		文章の全部や一部のかきかえ、一定のディスコースの要約、クイズ、スピーチ等のタスクを課す。 前記のタスクを課した際に、常に一定の得点を与える。その得点を集積して評定の基礎とする。	

03年度以降 01～02年度	日本語Ⅱ b 日本語Ⅱ	担当者	斎藤 明
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		14 文章の構造 2 記述の順序 15 文章の構造 3 序論 本論 結論 16 表現と論理 1 表現の方法 17 表現と論理 2 論理の展開 18 表現と論理 3 題目 要約 キーワード 19 表現と論理 4 文章の流れ 20 表現と論理 5 ディスコース パラグラフ 段落 21 事実と意見 1 事実とはなにか 22 事実と意見 2 意見とはなにか 23 わかりやすさ 1 明確な主張 24 わかりやすさ 2 簡潔な表現 25 わかりやすさ 3 句や節の接続 26 わかりやすさ 4 破格文 ねじれ文	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

03年度以降 01～02年度	日本語Ⅱa 日本語Ⅱ	担当者	武田 明子
講義目的、講義概要		授業計画	
そもそも「分かりやすい」とか「分かりにくい」と言った表現は何をさすのだろうか。私たちはただ何となく「この文章は分かりにくい」とか、「この人の発表は分かりにくい」というように表現している。何がどう分かりにくいのかは、文章を書くときにも、自分が声に出して発表するときにもあまり明確に指摘されない。 この講義の目的は「分かりにくい」とは何なのか、それがどう変化したら「分かりやすい」になるのかを、ある時は教師の側から、ある時は受講生の側から指摘しあうことによって、その基準を再構築していくことを目的とする。 具体的には、毎回問題ありそうな例を提示することによって、それが「分かりにくい」から「分かりやすい」に加工されていく過程を観察する方法で講義をすすめる。		1 「分かる」「分からない」「分かりやすい」「分かりにくい」の違いはどこにあるか 2 ちょっとした工夫をサボってはいけない 3 相手の目線を見無視してはいけない 4 結論を最後に知らせてはいけない 5 複数解釈で墓穴を掘ってはいけない 6 すべてを知らせてはいけない 7 抽象的な情報はいいけない 8 情報を羅列してはいけない 9 文字の羅列はいいけない 10 常識を見無視してはいけない 11 時間を無視してはいけない 12 繰り返しをサボってはいけない 13 テーマと話題を混同してはいけない	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使う。参考書などは適宜指示する。		出席20%、授業内の作業80%	

03年度以降 01～02年度	日本語Ⅱb 日本語Ⅱ	担当者	武田 明子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じスタンスで秋学期の授業を行う。春に習得した理解を実際の執筆と発表で実行することにより、知識を実力に変えていく。ただし、講義は全く切り離して行うので、後期からの受講でも十分に技術を実力として定着させることができる。		1 文章を書くことと発表することはイコールである 2 仕事の文章を書く・・・話題提供 3 仕事の文章を書く・・・意見提示 4 仕事の文章を書く・・・根拠提示 5 仕事の文章を書く・・・結論 6 短い文章と長い文章の区別 7 スピーチの種類 8 経験を語る・・・聞いて良かったと思わせる技術 9 経験を語ってみる 10 説明をする・・・よく理解できたと思わせる技術 11 説明を試みる 12 主張をする・・・なるほど、その考えはよく分かると思わせる技術 13 主張を試みる	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用。必要に応じて適宜指示。		出席20%、発表80%、	

シラバス 経済学部

2008年4月1日発行

獨協大学教務部

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1657



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	